

# 大分市 埋蔵文化財調査年報

vol. 15 2003年度



*The Board of Education in Oita City* 2004



# 大分市 埋蔵文化財調査年報

vol. 15 2003年度

*The Board of Education in Oita City* 2004



## 序 文

本書は、平成15年度に本市教育委員会が実施した文化財保護行政の概要を収録したものです。新しい世紀を迎え、県都大分市は中核都市としての風格と魅力あふれるまちづくりを推進するとともに、本市の基本構想である「心かよい 緑あふれる 躍動都市」の実現に誠意努めているところであります。また平成17年1月1日には、大分市・佐賀関町・野津町との1市2町の合併が予定されており、新たな大分市としてさらなる飛躍が期待されるところです。

さて、昨年度は本市において開催された全国都市緑化フェアに協賛して、会場近くの海部古墳資料館において、縄文時代の交通や交易に関する横尾遺跡にスポットを当てた「照葉樹林に暮らす縄文人と交易」を企画したところ、県内外からたくさんの来館者を迎えることができました。また、亀塚古墳公園で毎年催される「海部のまつり」に併せ開催した、古代海部郡衙跡と推定される城原・里遺跡の現地説明会につきましても多くの見学者を数えました。

また、発掘調査についても40件ほどの調査を実施し、数多くの貴重な成果を得ることができました。特にカゴに入れられた姫島産黒曜石につづき、水場の遺構を形成する最古の加工部材が発見された横尾遺跡や肥後藩藩主加藤清正が瀬戸内海航路拠点とした舟入跡が確認された鶴崎町遺跡群、古墳時代の玉作り工房跡が検出された若宮八幡宮遺跡等々は、本市の歴史に新しいページを付け加えることとなりました。

こうした企画展や現地説明会の開催さらには発掘調査事業の実施とともに、本市教育委員会では歴史資料館と協働するさまざまな体験学習への支援や市民の歴史教育等々を通して、郷土愛豊かな市民の育成にも積極的に努めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、本書が市民の皆さんに広く活用されますことを念願するとともに、本市関係各位において広く活用されますようにお願いいたしますとともに、本市文化財行政へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成16年12月28日

大分市教育委員会

教育長 秦 政 博



## 例 言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成15年4月1日から平成16年3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する事業内容についてまとめた年報である。
2. 平成15年度における調査地点は表4～6及び第2図に示している。
3. 本書の執筆は、各担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第Ⅳ章受領図書目録は、平成15年4月1日から平成16年3月31日の間に大分市教育委員会に受贈された書籍等を掲載した。
5. 第Ⅳ章受領図書目録の作成は、森永奈美・平野尚子による。
6. 遺構・遺物の実測及び図版の作成等については、次に記す大分市教育委員会臨時職員の協力を得た。  
粟津扶実子・平田美智子・村田麻美・伊東みほ・松場泉・伊賀円香  
小野裕子・神崎順子・吉田睦子・川筋智栄子・本田理恵子・石田ひとみ  
堀田清乃・森永美紀・杉浦由香・佐藤香織・小野啓子・工藤絵美・副直美  
工藤雄実子・江藤梓・安藤香奈子・稗田智美・渡辺淑子・小山田裕子  
石川泰子・矢野幸栄・溝辺尚子・長尾宇華・串京子・白橋福子  
中山麻理子・和田知絵美・橋本千代美・武藤由紀子・羽田裕子  
芦田美保子・作吉美知子・佐々木晶美・山口しのぶ・浦塚亜祥子  
堤美智代・黒田きくみ・今村信子・三重野京子・佐藤志信（順不同）
7. 本文中に掲載した現場写真は各担当者が撮影したものである。
8. 本書の編集は五十川が行い、校正は五十川を中心に各遺跡担当者が行った。

目次	
第Ⅰ章	大分市教育委員会教育総務部文化財課概要…………… 1
1	沿革…………… 1
2	組織…………… 1
3	大分市文化財保護審議会…………… 2
第Ⅱ章	平成15年度事業概要…………… 3
1	開発事前審査事業…………… 3
(1)	平成15（2003）年度の概要
2	発掘調査事業…………… 5
3	教育普及活動…………… 11
(1)	大分市文化財だより（2003年度号）
(2)	現地説明会
(3)	研修参加
4	海部古墳資料館…………… 11
第Ⅲ章	発掘調査の概要…………… 12
I	大友氏館跡第13次調査…………… 12
II	中世大友府内町跡第17次調査…………… 15
III	中世大友府内町跡第25次調査…………… 17
IV	中世大友府内町跡第26次調査…………… 20
V	中世大友府内町跡第32次調査…………… 22
VI	中世大友府内町跡第33次調査…………… 24
VII	中世大友府内町跡第37次調査…………… 28
VIII	中世大友府内町跡第38次調査…………… 32
IX	中世大友府内町跡第39次調査…………… 34
X	大道遺跡群第5次調査…………… 35
X I	大道遺跡群第6次調査…………… 38
X II	賀来西遺跡第2次調査…………… 40
X III	下郡遺跡群第140次調査 J区P・9-8・9地点…………… 43
X IV	下郡遺跡群第143次調査…………… 48
X V	城原・里遺跡第6次調査…………… 50
X VI	城原・里遺跡第7次調査…………… 52
X VII	玉沢地区条里跡第7次調査…………… 55
X VIII	玉沢地区条里跡第8次調査…………… 57
X IX	鶴崎町遺跡群（堀川）調査…………… 59
X X	鶴崎町遺跡群（三軒町）調査…………… 63
XXI	東田室遺跡第11次調査…………… 65
XXII	南金池遺跡第5・6・7次調査…………… 66
XXIII	横尾遺跡第82-3次調査…………… 68
XXIV	横尾遺跡第89次調査…………… 73
XXV	横尾遺跡第90次調査…………… 74
XXVI	横尾遺跡第91次調査…………… 77
XXVII	若宮八幡宮遺跡第1次調査…………… 81
XXVIII	米竹遺跡確認調査（試掘調査）…………… 85
XXIX	下郡遺跡群確認調査①（試掘調査）…………… 87
XXX	下郡遺跡群確認調査②（試掘調査）…………… 92
XXXI	沖代遺跡確認調査（試掘調査）…………… 93
XXXII	中世大友府内町跡確認調査（試掘調査）…………… 95
第Ⅳ章	受贈図書目録…………… 98
1	調査報告書…………… 98
2	定期刊行物・図録等…………… 118

# 挿 図 目 次

第1図 地域区分図	3	中世大友府内町跡第38次調査	
第2図 調査遺跡位置図	5	第39図 調査地点位置図	32
第3図 文化財だより表紙	11	第40図 A区遺構検出状況（南より）	32
大友氏館跡第13次調査		第41図 SX010遺物出土状況（西より）	34
第4図 調査地点位置図	12	第42図 遺構配置図（1/250）	34
第5図 大型遺構土層観察時（北より）	13	中世大友府内町跡第38次調査	
第6図 第13次調査区全景	13	第43図 調査地点位置図	34
第7図 13SK010灰茶土出土遺物	14	第44図 調査区全景写真	34
第8図 13SK010茶灰土・灰茶土出土遺物	14	第45図 調査区土層図（1/40）	34
第9図 13SK025出土遺物	14	第46図 石組み遺構写真	34
第10図 13SK040出土遺物	14	大道遺跡第5次調査	
中世大友府内町跡第17次調査B区		第47図 調査地点位置図	35
第11図 調査地点位置図	15	第48図 調査区全景（西側より）	35
第12図 道路断面写真（東より）	15	第49図 調査区空中写真	35
第13図 遺構配置図（1/300）	16	第50図 S003完掘状況	36
中世大友府内町跡第25次調査（1～4区）		第51図 S005完掘状況	36
第14図 調査地点位置図	17	第52図 S148出土状況	36
第15図 遺構配置図（1/300）	18	第53図 S048出土状況	36
中世大友府内町跡第26次調査		第54図 S159出土状況	36
第16図 調査地点位置図	20	第55図 S173遺物出土状況	36
第17図 遺構配置図（1/250）	21	第56図 遺構配置図（1/300）	37
第18図 調査区南側空中写真完掘全景	21	大道遺跡群第6次調査	
第19図 S2出土磁州窯白地鉄絵龍鳳凰文壺片	21	第57図 調査地点位置図	38
第20図 S042土器祭祀土坑出土状況	21	第58図 調査区完掘図	38
中世大友府内町跡第32次調査（一2含）		第59図 調査区全景（北方向から）	39
第21図 調査地点位置図	22	第60図 SX026土層断面状況（西方向から）	39
第22図 遺構完掘状況（真上）	22	第61図 遺物実測図 1・3（1/4）、2（1/2）	39
第23図 井戸跡検出状況	22	賀来西遺跡第2次調査	
第24図 遺構配置図（1/200）	23	第62図 調査地点位置図	40
中世大友府内町跡第33次調査		第63図 第Ⅰ調査区 遺構配置図（1/100）	41
第25図 調査区位置図	24	第64図 第Ⅱ・Ⅲ調査区 第2号水田遺構 配置図（1/200）	41
第26図 遺構配置図（1/200）	25	第65図 第Ⅱ・Ⅲ調査区 第3号水田遺構 配置図（1/300）	42
第27図 茶褐土出土石製品（2/3）	26	第66図 出土遺物（1:1/3、2:1/2）	42
第28図 33SD010全景	26	第67図 第Ⅱ・Ⅲ調査区 第4号水田遺構 配置図（1/300）	42
第29図 33SX019・SK020出土遺物（1/2）	27	下郡遺跡群第140次調査 J区P・9-8・9地点	
中世大友府内町跡第37次調査		第68図 調査地点位置図	43
第30図 調査区位置図	28	第69図 調査区全景	43
第31図 調査区周辺図	28	第70図 SX355土層観察時	43
第32図 調査区全景	28	第71図 遺構配置図（1/400）	44
第33図 1・2面遺構配置図	29	第72図 調査区北壁面SX355土層図（1/70）	46
第34図 S023平面・断面図	29	第73図 SX355土層図（1/30）	46
第35図 S033・038・064・080・104平面・ 断面図（1/40）	30	第74図 中世遺構変遷模式図（1/1600）	47
第36図 S023掘り下げ状況（北より）	30	下郡遺跡群第143次調査 E区m・n-15	
第37図 S064土層断面・遺物出土状況	30		
第38図 出土遺物実測図（1/3）	31		



第75図 調査地点位置図	48	第117図 2トレンチ全景	63
第76図 調査区全景(南から)	48	第118図 遺構配置図(1/200)	64
第77図 遺構配置図(1/150)	49	第119図 遺構配置図(2T18C中頃)(1/200)	64
<b>城原・里遺跡第6次調査</b>		第120図 SK110土層断面状況	64
第78図 調査地点位置図	50	<b>東田室遺跡第11次調査</b>	
第79図 SD025(南より)	50	第121図 調査地点位置図	65
第80図 遺構配置図(1/400)	50	第122図 遺構配置図(1/200)	65
第81図 調査区全景(西より)	51	<b>南金池遺跡第5・6・7次調査</b>	
第82図 道路状遺構(東より)	51	第123図 調査地点位置図	66
第83図 出土遺物実測図(1/3・1/6)	51	第124図 第5次調査区完掘状況(東から)	66
<b>城原・里遺跡第7次調査</b>		第125図 第6次調査区完掘状況(北から)	66
第84図 調査地点位置図	52	第125図 第7次調査区完掘状況(西から)	66
第85図 調査地遠景	52	第127図 第1～7次調査位置図(1/1000)	67
第86図 第5・7次調査遺構配置図(1/300)	53	<b>横尾遺跡第82-3次調査 D-35・40地点</b>	
第87図 S024遺物実測図(1/3)	53	第128図 調査地点位置図	68
第88図 A区全景	54	第129図 「水場の遺構」検出状況(北より)	68
第89図 B区全景	54	第130図 東側調査区西壁土層断面(東より)	68
第90図 C区全景	54	第131図 東側調査区北壁土層断面(南より)	68
第91図 D区全景	54	第132図 西側調査区西壁土層断面(東より)	69
<b>玉沢地区条里跡第7次調査</b>		第133図 東側調査区西壁土層断面近景(東より)	69
第92図 調査地点位置図	55	第134図 82-3SX013略測図(1/300)	69
第93図 調査区全景写真	55	第135図 82-3SX016略測図(1/300)	70
第94図 調査区全体図(1/500)	56	第136図 82-3SX013・016出土土器実測図(1/3)	71
第95図 SX085(竪杵)	56	第137図 82-3SX021黒曜石出土状況(上が北)	71
第96図 SX090(井堰)	56	第138図 82-3SX021①姫島産黒曜石製 大形石核実測図(1/3)	72
<b>玉沢地区条里跡第8次調査</b>		<b>横尾遺跡第89次調査 B-8地点</b>	
第97図 調査地点位置図	57	第139図 調査地点位置図	73
第98図 S001水田層畦畔出土状況(西から)	57	第140図 遺構略測図(1/3)	73
第99図 SX029遺物出土状況(南から)	58	第141図 調査区全景(東より)	73
第100図 調査区全景	58	第142図 道路状遺構土層観察状況(東より)	73
第101図 SX029遺物出土状況(南から)	58	<b>横尾遺跡第90次調査 C-21・22地点</b>	
第102図 S003水田層遺構配置図(1/200)	58	第143図 調査地点位置図	74
<b>鶴崎町遺跡群(堀川)</b>		第144図 土器出土状況	74
第103図 調査地点位置図	59	第145図 縄文土器実測図(1/3)	74
第104図 堀川土層概念図	59	第146図 遺構配置図(1/300)	75
第105図 鶴崎町遺跡群(堀川)遺構配置図(1/200)	60	第147図 90SB010全景(南より)	75
第106図 堀川シルト層出土遺物実測図(1/4)	61	第148図 90SB045全景(南より)	75
第107図 6T土留め遺構検出状況	62	第149図 調査区全景	76
第108図 1T幕末浚渫面検出状況	62	<b>横尾遺跡第91次調査 D-37地点</b>	
第109図 堀川底面検出状況	62	第150図 調査地点位置図	77
第110図 軟質施釉陶器出土状況	62	第151図 掘立柱建物跡群	77
第111図 焼塩壺	62	第152図 遺構実測図(1/500)	78
第112図 丹波播鉢	62	第153図 第3トレンチ遺構略測図(1/200)	79
第113図 軟質施釉陶器水滴	62	第154図 遺物実測図(1/3)	80
第114図 軟質施釉陶器碗	62	第155図 第3トレンチ全景	80
第115図 調査地点位置図	63	<b>若宮八幡宮遺跡第1次調査</b>	
第116図 1トレンチ全景	63		

第156図	調査地点位置図	81
第157図	調査区全景(南方向より)	81
第158図	遺構配置図(1/400)	82
第159図	SH135遺物検出状況	83
第160図	SH220遺物検出状況	83
第161図	大阪湾岸産製塩土器	83
第162図	大阪湾岸産製塩土器 器面二次焼成状況	83
<b>米竹遺跡確認調査(試掘調査)</b>		
第163図	調査地点位置図	85
第164図	B区完掘(西から)	85
第165図	B区SD01(西から)	85
第166図	遺構平面図及びB区南西隅土層図(1/50)	86
<b>下郡遺跡群確認調査①(試掘調査)</b>		
第167図	調査地点位置図	87
第168図	板状鉄袋出土状況	87
第169図	S06完掘状況(東から)	87
第170図	調査区平面図・東西壁土層図(1/40) 鉄斧出土状況(1/20)	88
第171図	S32下層、S37杭跡、S39板状 圧痕(東南から)	89
第172図	S39板状圧痕断面(南から)	89
第173図	出土遺物実測図	90
<b>下郡確認調査②(試掘調査)</b>		
第174図	調査地点位置図	92
第175図	調査区全景	92
第176図	遺構配置図(1/50)	92
第177図	完掘図(1/50)	92
第178図	南壁・西壁土層図(1/50)	92
<b>沖浜遺跡確認調査(試掘調査)</b>		
第179図	調査地点位置図	93
第180図	調査区全景	93
第181図	トレンチ配置図	93
第182図	第1トレンチ遺構配置図(1/100)	93
第183図	土層模式図	94
第184図	出土遺物実測図(2/3)	94
<b>中世大友府内町跡(試掘調査)</b>		
第185図	調査地点位置図	95
第186図	2トレ南壁土層図(1/60)	95
第187図	遺構略測図(1/200)	96
第188図	出土遺物実測図(1/2)	96
第189図	1T全景写真	97
第190図	2T拡張区全景写真	97
第191図	1T・S1全景写真	97
第192図	2T焼土ピット土層観察時(南より)	97
第193図	2T土層観察時	97

## 表 目 次

第1表	開発事前審査件数一覧	4
第2表	地区別事前審査割合(件数比)	4
第3表	地区別事前審査割合(面積比)	4
第4表	平成15年度大分市発掘調査地一覧	8
第5表	平成15年度大分市試掘調査地一覧①	9
第6表	平成15年度大分市試掘調査地一覧②	10
第7表	溝状遺構一覧	17
第8表	城原・里遺跡第7次調査掘立柱建物跡一覧表	52
第9表	下郡遺跡群①出土土器観察表	91

## 第Ⅰ章 大分市教育委員会文化財課概要

## 1. 沿革

昭和51年4月1日	大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
昭和59年6月28日	大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
平成5年4月1日	大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
平成10年4月1日	大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
平成12年4月1日	大分市教育委員会文化財課に改組
平成13年4月1日	大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組

## 2. 組織

[illegible]

※ ( ) 内は平成16年度



大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

3. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成16年4月1日現在）

	【氏 名】	【勤務先・職名】	【担当】
会 長	佐 藤 眞 一	元荷揚町小学校長	動植物
副 会 長	豊 田 寛 三	大分大学・教授	近 世
	北 野 隆	熊本大学・教授	建 造 物
	橋 昌 信	別府大学・教授	考古埋蔵
	橋 本 操 六	大分大学非常勤講師・前県総務課参事	中 世
	西別府 元 日	広島大学文学部・助教授	古 代
	宗 像 健 一	大分県立芸術会館・学芸第一課長	美 術
	友 永 尚 子	大分県立芸術会館・主幹学芸員	工 芸
	小 泊 立 矢	前大分県立先哲史料館副館長	民 俗
	吉 田 稔	元王子中学校校長	生 物

大分市文化財保護審議会条例（平成11年12月15日条例第42号）

（設 置）

第 1 条 文化財保護法（昭和25年法律第214号）第105条第 1 項の規定に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（組 織）

第 2 条 審議会は、委員10人以内をもつて組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任 期）

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任を妨げない。

（会長及び副会長）

第 4 条 審議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第 5 条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

（部 会）

第 6 条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶 務）

第 7 条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委 任）

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

2 大分市文化財調査委員会条例（昭和51年大分市条例第 4 号）は、廃止する。

## 第Ⅱ章 平成15年度事業概要

### 1 開発事前審査事業

#### (1) 平成15（2003）年度の概要

表1は平成15年度における開発申請内容を示したものである。

平成15年度の申請総面積は9,274,971.81㎡、総申請件数110件を数える。

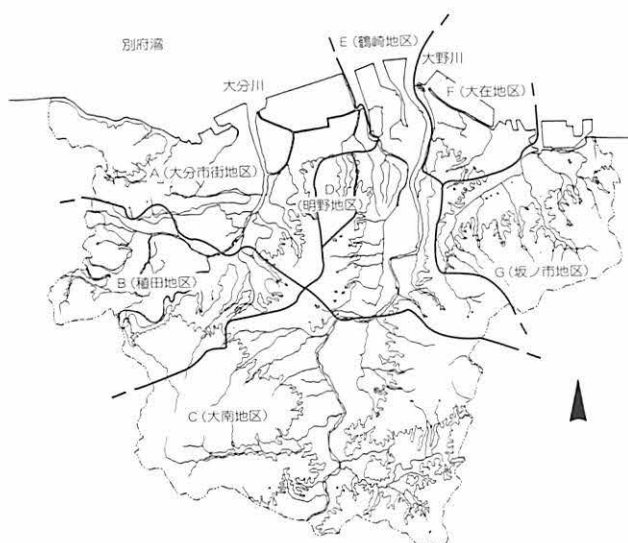
その内訳は、開発計画事前審査申請4件、開発行為事前協議申請63件、開発行為変更事前協議申請1件、宅地造成工事前協議申請13件、墓地経営関係4件、土地売買等の届出16件、土地区画整理事業事前協議申請2件、碎石法第33条の6に基づく意見の聴取等2件、鉱業権の出願に関する協議2件、その他6件である。また、本年度は開発行為事前審査申請、大規模土地取引事前指導申請については昨年度に引き続き申請件数が0件であった。

これを平成14年度の申請内容と比較すると、総件数では1件減ではほぼ同件数である。これは開発に直接結びつく開発計画事前審査、開発行為事前協議が減少したことなどが主な原因と考えられる。また、審査件数においては、全体的に減少傾向にある中で、土地売買等の届出が若干増加傾向といえよう。

次に、数年来減少傾向にあった申請面積は、昨年、碎石法や鉱業権関連の申請により一時的に増加したが、本年度は従来通りの減少傾向となった。昨年区画整理事業の申請があった穂田地区は1/40に減少しており、大南・鶴崎地区・坂ノ市地区は約1/10、大分市街地区は1/5、明野・大在地区も1/2程度と軒並み減少している。ただしこれは昨年、組合施行の区画整理事業や、碎石法や鉱業権関連の申請が行われたためであり、一過性のものと考えられる。

申請エリアに関しては、昨年坂ノ市地区（G）が全体の7割近くを占め、他地区ではほぼ平均化されていたが、本年度も引き続き坂ノ市地区（G）に7割強が集中し、特に実質的な開発申請である開発事前協議や宅地造成協議が集中している。これは、今後の発掘調査件数の増加の要因になると考えられる。

本年の特徴としては、前述のとおり申請面積が倍増したことがあげられる。前年比で約2倍に増加している。ただし、これは本年、碎石法関連で広大な面積が申請されたためであり、来年度以降減少傾向がこのような状況をみせるとは考えられない。ただし、減少傾向にある中で土地売買等の届出件数、面積は共に増加しており、今後このような状況が顕著になれば、開発行為に結びつくことが予測されるため、今後の動向に注目したい。

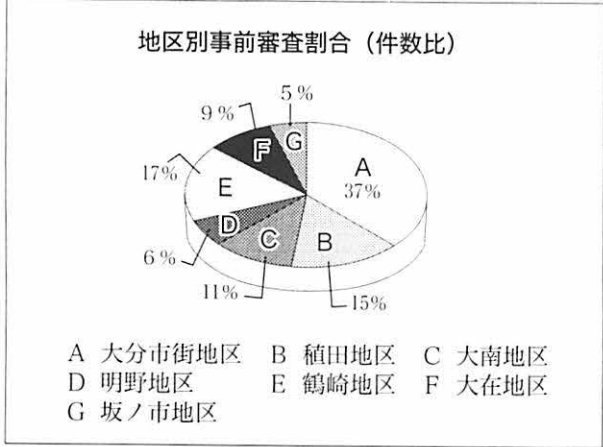


第1図 地域区分図

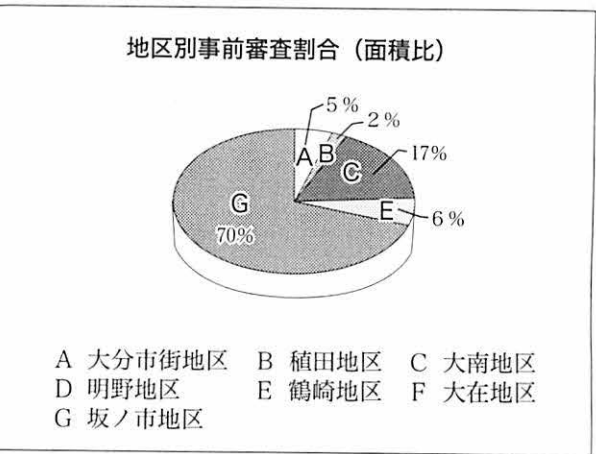
第 1 表

地 区 名	A-大分市街地区	B-植田地区	C-大南地区	D-明野地区	E-鶴崎地区	F-大在地区	G-坂ノ市地区	合 計
【開発計画事前審査申請】								
件数	3	0	0	0	1	0	0	4
面積 (㎡)	45,733.57	0	0.00	0.00	12,590.32	0	0	58,323.89
【開発行為事前審査申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0
【開発行為事前協議申請】								
件数	18	10	7	4	15	7	2	63
面積 (㎡)	83,159.24	14,205.82	8,138.07	19,441.78	37,265.37	11,090.97	8830.70	182,131.95
【開発行為変更事前協議申請】								
件数	0	0	1	0	0	0	0	1
面積 (㎡)	0.00	0.00	909,304.30	0.00	0.00	0.00	0.00	909,304.30
【大規模土地取引事前指導申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0
【宅地造成工事前協議申請】								
件数	7	4	0	1	1	0	0	13
面積 (㎡)	4,526.22	9,498.48	0.00	474.26	3,344.00	0.00	0.00	17,842.96
【都市計画法32条協議申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【土地売買等の届出】								
件数	9	0	1	2	0	1	0	13
面積 (㎡)	53,903.01	0.00	2,419.45	5,252.64	0.00	3,293.54	0.00	64,868.64
【墓地経営許可審査に関する事前協議】								
件数	1	0	0	0	0	2	1	4
面積 (㎡)	4,538.00	0.00	0.00	0.00	0.00	11,868.91	1,345.00	17,751.91
【土地区画整理事業事前協議申請】								
件数	1	1	0	0	0	0	0	2
面積 (㎡)	170,866.09	129,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	299,866.09
【採石法第33条の6に基づく意見の聴取等】								
件数	0	0	2	0	0	0	0	2
面積 (㎡)	0.00	0.00	270,240.12	0.00	0.00	0.00	0.00	270,240.12
【鉱業権の出願に関する再協議】								
件数	0	0	0	0	0	0	2	2
面積 (㎡)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6,462,700.00	6,462,700.00
【公共施設の設置計画等協議】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0.00	0	0	0	0	0	0.00
【国有林の林地開発に係わる意見 (照会)】								
件数	0	0	1	0	0	0	0	1
面積 (㎡)	0	0.00	365,284.87	0	0	0	0	365,284.87
【市街化調整区域における大規模開発】								
件数	1	0	0	0	0	0	0	1
面積 (㎡)	115,758.83	0.00	0.00	0	0	0	0	115,758.83
【森林法第10条の2第1項による開発行為の許可】								
件数	0	0	0	0	1	0	0	1
面積 (㎡)	0.00	0.00	0.00	0	348,760	0	0	348,760.00
【納骨堂経営許可に関する事前審査願い】								
件数	1	1	0	0	0	0	0	2
面積 (㎡)	42.25	96.00	0.00	0	0	0	0	138.25
【土地区画整理事業の施行に関する事前審査願い】								
件数	0	0	0	0	1	0	0	1
面積 (㎡)	0.00	0.00	0.00	0	162,000.00	0	0	162,000.00
【総合計】								
件数	41	16	12	7	19	10	5	110
件数比	37%	15%	11%	6%	17%	9%	5%	100%
面積 (㎡)	478,527.21	152,800.30	1,555,386.81	25,168.68	563,959.69	26,253.42	6,472,875.70	9,274,971.81
面積比	5%	2%	17%	0%	6%	0%	70%	100%

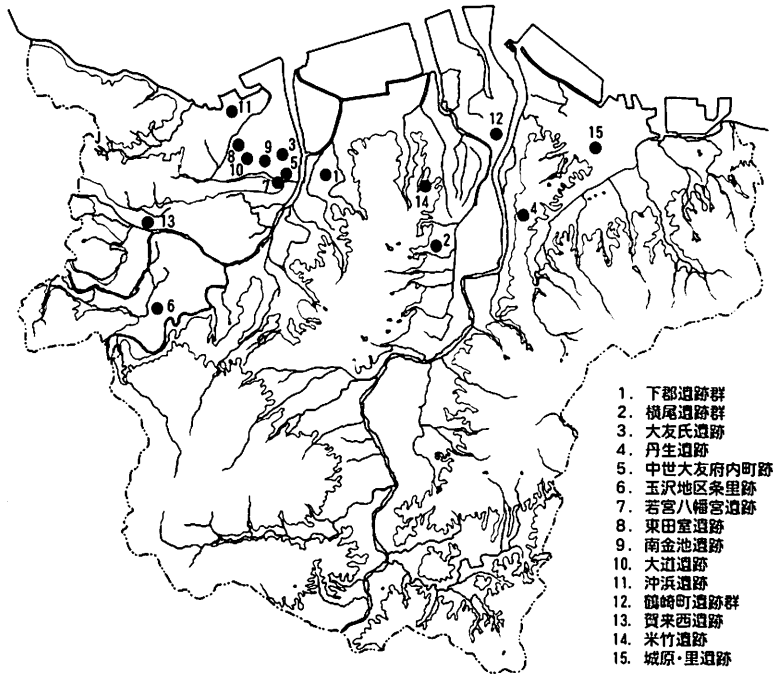
第 2 表



第 3 表







第2図 調査遺跡位置図

#### (旧石器時代)

本年度は旧石器時代の本格的な遺跡の調査はなかった。他の遺跡からの石器などの出土品もほとんどない。

#### (縄文時代)

縄文時代に比定される遺跡の調査としては、平成13年度から実施されている横尾貝塚周辺の確認調査が上げられる。今年度は平成12年度に発見された「水場の遺構」を構成する部材の保存処理作業を行うにあたり、当該遺構の全容と、その位置づけを明確にすることを主たる目的として調査が実施されている。

「水場の遺構」については、小規模な埋没谷の斜面地を改変し、乙津川方向へ開口する谷に向かって設置された遺構と判断され、「水場の遺構」設置段階においては、かなり陸地化が進んでいたものと推定される。併せて当該期前後には横尾貝塚周辺部まで水域が及んでいた可能性も示唆される。

本遺跡においては、「水場の遺構」内部から発見されたカゴに収納された石核や剥片をはじめ、多くの姫島産黒曜石が出土しており、すでに指摘されているとおり、姫島産黒曜石交易の中継地として機能していた可能性が高いと判断される。今回の確認調査においても大形石核が出土しており、地理的環境が変化したにもかかわらず、「水場の遺構」が設置された地点周辺に姫島産黒曜石が残されていく状況は看過できず、当該遺構が設置された谷部に姫島産黒曜石交易の中継地として機能した施設の存在が想定される。

また、同遺跡の区画整理事業に伴う台地上の緊急発掘調査においても既往の調査成果（横尾遺跡第75次・81次調査）より当該期の遺構・遺物が散見されている地点に位置する第90次調査において、地層横転遺構が検出され、縄文時代後期前葉頃に比定される深鉢片が出土している。台地上における当該期の遺構の存在を示唆する成果と言えるものであり、今後注目する必要がある。（塩地）

#### (弥生時代)

弥生時代に関しては、下郡遺跡群確認調査、玉沢地区条里跡第7次調査、若宮八幡宮遺跡第2次調査が上げられる。玉沢地区条里跡第7次調査では、市内最古の弥生時代早期～前期に比定される土器と共に井堰、堅杵が検出され、植田地区のみならず東九州における水田初現期を解明するうえで貴重な発見となった。下郡遺跡群確認

## 2. 発掘調査事業

本年度市域内で実施された発掘調査件数は66件である。その内訳は試掘確認調査が37件、分布調査0件、本格調査29件を数える。内訳は第2・3・4表に示している。

このうち試掘確認調査について概観する。

37件の調査件数の中で遺跡の存在が確認されたものは全体の約81%に及び、設計変更による盛土保存により、本格調査に移行しなかったものを除くと、本格調査へ移行したものは総調査件数の約10.8%である。

以下において、本年度（平成15年度）の発掘調査の成果を概観する。

調査では、溝状遺構から弥生時代中期～後期の土器と共に板状鉄斧、柄杓形土製品が出土し、東九州への鉄器流入時期を考えるにあたり注目される資料となった。若宮八幡宮遺跡第2次調査では、縄文土器と弥生土器を包含する溝状遺構のほか、貯蔵穴、竪穴住居跡や井戸跡を検出、後期の竪穴住居跡は溝状遺構に囲まれ、土器の多量廃棄が確認されるなど注目される状況が認められた。宮苑西遺跡第1次調査では、弥生中期の溝状遺構、甕棺墓、住居跡が検出しており、特に弥生終末～古墳初頭の墓域が確認された。(永松)

#### (古墳時代)

今年度は、大道遺跡群第5・6次、下郡遺跡群第140次、東田室遺跡第11次、若宮八幡宮第1次調査、賀来西遺跡第2次調査の計7遺跡で古墳時代の遺構を確認した。大道遺跡群では土坑が数基確認された。当遺構からは古墳時代前期に比定される遺物が出土している。下郡遺跡第140次調査においては、竪穴住居跡が9基確認された。遺構から出土した遺物は甕・高坏・鉢等であり、遺物の形態より古墳時代初頭の所産であると考えられる。東田室遺跡第11次は竪穴遺構を数基確認した。埋土中より大量の古墳時代初頭に比定される遺物が出土しており、なかでも舟形土製品が注目される。集落遺跡としては若宮八幡宮遺跡が注目される。確認した遺構は竪穴建物跡17基(うち3基は玉類製作関連遺構)、16棟の掘立柱建物跡・溝状遺構等がある。出土遺物より6世紀に構築及び廃絶したことが判明した。玉類製作関連遺構である3基の竪穴建物跡からは、素材となる蛇紋岩・結晶片岩、道具である石針や玉砥石などが多数出土している。また、賀来西遺跡第2次調査では、古墳時代後期の水田跡が確認された。(松尾)

#### (古代)

今年度最も古代の遺跡で注目されるのが城原・里遺跡第7次調査である。昨年度に引き続き大型の掘立柱建物跡群が確認され、建物2期と建物3期において、コ字状に建物群と柵列が配置されることが判明している。一辺の長さ40mを越す規模が確認されており、官衙施設の様相をさらに強めたといえよう。また、中世大友府内町跡第37次調査の第2面においては、隅丸方形の掘り方をもつ柱穴列が検出され、掘立柱建物跡を確認している。これまでも周辺域において古代の遺構が確認され官衙的な様相の遺跡として注視されているところである。大道遺跡群第5次調査では、井戸跡、溝状遺構、掘立柱建物跡など平安時代初頭を中心とした遺構群が検出されており、集落遺跡の広がりが想定されるところである。方位的には大道条里とは一致しておらず関連性は低いと考えられている。また、南金池遺跡第5・6・7次調査・横尾遺跡第91次調査において9世紀代の遺構が確認されている。(池辺)

#### (中世)

中世の調査は、中世大友府内城下町跡を筆頭に下郡遺跡や横尾遺跡などで行われてる。特に中世大友府内城下町跡は、急ピッチですすむ都市開発に伴い、大分県教育委員会と大分市教育委員会による調査が実施され、中世都市「豊後府内」の内容が明らかになりつつある。

本年度は大分県教育委員会が、府内町跡の調査(町28・29・30・31・34・35次調査)を実施し、大分市教育委員会は友氏館跡の調査(館13・14・15次調査。なお、館14・15次は16年度継続)、府内町跡の調査(町25・26・32・33・37・38・39次調査)を行っている。

友氏館跡の調査である館13次調査は、友氏館跡の北東部にあたり、館拡張整備前の15世紀末～16世紀前半は、廃棄空間であることが明らかとなった。

府内町跡は、第4南北街路沿いにおいて、町25・26・32・39次調査が行われ、15・16世紀代中心に町屋跡もしくは武家地跡の可能性がある遺構群(柱穴・溝・井戸・土師質土器祭祀土坑など)が確認できた。特に町26次調査において、16世紀後半の一辺約1mの方形状柱穴掘り方が検出できたことは、この周辺がダイウス堂推定地で

あることも含めて興味深い成果といえる。町37次調査は、推定御蔵場内に位置し、13世紀代の柱穴・土坑と8世紀代の遺構が確認された。御蔵場跡の内容を示す遺構・遺物は検出されていない。

町33次調査は、中世府内町跡の南端に位置し、15世紀代の東西に延びる溝（幅4 m、深さ1.4 m 断面:逆台形）を確認した。町38次調査は推定御所小路町北側に位置し、大規模な区画溝や土師器祭祀遺構などから町屋域とは相違する空間が広がっていた可能性がある。その他に県教委実施の調査では、町34次調査において、16世紀後半の第2南北街路と万寿寺の西限と推定される溝（幅8 m、深さ2.2 m）が検出できたことの成果は大きい。町29次調査は万寿寺の寺域内と推定され、14世紀～16世紀の溝・道路状遺構・井戸跡などが検出された。また町30次調査では、万寿寺南に推定される後小路町に位置し、14世紀代まで遡る遺構が確認されている。

次に下郡遺跡群第140次調査では、16世紀の有力者の居館跡の調査が行われ、横尾遺跡第82－3次調査では、14世紀代の大規模造成、同遺跡第91次調査では、15～16世紀の掘立柱建物跡や16世紀末葉の埋納遺構が確認され、横尾台地上に展開する方形館との関連が想定される。

以上のように、中世大友城下町跡をはじめとして、近年市内の中世遺跡の様相が解明されつつあるが、土師器などの生産・流通、交通、またはトイレ遺構未発見などといった課題も残されており、今後の調査に期待したい。（五十川）

#### （近世・近代）

今年度調査が行われた近世遺跡は、5遺跡6調査地点とその調査事例も多く、遺跡の内容的にも、水田跡、道路跡、墓地、都市遺跡とバリエーションに富む内容であった。

個別の調査事例をみると、水田遺跡では、17世紀前半の畦畔及び用水路を伴う水田面を確認した玉沢地区条里跡第8次調査、近世初頭までの大溝の段階から水田への変遷を確認した若宮八幡宮遺跡、近世段階の道路を確認した城原・里遺跡、20基以上の墓が検出された下郡遺跡群第143次調査、近世鶴崎町の調査が行われた鶴崎町遺跡群（堀川・三軒町）となる。

これら近世遺跡の調査の中でも鶴崎町遺跡群については、大分市域における府内町と並ぶ近世都市である鶴崎町に、始めて本格的な発掘調査のメスが入った注目される調査事例となった。調査の結果、堀川における調査においては、鶴崎町の成立に関わる加藤期の遺物群が出土し、三軒町の調査区においては、鍛冶関連の廃棄土坑を中心とした鍛冶工房の段階から短冊状地割りの町屋の景観へ変遷する過程が確認され、肥後藩の豊後国飛地支配の中心となった鶴崎町の実態が見えてきた。（河野）



第4表 平成15年度大分市発掘調査地一覧

調査地点	遺跡名	所在地	調査担当者	調査面積 (㎡)	調査期間	種 別	事業内容
3	大友氏館跡第13次調査	大分市顕徳町	佐藤道文	486	031117～040331	国庫補助 事業	市内遺跡確認調査
5	中世大友府内町跡第17次B調査	大分市大字大分	河野史郎・中西武尚・上野淳也・羽田野裕之	2000	021120～031222	公共事業	下水道施設事業
5	中世大友府内町跡第25次調査	大分市六坊北町	佐藤道文・五十川雄也・松尾聡	590	030423～040331	公共事業	都市整備事業
5	中世大友府内町跡第26次調査	大分市顕徳町	五十川雄也	230	031106～040317	公共事業	都市整備事業
5	中世大友府内町跡第32次調査	大分市顕徳町	五十川雄也	167	030609～030731	民間開発	宅地造成
5	中世大友府内町跡第32～2次調査	大分市顕徳町	五十川雄也・吉本明弘	70	030804～031024	公共事業	都市整備事業
5	中世大友府内町跡第33次調査	大分市大字大分沖	佐藤道文	820	030609～030726	国庫補助 事業	市内遺跡確認調査
5	中世大友府内町跡第37次調査	大分市六坊北町	池邊千太郎・岩尾美保子	37	031208～031219	民間開発	宅地造成
5	中世大友府内町跡第38次調査	大分市錦町	中西武尚	210	040212～040329	国庫補助 事業	市内遺跡確認調査
5	中世大友府内町跡第39次調査	大分市顕徳町	佐藤道文	20	040302～040309	公共事業	都市整備事業
10	大道遺跡群第5次調査	大分市東大道	高畠 豊・羽田野達郎	3413	030501～040228	公共事業	区画整理事業
10	大道遺跡群第6次調査	大分市東大道	高畠 豊・羽田野達郎	3413	040123～040218	公共事業	駅周辺総合整備事業
13	賀来西遺跡第2次調査	大分市大字賀来	荻幸二・大野瑞恵	437	030516～031001	民間開発	土地区画整理事業
1	下郡遺跡群第140次調査	大分市下郡中央	坪根伸也・菊谷史穂	176	021205～030729	公共事業	宅地造成
1	下郡遺跡群第143次調査	大分市下郡中央	松竹智之	176	040309～040423	民間開発	宅地造成
—	下志村遺跡	大分市角子原	後藤典幸・上野淳也・水町裕子	3450	021107～030530	公共事業	学校建設
15	城原・里遺跡第6次調査	大分市大字里	池邊千太郎・松竹智之	262.4㎡	030514～031104	国庫補助 事業	市内遺跡確認調査
15	城原・里遺跡第7次調査	大分市大字里	池邊千太郎・松竹智之	654.1㎡	030729～031030	国庫補助 事業	市内遺跡確認調査
6	玉沢地区条里跡第7次調査	大分市大字玉沢	水松正大・羽田野裕之ほか	3450	030527～040326	公共事業	鶴崎総合市民行政センター整備事業
6	玉沢地区条里跡第8次調査	大分市大字市	河野史郎・佐藤孝則	1000	031225～040325	民間開発	病院建設
12	鶴崎町遺跡群（堀川）	大分市東鶴崎	河野史郎・岩尾美保子	392	030624～031031	公共事業	鶴崎総合市民行政センター整備事業
12	鶴崎町遺跡群（三軒町）	大分市東鶴崎	河野史郎・奥村義貴	200	040201～040326	民間開発	病院建設
8	東田室遺跡第11次調査	大分市田室町	佐藤道文・松尾聡	132㎡	030724～030904	公共事業	都市整備事業
9	南金池遺跡第5～7次調査	大分市顕徳町	高畠 豊・梅田昭宏	943	030530～040122	公共事業	駅周辺総合整備事業
2	横尾遺跡第82～3次調査	大分市大字横尾	塩地潤一・奥村義貴・小住武史・小橋寛之	125	030516～040331	国庫補助 事業	市内遺跡確認調査
2	横尾遺跡第89次調査	大分市大字横尾	塩地潤一	420	031030～031126	公共事業	土地区画整理事業
2	横尾遺跡第90次調査	大分市大字横尾	塩地潤一・江上正高・衛藤亮介	1000	031201～040202	公共事業	土地区画整理事業
2	横尾遺跡第91次調査	大分市大字横尾	塩地潤一・江上正高・衛藤亮介	1069	040202～040331	国庫補助 事業	市内遺跡確認調査
7	若宮八幡宮遺跡第1次調査	大分市上野町	後藤典幸・上野淳也・水町裕子・吉本明弘	2780	030728～040331	公共事業	学校建設

※調査地点は第2図を参照

第5表 平成15年度大分市試掘調査地一覧①

No	種 別	遺 跡 名	所 在 地	調査面積 (㎡)	調査期間	開 発 原 因
1	確認(民間)	猪野遺跡	大字猪野字西原1101-1、1102-1	30	03.04.07	病院関連施設建設
2	確認(民間)	若宮八幡宮遺跡	上野町2987-2他6筆	5	03.04.07	神楽殿建設
3	確認(民間)	政所遺跡	横田2丁目402番、403番	12	03.04.23	宅地造成
4	確認(民間)	羽田遺跡	大字片島字橋爪804番2	9	03.04.24	個人住宅建設
5	確認(公共)	大道遺跡群	金池南1丁目1138-1	11	03.04.30	区画整理事業
6	確認(公共)	大道遺跡群	東大道1丁目2442-14、2442-4、2480-12	23	03.05.01	区画整理事業
7	確認(民間)	下郡遺跡群	大字下郡字屋敷2210番地、2211番地	7	03.05.06	個人住宅建設
8	確認(民間)	下郡遺跡群	大字下郡字九反坪120 他1筆	5.1	03.05.09	個人住宅建設
9	確認(民間)	下郡遺跡群	下郡小中ツル1961、1962-1、1967-1、1966	6	03.05.09	事務所建設
10	確認(民間)	中世府内城下町跡	顕徳町3丁目4432の1、4432の5	3.84	03.05.15	個人住宅兼店舗建設
11	確認(民間)	上野遺跡群	大分市上野丘2丁目703番2 外3筆	9.97	03.05.23	擁壁建設
12	確認(民間)	下郡遺跡群	大分市大字下郡字一ノ坪2465番地2、堀向2478番地2、堀向2500番地2	2.5	03.05.26	個人住宅建設
13	確認(民間)	野田遺跡	大分市大字野田字宮浦416番1 他107筆	250	03.06.03~06	宅地造成
14	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市顕徳町3丁目2番21号	31	03.06.03~06	専用住宅
15	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字羽屋字日吉田151番1、147番17	13	03.07.15	宅地造成
16	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字羽屋字七曾司169番13	13	03.07.16	事務所兼個人住宅建設
17	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市顕徳町2丁目3030-1	2.4	03.07.17	個人住宅建設
18	確認(民間)	若宮八幡宮遺跡	大分市上野町2939番9、2939番10	6	03.07.22	宅地造成
19	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市大字大分字上井東4267番1 外4筆	85	03.07.23~26	駐車場建設
20	確認(民間)	丹生遺跡	大分市大字丹生字迫1737番5号 外3筆	86	03.07.31~08.01	牛舎建設

第6表 平成15年度大分市試掘調査地一覧②

No	種 別	遺 跡 名	所 在 地	調査面積 (㎡)	調査期間	開 発 原 因
21	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市顕徳町2丁目1-17	5	03.08.06	集合住宅建設
22	確認(公共)	浜遺跡	大字浜字羽様	24	03.08.21	公園整備事業
23	確認(民間)	中世大友城下町跡	元町4662番1、4662番3	6.35	03.09.18	共同住宅建設
24	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市六坊北町4468-1	42.1	03.10.29~30	集合住宅建設
25	確認(民間)	二目川遺跡	大分市大字横尾字高尾4118番7、4117番4	16	03.11.05	集合住宅建設
26	確認(公共)	丹生川坂ノ市条里跡	大分市大字木田尾田公園	5.2	03.11.11	防火水槽設置
27	確認(民間)	二目川遺跡	大分市大字横尾字猪野原3607-1 外5筆	115	03.11.18	共同住宅建設
28	確認(民間)	若宮八幡宮遺跡	大分市上野町2985番1	14.5	03.11.25	ビル建設
29	確認(民間)	沖浜遺跡	大分市勢家町2丁目680番676番	32.5	03.12.04・ 04.01.14~21	共同住宅
30	確認(民間)	鶴崎町遺跡群	大分市東鶴崎3丁目35、37、38、39、40	112	03.12.10・12	病院建設
31	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字上新田1276-1 他6筆	58.75	03.12.22~23	店舗建設
32	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市錦町4372-1、4371-1	18.25	04.01.08	共同住宅建設
33	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市長浜町1丁目1439-18	22.8	04.02.25~26	宅地造成
34	確認(民間)	城原・里遺跡	大分市大字城原大原1929-1	9	04.03.02	個人住宅建設
35	確認(民間)	二目川遺跡	大分市大字横尾3872番地の1	12.2	04.03.09	集合住宅建設
36	確認(民間)	二目川遺跡	大分市大字横尾3751番1	28	04.03.10	集合住宅建設
37	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市大字六坊北町4501番15、16、17	5.1	04.03.24	個人住宅兼店舗建設

### 3 教育普及活動

#### (1) 大分市文化財だより 2003年号の発行

平成3年度から発行を続けている文化財だよりの2003年号(第12号)の作成、配布を行った。

今回の特集は、高崎山を中心として、天然記念物、史跡の視点から特集し、市民に向けて広く情報の発信を図った。

内 容 ・サルの生息地

・杵原八幡宮

・高崎城跡

配布先 市内全戸



第3図

#### (2) 現地説明会

今年度は、現地説明会を計3回開催し、延べ450人の参加者を得た。

名 称	月 日	参加人数
城原・里遺跡6次	10/12	200人
鶴崎町遺跡群	11/3	100人
若宮八幡宮遺跡1次	3/28	150人

#### (3) 研修参加

独立行政法人奈良文化財研究所による埋蔵文化財発掘技術者専門研修「遺跡環境調査過程」に職員1名を派遣した。

#### (4) 新指定文化財

指 定	市指定有形文化財	市指定有形文化財	市指定有形文化財
名 称	刀	刀	脇指
住 所	森 藤島 捷志	永興 園田 久人	府内町 野上 宗彦
指 定	平成16年3月31日	平成16年3月31日	平成16年3月31日

### 4 海部古墳資料館

平成12年4月28日に開館した海部古墳資料館において、以下の事業を行った。

#### (1) 特別展

平成15年度特別展として、第20回全国都市緑化おおいたフェアに共催し、「照葉樹林に暮らす縄文人とその交易 ―姫島から運ばれてきた黒曜石を中心に―」を、開催した。

名 称 「照葉樹林に暮らす縄文人とその交易 ―姫島から運ばれてきた黒曜石を中心に―」

開 催 日 平成15年5月29日～6月29日

#### (2) 入館者数

団 体	153団体	6,105人
個 人		9,191人
合 計		15,296人

## I 大友氏館跡第13次調査

調査面積 486㎡ 調査期間 2003.11.17～2004.03.31

地 域 A 調査担当 佐藤道文

〈はじめに〉

調査地は、大友氏館推定地の北東部に位置し、以前は仏具店が所在したところである。史跡公有地化に伴い建物の解体作業が実施されることとなった。業者との協議を行ない、基礎部分の解体には調査員の立会を要するという取り決めがなされた。その後、平成14年度に建物の解体を行ったところ、遺構が比較的良好な状態で確認されたことから詳細な調査が必要と判断され、平成15年度に調査を実施した。

〈層位〉

調査地は、コンクリート基礎により分断され、遺構、土層を面的に辿るには困難な状況である。16世紀後半以降の遺構に関しては、第12次調査区と同様に建物の建築や後世の水田開発により、大部分が削平されている。

調査区内の土層は、大きく暗灰土→茶褐土→明黄褐土→黄灰土→灰茶粘質土→黄灰シルト質土に分けられる。暗灰土は調査区の南側一部で確認され、上位にある水田層の影響のためか還元色を呈している。土中には16世紀後半頃の遺物を多く含んでいる。茶褐土は調査区の中央から南側で確認される。整地層と考えられ、小穴群や廃棄土坑は、この層から掘り込まれている。出土遺物には、第1次調査で検出されているSX008の資料と類似するものが含まれているため、15世紀後半頃に形成されたと推測される。明黄褐土は、第12次調査区の所見から古代の整地層の可能性が指摘されている。この層から検出される遺構の埋土は往々にして茶色土を主体としている。黄灰土は現段階では無遺物層である。灰茶粘質土は周辺の調査地でも確認されており、古墳時代の土器を少量ではあるが内包していることから、当該期の包含層と考えられる。黄灰シルト質土は大分川左岸一帯に形成される自然堆積層であり、現状では最終遺構面と認識している。今回の調査で確認された遺構の検出標高は4.0m～4.3mである。

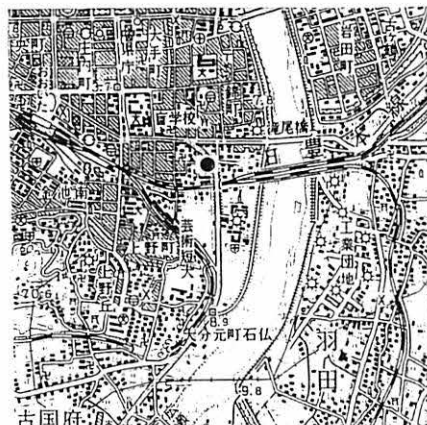
〈検出遺構〉

廃棄土坑3基、南北溝状遺構1条、大型掘り込み遺構、鍛冶炉遺構？などを確認した。

廃棄土坑

3基すべて橙色を呈す在地系土師器と、薄手の白色系土師器を含むものである。まだ、詳細な整理を行っていないが土器法量は3～4種類存在すると思われる。時期は、現在の土師器編年案によると15世紀後半～16世紀前半に比定される。隣接する10次・14次調査区の遺構状況から、上記の時期、館推定地北東部は廃棄空間として使用されていたと考えられる。

SK010は長辺約1.1m、短辺約0.7mを測り、平面隅丸長方形を呈す。在地系土師器（赤色）と非常に薄手の土師器（白色）がある程度のまとまりを持ちながら廃棄が行われたと考えられる。在地系土師器については大小約3～4種類の法量を有す坏が20点以上（破片含む）、白色系土師器はほぼ完存した小皿や耳皿、3法量に分けられる坏が現段階で認められている。SK010から出土した資料については完形に復元できるものが多い。13SK025については、建物基礎により全てを把握することはできなかった。平面形は不整形な円形を呈す。SK025から出土する資料は在地系、白色系含め小破片が多い。13SK040は13SD055の上位に構築されるもので、調査区の北東部で確認された。平面プランは不整形な楕円形を呈し、長径約2m、短径約1mを測る。この土坑は検出当初か



第4図 調査区位置図

ら多量の土器が出土していた。表層には細かい土器破片が堆積しており、その細片を除去すると、ある程度の器形を保った土器が隙間無く現れてくるという状況であった。また、埋土中には炭化物が多く含まれており、一緒に見つかる土器に被熱痕が見られないことから、廃棄の際土器とともに捨てられたと推測される。現段階では詳細な整理は行っていないが、比較的小坏または小皿を多く含む傾向が見受けられた。

#### 南北溝

南北溝（SD055）に関しては、土層観察から人為的に埋められていた。埋土は、主に硬質で細かいブロックを多く含む淡茶土、硬質で締まった淡茶褐土で構成される。淡茶土は帯状に検出され、本遺構北側では東方向へとゆるやかに屈曲する。何らかの区画施設と思われるが、埋土の状況から通路的な施設も考えておきたい。13～15次調査区にかけ、このような南北溝が3条確認されている。また、15次調査区では南北方向を主軸とする建物跡がみつかっており、今後、15世紀後半段階の館北東部の状況について検討する必要があるだろう。

#### 大型掘り込み遺構

調査区南東部で確認された不定形プランを呈す大型掘り込み遺構は、最終的に掘り下げた段階で、幾度かの新旧関係があることが判明した。しかし、検出作業からは各遺構の前後関係は判断できなかった。このことから、ほぼ短期間のうちに掘り込み作業、埋め戻し作業が行われたと考えられる。本遺構に直接関係する埋土は、大きく2つに分けられる。下部に堆積する層は灰茶色でシルト質を呈し、粒径の大きなブロックを多く含む。また、比較的しまっており、鉄分の沈着が認められる。細かく分層しているが、基本的にはすべて類似している。その上部に幾つもの薄い層をみることができる。この層は黄色ブロック土を主体とする層とし、この層が相互に堆積し、当初は東側からの流れ込み層と判断していたが、壁面を観察したところ溝状の掘り方が認められることから、後世の掘り返しと考えられる。掘り込みが行われた時期についてであるが、各埋土から在地系土師器が出土しており、現状の編年案に照らし合わせると14世紀代～15世紀前半の範疇で捉えられるが、今後詳細な整理が必要である。



第5図 大型遺構土層観察時（北より）

大友氏館  
第12次調査

#### 〈小結〉

現状では、大きく3期に分けられる。1期は14世紀代～15世紀前半段階で、不定形の大型掘り込み遺構が構築される段階である。掘り込み遺構が穿たれるものの短期間のうちに埋められ、その後に遺構が確認されないことから、空地（更地）であったと推測される。この時期は、周辺の調査状況から、比較的大型遺構が検出されており、「大友府内町」として町の整備が実施されており、確認された掘り込み遺構も府内町整備に伴う土取り行為により可能性が考えられる。2期は15世紀後半～16世紀前半段階で、南北溝、廃棄土坑がある。この段階では土師器の大量廃棄行為が認められることから調査区は館内に位置付けられると思われる。また、同時に13次調査区周辺のエリアは廃棄空間として使用されていたと考えられる。3期は16世紀後半～末段階で、小穴群・廃棄土坑や鍛冶炉？と思われる遺構が検出される。後世の削平により、大型の遺構が検出される。特に16世紀末に比定される遺構（廃棄土坑・鍛冶炉？）は館が機能を停止した後、町屋として利用された可能性を示す一例となると考えられる。（佐藤）

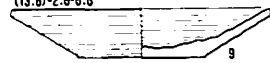


第6図 13次調査区全景



13SK010 灰茶土

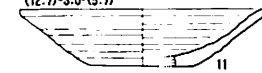
(13.6)-2.6-6.6



12.8-3.0-3.45-6.4



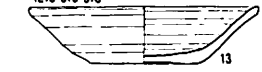
(12.7)-3.0-(5.7)



(12.0)-2.3+α-?

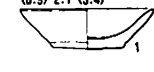


12.0-3.0-5.8

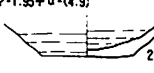


13SK010 茶灰土

(6.9)-2.1-(3.4)



?-1.95+α-(4.9)



?-1.8+α-(6.0)



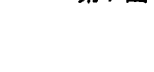
?-1.6+α-(5.8)



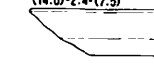
?-1.5+α-5.8



?-2.0+α-5.8



(10.2)-3.0-(5.0)



(10.0)-3.1+α-(4.4)



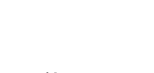
?-2.0-(5.0)



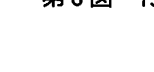
?-2.0+α-6.2



?-1.9+α-(5.9)



?-1.7+α-(5.4)



(14.0)-2.4-(7.5)



(13.7)-2.45-(7.2)



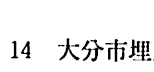
(12.2)-3.0-?



?-1.95+α-?



(4.8)-3.8-1.1-(4.3)

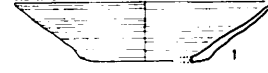


0 10cm

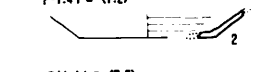
第7図 13SK010灰茶土出土遺物 (S=1/4)

13SK025

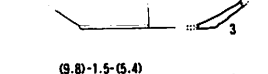
(13.7)-3.1-(6.8)



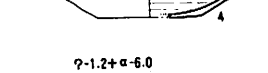
?-1.4+α-(7.2)



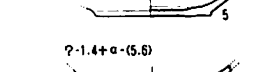
?-1.4+α-(7.2)



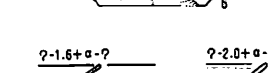
(9.8)-1.5-(5.4)



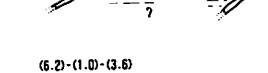
?-1.2+α-6.0



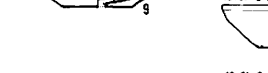
?-1.4+α-(5.6)



?-1.6+α-?



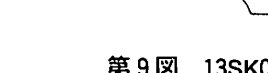
?-2.0+α-?



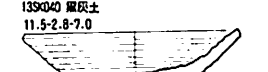
(6.2)-(1.0)-(3.6)



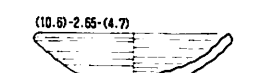
(9.0)-2.2-(5.0)



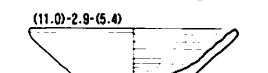
(8.5)-2.0-(5.0)



(7.8)-1.6-(5.8)



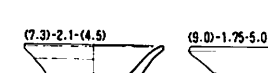
(6.2)-1.8-3.8



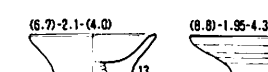
(14.6)-3.0-(6.8)



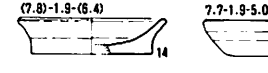
(13.0)-3.5+α-?



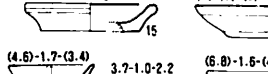
(11.8)-2.9-5.7



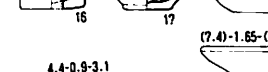
(10.6)-2.6+α-?



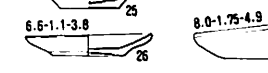
(11.0)-2.3+α-?



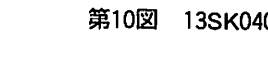
(10.2)-3.7-(6.0)



(9.0)-2.2-(5.0)



(8.5)-2.0-(5.0)



(7.8)-1.6-(5.8)



(6.2)-1.8-3.8

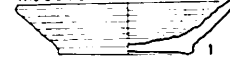


0 10cm

第9図 13SK025出土遺物 (S=1/4)

13SK040 灰灰土

11.5-2.8-7.0



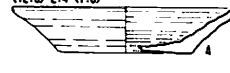
(10.6)-2.65-(4.7)



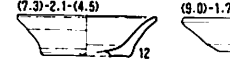
(11.0)-2.9-(5.4)



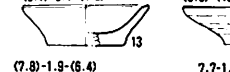
(12.0)-2.4-(7.0)



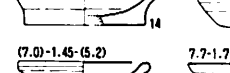
(7.3)-2.1-(4.5)



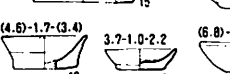
(6.7)-2.1-(4.0)



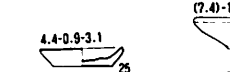
(7.8)-1.9-(6.4)



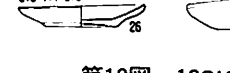
(7.0)-1.45-(5.2)



(4.6)-1.7-(3.4)



3.7-1.0-2.2



4.4-0.9-3.1



6.6-1.1-3.8



8.0-1.75-4.9



0 10cm

第10図 13SK040出土遺物 (S=1/4)

## Ⅱ 中世大友府内町跡第17次調査B区

調査面積 1200m<sup>2</sup> 調査期間 2002.11.20～03.12.22

地 域 A 調査担当 河野史郎・中西武尚・上野淳也・羽田野裕之ほか

調査は、「下水道雨水排水ポンプ場建設に伴う事前調査」として、昨年度調査を行なったA区の南側について実施した。調査地は、通称「第一南北街路跡」と呼ばれている南北道路の東側に位置し、推定横町・清忠寺に比定されている場所にあたる。A区では、推定どおりに現道の下から南北方向の道路跡が確認され、この道路に直交する東西方向の道路跡なども、推定よりも北側で一部検出されていた。この東西道路跡を含む南側の調査地をB区とし、以下その概要について記す。検出された遺構は、地区においていくつかのまとまりが認められる。

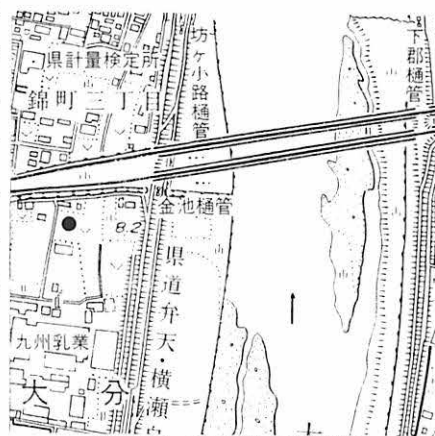
調査区北側では、東西道路跡の全容を確認している。路面幅は約4.5mを測り、深さは検出面から約1mで、安定地盤を掘り込んで構築されている。その後かさ上げをしつつ、側溝の造り替えを何度もしている状況がみられる。第一段階の道路は、大規模な両側側溝をもつ路面幅約1m程度の狭いもので、第二段階では、その北側側溝の一部を埋め戻し、北側(A区)につながる通路としている。この付近では、対になる二つの柱穴が確認でき、門や木戸の跡と考えられる。第二段階以降は、砂や砂利を全体に敷いた路面が確認でき、残りの良い西側では、波板状凹凸面なども確認できる。この東西道路跡については、15世紀後半から16世紀にわたり機能していたと考えられる。

この東西道路跡の南側では、西よりで鍛冶炉跡などの鍛冶関連遺構と考えられる遺構群が展開し、この周辺は整地が著しくなっている。東よりでは、東西道路跡に直交する掘立柱建物跡や柱穴列が確認されており、ここでは、東西道路に面して建物が展開していたと考えられる。

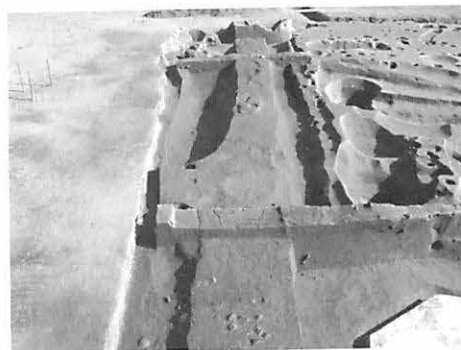
これより南側の調査区中央付近では、北側に面を揃えた石組遺構が確認されている。石組遺構の下層は、調査区の西側で終息する溝状遺構となっており、石組はこの溝状遺構の埋没途中で構築されている。この石組遺構より北側一帯には、井戸跡や大型の土坑群が展開しているが、これより南側では遺構密度も希薄になっている。北側の遺構群はいずれも16世紀以降の時期が考えられるが、南側では16世紀代の遺構・遺物がほとんどみられず、それ以前の出土遺物が目立つ。また、検出面も北側に比べると20cmほど高くなり、さらに字境にあたることから、確認された溝状遺構や石組遺構は、北側と南側を区画する施設であった可能性が指摘できる。南側で確認された特筆すべき遺構としては、16世紀前半と17世紀前半の2基の土墳墓があげられる。以上のような状況から北側は町屋空間、南側は寺域としての空間であった可能性が指摘できる。

上記の遺構群の下層からは、調査区南西から北東に緩やかに曲がっていく、流路の跡が確認できる。この流路の上部には、掘り込みをもつ数面の硬化面が带状に確認でき、道路として利用されていた可能性が考えられる。この流路のさらに下層では、流路を利用しながら構築されたと考えられる水田跡が確認されている。この水田跡の時期については、中世の遺構検出面ですでに古代(9世紀)の遺構も検出されていることから、古代以前のものと考えられる。

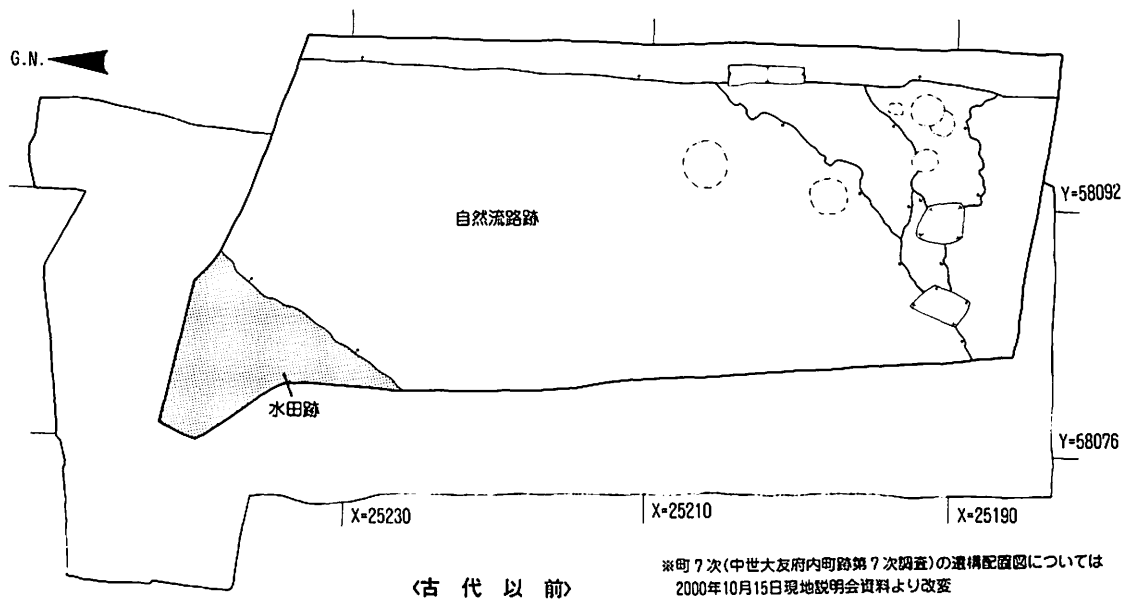
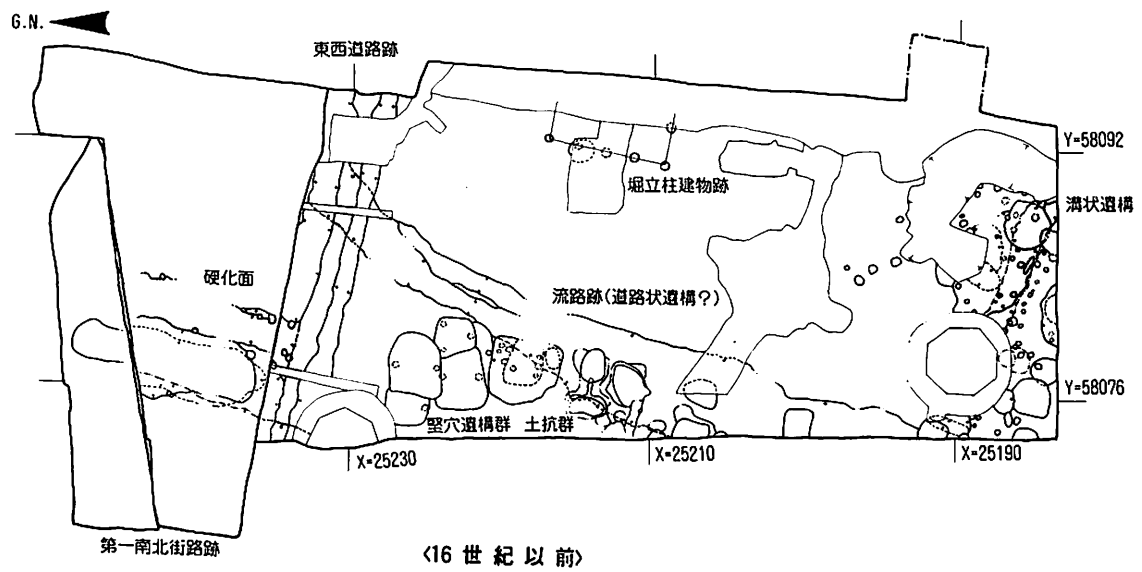
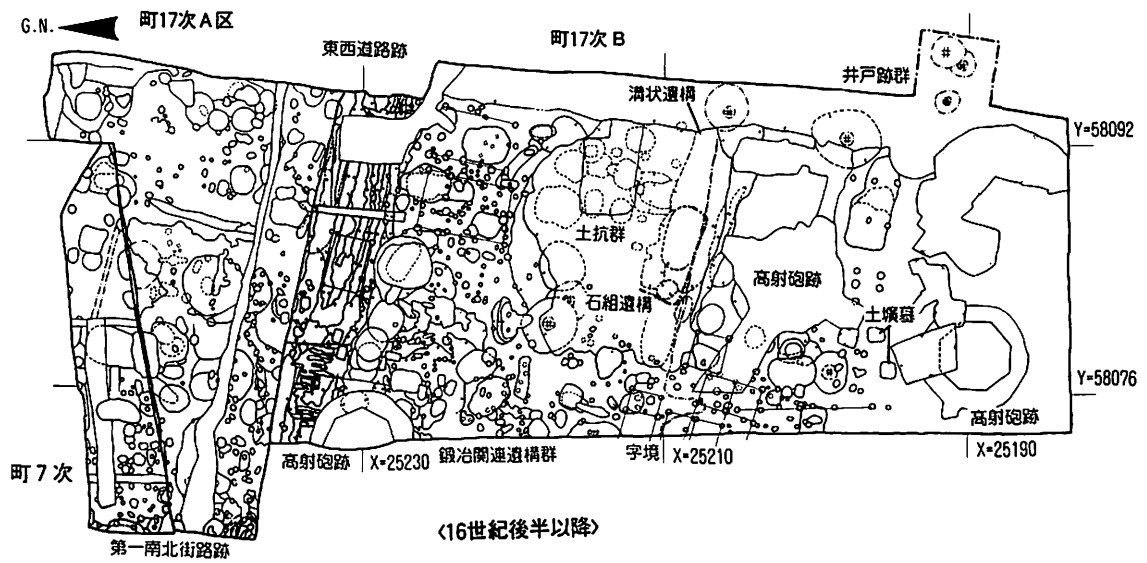
この他、調査区内には、戦時中の高射砲跡(高射砲砲床)が3基確認されている。(中西)



第11図 調査地点位置図



第12図 東西道路跡通路部分検出状況(西より)



※町7次(中世大友府内町跡第7次調査)の遺構配置図については  
2000年10月15日現地説明会資料より改変

0 10m

第13図 遺構変遷図 (1/500)

### Ⅲ 中世大友府内町跡第25次調査（1区～4区）

調査面積 355㎡ 調査期間 2003.04.23～2004.03.31

地 域 A 調査担当 佐藤道文・五十川雄也・松尾聡・吉本明弘

今回の調査は、都市計画道路六坊・新中島線の道路改良（拡幅）工事に伴って実施した。調査地は、「戦国時代府内復元想定図」によるとノコギリ町、上町に近接し、若宮八幡宮の約130m北に位置する。また2区は、字名を顕徳寺といい、府内古図では祐向寺付近に該当することから寺院に関する遺構・遺物の確認が期待された。また、4区では第四南北街路と思われる道路状遺構を確認することができた。

基本層序は、大きく上部層と下部層に分けることができる。上部層は、近現代に比定される水田層（約0.4m）と、その下層に存在する黄褐色土層である。この黄褐色土層上面が遺構確認面である。下部層は、黒灰褐色土→淡黄灰褐色土→青灰色砂質土層の順で堆積している。黒灰褐色土層から弥生時代終末～古墳時代初頭に比定される遺物が出土した。なお、検出標高は約4mである。



第14図 調査地点位置図

#### 1区

1区の主要遺構は、調査区南端において確認された中世～近世に比定される8条の溝跡で、全て東西方向に展開する。また、調査地は府内町の南限であることから町を区画するような機能を有していた可能性が考えられる。なお、明治期の字図には地割を示す記載は認められない。

北西部において土坑（SX090）を検出した。平面形状は、西側が調査区外に展開するため不明であるが、残存部分より不定形な長方形を呈すると思われる。規模は長径約3m、短径約1m、深度約0.2mをはかる。埋没土は暗灰褐色土を基調とし、拳大の礫や砂利が混入している。遺物は、16世紀後半に比定される非口口成形の京都系土師器皿や備前焼播鉢の口縁部、白磁碗（森田分類E群）などが出土している。また、同様の遺構が3区でも確認されていることから当該遺構との関連が注目される。

第7表 溝状遺構一覧

番号	所見	検出地点	切り合い (新→旧)	時期
SD009	肥前磁器小片（初期伊万里皿小片）	調査区中央南寄り	SD009→SD030	17世紀初頭
SD015	肥前磁器口縁部片（18世紀後半）、京都系土師器片（16世紀調査区南端後半）、華南三彩小片		SD015→SD025 SD015→SD035	18世紀後半
SD020	調査区西壁付近で閉塞する		SD020→SD040	
SD025	京都系土師器片（16世紀後半）、備前播鉢片	調査区中央南寄り	SD015→SD025	16世紀後半
SD030	在地系土師器皿（15世紀中頃）、備前播鉢口縁部片（15世紀中頃）	調査区南端	SD009→SD030	
SD035	瓦質土器片、京都系土師器皿片（16世紀後半）、備前甕口縁小片、断面形状…V字形	調査区南側部	SD015→SD035	16世紀後半
SD040	瓦質土器小片、京都系土師器片（16世紀後半）、在地系土師器皿片、備前播鉢片	調査区南端	SD020→SD040	16世紀後半
SD050	在地系土師器皿底部小片、備前播鉢小片	調査区南端	SD040→SD050	

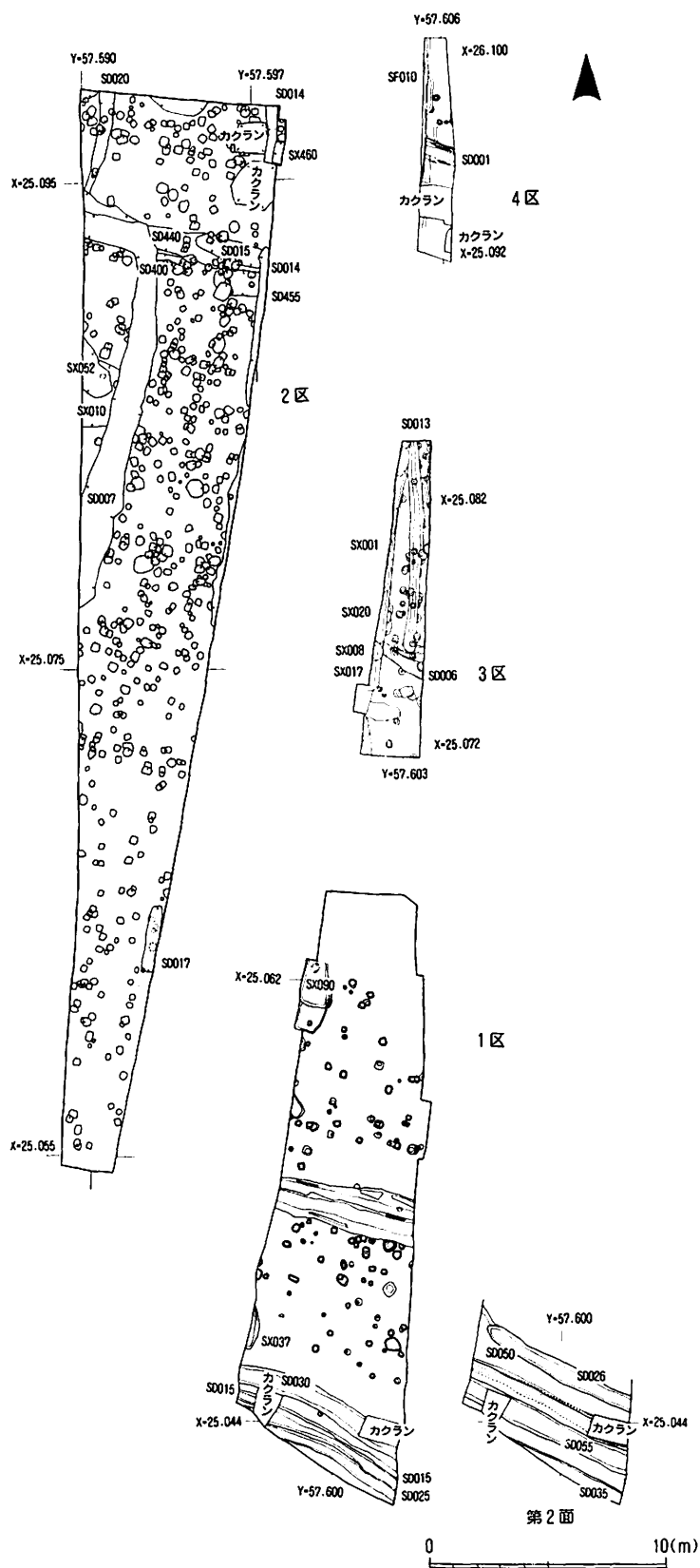
中世大友  
府内町跡  
第25次調査  
1区～4区

## 2区

確認された遺構は、ピット・柱穴群、溝状遺構、土坑などである。ピット・柱穴群は調査区中央～北側において集中しており、数棟の建物が存在していたものと考えられる。

土坑（SX460）は調査区北西端において確認した。平面形態は東側が調査区外に展開しているため不明であるが、残存部の状況より長方形を呈するものと思われる。規模は、長軸約1.0m、短軸約0.4m、深さ約0.3mを有する。遺物は、土製埴、瓦、備前焼甕口縁部、青磁口縁部等が出土した。遺物の出土状況などを勘案すると廃棄土坑としての性格を有するものと考えられる。所産時期は、備前焼の年代観より16世紀末段階と考えられる。

SD014は、調査区東壁において南北方向に伸展し、SK460に切られる遺構である。埋土は暗茶褐色土の単一層であり、16世紀後半と思われる京都系土師器皿や在地系土師器や瓦などが多数出土している。SD020は、調査区北西部で検出し南北方向に展開する。埋没土は暗灰褐色を基調とする単一土層である。検出幅約0.3m、深度約0.3mである。断面形状はU字形を呈する。所産時期については、底面付近より在地系土師器や瓦質土器などが出土しており、土師器の形態より15世紀代の所産であると思われる。SD015・SD400は、調査区北側において検出した。埋土及び残存規模が酷似していることから同一時期に構築・併存していたと推定できる。規模は、調査区外、SD400はSD007に切られているため全容については不明である。検出幅は約0.2m、深さ0.2mをはかり、逆台形の断面形態を有する。遺物は、ロクロ成形の在地系土師器、瓦や瓦質土器などが多数出土している。時期についてはSD015の底面より15世紀代に比定されるロクロ成形の在地系土師器が出土していることから当該期の所産であると考えられる。SD440は、SD007・SD015・SD400に切られる溝状遺構である。当遺構は東西方向に伸展し、SD015の中央付近で収束する。埋土は、暗灰褐色土を基調とし炭化物・焼土粒を含む。SD455は東西方向に伸展する。埋土は暗灰褐色土を基調とする。埋



第15図 遺構配置図（S=1/300）

土中より土師器小片や瓦質土器などが出土したが時期比定をおこなえるような遺物は認められなかった。

### 3 区

検出した遺構は、土坑（SX001）、溝状遺構（SD006・SD013）、柱穴列である。

SX001は、現道路に平行する形で構築されており、埋土の堆積状況は、25－1区で認められたSX090と近似することから同一時期に構築されたものと思われる。出土遺物は、備前焼播鉢（乗岡編年近世Ⅰ期）や16世紀後半に比定される非口クロ成形の京都系土師器などが出土している。したがって、当遺構の埋没時期は16世紀後半～末であると想定できる。SD006は調査区中央南寄りで検出し、SX001に切られる遺構である。全容は東側が調査区外に伸展するため不明である。規模は、残存幅約0.4m、深さ約0.4mをはかる。また、埋土中より青磁碗線描連弁文口縁部が出土していることから、少なくとも16世紀初頭よりは遡らないものと判断できる。SD013は、調査区中央部を南北方向に延び、SD006の手前で東に屈曲する溝状遺構である。埋没土は、暗灰褐色土を呈する単一土層であり、断面形状は逆台形である。時期については、京都系土師器皿（塩地編年Ⅲ期）、瓦質土器や瓦などが出土しており、京都系土師器の年代観より16世紀中頃には埋没していたものと判断できる。

### 4 区

25－3区の北側に設定した調査区である。主要遺構は、溝状遺構（SD001）、道路状遺構（SF010）である。

SF010は調査区西側において検出した。遺構の東端を一部確認したのみで道路幅などは不明である。また、道路に付随するような溝状遺構などは確認することができなかった。土層断面は砂と小礫を交互に積重ねている状況が見受けられた。道路幅については、現道路の真下に展開するものと思われるため不明である。構築時期については、時期比定をおこなえる遺物が出土していないため不明である。

SD001はSF010に切れ、東西方向に展開する。土層観察より少なくとも2回の掘り返しが行われているものと考えられる。所産時期については、遺物の出土が見受けられないため判断できない。しかし、埋土の状況や規模が25－2区のSD455と酷似することから15世紀後半の所産である可能性が考えられる。

### 小結

今次の調査は、第4南北街路の確認が期待された調査であった。調査の結果、第4南北街路本体の確認はできなかったが、府内町の南限を区画するような溝状遺構（1区）やピット群などを検出した。特に2区では町を想定させるような大型遺構（井戸・廃棄土坑）などは確認できなかったことから当地は町以外の建物群が存在していた可能性が考えられる。今後の周辺調査につて遺構の広がりや状況などの説明が期待される。



## Ⅳ 中世大友府内町跡第26次調査

調査面積	約230m <sup>2</sup>	調査期間	2003.11.06～2004.03.17
地 域	A	調査担当	五十川 雄也

### 位 置

中世大友府内城下町跡は、大分川下流西岸にあたる沖積平野の微高地に位置する。第26次調査区は、「府内想定復元図」によると、大友氏館跡の西側に位置しており、推定第4南北街路沿い周辺に該当し、中町やダイウス堂などの場所にあたるものと推定される。

周辺調査区では、町10次調査において、推定キリシタン墓が検出され、町5次調査では、第4南北街路の一部が検出された。

### 遺 構・遺 物

第26次調査区の土地開発は、遅くとも15世紀後葉には営まれており、16世紀末葉までつづく。16世紀末葉の遺構検出面の直上層は間層を挟まずに18世紀段階の水田層が広がっており、大きく削平されていることは否めない。以下、時期別にみていく。

15世紀後葉～16世紀前葉は、柱穴群、井戸跡(S400)、土師質土器祭祀遺構(S042)、土坑などが展開する。柱穴群はそのほとんどが、掘立柱建物跡もしくは柵跡を構成すると思われる。調査区範囲の関係から規模などは不明である。柱穴からの出土遺物は、土師質土器片がほとんどである。土師質土器祭祀遺構は土師質土器坏が25枚前後確認できた。地鎮の性格と考えた場合、この周辺の土地利用は町屋跡とは相違する空間が広がっていたと推定される。井戸跡は裏込め部と井筒部から構成され、井筒部の下層は桶を利用している。出土遺物は土坑(S002)から、中国龍泉窯青磁(線描蓮弁文)碗や工具痕が内面に強く残る土師質土器坏などが共伴して出土している。出土遺物は土坑(S002)から、中国磁州窯系鉄絵龍鳳凰文壺片が、交叉摺目の備前焼播鉢片などと共伴して出土していることから、骨董品として伝世したものと思われる。また磁州窯系片は、若宮八幡宮遺跡第1次調査の近世溝からも出土し、当遺跡出土片と接合することが判明している。そのほか、在地の土師質土器が多く出土し、龍泉窯青磁碗、瓦質鍋片、火鉢片、備前焼片、白磁皿片、鉄釘、銭貨などが出土した。

16世紀中葉～末葉は、調査区の中央から南側にかけて、1.5mほどの大型掘り方をもつ柱穴、柱穴、井戸跡、溝状遺構、土坑などを検出した。大型柱穴跡は7基確認でき、そのうち3基(S077・S078・S150)は掘り方方形で柱痕の軸はほぼ真北をとおり、関連がありそうである。出土遺物は、京都系土師器を主体とし、掘り方から出土するものと柱痕部から出土するものは若干型式差がありそうである。S313は形状から素掘りの井戸跡と思われる。遺物は京都系土師器、備前焼片、中国青花、土師質土器片、青磁片、白磁片などが出土した。特に土坑(S002)からは交叉摺目をもつ備前焼や京都系土師器と共伴しながら、中国磁州窯系白地鉄絵龍鳳凰文壺片が出土している。また磁州窯系片は、若宮八幡宮遺跡第1次調査の近世溝からも出土し、当遺跡出土片と接合することが判明している。

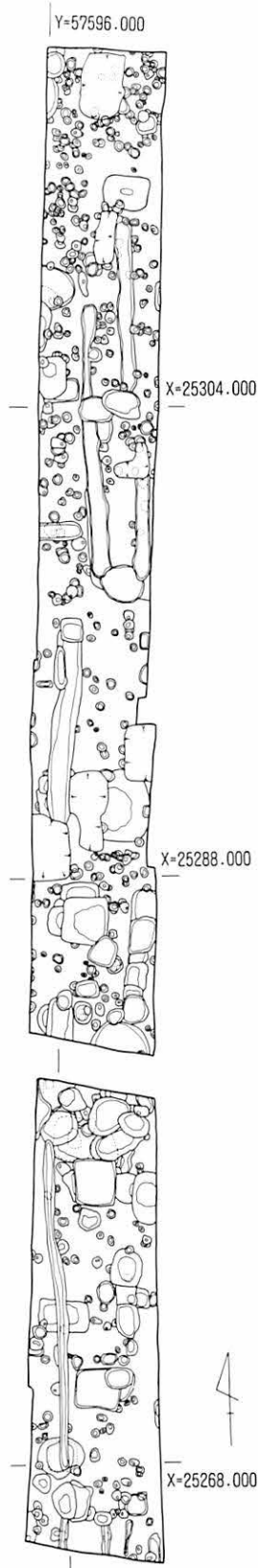
### まとめ

町26次の調査内容を簡潔にまとめると、15世紀後葉～16世紀前葉の時期は調査区の中央から南側にかけて、柱穴群・土坑が展開する。S002の存在から、町屋跡とは相違する空間が広がっていたと思われ、調査区北側に展開する柱穴群に関しては、町屋跡及び武家地跡の可能性が考えられる。16世紀中葉～末葉は、調査区中央から南側にかけては、前段階同様に大型掘り方の柱穴の存在から町屋跡とは考えにくく、性格の違う空間が展開していたと推定される。一方で、調査区中央から北側にかけては、町屋跡および武家地跡の可能性を残す。

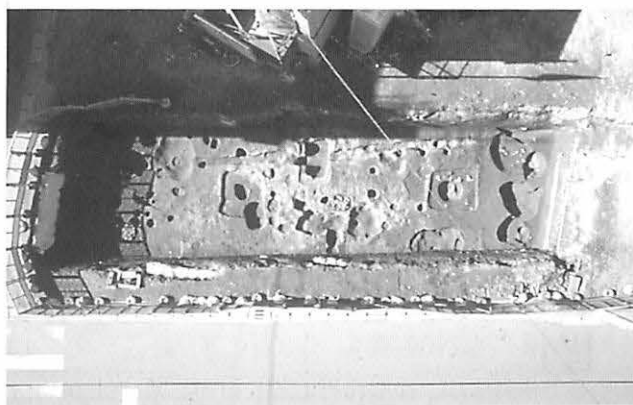


第16図 調査地点位置図

以上から第4南北街路沿いは、出土遺物やその量、遺構の展開をみても、大友氏館跡東側に位置する第2南北街路周辺とは様相が相違する部分が多いようである。今後は、当調査地周辺に存在したと推定されるダイウス堂の関連を含めて、第4南北街路周辺の都市空間の様相がどのようなもので、さらに城下町という空間の中でどのような位置付けになるのか、追求していく必要性がある。(五十川 雄也)



第17図 遺構配置図 (1/250)



第18図 調査区南側 (上が西)



第19図 S002出土中国磁州窯系白地鉄絵龍鳳凰文壺出土状況



第20図 土坑 (S042) 出土状況

## V 中世大友府内町跡第32次調査

調査面積	237㎡	調査期間	2003.06.09～03.10.24
地 域	A	調査担当	五十川雄也・吉本明弘

### 位 置

中世大友府内城下町跡は、大分川下流西岸にあたる沖積平野の微高地に位置する。第32次調査区は、「府内想定復元図」によると、大友氏館の西側に位置しており、第4南北街路沿い周辺に該当し、「古絵図」の中町及びダイウス堂といった場所にあたるものと推定される。

特に周辺調査区では、道路跡（町5次）推定キリシタン墓（町10次）、土師質土器祭祀遺構・大型の柱穴跡（町26次）などが調査されている。

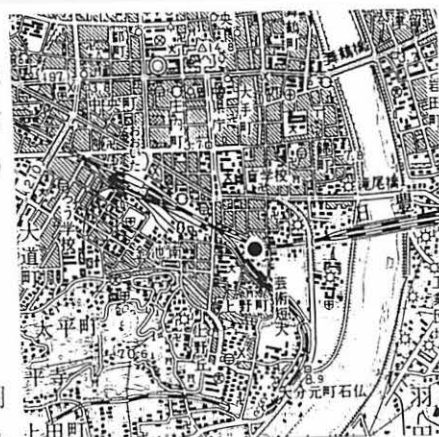
### 遺構・遺物

第32次調査区は、町26次調査区の南に位置している。土地の開発時期は、町26次と同様、15世紀後葉以降である。遺構検出面の直上層は18世紀代の水田跡である。以下、時期別に主要遺構・遺物をみていく。

15世紀後葉～16世紀前葉は、柱穴群・井戸跡（3基）・土坑などが確認できた。井戸跡は裏込め部と井筒部を構成する。井筒部は、桶を利用するものが2基（S150、151）、凝灰岩を成形して方形に組むもの（S107）が1基確認できた。井戸跡からは、備前焼片、龍泉窯青磁片、中国青花、土師質土器などが出土した。柱穴群は、井戸跡の周辺に多く展開し、井戸跡を切らない。掘立柱建物跡を構成するものと思われる。出土遺物は土師質土器片などが主である。土坑は、S153からは瀬戸瓶子、S160からは中国龍泉窯系青磁碗（外底に墨書あり）が出土した。

このように当期の遺構の展開は、推定第4南北街路の西側に展開するものと思われ、前述した遺構のほとんどは調査区東側に展開している状況である。逆に調査区西側は遺構の密度は少なく、当期において未開発地であった可能性が高い。当該期は遺構の状況から、町屋跡もしくは武家地跡の可能性はある。

16世紀中葉～16世紀末葉は、前段階の調査区東側に展開していた空間は消え、調査区西側の土地が開発される。主要遺構は溝状遺構、柱穴、柱穴列、土坑などで、主に空間を区画するものと思われる。溝状遺構では、S050は東西に延び、溝の東端の底から京都系土師器皿が2枚ほぼ完形で出土した。何らかの意味があるものと推定される。SD090とSD123の間は空閑地で、溝状遺構の他に、連続土坑（SK088、096、097、098など）や柱穴列1・2・5で区画される。またSD040の西側には柱穴が展開する。その他に礎盤石なども検出し、出入口などの施設を構成するものでろうか。このような遺構状況から、町屋跡とは考えられず、その他の施設に伴う空間であった可能性が高い。当期の出土遺物は主に京都系土師器が多く出土し、在地の土師質土器、火鉢、備前焼、瓦片、中国



第21図 調査地点位置図



第22図 調査区遠景（上が東）



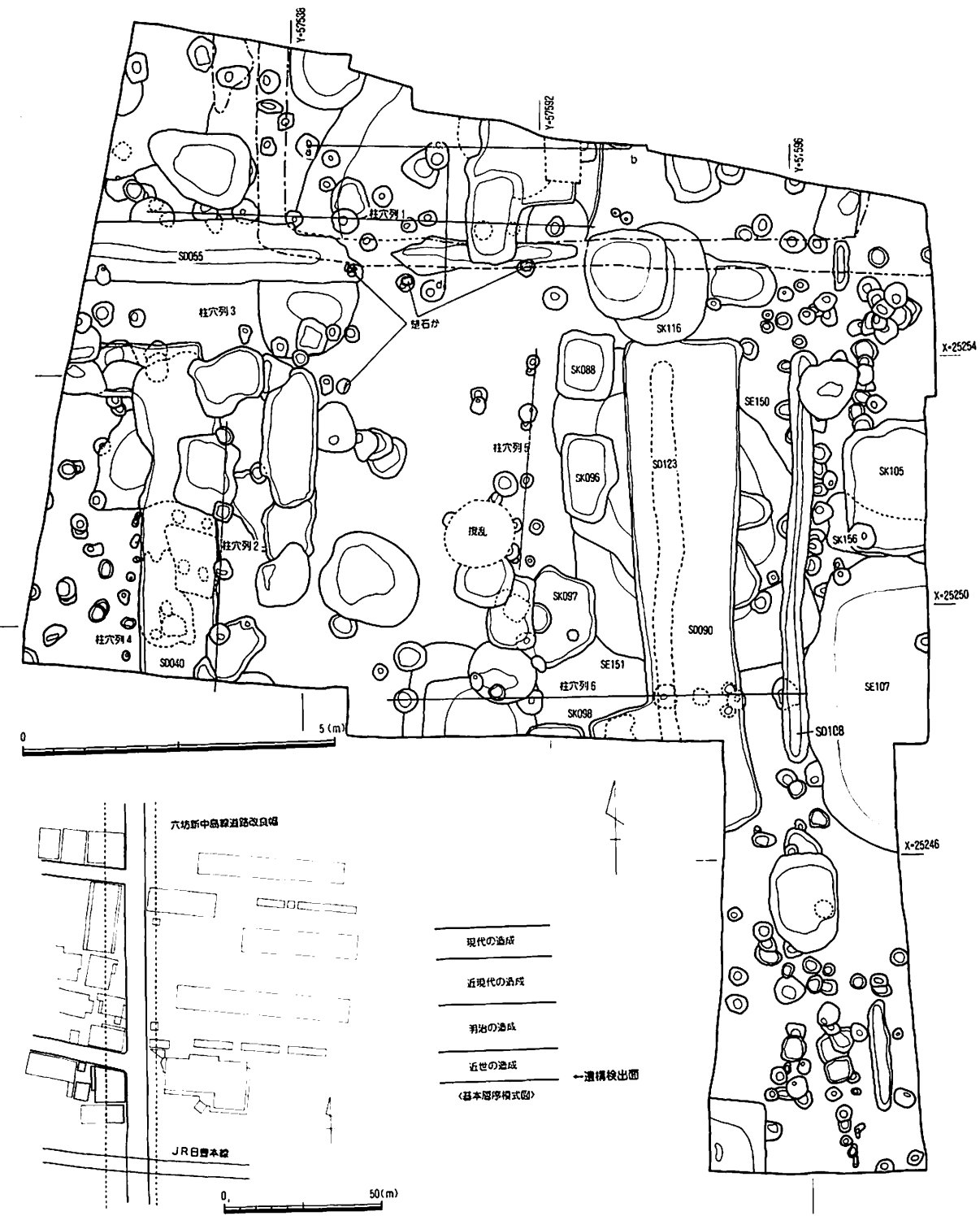
第23図 S150（井戸跡）石組状況

青花、中国龍泉窯青磁碗、鉄製品、不明青銅製品、一石五輪塔の一部などが出土した。

まとめ

第32次調査区は、前述したように検出遺構は大きく2時期に分けることができる。Ⅰ期（15世紀後葉～16世紀前葉）は、調査区の東側に遺構が展開し、柱穴群・井戸跡・土坑などが展開し、町屋跡もしくは武家地跡である可能性が高い。Ⅱ期（16世紀中葉～末葉）はⅠ期の状況から一変し、区画性の高い施設が営まれたと思われる。

今後は周辺の調査の増加を待ちながら、まずⅠ期とⅡ期の空間構造をさらに具体的に押え、さらに中世大友府内町跡西側の都市構造の位置づけを行う必要があるだろう。



第24図 遺構配置図(1/200)

## Ⅵ 中世大友府内町跡第33次調査

調査面積 約880m<sup>2</sup> 調査期間 2003.06.09～03.07.26

地 域 E 調査担当 佐藤道文・松尾聡・吉本明弘

はじめに

今回の調査は、大友氏関連遺跡確認調査の一環として実施したものである。調査地は、「戦国時代府内復原想定図」中には該当する町名は無く、「府内古図」にある中世府内町の南端部分にあたると考えられる。

層位など

調査区は大分川の左岸の自然堤防上に位置する。遺跡が形成される以前については、地表面から約1.4m掘り下げた地点で、河川堆積物と思われる砂層が確認されたことから旧河道だったと考えられる。その砂層上面には淡灰茶シルト質土層、明黄茶褐土層、暗茶褐土層（古→新の順）の3層の遺構面が堆積する。各層は整地層のように人為的に積まれたものではなく、自然堆積によって形成されたものと思われる。

検出遺構

33SA015

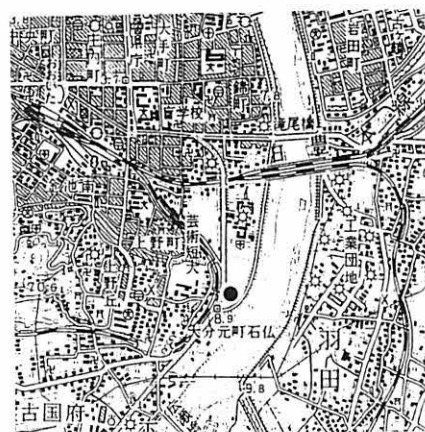
調査区の中央やや西側で検出される。柱間は6間で、各柱間の距離は、約1.1mから約2.2mと一定していない。柱穴径は約0.3mを測り、土層観察より柱径は約0.1mと考えられる。柱穴上面には灰色砂層が堆積しており、調査区壁面で確認される耕作土層と類似する。耕地化するのが、出土遺物より近世の段階と考えられるため、SA015は、本調査区が耕地化する直前のものと推測される。

33SK020 (SX019)・021

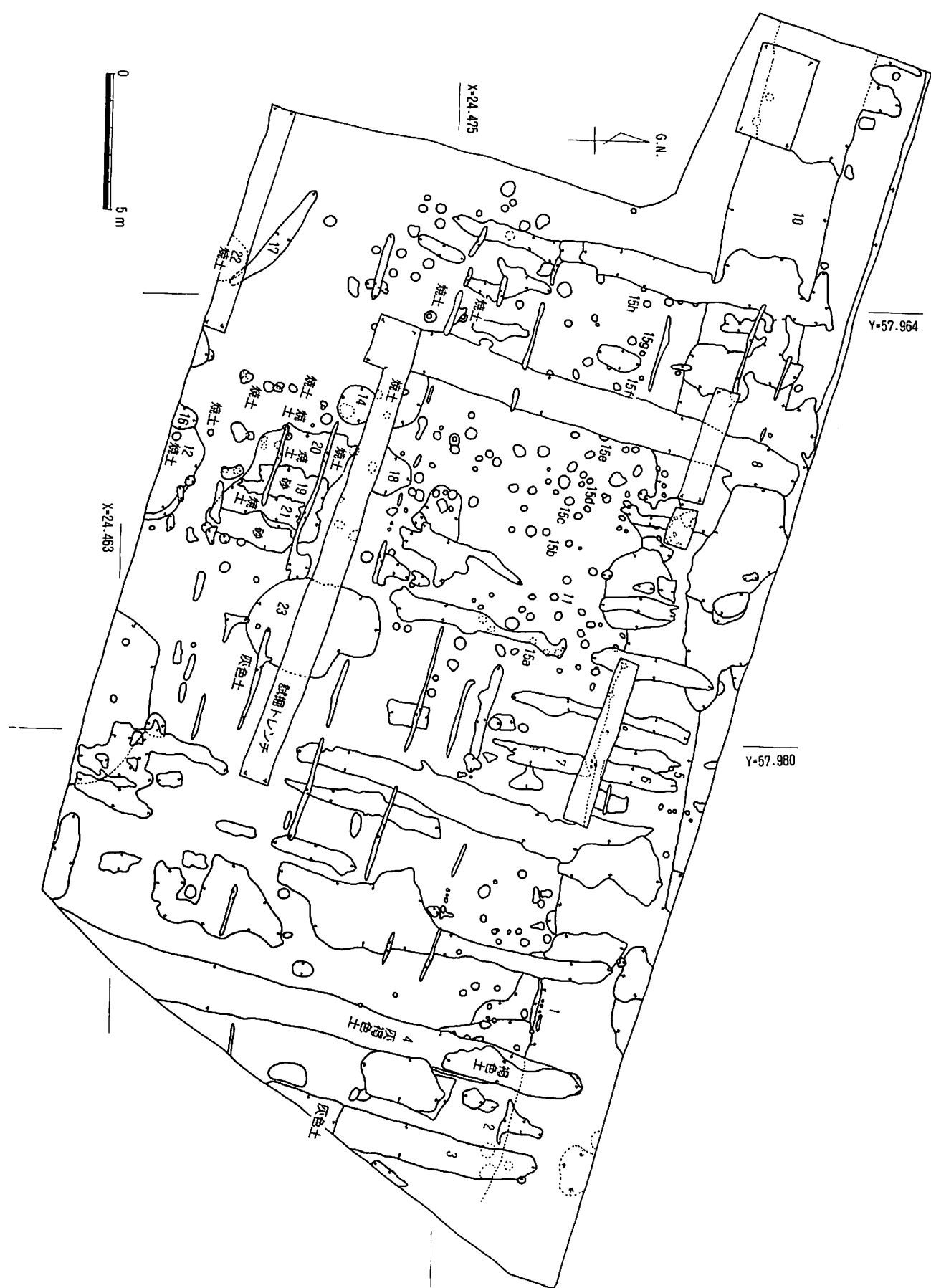
調査区の中央南側で検出される。南北約3～4m、東西約4.5m、深さは約0.2～0.6mを測り、平面不定形な隅丸長方形を呈す。S番号をそれぞれ分けているが、19、21は同一遺構、20は前者の土坑が掘り込まれる以前の遺構である。019は、021に堆積する砂層である。SK021は、砂層(SX019)を間に挟んで、上層、下層に焼土層が確認される。砂層がどのようにして堆積したかは定かではない。そのような中で、県教委での調査で、同じような砂層の堆積を示す遺構が見つかった。その調査所見から、砂層は上位にある水田耕作に伴うもの、もしくは小規模な水の氾濫によって形成されたものではないかと考えられている。本調査区も以前は水田として利用されていたことから、同様な例になる可能性も含まれる。構築時期に近い段階に堆積した茶灰土層より、建築材に使用された炭化材や壁土などが出土していることから火災処理土坑ではないかと考えられる。ただ、砂を利用した目的については不明であるため類例の増加を期待したい。出土遺物中には、土壁が多くみられ、中には竹を組んだ痕跡を残すものもあり、戦国期の建築様相を考える好資料となり得よう。SK020・021の時期については、出土遺物より16世紀末段階に比定される。

33SD010

調査区北側で検出した、区内を東西方向に縦断する溝状遺構で、幅は約4m、深さ約1.4mを測る。断面形状は掘鉢状を呈し、南側壁面はやや急な傾斜で立ち上り、北側壁面についてはゆるやかな形状を示す。土層観察を行ったところ、自然堆積を繰り返しながら、大きく4～5回の掘り返しが行われていることが分かる。溝底面は砂利層が堆積し、水が僅かに湧いてくる状況であった。土層からは水流痕跡は窺えず、水分を含む湿った土壌が確認されたことから、低湿状態だったのではないかと考えられる。これらのことから、SD010は流水を目的としたものではなく、土地区割り等を目的としたものと思われる。主軸方位はN-102°-Eである。



第25図 調査地点位置図



第26図 中世大友府内町跡第33次遺構配置図(S=1/200)



遺物は主に土層断面にみられるところの、溝上位にある掘り返し土層から出土している。当初、古代に属する遺物が出土していたが、溝中位に堆積する灰茶土層中より15世紀代に比定される在地系土師器の坏口縁部が出土していることから、15世紀の段階には埋没が開始していたと考えられる。

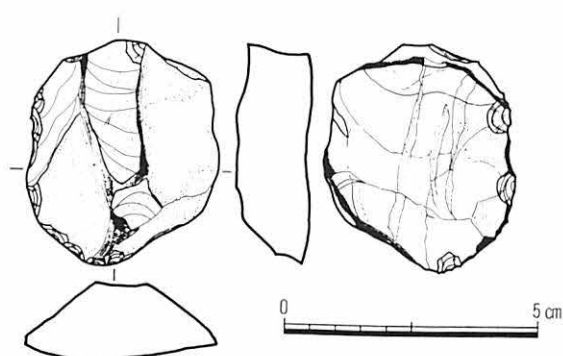
#### 出土遺物（33SX018・茶褐土出土遺物）

出土遺物には、朝鮮産青磁香炉（灰茶ブロック土3）、備前焼掛け花入れ（灰色土3、灰茶ブロック土6）、黒釉陶器壺（灰茶ブロック土4、5）、産地不明の焼締陶器破片（灰茶ブロック土7）がある。朝鮮産青磁香炉は被熱により本来の釉調を失っている。胎土は灰白色を呈し細かい黒色微粒子を含んでいる。一部欠損しているが四脚になるものと思われる。また、高台部に砂目が四ヶ所付着しており、17世紀初頭頃に比定されることが考えられる。黒釉陶器は一部被熱により釉が剥がれている。胎土は淡灰色をしており、小石や黒色粒子、白色微粒子を含んでいる。焼締陶器破片は褐色を帯びた色調しており、胎土は灰白色を呈し、黒色粒子を多く含む。また、一部釉剥ぎが行われている。灰色土3は、直線的な器形を有し、端部は外側に突出する。また、焼成以前に外方から穿孔が施される。灰茶ブロック土6は緩やかに外反しながら直線的に伸びる。口縁部付近には穿孔の痕跡がみられるが、内面まで達していない。第27図は火打ち石である。長さ4.45cm、幅4.8cm、厚さ1.5cm、重量は31.8gを測る。風化が激しく上半が折れた剥片を2次利用していると考えられる。縁辺の細かい剥離面と表面の稜上及び周縁が潰れている箇所については内面の新鮮な黒色部分が露出しており、火打ちの使用痕と推察される。

#### 〈小結〉

今回の調査は、遺構の配置状況の確認を主たる目的としたため、遺構の掘り下げについては殆ど行っていない。しかし、城下町の南限部分で、調査区を縦断する程の大規模な溝状遺構が見つかったこと、戦国期の遺構が当該地まで広がっていたことが確認できたのは大きな成果といえよう。

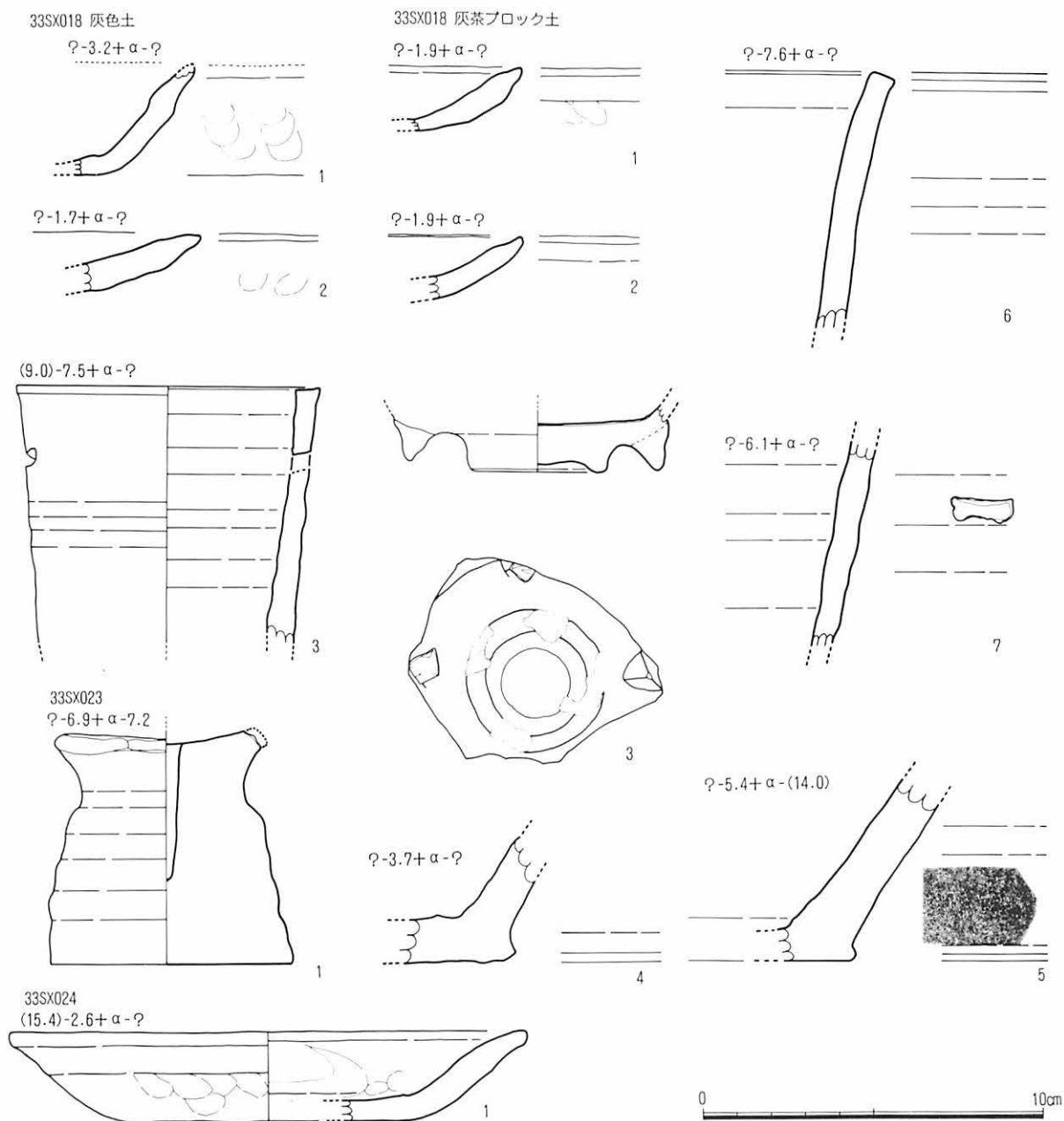
33SD010は、掘り下げた地点が極一部であるため、時期については、15世紀後半に埋没しはじめていたという段階に留めて置きたい。「府内古図」は、戦国末期の状況の色濃く伝えるが、それ以前については不明な部分が多い。今後、15世紀代の遺跡の検討を行なう必要がある。（佐藤）



第27図 茶褐土出土石製品(S=2/3)



第28図 33SD010全景



第29図 33SX018・023・024出土遺物 (S=1/2)

## VII 中世大友府内町跡第37次調査

調査面積 37m<sup>2</sup>

調査期間 2003.12.08～03.12.19

地 域 A

調査担当 池邊千太郎・岩尾美保子

第37次調査地点は、大分市六坊北町に所在し、中世に大友氏によって造られたと考える御蔵場推定地にあたる。復元想定図によれば御蔵場の中でもその中心に位置する。調査は集合住宅建設により、遺構が掘削される浄化槽部分を中心に8m×5mの規模で調査区を設置した。

調査の結果、2面に及ぶ遺構面を確認した。1面は、現在の水田耕作面が15cmと水田板が10cmの直下で確認された整地層である。整地層の厚さは平均12cmであり、糸切り底の坏と小皿に混じって8世紀代の土師器片と須恵器片を伴う灰褐色の硬質層からなる。2面は、その整地層を剥いだ直下にあり、厚さ平均20cm程の砂まじりの軟質層で、淡黄灰褐色であった。

[1面…13世紀代]

現在の水田面を剥いだ段階で整地面に土坑、柱穴等を確認した。整地層には、糸切り底の坏と小皿が含まれており、遺構形成段階に伴った所産と考えられる。また、8世紀代の土師器片と須恵器片が含まれており、2面の遺構を削平して整地したものと推測される。

主要遺構としては、方形を呈すると思われる土坑S023、楕円形の土坑S018・S033、礎盤を伴う柱穴のS043、S002、S042である。S023は、南北4.8m、東西は西側を調査区外に伸びており全容は不明であるが、壁の立ち上がりは緩やかな竪穴遺構である。遺構内からは、糸切り底の土師器の杯(R006・R007)、小皿(R005・R014)、焼締陶器の甕片、中国産青磁碗片等が出土しており13世紀代と考えられる。S033の土坑は、長軸1.2m、短軸0.9mを測り、出土遺物に土師器の高台付坏(R017)・甕(R019)があり、8世紀中頃から後半代であり、2面からの混入と考えられる。また、礎盤の石を伴う柱穴のS043、S002は、建物方位がN-24～26°-Eであり、かなり東に振れている。いずれも石は焼けており、建物が火災を起したものと考えられる。なお、その一部がS023から出土していることから、S023は火災処理のために設けられた廃棄土坑とも考えられる。建物になると思われる柱穴のS042からは、土師器の糸切り小皿(R024)、S062からは土師器の糸切り小皿(R035)・土師質鍋(R036)が出土しており、ともに13世紀代の所産と考えられる。

[2面…8世紀中頃]

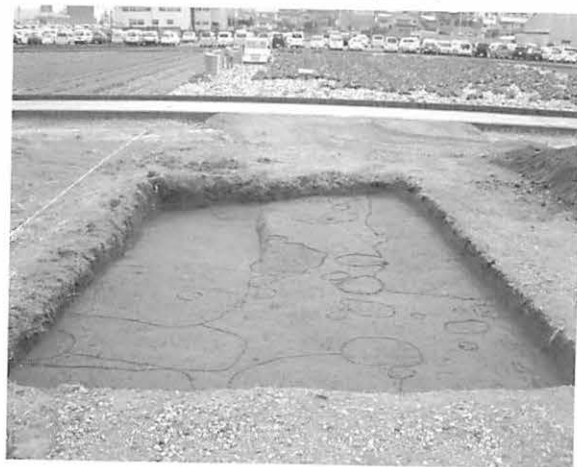
2面は、1面の整地層を剥いだ段階で整地層が検出され、この面に柱穴を中心とする遺構が検出された。



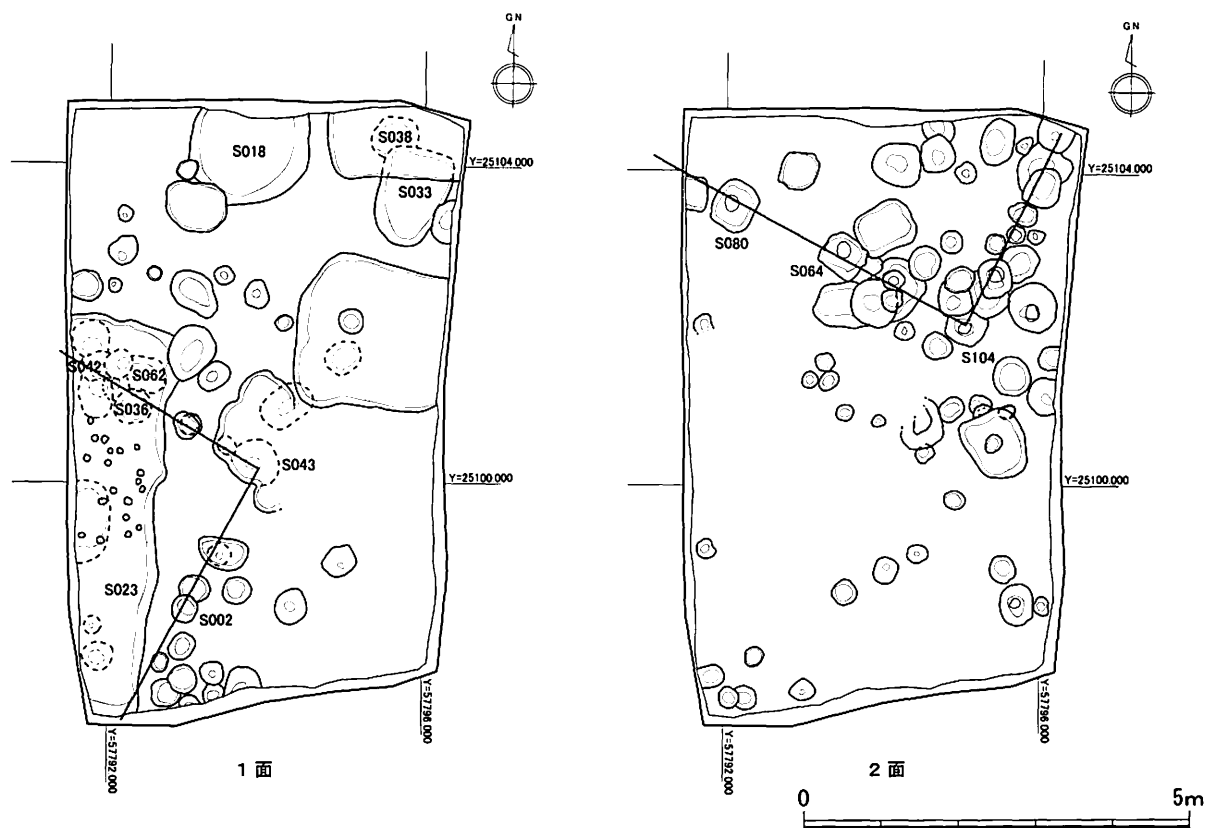
第30図 調査地点位置図



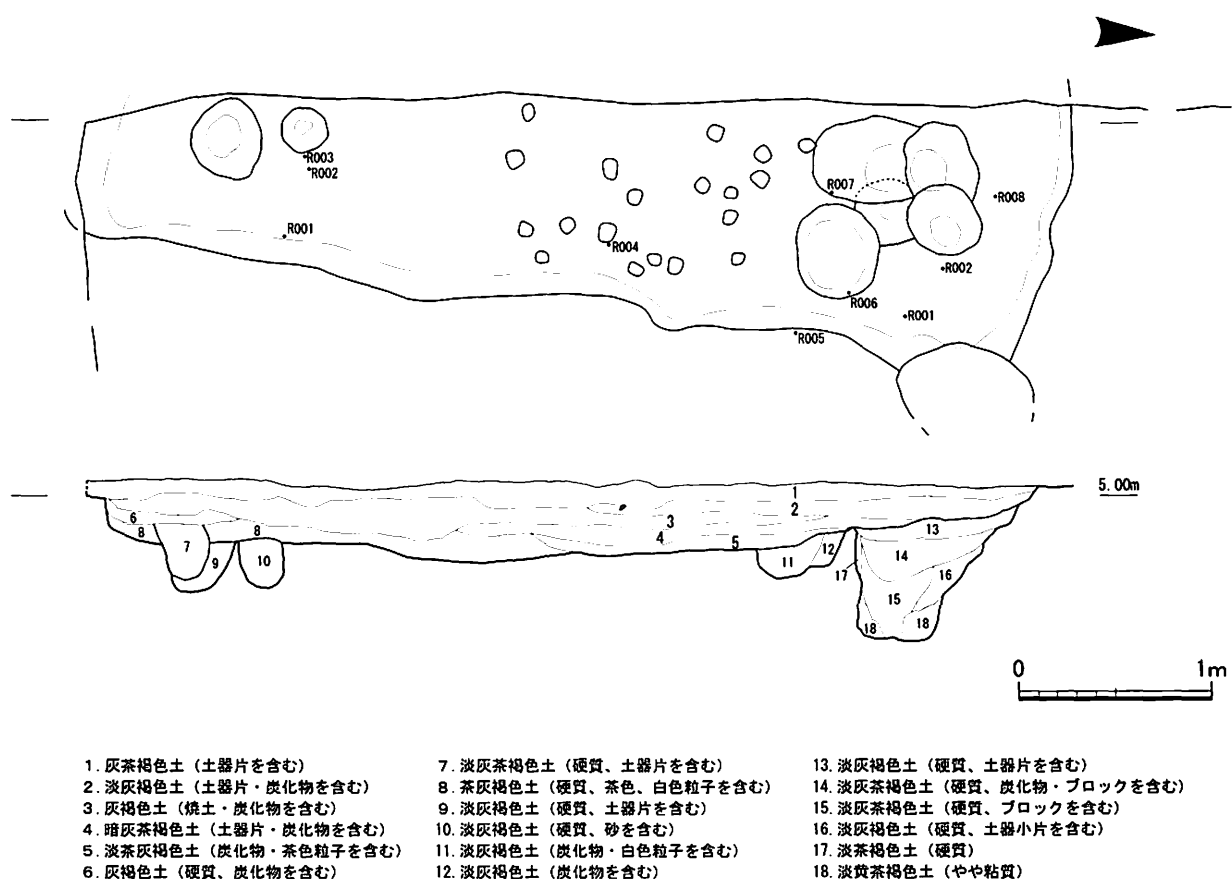
第31図 調査区周辺図 (1/5000)



第32図 調査区全景

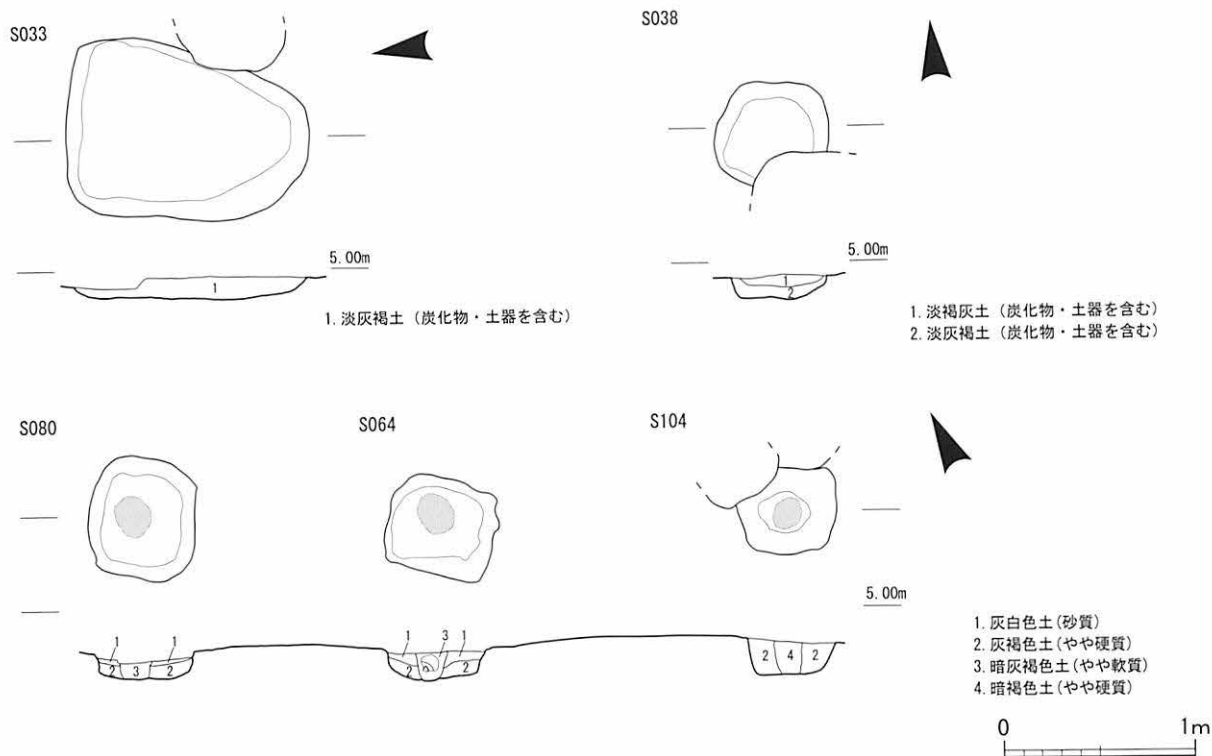


第33図 1・2面遺構配置図(1/100)



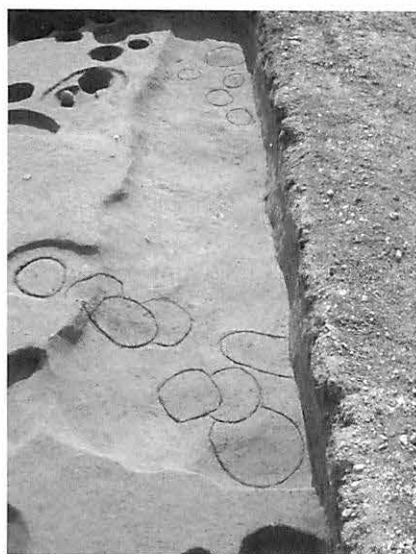
第34図 S023平面・断面図(1/40)

- |                         |                          |                             |
|-------------------------|--------------------------|-----------------------------|
| 1. 灰茶褐色土 (土器片を含む)       | 7. 淡灰茶褐色土 (硬質、土器片を含む)    | 13. 淡灰褐色土 (硬質、土器片を含む)       |
| 2. 淡灰褐色土 (土器片・炭化物を含む)   | 8. 茶灰褐色土 (硬質、茶色、白色粒子を含む) | 14. 淡灰茶褐色土 (硬質、炭化物・ブロックを含む) |
| 3. 灰褐色土 (焼土・炭化物を含む)     | 9. 淡灰褐色土 (硬質、土器片を含む)     | 15. 淡灰茶褐色土 (硬質、ブロックを含む)     |
| 4. 暗灰茶褐色土 (土器片・炭化物を含む)  | 10. 淡灰褐色土 (硬質、砂を含む)      | 16. 淡灰褐色土 (硬質、土器小片を含む)      |
| 5. 淡茶灰褐色土 (炭化物・茶色粒子を含む) | 11. 淡灰褐色土 (炭化物・白色粒子を含む)  | 17. 淡茶褐色土 (硬質)              |
| 6. 灰褐色土 (硬質、炭化物を含む)     | 12. 淡灰褐色土 (炭化物を含む)       | 18. 淡茶褐色土 (やや粘質)            |

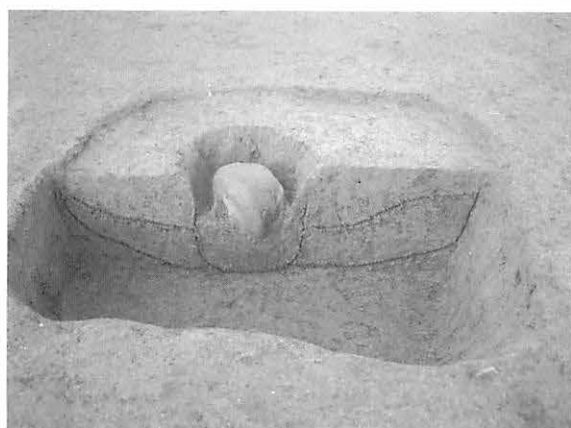


中でもS080・S064・S104の柱穴の掘り方は隅丸方形を呈し、等間隔に配列していることから掘立柱建物跡と考えられるものである。注目すべきは、S064の柱痕の抜き取り後に須恵器の長頸壺(R038)を埋納しているものが見つかっている。この遺物の年代や遺構・整地に含まれて遺物から、遺構の形成時期は8世紀中頃であったと考えられる。柱穴の深さが30cmほどであることから上面はかなりの削平を受けていることが分かる。

今回の調査では中世府内町の推定御蔵場跡の中心にあたることから、これに関連する遺構もしくは遺物が確認するものと考えられたが、発見されなかった。府内古図のA類とB類には、この場所が空間地として描かれており、C類のみに御蔵場が描かれている。こうしたことから、御蔵場の存在については明確ではないが、この調査では、面積的にも小規模であり、水田によって戦国期の遺構面が削平されている可能性もあることから、今後の周辺部における調査によって検証していく必要がある。(池邊)

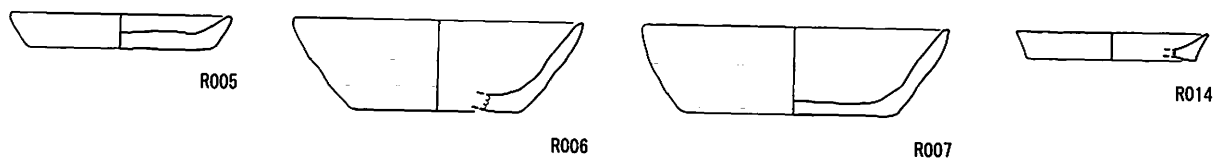


第36図 S023掘り下げ状況(北より)

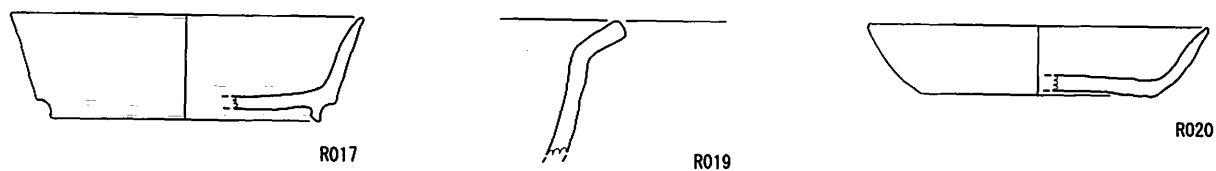


第37図 S064土層断面・遺物出土状況

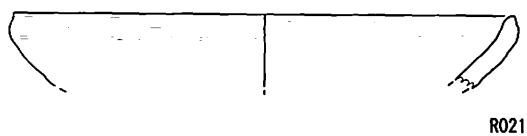
S023



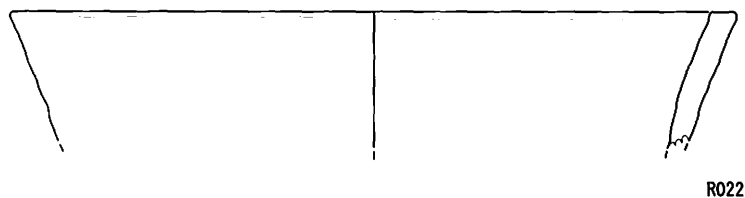
S033



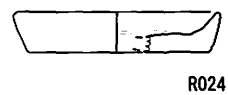
S036



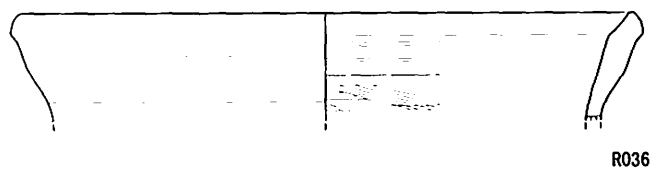
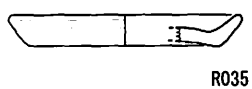
S038



S042

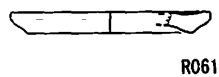
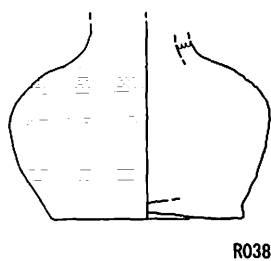


S062



S064

北壁



第38図 出土遺物実測図(1/3)



## VIII 中世大友府内町跡第38次調査

調査面積	210m <sup>2</sup>	調査期間	2004.02.12～04.03.29
地 域	A	調査担当	中西武尚

調査は共同住宅の建設に伴い、事前の埋蔵文化財確認調査（試掘調査）を実施した。その結果、現地表面から約0.7m下において土坑、ピット等の遺構群が確認され、出土遺物では京都系土師器皿が出土するなど、周囲に当該期の遺構が展開していることが考えられた。この結果を受けて地権者との協議をおこなったところ、工法変更により地下の遺構に影響与えることない盛土保存でおこなう方針が決定された。しかしながら、調査地は中世大友城下町跡の全体像を解明する上でも重要な地点であり、特に各南北道路筋から奥にはいった町屋の状況把握は必要と考えられた。このため地権者の同意を得、協力のもと、遺跡の状況把握を第一義の目的として確認調査を実施した。



第39図 調査地点位置図

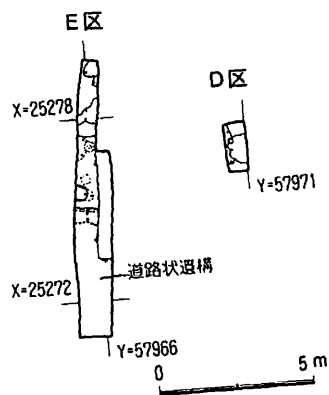
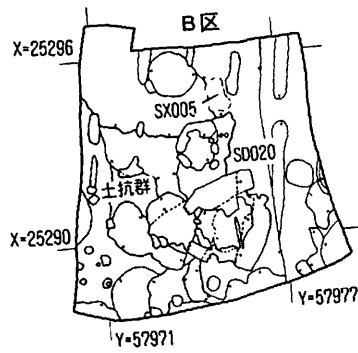
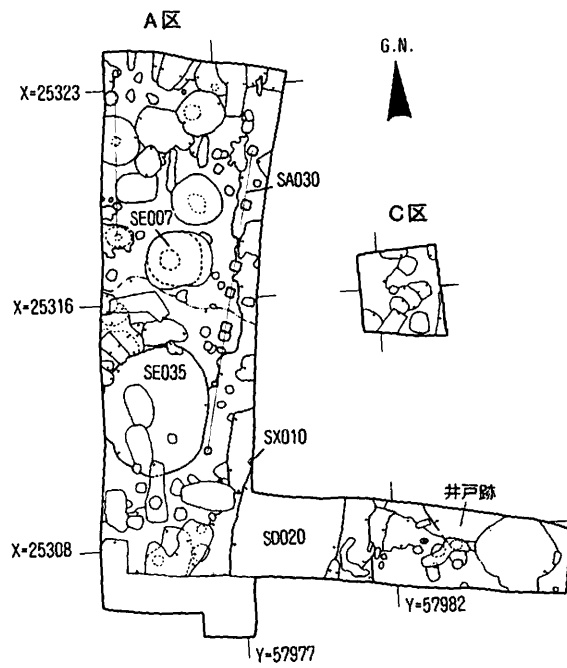
調査地点は「府内復原想定図」により推定されている東側2本の南北道路（通称「第一南北街路」と「第二南北街路」）に挟まれた地区のほぼ中央、推定御所小路町の北側に位置する。調査は建物建設部分をさけ、駐車場予定地を中心に調査区を設定。北側をA区とし、南側をB区、調査途中に植木の搬出を行なった箇所をC区、さらに南側の植樹林の間でトレンチ調査を行った箇所をD区・E区として調査を実施した。A区で確認されていた遺構には、16世紀代に比定される南北方向の溝状遺構[SD020]とこれに平行する柱穴列跡[SA030]、溝状遺構の両側に展開する井戸跡[SE007・035]などを検出した。溝状遺構は、幅約6mを測り、数度の掘り返しが認められる。溝状遺構の上面からは、明らかに祭祀的行為と考えられる合わせ口にした土師器群[SX010]も確認できた。溝状遺構の掘下げ途中では、東側にコブシ大から人頭大の礫が護岸状に充填された箇所が認められるなどしっかりと造られおり、明確な区画を示す遺構と考えられる。B区でも溝状遺構の延長部分が確認され、検出面からは京都系土師器と在地系土師器が一括して出土している[SX005]。SX010より明確ではないが、合わせ口になっているものが多く、何らかの祭祀遺構と考えられる。南側では、多数の土坑群が切り合って検出されている。E区ではトレンチの南側で、中世大友府内町跡第9次調査地点で確認されている東西道路状遺構（推定御所小路跡）の続きと考えられる硬化面が確認でき、推定どおり御所小路に比定される東西道路の追認ができたことは大きな調査成果といえる。また、今回の調査の特筆すべき事象として、出土した遺物のほとんどが京都系土師器を中心とした土師器群であることがあげられる。さらに大規模な区画をもっている状況などから、町屋域としての位置付けとは別の空間としての位置付けが指摘できる。（中西）



第40図 A区遺構検出状況（南より）



第41図 SX010遺物出土状況（西より）



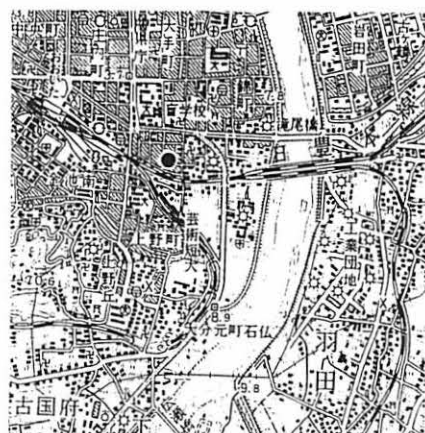
第42図 遺構配置図 (1/250)

中世大  
府内町  
第38次調査

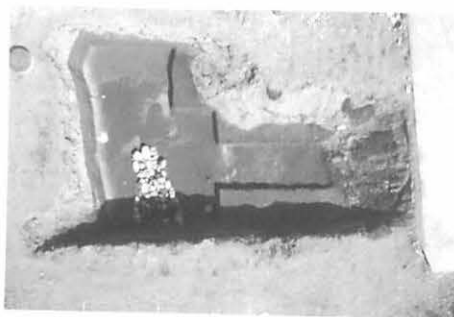
## IX 中世大友府内町跡第39次調査

調査面積	15m <sup>2</sup>	調査期間	2004.03.02～04.03.09
地 域		調査担当	佐藤道文

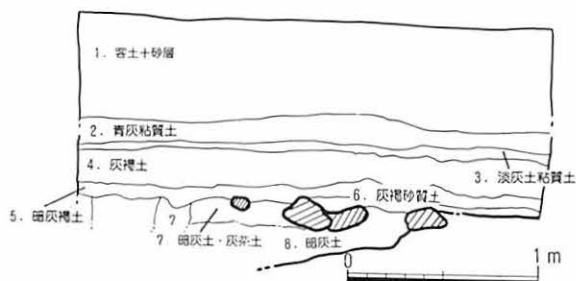
調査地は、推定「府内復原想定図」によると中町に比定される。今回、六坊・新中島線拡幅事業に伴い既存の建築物解体後、申請地内に共同住宅が建設されることになった。地主及び施工業者との協議の結果、工法変更により遺跡の埋土保存が可能となったが、埋土保存を行うとほぼ永久的に遺跡の把握が不可能となるため、内部協議の結果、最低限のデータ収集が必要と判断された。土地所有者との打ち合わせにより、開発対象地外の部分について4日間の調査実施が可能となり、調査を行った。調査の結果、現地表面から約1mの部分で遺構検出面が確認された。検出された遺構には溝状を呈す石組み遺構、小穴などがある。石組み遺構に関しては、南側に延びることは確実であり、全容把握までは至らなかった。石組み上面は礫が原位置を保っていないが、側面部は礫を組んだ状況で設置されていた。当初は、建築物基礎を想定していたが、平面プランや南側に連続することを考えると現段階では可能性は低いと思われる。時期については、遺物の出土が無いため詳細については不明である。検出面上位に形成される水田層からは、16世紀後半に比定される遺物が散見されること、またその中には鉛玉（鉄砲玉）が含まれることから戦国期の遺構が展開していることは確実といえる。（佐藤）



第43図 調査地点位置図



第44図 調査区全景写真



第45図 調査区土層模式図(S=1/40)



第46図 石組み遺構写真

## X 大道遺跡群 5 次調査

調査面積	3400m <sup>2</sup>	調査期間	2003.05.01～04.02.28
地 域	A	調査担当	高畠豊・羽田野達郎

当調査区は、大分市東大道一丁目、上野台地北側の沖積低地に位置する。調査区の周辺においては、南金池遺跡、東田室遺跡、大道遺跡群等の発掘調査が進められ、概ね弥生時代から古代に属する遺物、遺構群が報告されている。また、周辺は大道条里跡に比定されており、条里地割の線は、N-35°-Eであると考えられる。

このような、歴史的環境の中、調査は実施され、その結果、古墳時代の土坑7基、溝状遺構を二条、古代では、井戸跡3基、溝状遺構7条、建物跡三棟を確認している。

以下、主要遺構を列記する。

### 古墳時代

土坑 (S045、S148、S149、S150、S173)

確認された土坑なかで、S148、S149、S150、S173は、等間隔で検出されている。いずれも平面形態は円形で、埋土は、褐灰色粘質土を主体とする。遺物は、4遺構ともほぼ完形品の壺・甕・高杯が出土している。遺構の性格は、これらの、遺物が遺構の全体に点在または、折り重なるように出土していることから、廃棄土坑であることが考えられる。遺構の時期は、古墳時代前半期のものであることが考えられる。そのほか、S045は、平面形態は、円形で遺構の残存状況は非常に良くない。遺構の最深部と思われる所から、遺物が多量に出土している、このため、廃棄土坑であることが考えられる。

### 古代

溝 (S141)

S141は、小規模な溝状遺構で、断面形状は、U字状であった。小規模ながら、調査区西部分全域において確認され調査区外まで延びる。遺物は、古墳時代の時期と考えられる高杯の脚部等が出土している。

井戸 (S048、S140)

S048は、遺構の残存状況は良くない。ほり抜き井筒と井桁状の木組み井戸枠を有する井戸と考えられる。転用硯 (須恵器杯蓋) が出土している。

S140は、形状は、円形で遺構の残存状況は良い。素堀りの井戸であることが考えられる。遺物は、須恵器片、土師器の杯、瓦片が出土している。



第47図 調査地点位置図



第48図 調査区全景(西側より)



第49図 調査区空中写真

溝 (S003、S004、S005、S007)

S003は、4次調査に接続する大溝で、遺構の残存状況は良い。最大幅は、約6.5mで、深さ約0.5mである。大部分は、黒色土によって覆われていた。遺構の断面形状はゆるやかなU字形であった。土層断面においては、下層において、砂質土の堆積が非常に顕著であり、鉄分沈着による硬質化が認められることから、水の流れが存在していたことが推測される。出土遺物には、土師器坏、土師器蓋、土師器甕があげられ、遺構は古代の時期の所存であることが考えられる。S004は、溝状遺構で遺構の残存状況は非常に良く、古代の時期と考えられる土器が少量出土している。S005は、溝状遺構で遺構の残存状況は良い。遺物は黒色土器A類が出土している。S007は、遺構の残存状況は良く、遺物は、古代の時期と思われる土器が少量出土している。S004、S005、S007とも、下層において、S003で認められた砂質土が確認されている。

#### 建物跡

SB001は、2間×3間で建物方向は(N-11°-W)であった。SB002は、2間×4間？(N-17°-W)であった。SB003は、2間×5間(N-17°-W)であった。いずれも、建物跡の柱穴跡は、削平を受けており、残存状況は良くない。

以上の調査所見から、平安時代初頭を中心とする古代の遺構が多く検出された。5次調査では、4次調査では見つかっていない掘立柱建物や、井戸も検出されており、当該期の集落遺跡が周囲に広がっている可能性が高まってきた。また4次調査で確認された大溝SD003に接続する遺構(S003)も検出している。この溝からは、4次調査次に緑釉陶器や灰釉陶器、平瓦が、また5次調査のS048(井戸)からは転用硯が出土している。これについては、調査地が、国衙比定地と至近にあることに加え、海に面した河口部の微高地上という交通の要地に立地していることを考慮して理解する必要があると考えられる。なお、大溝S003は水路と考えられるが、調査地の西に比定される大道条里跡のN-35°-E、とは大きく異なっており、条里との直接の関連はうかがえない。また、これまで出土した建物や溝についても今のところ大道条里跡と一致する方向のものは認められない。古墳時代については、4次調査の表土剥ぎ時に古墳時代初頭に位置づけられると見られる鏡片が出土した。当該期の遺構は少ないが、5次調査で古墳時代初頭の土器が多量に廃棄された土坑が5基出土しており、今後の調査に期待される。今後、数年で旧グラウンド全域と周辺(西側・北側)を広く調査していく予定である。



第50図 S003完掘状況



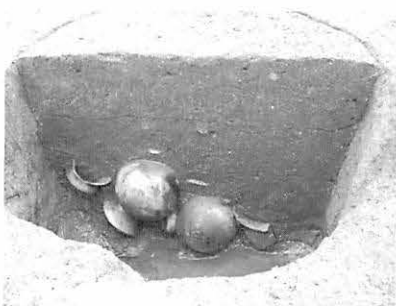
第51図 S005完掘状況



第52図 S148出土状況



第53図 S048出土状況

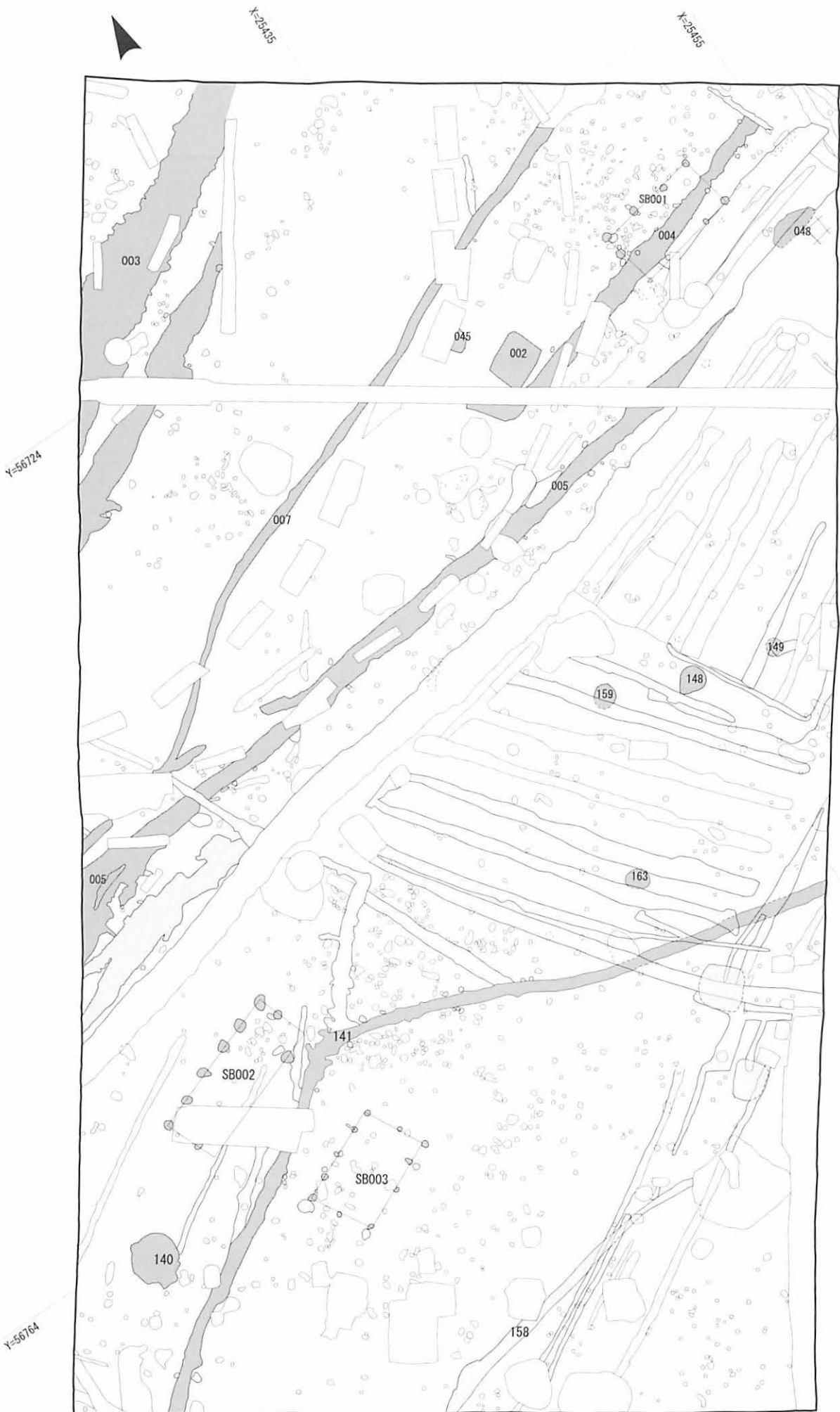


第54図 S159出土状況



第55図 S173遺物出土状況





大道遺跡  
5 次調査

第56図 大道 5 次調査遺構配置図(S=1/300) 0 5 10

## XI 大道遺跡群第6次調査

調査面積 266m<sup>2</sup> 調査期間 2004.01.23～04.02.18

地域 A 調査担当 高畠豊・梅田昭宏

当調査は大分駅周辺総合整備事業の土地区画整理事業に伴い実施した。調査地は上野台地北側の平坦部に位置する。地質図等により後背湿地の中において、特に低湿な一帯に比定されている。

近隣では南金池遺跡、東田室遺跡、大道遺跡群等の発掘調査が進められ、概ね弥生時代から中世に帰属する遺物、遺構群が報告されている。西側の大道条里跡の阡線はGN-35°-GEと考えられている。

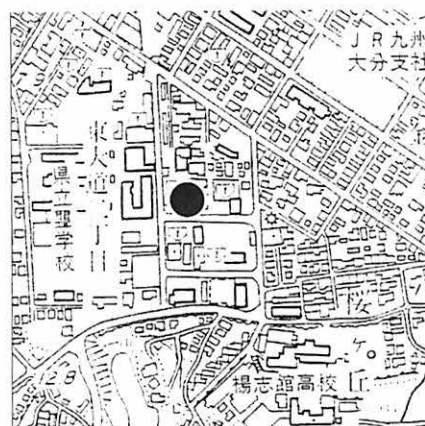
調査地は地盤改良材の散布もしくは綿密な転圧作業が施されたと考えられ、検出面や調査区断面は、硬質化した部分を含む。検出面は褐色土及び黄褐色砂質土により構成される。標高6.5m付近において遺構を検出した。

断面が袋状を呈する数基の土坑（SX002、SX004、SX022）等が確認されている。この形状から弥生期などに認められる貯蔵穴である可能性が想定される。但し、遺物はほとんど確認できないことから、遺構の明確な時期比定は困難である。SX029は不定形状の検出プランを有する。土層観察の結果、人為的な営力とは考え難く、自然堆積と判断した。高坏、壺、器台、小型丸底壺、甕、等が出土している。

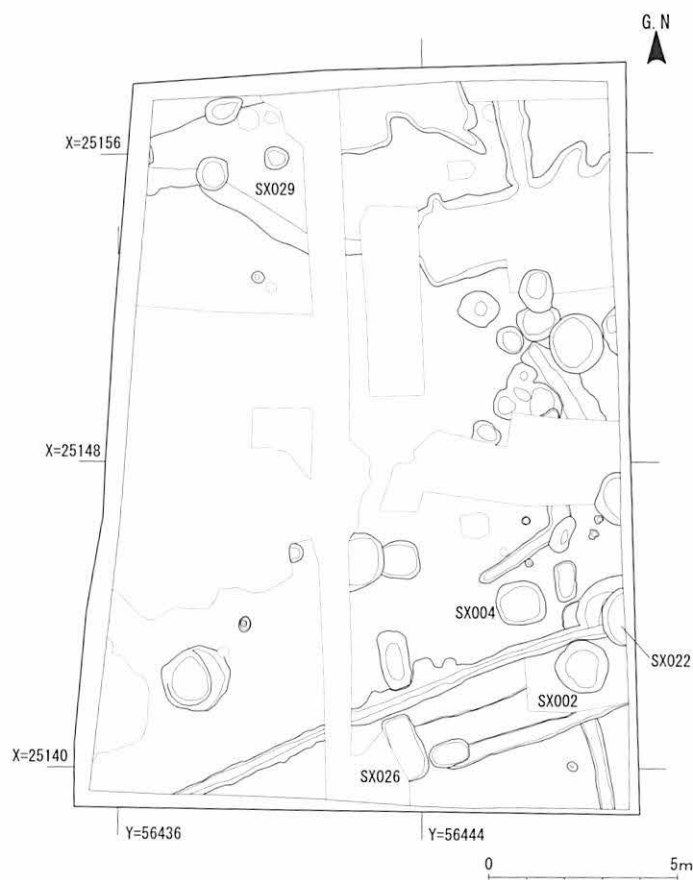
器台(1)は小型精製器台と呼称される範疇に列せられると考えられる。内外面は赤褐色を呈し、胎土は細かな砂粒にて形成されている。また、全面に細かなミガキを有し、かなり丁寧に仕上げられた印象がある。肉眼観察により、胎土は在地の土器である可能性が考えられ、器形は山陰に分布する系譜に比較的近い。

甕(2)は口縁部内外面に明瞭な稜を有し、口縁部は外反する。前述の器台と同様に胎土は精良であり、丁寧に仕上げられている印象がある。器高より口径が大きく、内面はヘラケズリで調整が行われている。これらの土器は精製と呼称される丁寧な仕上げを有することや、その器形から古墳時代前期に比定されると判断する。

SX026は長方形形状の検出プランを有する遺構である。木製の縦櫛(3)が確認されている。検出プランと出土遺物より、中世の土墳墓である可能性が考えられる。更に詳細な検討を行う必要性を考慮し、土壌をサンプルとして



第57図 調査地点位置図



第58図 調査区完掘図(1/200)



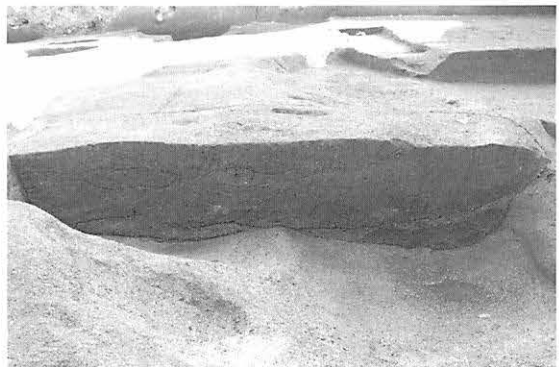
保存した。

当調査において複数の遺構と古墳時代前期に比定される遺物等を確認した。調査区東側では多数の貯蔵穴と考えられる土坑を検出している。これらは、あたかも偏在し検出される状況から、何らかの選地条件に適合し、一定期間、存続した土地利用が行われたと推測される。また、この遺構に伴う居住施設等を想定した場合、北側や西側は試掘調査時に低湿地と判断された部分である為、東側や南側に展開すると考えられる。

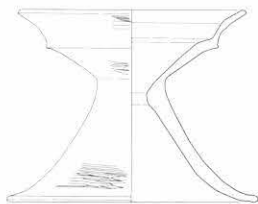
なお、当調査区は水田と考えられる土層が認められないことや砂質土等により形成されている点から、生産遺構の展開が比較的困難な土地条件にあったと推測される。(梅田)



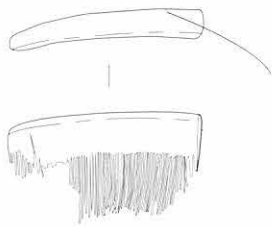
第59図 調査区全景（北方向から）



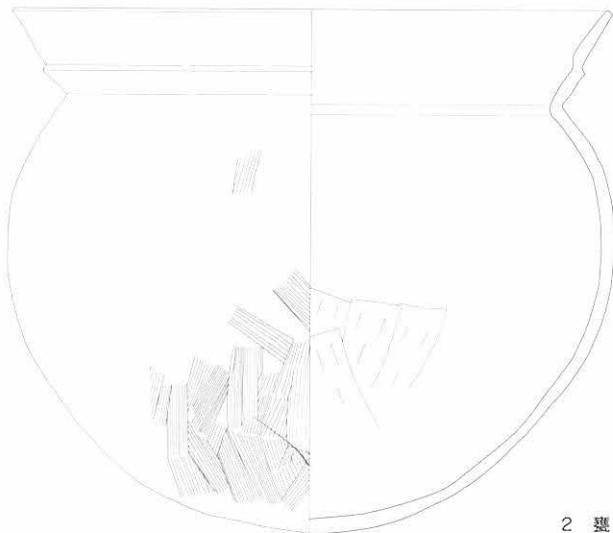
第60図 SX026土層断面状況（西方向から）



1 器台



3 縦櫛



2 甕

第61図 遺物実測図 1、3 (1/4)、(1/2)

## XII 賀来西遺跡第2次調査

調査面積	約437㎡	調査期間	2003.05.16～03.10.01
地 域	A	調査担当	塔鼻光司・荻幸二・大野瑞恵

今回の調査は、前年度に引き続き、賀来西土地区画整理事業に伴う発掘調査である。道路に施設を設置する部分のうち、近世の水田層の下面に水田層が確認された区域を第Ⅰ調査区、第Ⅱ・Ⅲ調査区と設定し、調査を行った。基本的に各調査区の水田層は耕作土と床土で形成されている。

### 第Ⅰ調査区

近世の水田下に3枚の水田とそれらに伴う畦畔や溝状遺構が検出された。第1号水田は、第1号溝状遺構、第3号溝状遺構が検出された。11世紀末～12世紀所産と考えられる白磁皿・10世紀～11世紀の土師器底部片等の出土遺物から、この水田面の時期は11世紀末から12世紀と推測される。

第2号水田は第1号水田直下に造成され、A畦畔と第4号溝状遺構がほぼ平行する形で検出された。時期判定できる遺物は出土せず、確実性はないが、時期は第1号水田よりは古く、第3号水田よりは新しいと考えられる。

第3号水田は第2号水田直下に形成され、西側はA・B-4グリッドに位置するA畦畔から東に水田が広がる。出土遺物から、時期は古墳時代後期であると考えられる。東側は未調査のため詳細は不明である。

### 第Ⅱ・Ⅲ調査区

Ⅱa・Ⅱb区、Ⅲa・Ⅲb区に細分し調査を行った。近世の水田下に4枚の水田・溝状遺構・畦畔を検出した。第1号水田は土層断面で部分的に確認しただけなので、第2号水田以下の概略を述べる。

第2号水田は、第1号水田直下に造成され、12条の畦畔で牛の足跡1ヶ所が検出された。検出された畦畔はⅡa区ではほぼ東西方向、Ⅱb区ではほぼ北西方向、Ⅲb区ではほぼ東西方向の向きで造成されている。出土した14～15世紀の土師器坏や土師器の小皿の底部片から、14～15世紀の所産と考えられるが、放射性炭素年代測定では12～13世紀の年代が出ており、使用年代に幅があると考えられる。

第3号水田は、第2号水田直下に造成され、1条の溝状遺構・25条の畦畔・牛や人の足跡2ヶ所が検出された。調査区のはほぼ全体に広がり、Ⅲa区西端のO畦畔から水田が始まっている。検出された畦畔は、Ⅱb区ではほぼ東西方向、Ⅲa・Ⅲb区ではほぼ南北方向の向きで造成されている。9～10世紀、古代末～中世初期の所産と考えられる土師器片が出土し、放射性炭素年代測定では11世紀の値が出ていることから9～12世紀の使用年代の幅があったと考えられる。

第3号水田直下に造成された第4号水田では、2条の溝状遺構と7条の畦畔を検出された。Ⅱa区C-10グリッドには北側の始まりを表わすA畦畔、Ⅲb区E-8・9グリッドには東側の始まりを表わすD畦畔が認められる。検出された畦畔は、Ⅱb区ではほぼ東西方向、Ⅲa・Ⅲb区ではほぼ南北方向の向きで造成されている。時期を特定する遺物は出土していないが、第3号水田の9～12世紀よりも古く、本水田直下の砂層から弥生土器が出土したこと、第3号水田の遺物に古墳時代の遺物が混在していたことから、古墳時代であったと考えられる。

第66図1＝近世水田Ⅱb層一括 京都系土師器の皿で、内面の一部と側面に銅合金が付着している。

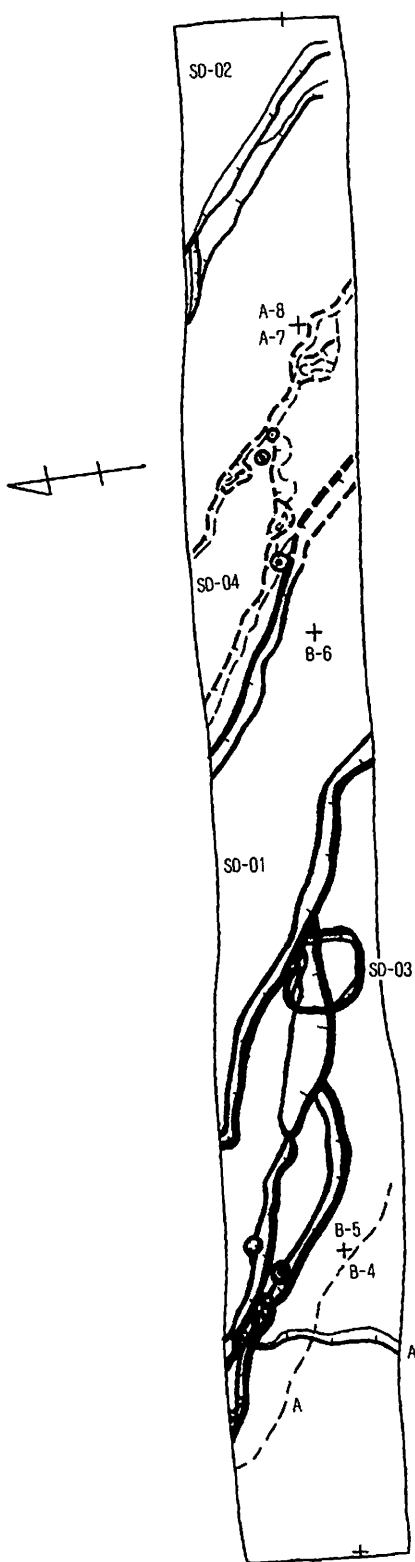
第66図2＝試掘C?12トレンチ一括 弥生時代前・中期の所産と推察される、結晶片岩製の磨製の石包丁である。  
(大野)

### 〈参考文献〉

大分市教育委員会2004『賀来西遺跡―第1次・第2次発掘調査報告書―』

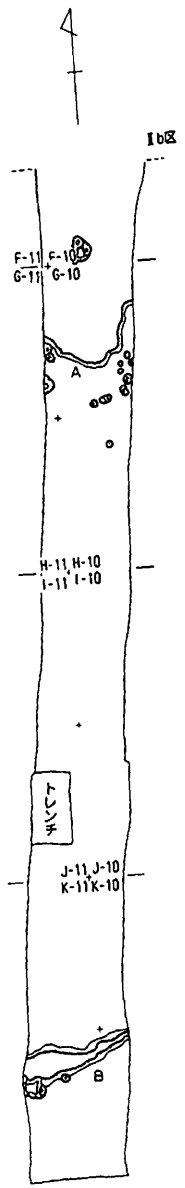


第62図 調査地点位置図

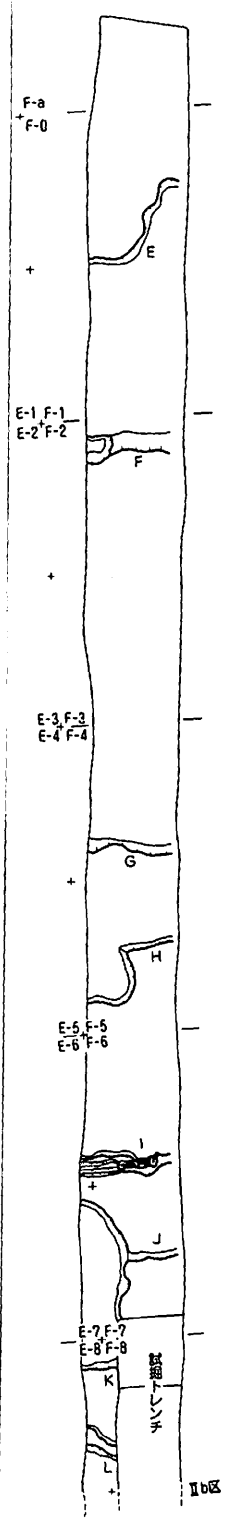
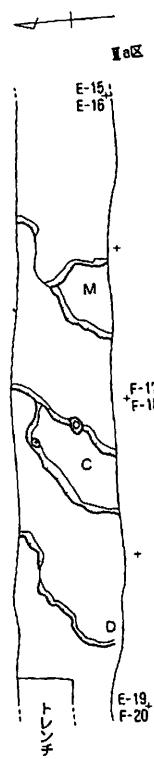


—— 第1号水田  
- - - 第2号水田  
—— 第3号水田

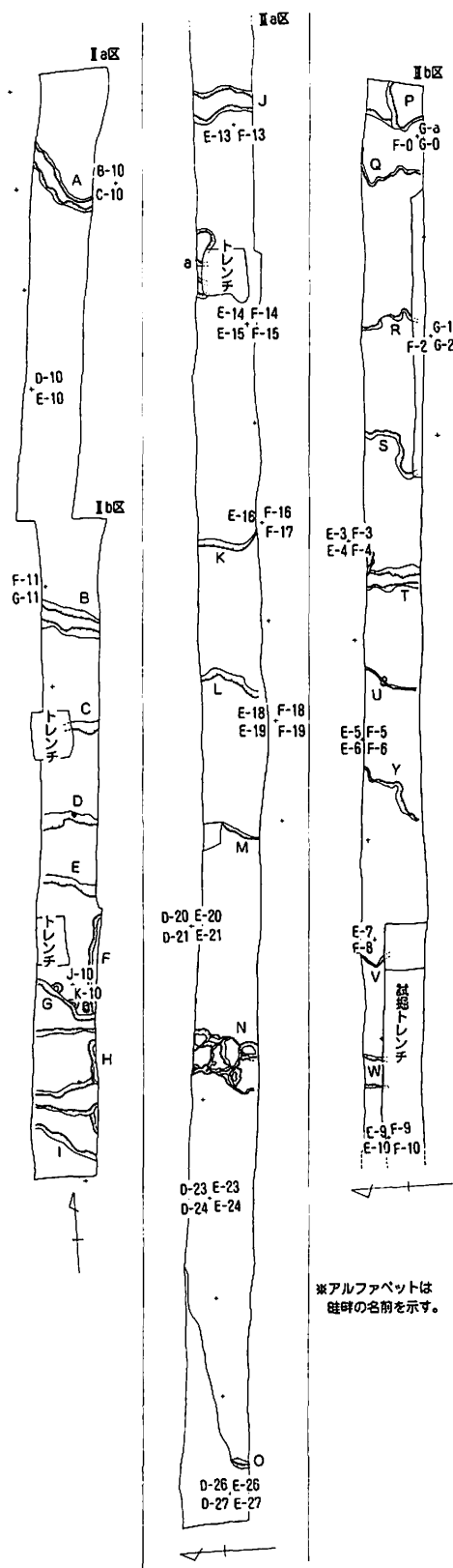
第63図 第I調査区遺構配置図(S=1/100)



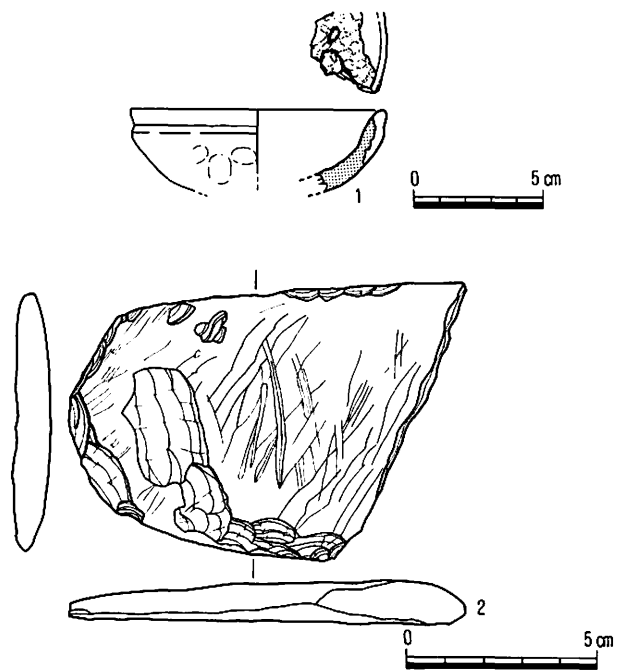
第64図 第II・III調査区第2号水田遺構配置図(S=1/200)



※アルファベットは畦畔の名称を示す。



第65図 第Ⅱ・Ⅲ調査区第3号水田遺構配置図(S=1/300)



第67図 第Ⅱ・Ⅲ調査区第4号水田遺構配置図(S=1/300)

## XIII 下郡遺跡群第140次調査 J区P・9-8・9地点

調査面積 約1136㎡

調査期間 2002.12.05～03.07.29

地域 A

調査担当 坪根伸也・荻谷史穂・松尾聡

下郡遺跡群は、大分川の河口付近の右岸に位置し、標高4～7mの自然堤防上に立地する。

今回の調査地である下郡遺跡群第140次調査地点は、同遺跡群の西側エリアに相当し、霜凝神社が鎮座している西隣に調査区が位置する。

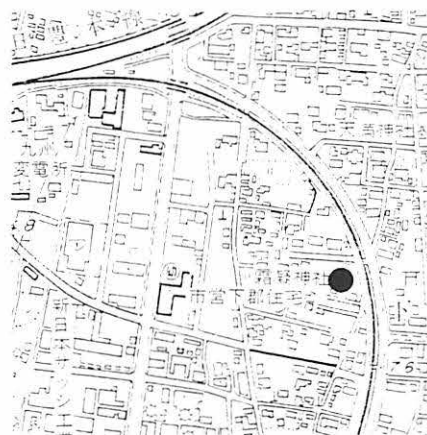
既往の調査成果により、当該地一帯には古墳時代初頭に比定される集落が展開していた状況が確認されている。また、当該地一帯は旧字名を「城ノ内」と称し、この字名、及び文献資料に記載されている内容から、下郡遺跡群内の戦国期における方形居館比定地として考えられてきた地点である。

今回の調査では、弥生時代後期～近代に至る遺構群が確認された。なかでも、古墳時代初頭、及び戦国期に比定される遺構が今回の調査での主要遺構となっている。

古墳時代初頭のものは、竪穴住居跡が多く確認され、これまでの調査成果によって想定されている当該期の推定集落範囲を改めて確認することができた。

また、戦国期では、当初から想定されていた居館の存在を示唆するような遺構群が確認された。

今回の報告では、今次の調査で確認した戦国期に比定される主な遺構について、以下にその概要を記載した。



第68図 調査地点位置図

### 140SD260

調査区の南端部分で検出した溝跡である。

SD260の南・東・西側部分は調査区外に展開するため全容は不明であるが、このうち、西側部分に関しては、第125次調査で確認された125SD016に接続することが判明している。遺構の東側部分は、近世に比定される方形状の掘込み（SX270）が存在し、SD260は削平され遺存していない。

SD260は、検出長約20m、検出幅約3.5m、深度約2.0mを測り、断面形状は逆台形を呈する。主軸方位はN-75°-Wを示す。第125次調査で確認されたSD016の所見より、当該溝の幅は約7.0mの規模を有することが判明しており、今次の調査では、その約1/2を検出したことになる。また、第125次調査の所見により、当該溝は125次調査区の南側部分で、南北方向にL字状に屈曲することが判明しており、この溝は北側において第97次調査で確認



第69図 調査区全景



第70図 SX355土層観察時

下郡遺跡群  
第140次調査  
J区P・9-  
8・9地点



第71図 遺構配置図(1/400)

された逆し字状に屈曲する溝状遺構と接続することが推定されている。

今回の調査で確認されたSD260を含む、溝間の推定規模であるが、溝内法で約90m、溝外法で約104mを測る大規模なものとなっており、この溝により区画された開繞空間の存在が想定される。さらに、溝埋土の状況より、埋土の上部層に相当する部分から、黄灰色土を基調としたブロックの流入が確認され、溝の内部空間に土塁状の施設が存在していた可能性が指摘できる。

また、下部層に相当する部分は、砂層と粘土層の交互堆積が認められることにより、複数回の流水・滞水状況を想定することができる。

今回の調査では出土遺物は確認出来なかったものの、125SD016埋土中より胎土目を有する唐津皿片、小野正敏分類の青花E群碗片、華南三彩水注片等が出土しており、これらの出土遺物の様相から、当該溝は16c末には最終的に機能を停止したものと推定される。

#### 140SD290

調査区の東側部分で検出した溝跡である。

SD290は、検出幅約6.0m、深度約1.0mを測り、南北方向(N-10°-E)に縦走する。遺構の北・南側部分は各々東方向(N-75°-W)へ逆コの字状に屈曲し、調査区外に展開する。この段階での溝の規模は、溝内法で約22m、溝外法で約32mを測る。断面形状は逆台形を呈し、遺構堆積埋土は6層で構成される。

土層の断面観察は、当該溝の南北方向に展開する部分において、遺構に直交する形で北側部分・南側部分の2ヶ所に設定して行った。その結果、両地点で確認した遺構の堆積土は、溝としての機能停止後における廃絶過程には大差は認められないが、同過程での埋土の状況に若干の相違が認められる。これは、南側部分に設定した土層の断面観察より認められる茶黄色を基調とするブロックが、北側部分に設定した土層断面ベルトには認められないことを指している。このブロックは、SD260の概要の項で記述した、溝に流入する状況が認められたブロックと近似している。しかしながら、今回の調査では、当該溝の所見から想定された、溝内部空間に、土塁状の施設が存在する状況を積極的に提示するような所見は得られていない。

出土遺物は、京都系土師器皿、及び坏(碗)、翡翠釉の小皿、?州窯系の大皿、小野正敏分類のB・E群に相当する中国染付の碗、乗岡実編年の近世1期に比定される備前焼の播鉢、古瀬戸の卸皿・瓶子、朝鮮産の舟徳利などであり、これらの出土遺物の年代観より、SD290は16c後半～末に廃絶したものと考えられる。

#### 140SX355

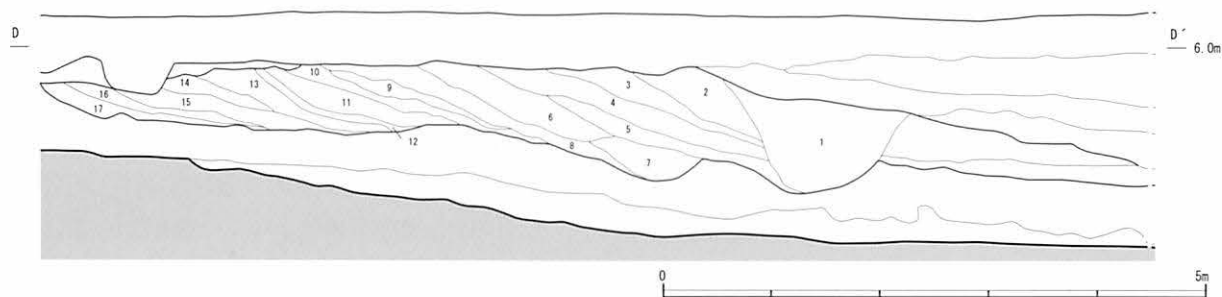
調査区の東南側、及び西側部分の調査区北壁断面において確認した土塁基底部の積み土である。

調査区の東南側で検出した土塁基底部は、現存部分で検出幅約8.0m、検出長約12.0m、高さ約80cmを測る。この土塁基底部の短軸に相当する部分で土層の断面観察を行った結果、堆積層を構成する埋土中より、若干版築した状況を看取出来るブロックを確認した。このブロックを内包する堆積層は、現存する土塁基底部を構成する堆積層の上部層に相当すると思われ、北側から南側へ斜位に積み土される状況が看守出来る。なお、当該層を境として、土塁基底部を構成する堆積層のうち、下部層に相当する部分は、南北方向に水平に積み土される。

調査区西側部分の調査区北壁断面において確認した土塁基底部の積み土は、当該面の土層断面観察の結果より、西側部分は調査区外に展開し、上部層に相当すると考えられる部分に関しては近代以降の撓乱により削平され残存していない。現存で確認した層高は、最も厚い部分で約0.80m、幅は8.20mを測る。なお、この土塁基底部の積み土は東側から西側へ斜堆積に積み土されている。

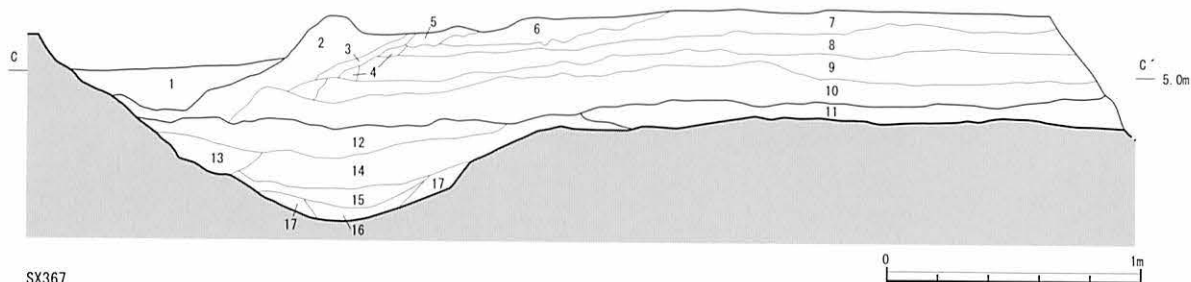
出土遺物は、調査区の東南側で検出した土塁基底部の積み土埋土中より、土師器の皿、京都系土師器皿、龍泉窯系青磁碗、瀬戸・美濃産の天目茶碗、轡の羽口、五輪塔の空・風輪部分、石臼、鑿のような工具で加工してい





1. 淡灰茶色土（基調）ブロック：微細な砂を多量に含む、淡・明茶黄白色ブロックを多く含む
2. 淡茶灰色土（基調）ブロック：炭化物の分布集中ヶ所一部、径約3mm? 1cmの淡・明茶黄白・明茶褐色ブロックを含む
3. 淡灰茶色土：微細な砂を若干含む
4. 淡灰茶色土：やや砂質を伴う、鉄分を縞状に部分的に含む、径約5mm? 1cmの淡・明茶黄白色ブロック
5. 暗茶淡灰色土
6. 淡灰茶色土：やや砂質を伴う、鉄分を縞状に部分的に含む
7. 淡灰青緑色+径約1cmの暗茶褐色ブロック混在層
8. 暗茶淡灰色土：微小の褐色粒子を少量含む、締り有り
9. 淡灰茶色土：径3・前後の淡・明茶黄白色ブロックを少々含む、径約1cmの鉄分を少々含む
10. ブロック：径約1・3cmの淡・明茶黄白色ブロック（量 1cm>3cm）
11. ブロック：径約1? 3cmの淡・明茶黄白色ブロック
12. 淡灰暗茶色土（基調）ブロック：径約1・前後の淡・明茶黄白色ブロックを少々含む
13. 明茶淡灰色土（基調）ブロック：径3・前後の淡黄白色ブロックを下層により多く含む
14. 淡灰茶色土（基調）ブロック：比較的小規模の淡・明茶黄白色ブロックを下層により多く含む
15. 淡灰茶色土（基調）ブロック：淡・明茶黄白色ブロック（灰色：上部>下部）
16. 淡灰茶色土（基調）ブロック：径約1.5・の淡茶黄白色ブロックを少々含む
17. 暗灰茶色土（基調）ブロック：淡茶黄白色ブロックを部分的に含む

第72図 調査区北壁面SX355土層図(1/70)



- SX367
1. 淡灰茶色土（径約5・前後の暗茶褐色粒子を多く含む、微小の淡茶褐色粒子を多く含む、下部に炭化物を塊状に数個含む）
- SX355
2. 淡灰色土（径約1・前後の淡茶黄色ブロックを多く含む、径約3・前後の淡茶黄白色粒子を疎らに含む、部分的に砂質を含む）
  3. 暗茶淡灰色土（径約1・の淡灰白色ブロックを少々含む、砂質を多く伴う、やや粘質を伴う）
  4. 淡灰色土（径約1・の淡灰白色ブロックを少々含む、やや粘質を伴う）
  5. 淡灰茶色土（微小の暗茶灰色粒子を多く含む、非常に硬質）
  6. 淡灰茶色土（径約10・前後の淡茶黄色・淡茶黄白色・淡茶褐色・淡灰色・暗茶褐色ブロックを含む）
  7. 淡灰茶色土（微小の炭化物・褐色粒子を多く含む、非常に硬質、締り有り）
  8. 淡灰茶色土（微小の炭化物・褐色粒子を多く含む、硬質、径約5・前後の炭化物を疎らに含む、締り有り）
  9. 淡灰茶色土（微小の炭化物・褐色粒子を多く含む、8層より軟質、締り有り）
  10. 淡灰茶色土（微小の炭化物・褐色粒子を僅かに含む、滑らか）
- SX462
11. 淡灰白色粘質土（径約3・前後の暗茶褐色鉄分を多量に含む）
- SD290
12. 淡灰茶色土（7? 10層より暗灰色、砂質を多く伴う）
  13. 暗茶灰褐色土（径5・前後の淡茶褐色ブロックを多く含む、若干砂質・粘質を伴う）
  14. 暗茶灰色土（径 1cm 前後の暗茶褐色粒子を若干含む）
  15. 淡灰茶色土（6層同様のブロックを潰れた状態に含む）
  16. 暗灰茶色粘質土（下部に明茶褐色の硬質鉄分を含む）
  17. 暗灰青色粘土

第73図 SX355土層図(1/30)



第74図 中世遺構変遷模式図(1/1600)

る痕跡を有する石製未製品などが認められる。京都系土師器、及び青磁碗の年代観より、SX355は16c後半～末に構築されたものと考えられる。

なお、先述したSD260の所見から、当該溝とSX355とは相互作用が高いことが指摘され、SD260の堆積埋土中より積み土を構成するブロックの流入が認められることより、SX355の構築に当たってはSD260を掘削した後、その土砂を掻き揚げて積み上げた可能性が想定出来る。

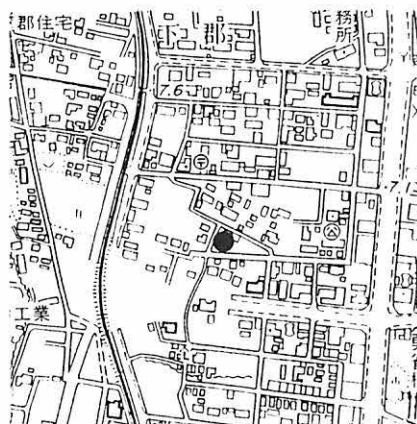
今回の調査では、弥生時代後期～近代に至る遺構・遺物を多数確認した。なかでも、古墳時代初頭の竪穴住居跡を確認し、集落範囲を追認できた点、戦国時代の居館に付随すると考えられる施設等を確認し、居館の存在を積極的に提示出来る所見を得ることが出来た点、さらに、この付随施設と思われる遺構群の変遷から、短期間のうちに館の大規模改修が行われていたことを示すデータを得ることが出来た点、以上の3点が今回の調査での大きな成果といえよう。(荻谷)

## XIV 下郡遺跡群第143次調査 E区m・n-15

調査面積 約176㎡ 調査期間 2004.03.09～04.04.23

地 域 A 調査担当 松竹智之

今回の調査地は同遺跡群の中央部に位置する。今次の調査は、遺跡の範囲ならびに状況の把握を目的としたもので、176㎡の調査区を設け、調査をおこなった。調査対象地域は、区画整理以前に墓地が形成されており、それに伴う攪乱が随所にみられる。調査の結果、貯蔵穴（SK020・025）、近代墓・近世墓（ST100～116）、土坑を検出した。



第75図 調査地点位置図

### 貯蔵穴

調査区中央部で円形プランを呈する貯蔵穴を2基検出した。2基とも上部を削平され、基底部しか残存していない。SK020は径0.85m、深さ0.4mを測る。SK025は径0.8m、深さ0.4mを測る。2基とも底面直上から土器が出土した。出土遺物には下城式甕片、東北部九州系の甕片がみられることから、弥生時代中期に比定される。



第76図 調査区全景（南から）

### 井戸跡

2基の井戸跡を検出した。調査区北西側で検出したSE005は半分ほど調査区外に展開している。深さは検出面から約1.2mを測り、規模・形状から井戸跡と思われる。時期は出土遺物に8世紀代に位置づけられる須恵器の壺片がみえることから、古代の所産である可能性が高い。

調査区北東隅で検出したSE015は、深さは検出面から約1.5mを測り、規模・形状から井戸跡と思われる。

時期は下部埋土より8世紀代の須恵器の坏片が出土していることからこの時期の所産と考えられる。

### 近代墓・近世墓

調査区中部より東側で20基ほど検出した。この墓群は、以前に墓地改葬が行われており、墓石などの上部施設はみられない。また、墓地改葬時の攪乱の下部に僅かにプランを確認できるものを含めると、20基以上の墓が群集していたと考えられる。

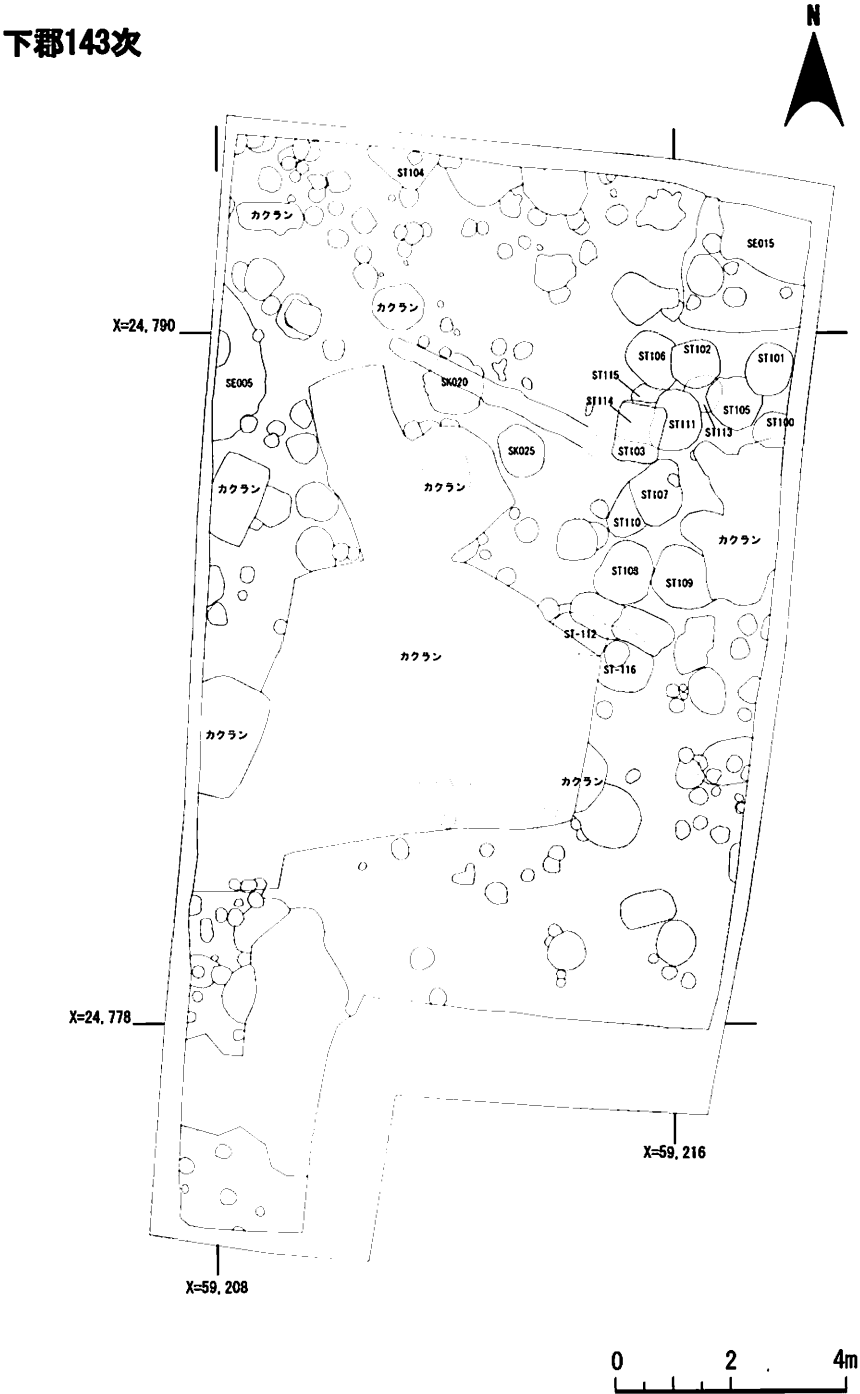
ST106は隅丸長方形の平面プランを呈する土壙墓で、底径約0.80m、深さは検出面から0.45mを測る。埋葬主体から頭部は東を向き、膝を曲げた状態の人骨を検出した。出土遺物は施釉土師質小皿2枚、六道銭がみられる。施釉土師器小皿の形状から、時期は19世紀後半代に位置づけられる。

ST108は楕円形の平面プランを呈する土壙墓で、底径0.8m、深さは検出面から0.4mを測る。埋葬主体から人骨片を検出した。時期は出土遺物に17世紀後半と考えられる肥前陶磁器染付碗、土師質小皿片がみられることから、この段階に構築されたものと考えられる。

今回の調査では、近代墓・近世墓を約20基ほど確認し、当該地が近世より墓域であったことが窺われる。その

他の遺構は、後世の削平・区画整理などによって残りは良くないが、弥生時代中期前葉の貯蔵穴、古代と考えられる井戸跡、中世の土坑がみられた。南側に隣接する第58次調査区や周辺で行われている調査では、弥生時代中期に位置づけられる住居跡、貯蔵穴などがみられ、調査区周辺に集落が展開していることが確認されている。

古代の遺構についても、周辺の調査区で当該期のものがみられ、調査区周辺一体に遺構群が展開しているものと考えられる。(松竹)



下郡遺跡群  
第143次調査  
E区m・n-15

第77図 遺構配置図 (1/150)

## XV 城原・里遺跡第6次調査

調査面積 262.4m<sup>2</sup> 調査期間 2003.05.14～2003.11.04  
地 域 G 調査担当 池邊千太郎・松竹智之

今回の調査は、市道城原・里線の改良工事の路線変更に伴っておこなわれた。調査区は、第1次調査区と第5次調査B・C区の北側に隣接している。

調査の結果、弥生・中世・近世の遺構を確認した。主な遺構は、弥生時代中期の貯蔵穴1基、中世の南北に延びる溝状遺構2条、現在の道路に沿って第5次調査C・D区で確認された道路状遺構の続きである近世段階の道路状遺構である。

主要な溝状遺構は、SD020・SD025・SD030である。

SD020は、調査区西側で南北方向に延びる溝状遺構として検出した。溝の規模は幅0.4m、深さは検出面より0.2mを測る。土層観察から床面付近にグライ層が若干確認できるため、滞水していたものと考えられる。出土遺物は瓦質土器、土師器片などがみられ、これらの出土遺物から15世紀代と考えられる。溝の方向から第1次調査で確認されたSD040の延長部になると考えられる。

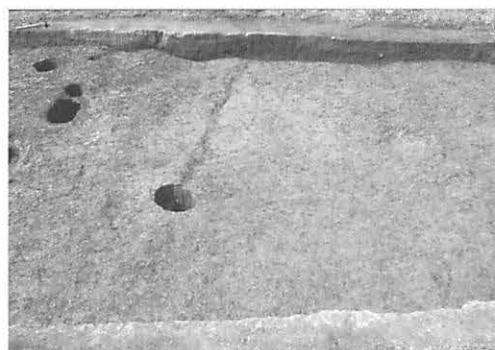
SD025は、調査区西側で南北方向に延びる溝状遺構として検出した。溝の規模は幅0.47m、深さは検出面より0.2mを測る。削平を受けており床面しか残っていない。出土遺物は土師器などがみられる。これらの出土遺物から15世紀代と考えられる。SD020と同じく、第1次調査で確認されたSD001の延長部になると考えられる。

SD030は、調査区東側で東西方向に延びる溝状遺構として検出した。溝の規模は幅2.2m、深さは0.2～0.3mを測る。出土遺物は土器片のみで時期を特定できるものはみられない。

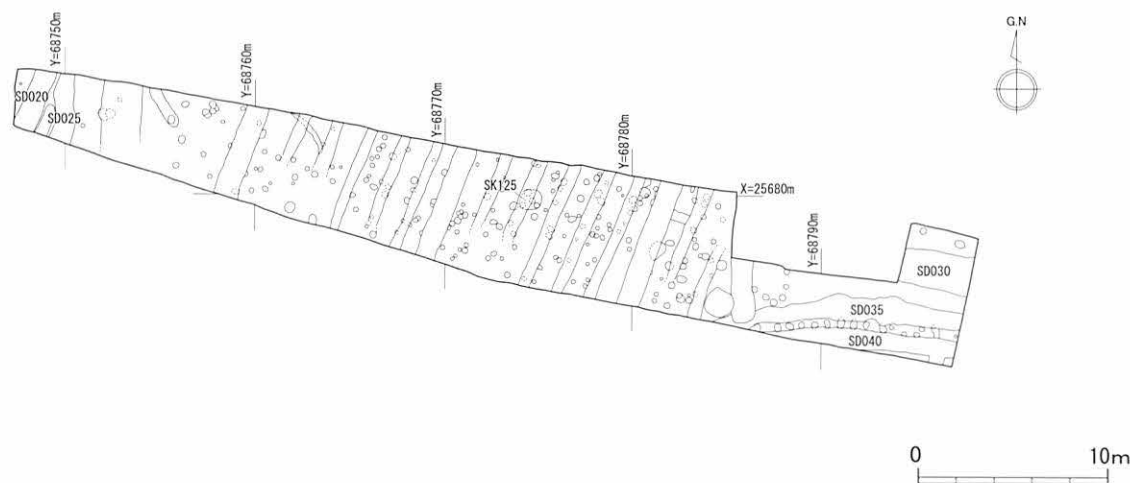
溝状遺構以外に調査区東側において道路状遺構(SD035・SD040)が検出された。この遺構は、調査区東側で東西方向に延びるSD035・SD040の2条の溝状遺構からなる。SD035は幅1.2m、深さ0.3～0.4mを測る。SD040は幅



第78図 調査地点位置図



第79図 SD025 (南より)



第80図 遺構配置図 (1/400)

1.3m、深さ0.4mを測る。この溝状遺構の間には連続した土坑が見られることから、道路状遺構の可能性が高く、第5次調査B・C・D区でもその延長部が確認されている。城原・里遺跡第2～4次調査で確認されている古代に位置付けられる道路状遺構の延長部になると考えられたが、時期的には溝の埋土及び土坑から肥前産染付片が出土したことから近世の所産と考えられる。

今回の調査区では、第1次調査区、第5次調査B・C・D区で確認した遺構の延長部と考えられる遺構が確認された。主な遺構として、第1次調査区で確認された15世紀代の溝状遺構2条がある。その他、同じく南北方向に延びる弥生時代中期の溝状遺構は、今回の調査区では確認できておらず、調査区の南側にある道路のあたりで溝の向きが南北から東西方向に変わっている可能性が考えられる。

調査区東側で確認された東西方向に延びる道路状遺構は、第5次調査B・C・D区で確認され、現在の道路に沿った形で東西方向に延びている。この道路状遺構は第2～4次調査(中安遺跡)で確認された古代に位置付けられる道路状遺構に続くものと想定されたが、出土遺物から、近世の所産であることがわかった。

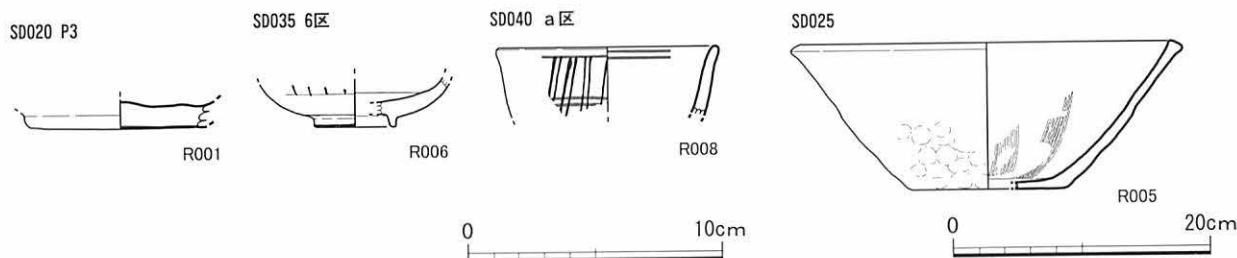
今回の調査区の南側に位置する第5次調査区では、規格性を持つコ字状に配置された大型掘立柱建物跡群が確認された。これは官衙的性格を持つため、第2～4次調査(中安遺跡)と共に注目される。そのため、今回の調査区でもそれに関連する建物などの遺構の存在が想定されたが、この調査では、確認することができなかった。しかしながら、調査区の周辺約400m四方平坦な面が広がっているため、これに関連する遺構がある可能性が考えられ、今後の周辺の調査に期待したい。(池邊・松竹)



第81図 調査区全景 (西より)



第82図 道路上遺構 (東より)



第83図 出土遺物実測図 (1/3・1/6)



XVI 城原・里遺跡第7次調査

調査面積 654.1㎡ 調査期間 2003.07.29～03.10.30  
地 域 G 調査担当 池邊千太郎・松竹智之

城原・里遺跡は、大分市大字里に所在し、東西に延びる標高40mの台地上に立地している。城原・里遺跡の400m西側には、海部郡衙の政庁と考えられている中安遺跡(城原・里遺跡第2～4次調査)が位置する。

今回の調査では、第5次調査で確認された掘立柱建物跡の続きが確認され、特に建物2期と建物3期においては、建物群と柵列によってコ字状に配置されていることが判明した。その規模も一辺が40mを超えており、官衙施設の様相を呈している。さらに、コ字状に囲まれた中心部では、4棟もの大形の掘立柱建物跡が確認され、遺構の切り合いや建物方位から建物が3期のものと、それ以降の建物である4期にあたることが判明した。

出土遺物は、A区にある東西建物(SB006)の南西隅の柱穴(S023)の柱痕抜き取り跡から須恵器坏蓋が出土した。特徴としては、退化したつまみが付き、口径が11.0cmで内面のかえりがまだ認められる。建物は城原・里遺跡2期段階にあたり、昨年調査をおこなった5次調査の出土遺物と類似する。建物2期から建物3期に建て替えられた時期を知る上で大変重要な遺物である。第5・7次調査建物群の変遷については次の通りである。

建物群1期は、最初に建物の造営が開始された段階で、東西建物2棟と南北建物1棟が計画的にL字状に配置されていることから施設の様相がみられる。



第84図 調査地点位置図

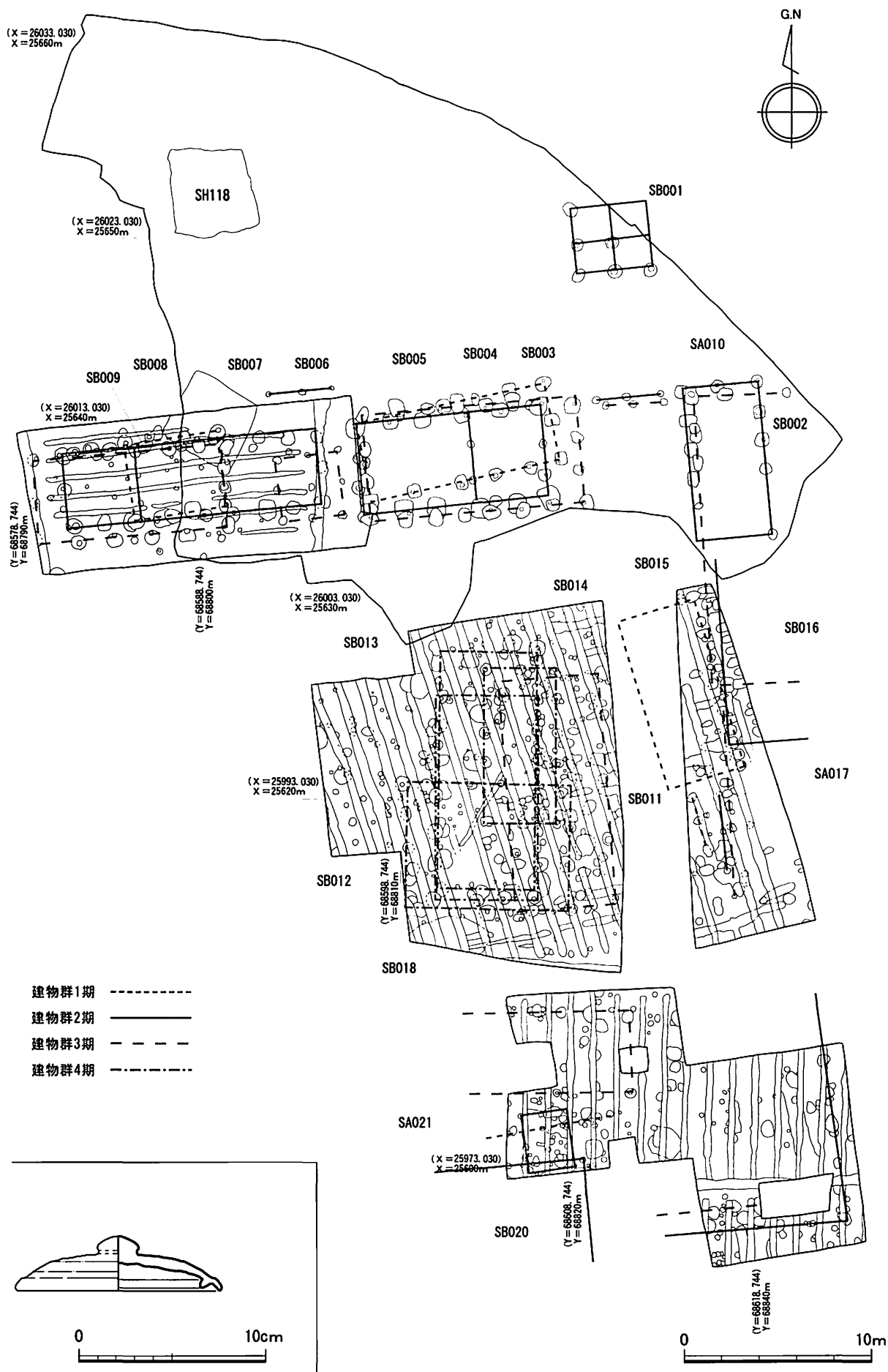


第85図 調査地遠景

第8表 掘立柱建物跡一覧表

	遺構名	規 模	柱間寸法(桁行×梁行)	建物方位	身舎面積
建物群1期	SB005	2間×5間、4.4×10.5m	1.9m×2.0～2.2m	N-12°-W	43.84㎡
	SB008	3間×2間、5.2×4.2m	1.8～1.9m×1.9m	N-11°-W	21.11㎡
	SB015	5間×2間+α、9.4×3.9+αm	1.9～2.1m×1.9m	N-11°-W	不 明
	SB021	4間+α、6.1+αm	1.8～2.0m	N-11°-W	不 明
建物群2期	SB001	2間×2間、3.6×3.9m	1.8～1.9m×1.8～1.9m	N-6°-W	13.68㎡
	SB002	2間×5間+α、3.9×8.2+αm	1.5m×2.1m	N-7°-W	32.34㎡
	SB004	3間×5間、4.8×10.1m	1.9～2.2m×1.6～1.7m	N-7°-W	48.31㎡
	SB006	8間×2間、13.9×3.8m	1.6m×1.8～1.9m	N-6°-W	52.86㎡
	SB016	4間×α間、7.6+α×1.6+αm	1.8m×1.9m	N-6°-W	不 明
	SB020	3間+α×3間+α、6.2+α×0.9+αm	1.6m×1.8m	N-6°-W	不 明
建物群3期	SB003	3間×7間、5.4×11.4m	1.5～1.7m×1.8m	N-4°-W	63.59㎡
	SB007	2間×2間、3.4×3.4m	1.7～1.8m×1.6～1.7m	N-6°-W	11.11㎡
	SB009	5間×2間、10.4×4.6m	1.5～1.8m×2.2m	N-5°-W	46.89㎡
	SB011	5間×3間、12.4×5.1m	1.5～1.7m×1.8～1.9m	N-5°-W	61.71㎡
	SB018	3間+α×2間+α、6.6+α×4.7m	1.5～1.7m×1.9m	N-5°-W	不 明
建物群4期	SB012	7間×3間、12.6×5.2m	1.7～1.9m×1.6～1.8m	N-2°-W	59.63㎡
	SB013	6間×3間、11.0×5.4m	1.6～1.8m×1.7～1.9m	真 北	65.74㎡
	SB014	5間×2間、8.3×3.8m	1.8m×1.8m	真 北	31.45㎡





城原・里  
遺跡  
第7次調査

建物群 2 期は、建物群 1 期と比較して建物方向が少し北方向に向く。建物の規模が大型化し、規格性のある東西建物 3 棟と南北建物 2 棟、さらに柵列により建物がコ字状に配置された状況である。建物配置からコ字状配置の様相から官衙的性格を持っている。

建物群 3 期は、建物群 2 期の建物配置を基準に建替えが行われている。2 期と同じく建物が東西建物 4 棟、南北建物 1 棟と柵列によりコ字状配置となっている。

建物群 4 期は建物群 1 ～ 3 期のコ字状に囲まれた中心の D 区で確認された。桁行が 10 m を越す大型掘立柱建物跡が確認されたことから、コ字状に配置された建物群の中心施設と考えられた。しかし、建物方位が異なることや柱穴の切り合い関係から、建物群 3 期以降であることが判り、この大型掘立柱建物群がコ字状建物群の中心的建物になる可能性は低くなった。そうしたことから、建物群 4 期に該当する建物群は、単独で存在したと考えられ、これらが 3 度にわたって建てられたものと思われる。この段階においては、第 2 ～ 4 次調査（中安遺跡）において建物群が展開している段階と重なっていると思われる。

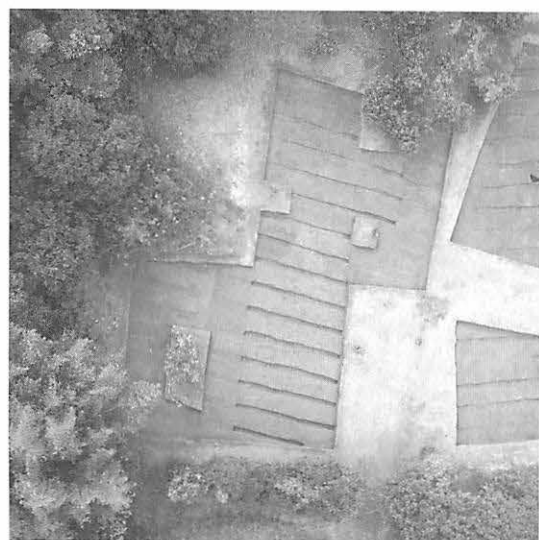
今回の調査では建物群が新たに確認された。本遺跡は、コ字状に配置された建物群の配置、出土遺物から評段階の官衙施設の可能性が高く、造営された飛鳥時代においては全国的に事例が少なく突出したものである。さらに、律令国家成立前における海部郡の成立過程の様相を探る上で学術的に大変重要なものとして注目される。（池邊・松竹）



第88図 A区全景



第89図 B区全景



第90図 C区全景



第91図 D区全景

## XVII 玉沢地区条里跡第7次調査

調査面積 3450㎡

調査期間 2003.05.27～04.03.26

地 域 B

調査担当 永松・江上・佐藤・小橋・羽田野

本調査は、大分市初のPFI事業による(仮称)植田総合市民行政センター建設に伴う発掘調査として実施した。調査地は、大分市の西部を流れる大分川の支流、七瀬川が大きく東に蛇行する左岸に位置する。北は霊山、南に宗方・雄城台とそれに続く田原・木上の丘陵に囲まれた沖積低地に所在し、後背の雄城台丘陵の南崖下に立地している。平成11～12年に調査した玉沢地区条里跡第2次調査の西側にあたる。

調査の結果、地表面から約4.5m下(客土含む)まで水田層を確認した。時代毎では、近現代から中世までの区画溝や中世段階の杭状卒塔婆転用杭、古墳時代では土師器(7世紀後半～)の埋納土坑や溝、弥生時代前期中葉(板付Ⅱa併行)から弥生後期終末の溝等の遺構を検出した。出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、輸入磁器、近世陶磁器が見られるが、特に木製椀などの木製品の出土が多い。

主要遺構について記述する。区画溝は、東西方向の検出長約46.4m、幅約4.0mで堆積土の最下層から14世紀後半に比定される土師器破片が出土している。土層観察から数度の掘り返しがみられることから、繰り返し溝内掘削を行っていたことが窺える。近世～近現代に掛けて位置を南に移しながら、方向は堅持している。

土師器の埋納遺構は、調査区中央付近で検出し、径22.5cm前後のやや不定形な円形を呈している。検出面から床面までは40.8cmを測り、土師器は検出面下32.0cmで口縁を上にして埋置し、埋戻している。土師器は、口径15cm、底径7.5cm、器高6cmで器面が黒ずんでいるが、漆等の塗布は見られず、7世紀後半の所産と考えられる。埋納土坑は近年報告事例がある水田内での祭祀行為の跡と考えられ、地鎮行為、または口縁部を上にしての事から、雨乞いなどの儀式等も考慮したい。

弥生時代では、弥生時代前期中葉(板付Ⅱa併行)から弥生後期終末の溝が検出され、特筆すべきは弥生時代前期中葉段階の溝や溝に伴う井堰、堅杵が出土している点である。井堰については、市内調査では初見であり、また堅杵という木製農具の出土は、弥生時代前期における水田耕作を強く想起させる。井堰は分岐している溝のそれぞれ西側に構築されている。2ヶ所の井堰は、矢板と立杭により構成されており、横本と思われる丸太材も散見されることなどから、「百々道タイプ」に類似している。北溝(SD080)の井堰は、構築していた痕跡(板列)が三列確認でき、廃絶までに3回の造成が考えられる。南溝(SD102)の井堰は、板列が一行のみで改修等は確認できない。板材は、クサビ状に加工がされ、一部表皮が残存している資料も見られる。堅杵は、井堰(SX090)西側で出土し、全長146.3cm、径5.3cmである。握部が柄の部分より一廻り太くなっている。溝の埋土には下黒野式・突帯文段階の土器片が混入していることから、同段階の包含層の存在が考えられる。他にドングリピット(SX108等)、焼土遺構(SX100)、水口状遺構(SX083)が確認される。

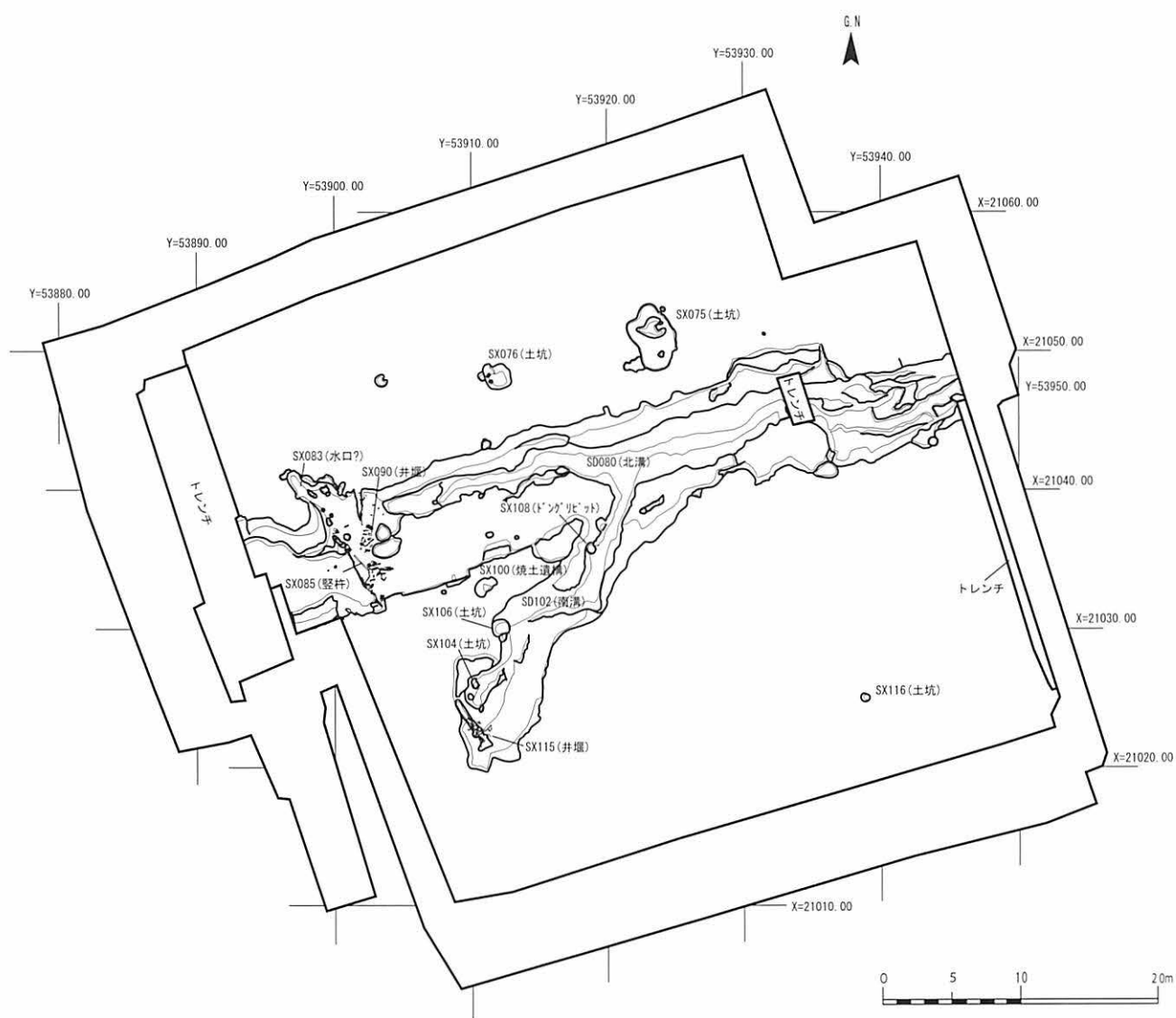
本調査の成果としては、旧字図に見られる区画溝が、14世紀後半から近代にいたるまで踏襲されていることから、中世段階の地割の解明、と同遺構が推定「肥後街道」に隣接することから「肥後街道」造営期解明への端緒となるものである。また、初期水田段階の遺構発見により、周辺地での初期水田の検出、及び当該期の集落の発見がすすむことで、玉沢地区条里跡の初期水田解明の一助となるであろう。(永松)



第92図 調査地点位置図



第93図 調査区全景写真



第94図 調査区全体図(1/500)



第95図 SX085(竪井) (西から)



第96図 SX090(井堰) (西から)

## XIII 玉沢地区条里跡第8次調査

調査面積 1000m<sup>2</sup> 調査期間 2003.12.25～04.03.25

地 域 D 調査担当 河野史郎・奥村義貴・佐藤孝則・小橋寛之

調査地は七瀬川の北岸域に広がる現在も水田地帯である「玉沢地区条里跡」の一角にあたる。当調査は病院建設に伴い実施した。調査期間等の関係から、今回はまず調査地内に土層を中心に確実に水田層と各水田層の分布範囲を把握するためトレンチを4本設置した。掘削には重機(平づめ)を用いて行った。土層観察の結果、現状地割と重複する畦畔は近世までしか確認されなかったものの、砂層に覆われた水田跡がその下位において確認されたためその水田層を重点的に調査することにした。

また、小型のエレベーターピット(10×10)でプラントオパール分析を事前に実施することで、考古学的、自然科学的な立場からの水田層(面で調査をする水田層)の絞り込みを行った。

その後、大型のエレベーターピット部分を調査地として設定したのである。調査の結果、13面の土壌化した層を確認し、その内の10面を水田層として認定した。また、14面の洪水層も確認している。近世から中世にかけては4面もの良好な水田層が存在している。これにより、中世からは当調査地では連綿と水田を営んでいることが確認された。各水田跡が洪水、河川の氾濫を受けてまた、開発している状況が窺えた。下位では、土層観察では土壌化が確認され、炭化物も一定量含まれる点から当初は水田層と認定したが、プラントオパール分析では水田跡といえる結果はでておらず、また、その後の地形的な所見からも、現在は水田に開発される前の湿地が広がっていたという判断をしている。遺物も出土していないため時期決定も困難である。

以下、主要遺構の様相を述べる。

水田層(S001)では、現状地割に重なる場所で畦畔1条とそれに伴う用水路を2条検出している。また、犁痕群・杭跡を検出している。出土遺物は、胎土目段階の唐津系陶器・龍泉窯系青磁・初期伊万里皿・火鉢・白磁D類等が出土しており、17世紀前半と考えられる。

水田層(S002)ではある程度の規格をもった犁痕を検出している。これは区画を表す遺構の可能性を考えている。出土遺物は、備前掬り鉢・土師器坏などであり時期は15世紀～16世紀前半であると考えられる。

水田層(S004)では、上層の水田層(S028)の耕作痕を検出した。耕作痕からは、12世紀代に比定される研磨土師器が出土しており、上層の水田層(S028)は、12世紀代の可能性が示唆される。

今回、17世紀前半までの水田層では、畦畔が確認されたが、その下層の水田では畦畔は確認されず、また地形的に変化する状況も確認されなかった。このことは、当調査区内では水田に水を張るのに畦畔が必要でなかったことが推測され、地形的には平坦な場所であったと考えられる。このことから近世から設置された畦畔には、土地所有の意味合いが強いと考えられる。さらに、当調査地で湿地が広がっていたという結果は、周辺の微高地・緩斜面・谷部の地形を復原する上で重要な所見であったといえるだろう。

今後の課題としては、水田層の認定条件の難しさである。現場段階の所見で攪拌と炭化物を確認した場合、生物的攪拌が人為的であるのか、植物によるものなのかを考古学的所見から解明できないことを考えると科学分析との相互分析が重要といえる。しかし、水田遺構が検出された層とした層から、プラントオパールが確認されないという事実があり今後の水田認定の条件整備が急務といえよう。(佐藤)



第97図 調査地点位置図



第98図 調査区全景

玉沢地区  
条里跡  
第8次調査

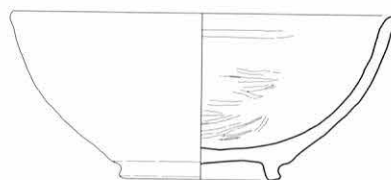




第99図 S001水田層畦畔出土状況(西より)



第100図 S029遺物出土状況(南より)



第101図 S029出土遺物(1/3)



第102図 S003水田層遺構配置図(1/150)



## XII 鶴崎町遺跡群（堀川）

調査面積 392㎡

調査期間 2003.06.24～03.10.31

地域 E

調査担当 河野史郎・岩尾美保子

鶴崎町遺跡群は、大分市の東部、大野川と乙津川に挟まれた三角州上に位置する。

近世鶴崎町は、肥後藩の瀬戸内航路の拠点として、慶長6年(1601)肥後藩主となった加藤清正が所領とし、その後加藤氏から細川氏に引き継がれ、江戸時代を通して肥後藩領となった。

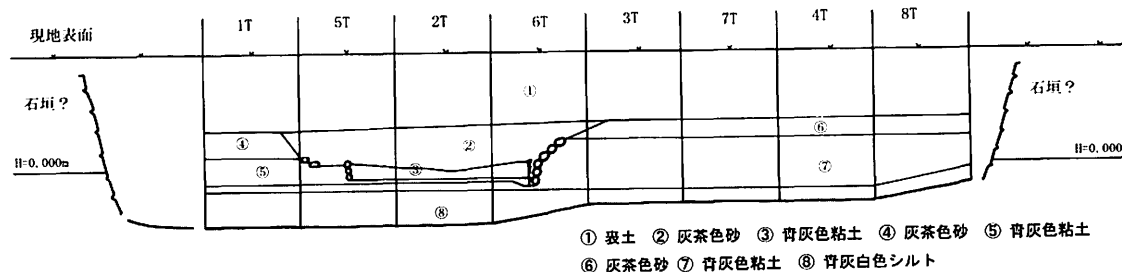
鶴崎は、肥後藩にとって川尻と並ぶ海の玄関口に位置づけられており、当時河口部で西流した大野川本流に沿った鶴崎町の北東部一帯には、御舟入・三艘堀・千艘堀・堀川といった舟入群が存在していた。中でも今回の調査対象地となる堀川については、鶴崎を所領とした加藤清正が御茶屋(宿泊所)の整備と並行して、最初に開削したと言われているもので、鶴崎町成立期に遡る資料の出土が期待された。

調査は、鶴崎支所建設に伴うもので、調査区は、旧建物基礎による掘削の及んでいなかった建設予定地北部に設定された。

調査の結果、堀川の埋没過程を示す土留め遺構、幕末期の大規模浚渫の痕跡、17世紀前半段階の堀川の底部が確認された。

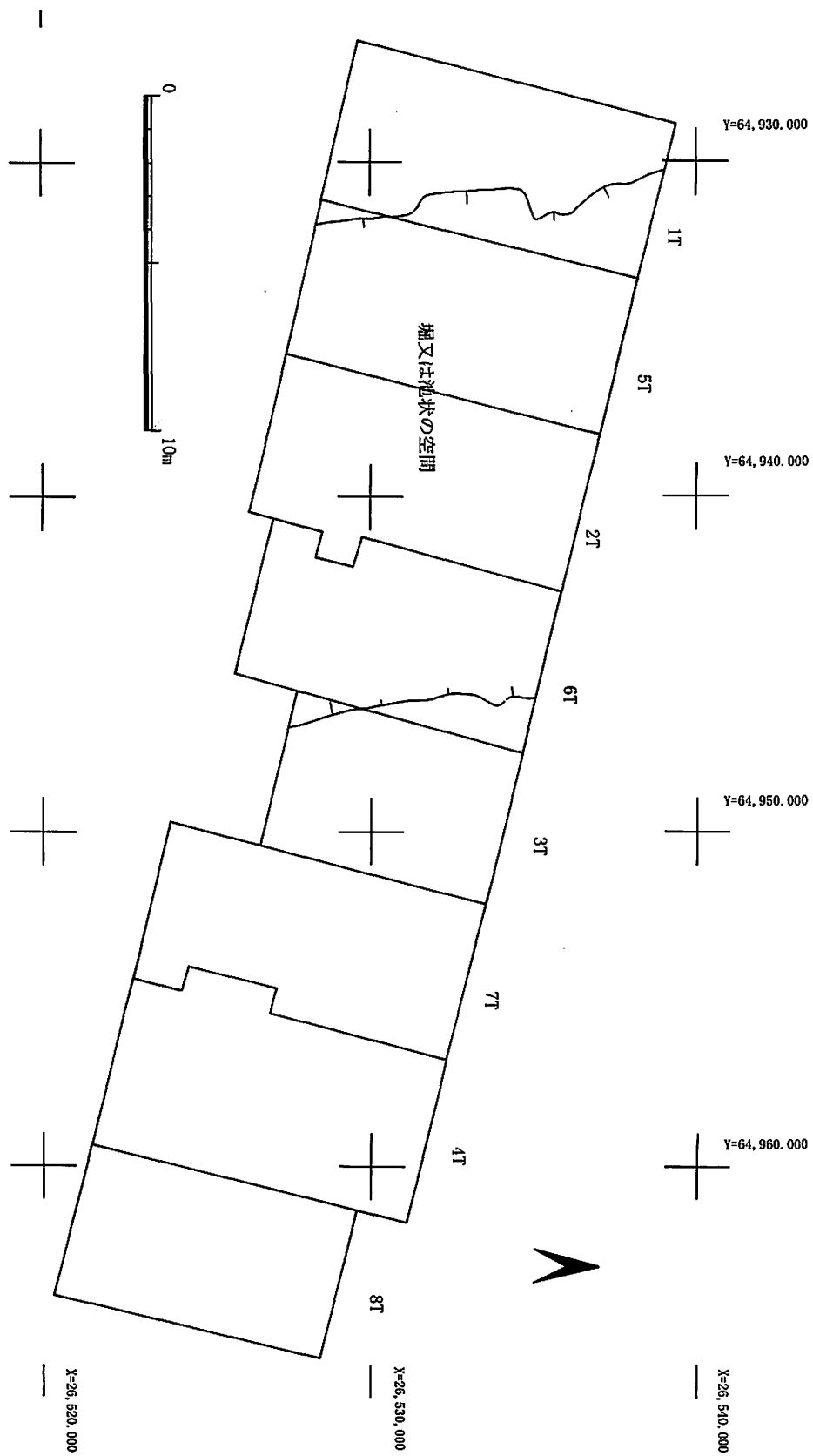
堀川の埋没過程を示す土留め遺構については、5 Tと6 Tの2カ所で確認された。幕末～明治の遺物包含層を直接切り込んで造られ、その石がより高く積まれた6 Tの土留め遺構が明治期に、明治～大正・昭和初期の包含層を切り込んで造られ、家屋の廃材を利用した裏込め部を有する5 Tの土留め遺構が大正・昭和初期にそれぞれ比定された。明治期の字図によると、堀川の東半部が埋め戻され開墾地となった状況が表されており、6 Tで確認された土留め遺構は、この時のものであることが推測される。加えて、昭和10年ころの鶴崎町全図には、堀川が既に全体が埋められた状況が観察されることから、大正・昭和初期の段階にその他の部分が埋められたことが推定できる。おそらく5 Tで確認された土留め遺構は、この時のもので、地図には表現されていないが、堀川は最終的には池又は堀状になっていたと考えられます。尚、この池又は堀状となった堀川からは、サクラビール（大正2年～昭和18年）の瓶等、大正・昭和の遺物が出土している。

幕末期の浚渫の痕跡については、現地表から約3.6m下位（標高-0.6m前後）で確認された。上層よりもやや堅く締まったシルト質の強い土層面で、杭や杭を抜いた跡、大きな板材、縄等が検出された。これらの遺構・遺物は、舟入を浚渫する際の水をせき止めた痕跡と考えられる。調査区の全面にわたり、均等な深さで行われたこ



第104図 堀川土層概念図

鶴崎町  
遺跡群  
(堀川)

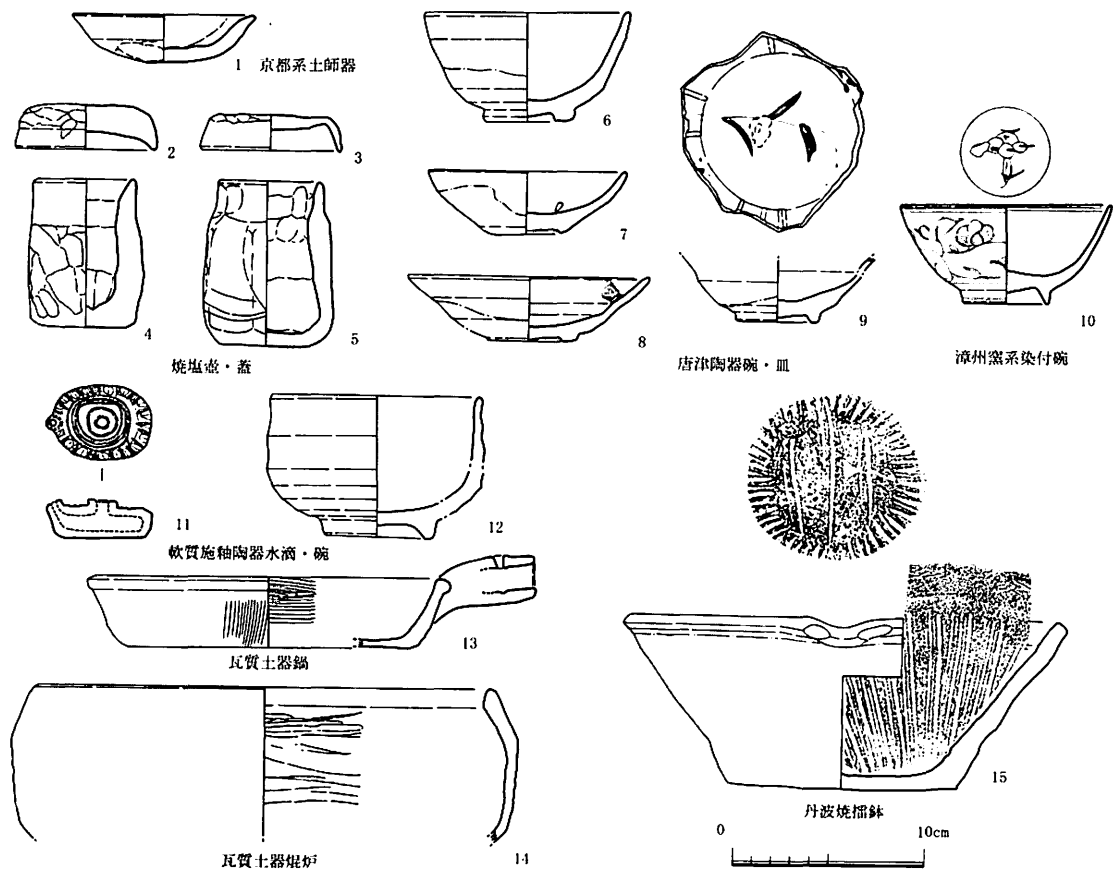


第105図 鶴崎町遺跡群(堀川)遺構配置図(1/200)

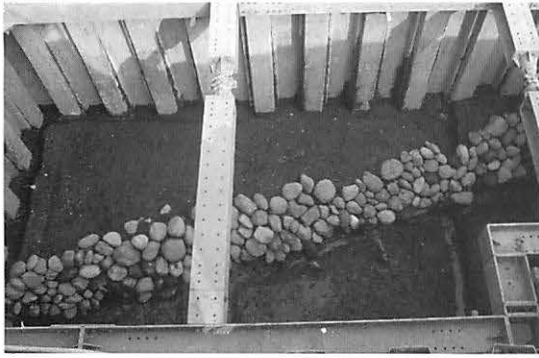
の浚渫工事は、舟入への通常の土層堆積に加え、当時、災害等の影響で、大野川の流れに変化が生じ、舟入群が存在する大野川本流への水流が減少したことにより、舟入としての深度を失ったことが背景にあったと考えられます。この浚渫面の上位からは、陶磁器類（焼継文字の入ったものを含む）・焙烙や焜炉・木製荷札・蛸壺等の漁労具等が出土しました。

17世紀前半段階の堀川の底部については、川底を思わせる砂層で、東側が比較的浅く、現地表から4.0m下位（標高-1.0m）、これに対し、西側は深く、現地表から4.5m下位（標高-1.5m）を測った。この深さの違いについては、御茶屋等の主要施設が存在する堀川の西側に、より大きな船が接岸できるよう設計された可能性を示唆するものと考えられる。幕末の浚渫面の下位となるシルト質の土層からは、17世紀初頭から前半の遺物群が出土した。即ち幕末期の浚渫によって、間を埋める17世紀後半～19世紀初頭までの遺物群が失われ、純粋な17世紀前半代の遺物群が残った形となったのである。

出土遺物には、唐津焼、初期伊万里、軟質施釉陶器、備前焼、丹波焼、瓦質土器、京都系土師器、焼塩壺等がある。これら遺物群は、胎土目積みの唐津焼(1580～1610年)でも新しい位置づけとなる遺物群と、初期伊万里や、砂目積みの唐津焼や初期伊万里を中心とした(1610～1630年)遺物群に分けることができる。前者は、加藤清正が鶴崎を所領とした時期に、後者は加藤忠広の時期にそれぞれ比定される。特にこのシルト層でも下層から出土した遺物には、砂目段階の遺物が含まれないことから、堀川の最下層には純粋な清正段階の遺物群が残っていたことになる。又、これらの遺物群の中に、軟質施釉陶器の碗・水滴、丹波播鉢、瓦質土器焙烙、焼塩壺等の関西系遺物の存在が目につくが、これらの遺物は、大阪や京都で出土する時期と大差無く出土していることから、当時の鶴崎の港が、京都・大阪方面を向いていたことを如実に示す資料といえよう。(河野)



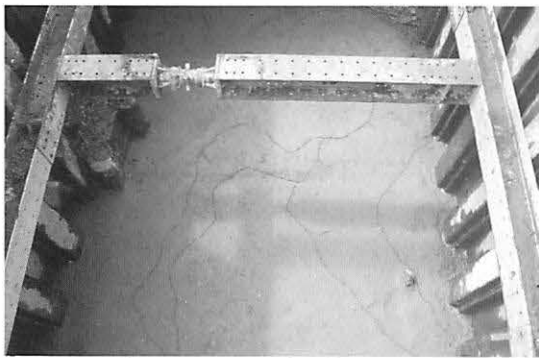
第106図 堀川シルト層出土遺物実測図(1/4)



第107図 6 T 土留遺構検出状況



第108図 1 T 幕末浚蝶面検出状況



第109図 堀川底面検出状況



第110図 軟質施釉陶器出土状況



第111図 焼塩壺



第112図 丹波播鉢



第113図 軟質施釉陶器水滴



第114図 軟質施釉陶器碗

## XX 鶴崎町遺跡群(三軒町)調査

調査面積 200m<sup>2</sup>

調査期間 2004.02.01～2004.03.26

地 域 E

調査担当 河野史郎・奥村義貴

鶴崎町遺跡群は、大分市の東部、大野川と乙津川に挟まれた三角州上に位置する。

近世鶴崎町は、肥後藩の瀬戸内航路の拠点として、慶長6年(1601)肥後藩主となった加藤清正が所領とし、その後加藤氏から細川氏に引き継がれ、江戸時代を通して肥後藩領となった。

肥後藩には、「五ヵ町」(熊本・八代・高瀬・川尻・高橋)とされた公認の町が存在したが、鶴崎町は、これら五ヵ町に準じる「准町」として藩から公認される位置づけで、鶴崎御茶屋を中心に、出町、西町、本町、堀川町、横町、今新町、三軒町、国宗町といった町筋を有する城下町的な景観を呈していた。今回の調査対象地である三軒町(三間町)は、御茶屋から東に延びる道路に沿った両側町で、この道路の東は、構口及び対岸の志村に渡る大野川の渡しへ通じ、西は、鶴崎御茶屋に通じている。

調査は、道路に面した間口部分で、確認調査で遺構が良好に残存していることがわかっている(1トレンチ)と、エレベーターピット部分で遺構が完全に破壊される、道路より10m程奥に入った(2トレンチ)の2ヶ所の調査地を設定して行われた。尚、1トレンチについては、遺構保存を前提に、18世紀末～幕末にかけての第1面までの調査となった。

調査の結果、1トレンチでは、町屋を示す短冊状地割の痕跡が石列の形で認められ、前面に店舗を兼ねた土間状の空間をもつ建物2棟分が確認された。2トレンチは、1トレンチで確認された東側建物の後背部にあたり、井戸を含む土間状の空間と建物礎石が確認された。おそらく東側建物は、南北に長い土間を有し、その奥の部分に井戸を含む台所状の遺構(2トレンチ)が存在したと考えられる。

更に完全調査が行われた2トレンチは、1トレンチの東側建物の続きである井戸、建物礎石、踏み石状遺構が検出された18世紀末～幕末にかけての遺構面と、その下層より、多量の鍛冶滓を含む大型の廃棄土坑及び井戸・土坑からなる18世紀前半～後半に位置づけられる鍛冶工房関連の遺構群が検出された。特に、後者の遺構群は、18世紀末～幕末段階の短冊状地割りとは、その主軸を異にしており、その性格も含めた遺構群の状況が一変したことが確認された。



第115図 調査地点位置図

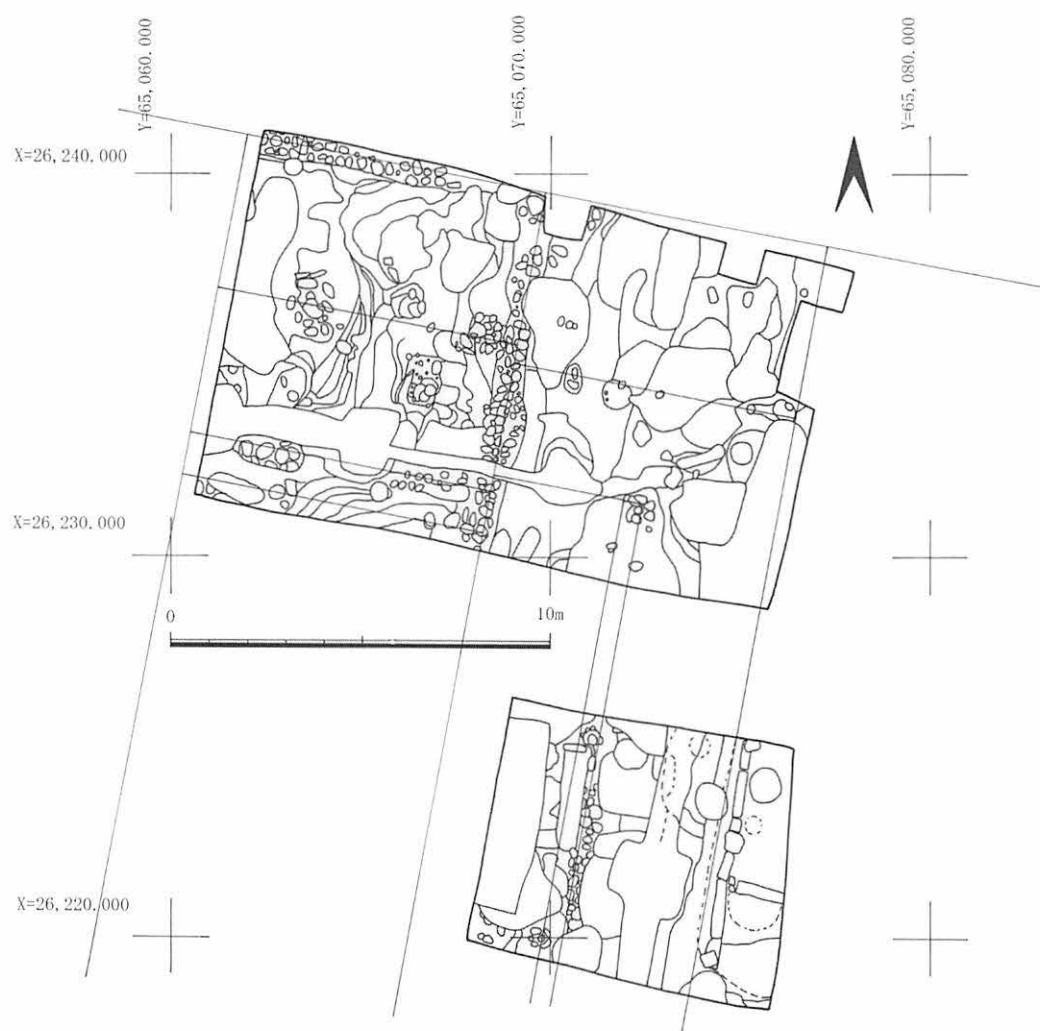


第116図 1トレンチ全景

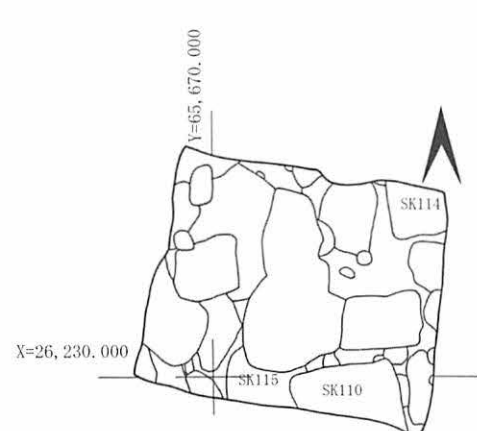


第117図 2トレンチ全景

今回の調査成果の中で、特に2トレンチについては、三軒町における町屋(短冊状地割)景観の成立が18世紀後半～末の段階であったことを示すと同時に、その前段階に大規模な鍛冶工房が存在したことが確認されている。前者については、今後文献資料との整合作業が必要になり、後者については、文献資料との整合と併せ、三軒町の北東に存在する作事所との関係も注目される場所である。(河野)



第118図 遺構配置図(1/200)



第119 遺構配置図(2T18C中頃) (1/200)



第120図 SK110土層断面状況

## XXI 東田室遺跡第11次調査

調査面積 132㎡ 調査期間 2003.07.24～03.09.04

地域 A 調査担当 松尾聡

今次の調査は、都市計画道路田室春日線改良工事に伴って実施されたものである。調査地は、東田室遺跡第4次調査地の西側に位置する。調査区中央西端部では、浄化槽が設置されていた痕跡があった。そのため当場所の遺構面は浄化槽設置時の掘削により削平されており、遺物・遺構等を確認することができなかった。また、北側には水道管が埋設されていたため、当管を残す形で調査を行った。調査の結果、古墳時代初頭に比定される竪穴住居跡や竪穴遺構、柱穴、土坑などを確認した。なお、遺構検出標高は約5mである。

### 主要遺構

竪穴遺構 (SX015) は、調査区北側において確認した。形状及び規模は、水道管により分断されているため不明であるが、残存部より推定すると隅丸長方形を呈するものと思われ、長軸約4m、短軸約3.5m、深さ約0.4mをはかる。埋没土中より古墳時代初頭に比定される布留式系土器（甕・高杯・壺・鉢）、ミニチュア土器・舟形土製品など大量の土器が出土した。したがって、古墳時代初頭には埋没していたものと考えられる。SX021、SX060である。SX021は調査区北西部において検出したが、遺物は確認できなかった。SX060はSX015に切られる遺構である。機能時及び埋没時期は遺物が出土していないため不明であるが、新旧関係よりSX015より古い時期に相当するものと考えられる。

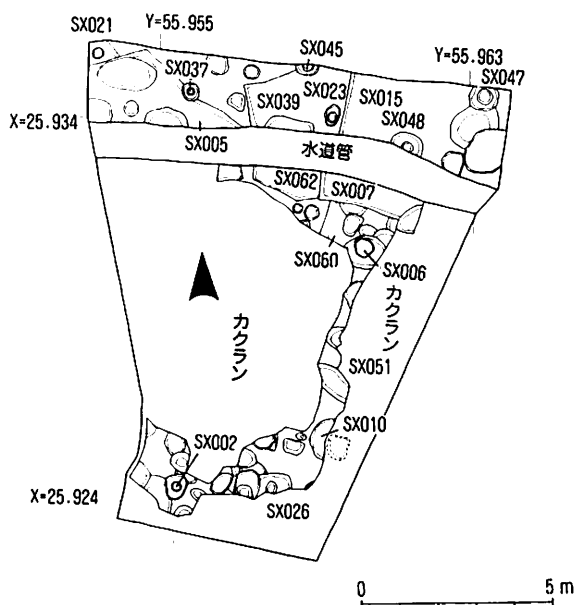
土坑 (SX010) は、中央東端において確認した。平面形態は、東側部分を削平されているため判断できないが、残存部分より楕円形を呈するものと思われる。規模は、長軸約1.0m、短軸約0.4m、深度約0.2mである。埋没土は2層に分層でき、上層より9世紀後半に比定される土師器が出土していることから当時期には埋没したのと考えられる。

### 小結

今次の調査は、前年度の調査成果と同様の結果がえられた。東田室遺跡群は毘沙門川（現住吉川）流域に広がる微高地上に位置していること、海・河に近接していることから古墳時代以降重要な拠点であった可能性が考えられる。今後の周辺調査によって古墳時代・古代の集落や遺構の状況や広がり の解明が期待される。（松尾）



第121図 調査地点位置図



第122図 遺構配置図(1/200)



## XXII 南金池遺跡第5・6・7次調査

調査面積	945㎡	調査期間	2003.05.30～04.01.22
地 域	A	調査担当	高畠豊・梅田昭宏

当調査は大分駅周辺総合整備事業の土地区画整理事業に伴い実施された。当地は上野台地北側の低地に広がり、顕徳町1丁目に所在する。本年度において、南金池遺跡第5次調査をはじめ、6次、7次の調査を継続して行った。

第5次調査区は、柱穴と考えられる明確な柱痕跡を含むピット群、土坑が検出されている。遺物は、土師器坏、坏d、須恵器大型製品が出土した。

第6次調査区は48㎡の調査区である。遺物は製塩土器、企救型甕、土師器坏、坏d等が確認された。

第7次調査区ではピットを数基ほど検出した。遺物は微細な破片が少量ほど出土している。

南金池遺跡において、7次に及ぶ調査が終了した。

第5次、7次調査区の遺物は概して少なく、土層断面観察、並びに遺構検出結果から積極的な土地利用の痕跡はほとんど認められない。当地より西側、県庁前古国府線を挟む試掘調査結果においては、旧河道もしくは低湿地化していた可能性が示唆されており、遺構密度が低下する状況は、これに至る空間地等である事が推察される。

第2次調査区は各調査区と比較して、遺構数、遺物量が最も多く、これらの偏在が顕著な点から、第2次調査区の北側を基点に遺構が展開していたと考えられる。情報を摂取できない東側付近を除き、遺構は主に南側に向かい広がると想定される。

当地は9世紀前半代に帰属する遺構、遺物が多く確認され、これ以前に遡る遺物は極めて微量な点から、古代より当地を利活用していたと考えられる。また、各調査地のいわゆる六連島式と考えられる製塩土器の総量は約11kgにのぼり、かつて塩田が営まれたとされる塩九升（しょくじょう）との関係が想定される出土事例として注目できる。

塩九升については永萬元年（1165）の柞原八幡宮文書、笠和郷の塩濱3反を供料と奉免せしむとする記載や志賀文書にみられる正安元年（1299）の騒動に記載された地名、勢久世宇（せくせう）との関連が既に指摘されている。なお、現在の塩九升町との直線距離は北東に約700mである。（梅田）



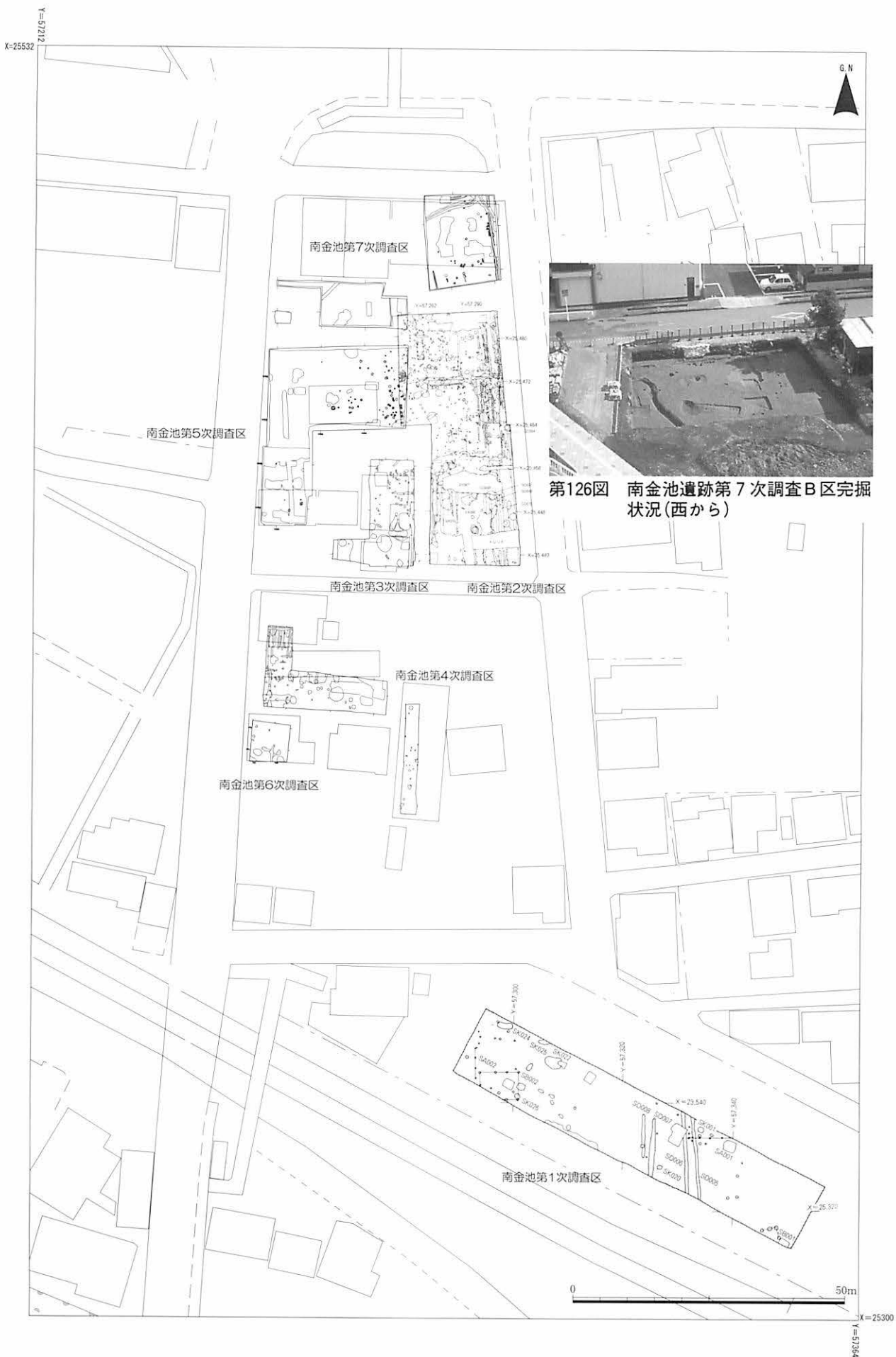
第123図 調査地点位置図



第124図 南金池遺跡第5次調査区完掘状況(東から)



第125図 南金池遺跡第6次調査区完掘状況(北から)



第127図 南金池遺跡第1～7次調査位置図(1/1000)

南金池遺跡  
第5・6・  
7次調査

# XXIII 横尾遺跡第82-3次調査 D-35・40地点

調査面積 約125㎡ 調査期間 2003.05.16～04.03.31  
 地域 E 調査担当 塩地・奥村・小住・小橋

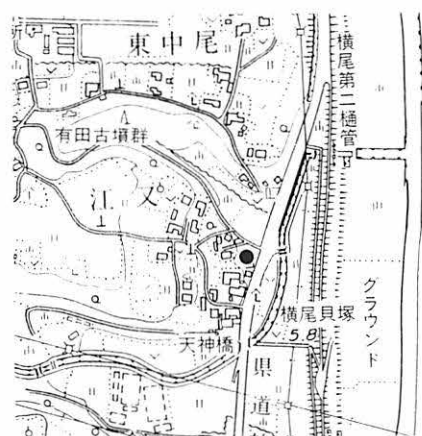
調査地は大分市大字横尾字江又に位置し、乙津川に向けて開口する谷の周辺部にあたる。東側隣接地には横尾貝塚が所在する。今回の調査は平成13年度に発見された「水場の遺構」を構成する部材の保存処理作業を行うにあたり、当該遺構の全様と、その位置づけを明確にするために実施したものである。出土遺物については現在コンテナ約50箱に保管している。調査の結果、深さ約3 mにも及ぶ堆積土層が確認され、各時代の堆積土層を基盤面とする遺構群が検出された。以下に、その様相についてまとめる。

中世 横尾貝塚周辺の調査において指摘されている大土木地業によって形成された堆積土層(82-3SX001・002・003・004)と位置づけられるものである。上から大きく黒褐色土層と茶褐色土層の2層に区分され、両者ともに大量の礫と遺物が内包されている。深さは合わせて約1 mを測り、古代の遺物と共に縄文時代に比定される大量の遺物が出土している。

今回の調査では、これらの遺物は古代以降の造成に伴って廃棄されたものと判断されるものの、縄文時代に比定される遺物の大量廃棄という特筆される現象は第82・87次調査をはじめとする当該地の周辺調査区においても認められ、現段階においては既往の調査成果を踏まえ、14世紀前半頃に行われた谷を埋める一連の造成に伴って廃棄されたと理解できるものである。また、この造成土からは約2.25kgを量る姫島産黒曜石製の大型原石が出土しており、特筆される。さらに、この造成土をはじめとして各時代の堆積土層については基本的に乙津川から西側丘陵部に向けて厚く認められ、調査区東側に想定される微高地の存在を示唆する極めて重要な所見と判断される。

縄文時代後期前葉頃 中世の造成土と判断される堆積土層の下位にあたり、標高約4 m地点の灰茶緑色粘質土層を基盤面とする土坑(82-3SX007)1基が該当する。この文化面は第82次調査において当該期のドングリ貯蔵穴群が形成された段階に相当するものである。

縄文時代早期末頃 アカホヤ火山灰層の下位にあたる標高約3 m地点の暗灰黒茶色粘質土層(82-3SX016)を基盤



第128図 調査地点位置図



第129図 「水場の遺構」検出状況(北より)



第130図 東側調査区西壁土層断面(東より)



第131図 東側調査区北壁土層断面(南より)



第132図 西側調査区西壁土層断面(東より)



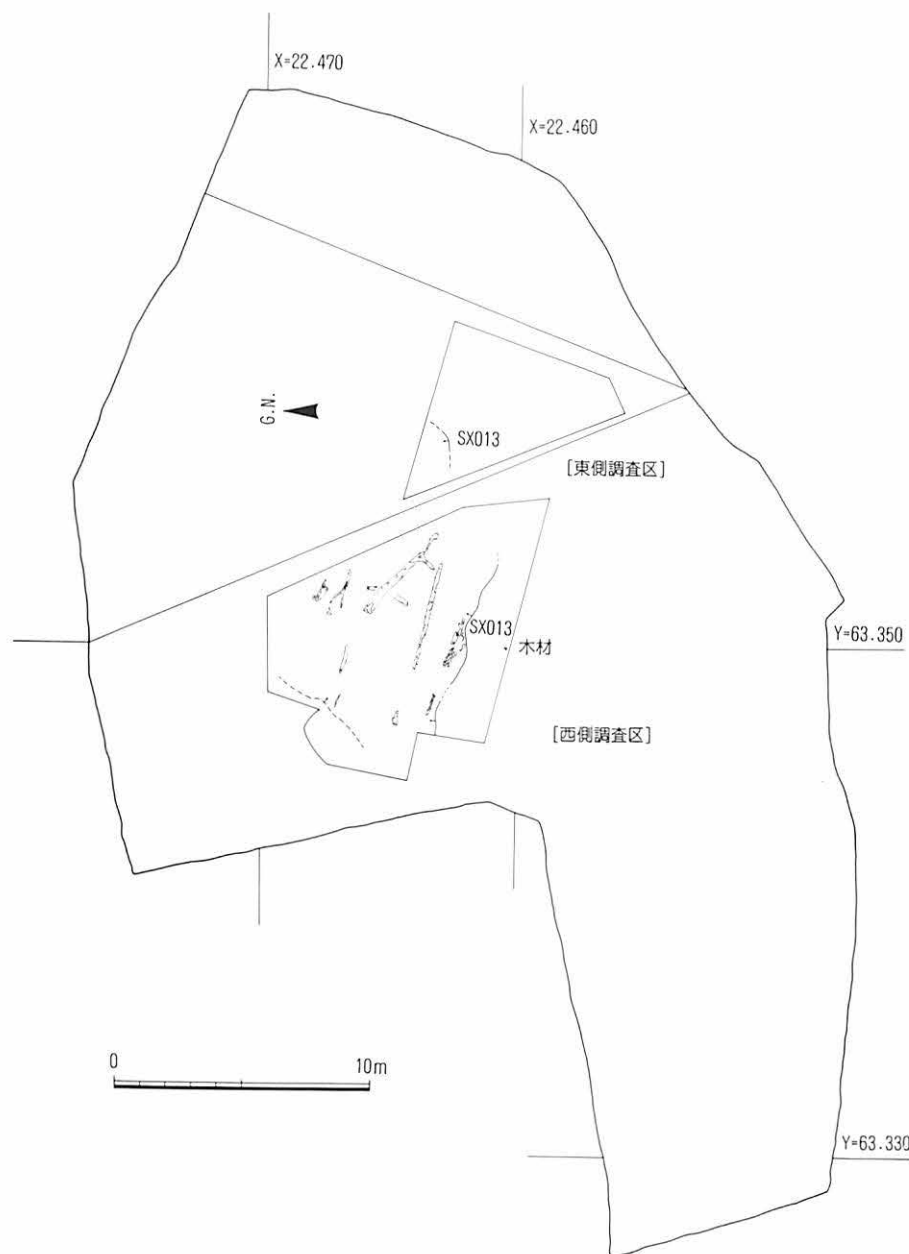
第133図 東側調査区西壁土層断面近景(東より)

面とする段階で、「水場の遺構」(82SX080)ならびにその設置に伴う掘り込み地業(82-3SX013)が該当する。

今回確認されたアカホヤ火山灰層については淡黄灰色～灰茶色を呈し、現状で約60cmの堆積が認められる。隣

接する第82次調査において砂層として報告した堆積層についてもアカホヤ火山灰層の下位において確認され(82-3SX012)、両者共にアカホヤ火山灰層であることが判明した。また、色調や質感の違いにより3層に分層され、上位～下位に向けて粒子が荒くなる級化現象(分級)が認められる。最下層を砂層と誤認した理由である。さらに、調査区南側においてアカホヤの堆積平面プランが確認され、その内縁部における堆積は中央部に比べ均質ではなく、攪拌される。

以上のことから、第82次ならびに第82-3次調査区において検出されたアカホヤ火山灰層については水中に沈降したものであり、アカホヤ降下段階の古環境を示唆する極めて重要な所見と判断される。また、第82次調査区の中央土層一帯において確認された不整合な堆



第134図 82-3SX013略測図(1/300)

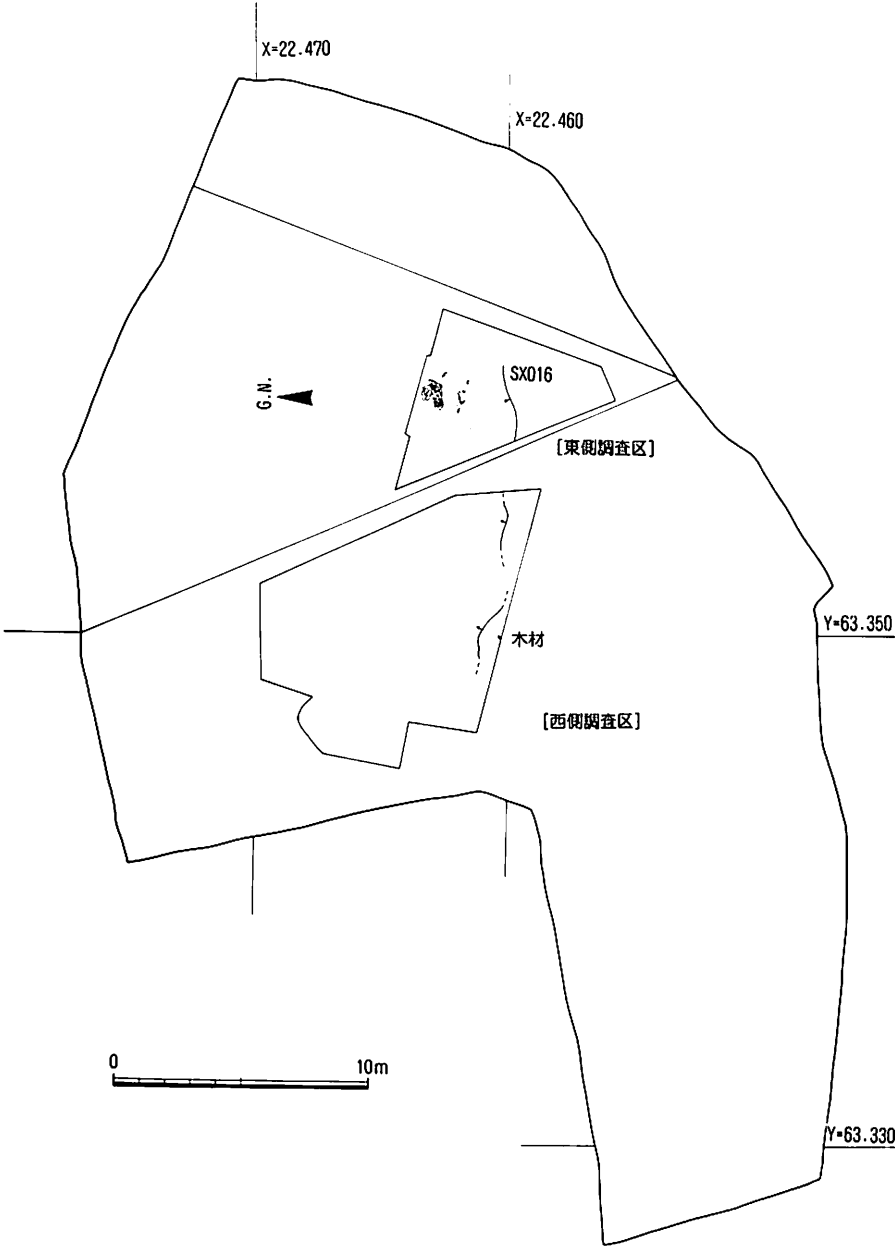
積状況についても、当該西側調査区のアカホヤ火山灰層の中位において検出された。平面プランとしては細く帯状に広がる。

「水場の遺構」(82SX080)については、第82次調査において確認された加工木を杭で固定し「コ」の字状に配置した遺構であり、今回の追加調査により「水場の遺構」に沿って南北方向に部材が検出されている。推定微高地に向かって「水場の遺構」が東西方向に展開することを予測し、設定した東側調査区においては部材の展開は見られない。南北方向に伸びる部材については谷地形に沿って南西方向～北東方向に向けて傾斜する。今回新たに出土した部材については顕著な加工は認められないものの、その残存状況については谷尻方向の北側に比べ谷頭方向の南側の部材の方が劣化している。

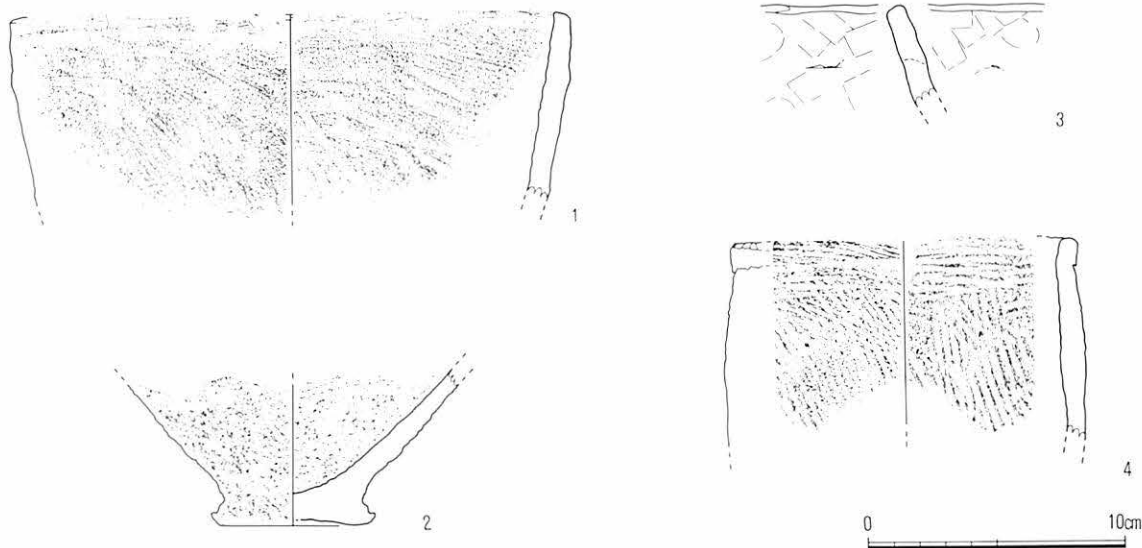
さらに、この「水場の遺構」については暗灰黒色粘質土層を基盤面として人為的な掘り込み地業が認められ、その南側内際に「水場の遺構」が設置されている。地業内には均質な黒色有機質土層が形成されているものの、拳

大～人頭大の礫が一定量認められる。この黒色有機質土層からは条痕文土器の深鉢が出土している。縄文時代早期中頃～後葉頃 暗灰黒色粘質土層(82-3SX016)の下位にあたる標高約2m地点の礫地盤ならびに暗灰黒緑色礫土層を基盤面とする段階で、暗灰黒緑色礫土層の直上において姫島産黒曜石製の大型石核が出土している。暗灰黒色粘質土層(82-3SX016)については3層に区分され、地山ブロックならびに拳大の礫を多く含む堆積土層であり、下位ほど砂質が強くなる。また、西側調査区の北西隅において礫層地盤が確認され、暗灰黒色粘質土層(82-3SX016)の堆積平面プランが検出されている。

出土遺物としては先述の姫島産黒曜石製大型石核や部材をはじめ、無文土器の深鉢が確認されている。姫島産黒曜石につ



第135図 82-3SX016略測図(1/300)



第136図 82-3SX013・016出土土器実測図 (1/3)

いては両者ともに10kgを超える大形の石核である。(第138図・10.3kg、もう1つは12.2kgを量る。)暗灰黒緑色礫土層の直上において2点並んで出土しているものの、両者の接合関係は認められない。暗灰黒緑色礫土層ならびに黒曜石の上位にあたる暗灰黒色粘質土層の堆積状況から、当該期における本調査区の状況については水面下であった可能性が想定され、黒曜石の出土状況を踏まえれば、廃棄された蓋然性は低いと考えられるものの、意図的な埋置と積極的に評価するまでには至っていない。まとめ 今回の確認調査においては、当該地一帯の古地形の復元と古環境の変遷を示唆する極めて重要な所見を得ることができた。



第137図 82-3 SX021黒曜石出土状況(上が北)

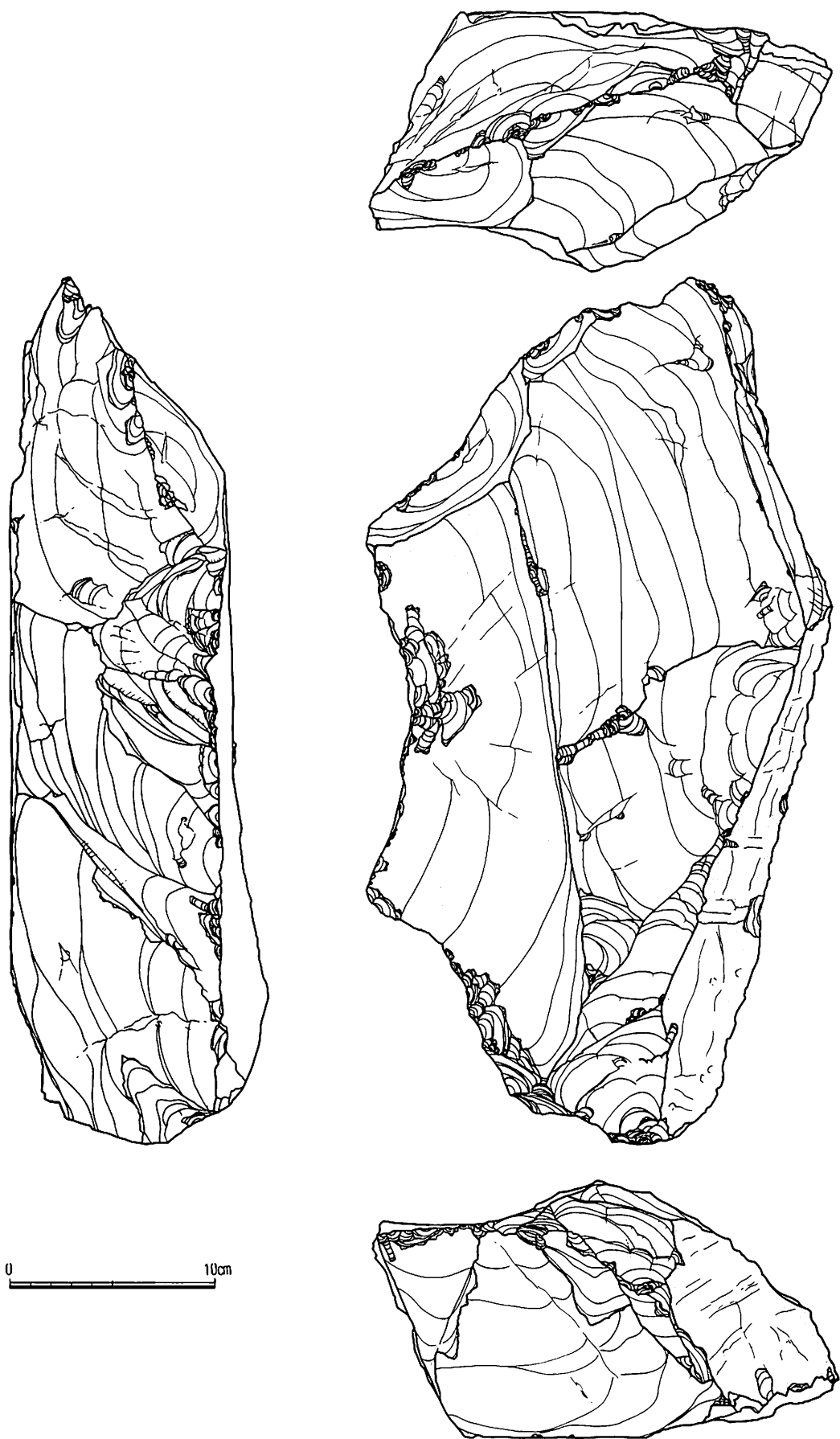
既往の調査成果より、すでに横尾貝塚の西側に南北方向に延びる微高地の存在が指摘される中で、推定微高地の西側隣接地にあたる本次調査の結果、各時代の堆積土層は基本的に乙津川から西側丘陵部に向けて厚く認められ、先述した現存する谷に向けて北側にも厚く堆積している状況から、当該地一帯に乙津川に向けて開口する谷と結節する小規模な埋没谷の存在が想定される。

以上のことから、「水場の遺構」については、小規模な埋没谷の斜面地を改変し、乙津川方向へ開口する谷に向かって設置された遺構と判断される。また、「水場の遺構」が設置された段階においては設置に伴う掘り込み地業の存在が確認されたことから、かなり陸地化が進んでいたものと推定される。しかしながら、今回検出されたアカホヤ火山灰層に上位～下位にかけて粒子が粗くなる級化現象(分級)が認められ、さらに大形石核が当該地に残された段階においても水性堆積土層が形成されていることから、「水場の遺構」が設置される段階の前後の時期には当該地まで水域が及んでいたものと想定される。

本遺跡においては、「水場の遺構」内部から発見されたカゴに収納された石核や剝片をはじめ、多くの姫島産黒曜石が出土しており、すでに指摘されているとおり、姫島産黒曜石交易の中継地として機能していた可能性が高いと判断される。今回の確認調査においても「水場の遺構」の全様と、その位置づけについて確定することは出来なかったものの、地理的環境が変化したにもかかわらず、「水場の遺構」が設置された地点周辺に姫島産黒曜石が残されていく状況は看過できず、当該遺構が設置された谷部に姫島産黒曜石交易の中継地として機能した施設の存在が示唆される。今後の調査に期待したい。(塩地)

参考文献 大分市教育委員会2004「横尾遺跡第82-3次調査」『大分市市内遺跡確認調査概報—2003年度—』





第138図 82-3 SX021① 姫島産黒曜石製大形石核実測図 (1/3)

## XXIV 横尾遺跡第89次調査B-8地点

調査面積 約228㎡ 調査期間 2003.10.30～03.11.26

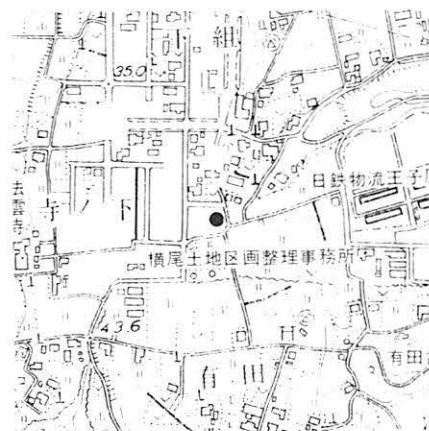
地域 E 調査担当 塩地潤一

調査地は、大分市大字横尾字無田に位置し、大野川の分流・乙津川の左岸に沿って南北方向に広がる鶴崎台地上の標高約31m地点に所在する。字図によれば、現存する禪宗寺院・増上山法雲寺から東西方向に伸びる旧道に隣接し、既往の調査成果により当該地の東側一帯には戦国期に比定される方形館跡の存在が指摘されていることから、道路状遺構の検出はもとより、法雲寺ならびに方形館跡との関連性を示唆する調査成果が期待された。

さらに、法雲寺周辺にあたる字寺ノ下一帯には、これまでの調査によって古代の粘土採掘坑群の存在が指摘されており、隣接する当該地においても粘土採掘が行われた可能性が想定された。

今回の調査は、淡黄色粘質土層を基盤面として道路状遺構をはじめ、溝状遺構や不定形土坑などが検出されている。道路状遺構については、調査区南壁に沿って東西方向に確認されたもので、掘り込み地業を伴い、その床面には砂礫土層による路面と側溝と判断される溝状遺構が敷設されている。調査区南東隅において、北側に屈曲する可能性が示唆され、字図上の道路と符号する。また、最低1回の路面改修が行われており、改修段階以降に灌漑施設として土管が埋設されている。道路状遺構からは、肥前型紙刷り碗の出土が認められることから、19世紀後半に比定される。

その他の遺構群については、出土遺物が皆無であり、詳細な時期は確定できていない。さらに、今回粘土採掘を示唆する遺構については、検出できなかったものの、淡黄色粘質土の下位において良質な淡青白色粘土層の広がりが見られたことは注目され、今後の周辺調査が期待される。(塩地)

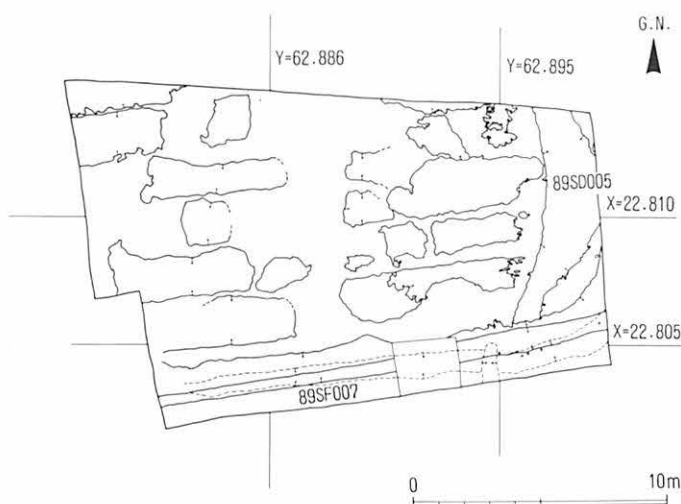


第139図 調査地点位置図



第141図 調査区全景(東より)写真奥が法雲寺

横尾遺跡  
第89次調査  
B-8地点



第140図 遺構略測図 (1/3)



第142図 道路状遺構土層観察状況(東より)

## XXV 横尾遺跡第90次調査C-21・22地点

調査面積 1,000㎡ 調査期間 2003.12.01～04.02.02

地域 E 調査担当 塩地潤一・江上正高・衛藤亮介

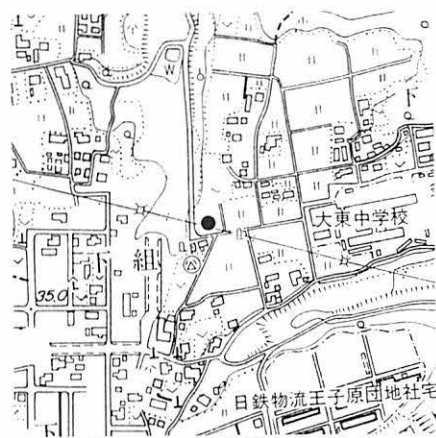
調査地は大分市大字横尾字利尾に位置し、大野川分流・乙津川左岸に沿って南北方向に広がる鶴崎台地の尾根上、標高約30m地点にあたる。本調査区は東から西へ緩やかに下って傾斜しており、西側には北側へ向けて大きく開口する谷部が存在する。さらに、南側には乙津川に向けて横尾地区最大の谷が東側に開口し、その縁辺部には、縄文時代の集石遺構や遺物包含層が確認されている。また、本調査区の南側隣接部に16世紀代の掘立柱建物群が確認されている第84次調査区、本調査区東部には弥生時代後期の環濠集落跡である多武尾遺跡など、周辺地に縄文時代～近世にかけての遺構群が確認されている。

今回の調査では、縄文～近世にかけての遺構および遺物が確認された。以下に各時代の様相についてまとめる。

### 縄文

当該期の顕著な遺構は検出されなかったものの、調査区東側において縄文時代後期前葉に比定される深鉢を内包する地層横転遺構(90SX054)が確認されている。後述する掘立柱建物跡との新旧関係が認められ、少なくとも建物構築以前のものと判断される。

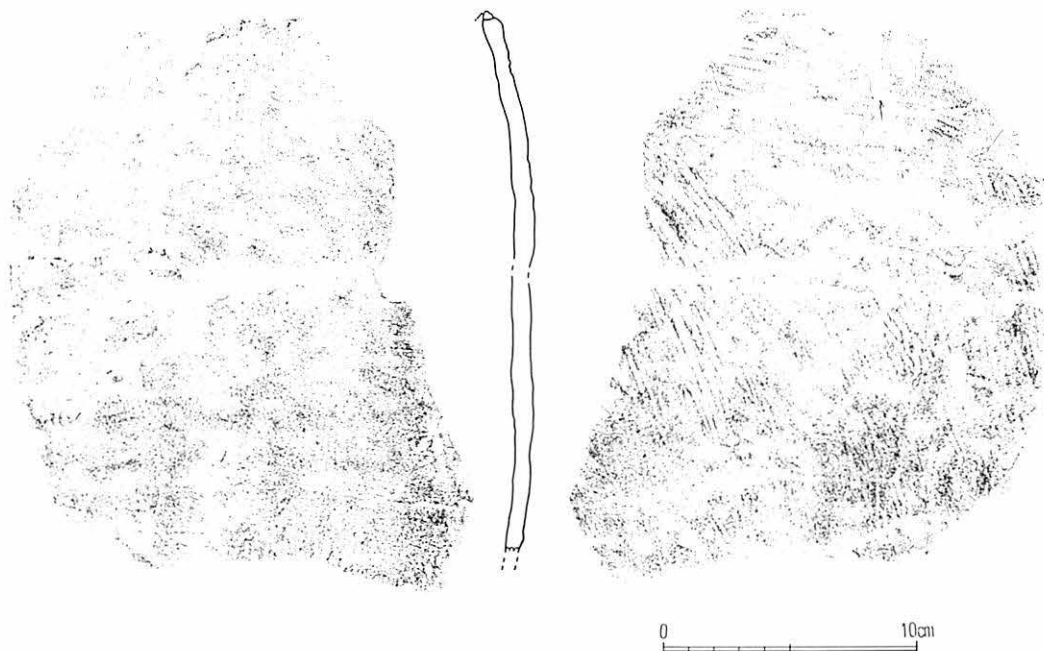
今回の調査においては、当該遺構の詳細な検討を行っていないため、深鉢の混入状況を明確にすることは困難であるものの、出土した深鉢については、地層の横転に伴って遺構内に混入したもの、もしくは横転後の最終埋没段階で内包されたものと想定される。破片は



第143図 調査地点位置図



第144図 土器出土状況



第145図 縄文土器実測図 (1/3)

比較的大きく、遺存状況も良好であることから、当該地には、少なくともすでに削平され現認できない縄文時代の堆積土層が存在した可能性が示唆される。

#### 古 代

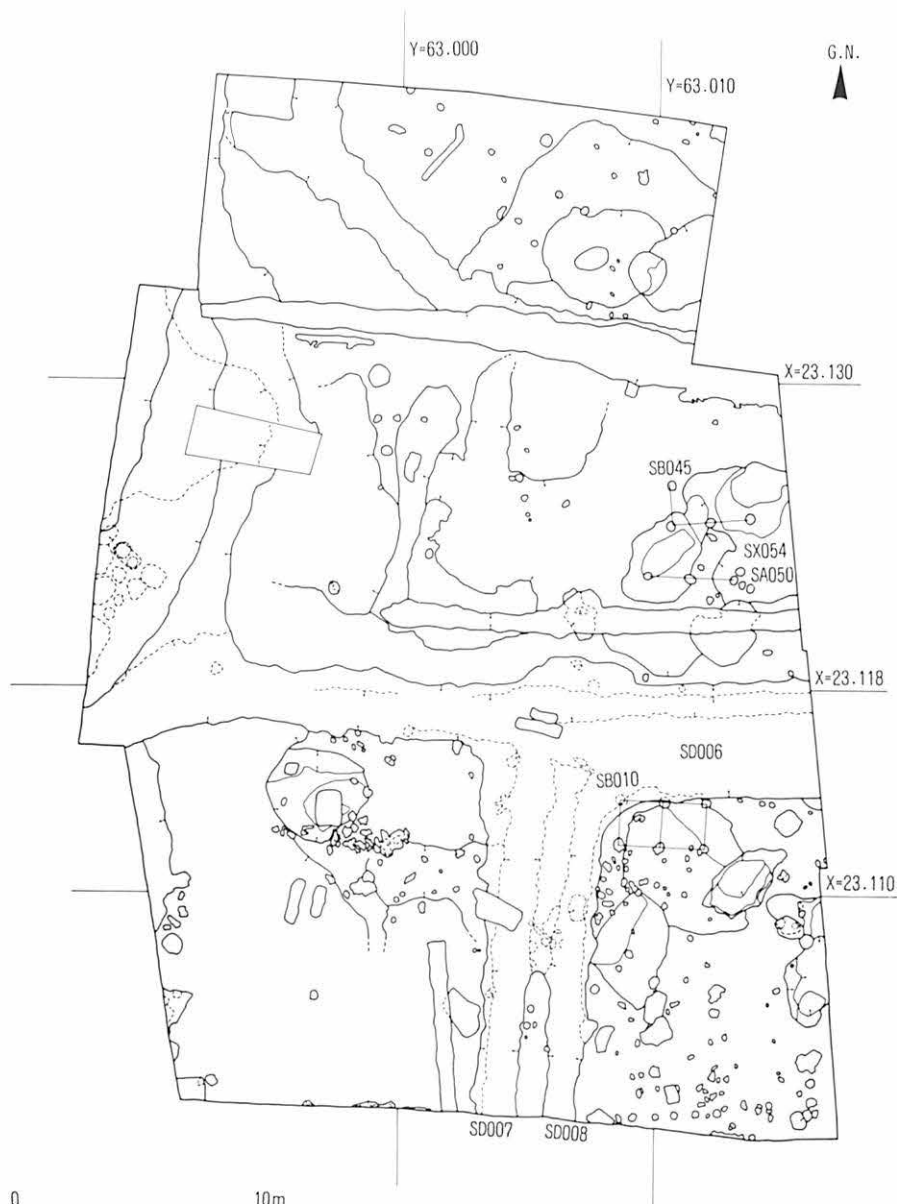
当該期の遺構としては掘立柱建物跡をはじめとして、北側に大きく開口する谷部に直行する形で確認された埋没谷の遺物包含層などが検出されている。

掘立柱建物跡については、90SB010・SB045が相当する。

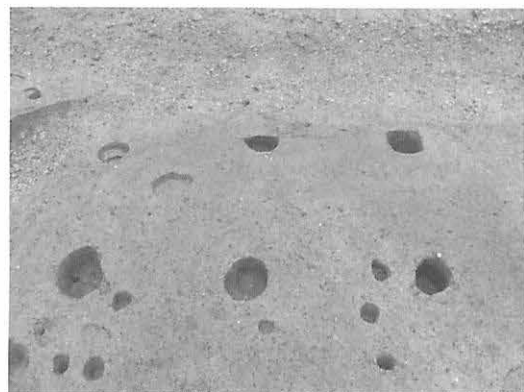
90SB010については2間×1間以上の総柱建物跡である。溝状遺構(90SD006)によって一部削平されており、本来はさらに北側に展開していたものと考えられる。出土遺物は古代に比定される土師器坏片が出土したが、小片のため詳細な時期は断定できない。

90SB045については調査区東側、SX050の北側に展開する。柱穴は一部確認されなかった箇所があるものの、柱穴の深さは各々5cm～13cmと浅く、本来は2間×1間以上の南北棟と想定される。

遺物包含層については、大きく2層に区分され、上層は茶褐色土層、下層は黒茶褐色礫土層が堆積している。



横尾遺跡  
第90次調査  
C-21・22地点



第147図 90SB010全景 (南より)



第148図 90SB045全景 (南より)

検出段階では、谷と台地上を結ぶ道路状遺構である可能性を想定していた遺構の堆積土層にあたる。調査の結果、福岡県砥上上林遺跡などで見られる波盤状凹凸面や硬化面など道路状遺構と認識できるような現象は確認されなかった。また、上記の堆積土層については当調査区内の基盤土層と同様に礫を多量に含むことから、基盤土層の崩落により形成されたものと想定される。埋没時期については、土師器坏aが出土しており、その帰属年代より8世紀末～9世紀代に比定される。

#### 近 世

当該期の遺構としては溝状遺構(90SD006、007、008)が相当し、現状で「T」字状に配置された一連の遺構と判断されるものである。出土遺物については16世紀後半に比定される京都系土師器皿をはじめとして、唐津溝縁皿や京焼風陶器碗、刷毛目唐津皿片などが出土しており、刷毛目唐津皿片の帰属年代から遺構の埋没年代については18世紀後半～19世紀中頃に比定される。これらの埋土はすべてブロック土を基調とするため人為的に埋め戻されたものと考えられ、流水ならびに滞水の痕跡も確認されなかったことから当該遺構については区画溝として機能していたものと想定される。

一方、90SD007・008については調査区南側に隣接する第84次調査地において検出された、19世紀前半以降のものと判断される84ASD009・013と同一の遺構であることが確認されており、その埋没年代ともほぼ符合するものである。

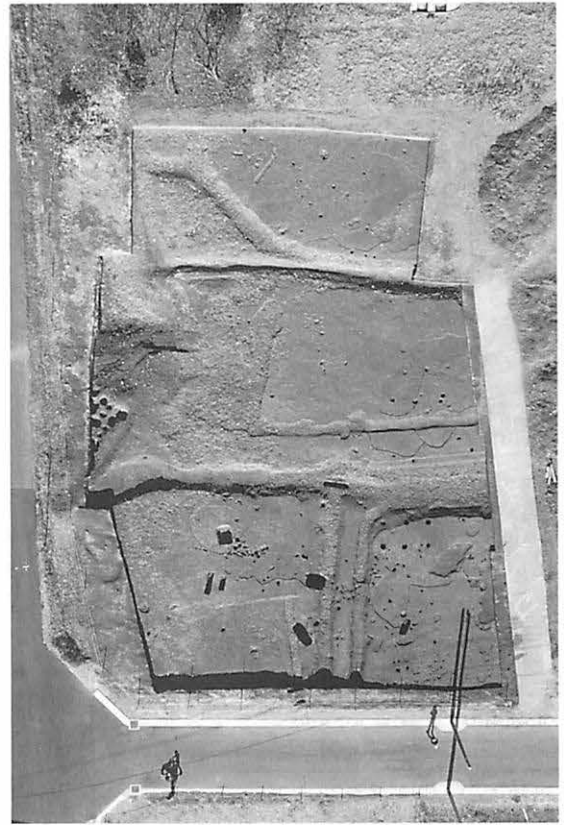
#### まとめ

今回の調査では、縄文時代～近世にかけての遺構および遺物が確認された。

縄文時代については、顕著な遺構は確認できなかったものの、少なくとも当該期の堆積土層が存在していた可能性を示唆することができた。今回の調査成果より調査区南側に位置し、乙津川へ向けて東側に開口する当該地区最大の谷の縁辺部一帯にも縄文時代の遺構が展開している蓋然性はさらに高まったと判断される。

また、古代の遺構についても、縄文時代同様に顕著な遺構は確認されなかったものの、すでに鶴崎台地上における古代の遺跡については8世紀末～9世紀前半頃を中心として新たに大規模な遺跡の形成ならびに展開が見受けられることが指摘されており(塩地2004)、今回の調査成果は、断片的ではあるものの、先行研究の遺跡存続傾向と矛盾しない結果となっている。本遺跡における既往の調査成果も踏まえ、当該期の遺構の位置づけについてはこれまで以上に重要視する必要がある。

また、近世については、区画溝が検出されている。これらの溝状遺構は現状地割と符合するものであり、少なくとも19世紀中頃までには形成されていたものと判断される。(衛藤)



第149図 調査区全景

#### 参考文献

- 小池史哲1993『砥上上林遺跡 I』 福岡県教育委員会
- 渡部徹也1994「古道について―主に官道以外の事例から―」『古文化談叢』第33集 九州古文化研究会
- 塩地潤一2004「豊後国における8・9世紀の遺跡動向―乙津川流域を中心として―」『第7回西海道古代官衛研究会資料集』西海道古代官衛研究会



## XXVI 横尾遺跡第91次調査D-37地点

調査面積 1,069m<sup>2</sup>

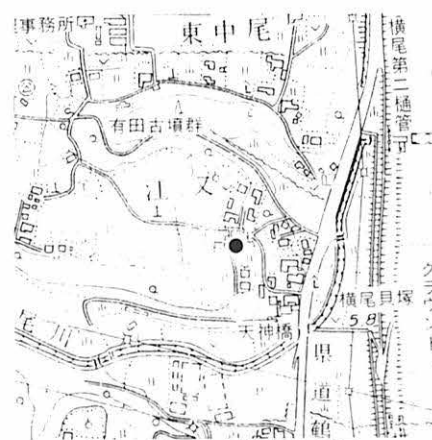
調査期間 2004.02.02～04.03.31

地 域 E

調査担当 塩地潤一・江上正高・衛藤亮介

調査地は大分市大字横尾字江又に位置し、大野川の分流、乙津川左岸に沿って南北方向へ広がる鶴崎台地東端段丘部の標高約20～23m地点にあたる。調査区北側には乙津川へ向けて東側に開口する谷部が存在し、既往の調査成果より、この谷部に結節し、北側へ開口する小さな埋没谷の存在が想定され、その一帯に横尾貝塚、ならびに縄文時代後期前葉頃に比定されるドングリ貯蔵穴群をはじめ、同早期末頃に比定される「水場の遺構」ならびにカゴに収納された姫島産黒曜石などが発見された第82次調査地点が位置する。また、調査区南側には9世紀前半代の竪穴遺構や掘立柱建物跡が発見された第43次調査地点が存在する。

この北側に開口する谷を埋める中世段階の大規模造成に伴って、縄文時代の遺物が大量に廃棄されており、その遺存状態ならびに廃棄の方向から当該地一帯が縄文時代後期前葉頃における居住空間として機能していた最有力候補地と想定されるため、調査対象地に6本のトレンチを設定し、確認調査を実施した。調査の結果、各トレンチにおいて古代～近世にかけての遺構群が検出された。以下に各時代の様相についてまとめる。



第150図 調査地点位置図

### 古 代

調査区南西部の第5トレンチにおいて、柵列跡(SA090)ならびに数多くの土坑群が検出されている。検出段階出土遺物からは詳細な年代は断定できていないものの、南側に所在する第43次調査地において9世紀前半代の竪穴遺構や掘立柱建物跡が検出されていることから近接する時期のものである可能性が想定される。

さらに、先述の谷を埋める中世段階の造成土層からは官衙遺跡通有の風字硯や越州窯系青磁碗、緑釉陶器、刻書土師器蓋等の優位性が認められる遺物が出土しており、本調査区の西側台地上に位置する第88次調査区においては、火葬墓の可能性が想定される9世紀代の方形周溝遺構が確認されている。狭川(1998)によれば、古代の火葬墓については、郡司候補者として認められた有力氏族の墓である可能性が指摘されており、当該地周辺部の調査によって出土している遺物様相については氏の見解を跡づけるものと判断される。今回の調査ではその存在を示唆する成果は得られなかったものの、本調査区内に当該期の遺構の展開が確認されたことは看過できず、埋没谷の造成土層から出土した優位性が認められる遺物群との関連性が想定される。

### 中 世

当該期の遺構としては調査区北西部の第3トレンチにおいて、埋納遺構、掘立柱建物跡などが確認されている。

掘立柱建物跡については91SB060・065・075が相当する。

SB060は1間×3間以上の南北棟であり、出土遺物としては小野分類のB1群に相当する染付皿片が確認されており、15世紀末～16世紀中頃に比定される。

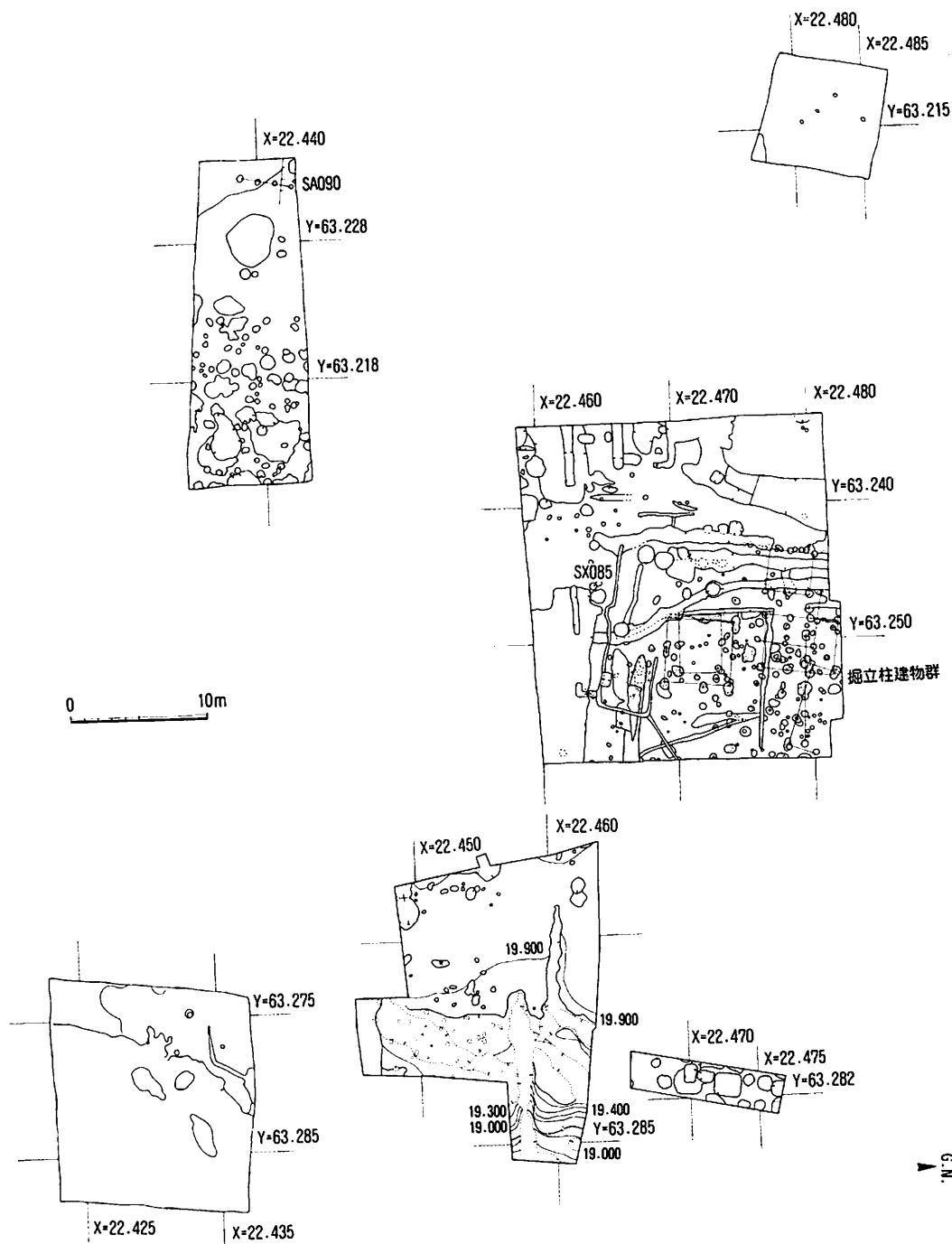
SB065は1間×2間以上の南北棟であり、調査区外にまで展開する。主軸は南北方向を示し、SB060に並行する形で検出さ



第151図 掘立柱建物跡群

横尾遺跡  
第95次調査  
D-37地点



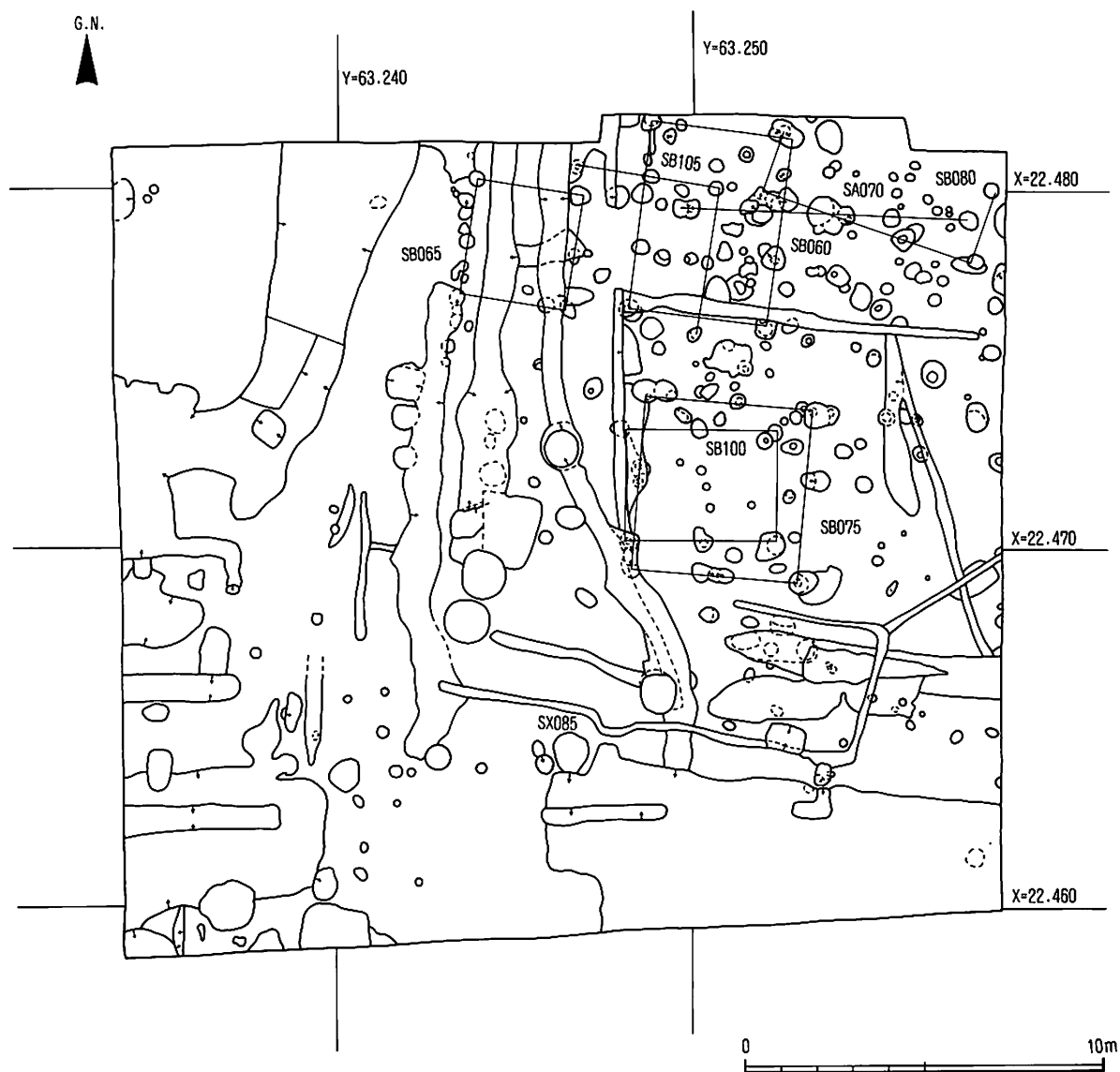


第152図 遺構実測図 (1/500)

れている。出土遺物は僅少であり、時期は断定できないものの、SB060と同時期のものと想定される。

SB075は平面方形プランを呈す2間×2間の建物跡である。SB060・065の主軸方向とほぼ一致することから、これらと併存していた可能性が示唆される。

埋納遺構については91SX085が相当し、第3トレンチ南側にて確認されている。平面プランについては隅丸方形を呈す土坑であり、完存の京都系土師器皿と漳州窯系染付皿片が出土している。埋土は2層に分層され、上層は黒褐色土、下層は暗茶色ブロック土である。京都系土師器皿と漳州窯系染付皿は共に黒褐色土層に内包され、他に土坑内からの出土遺物については皆無である。また、漳州窯系染付皿片については、隣接する遺構から出土した同染付皿片と接合関係が認められ、本来完存の皿が埋納されていたと判断される。時期については両者の帰



横尾遺跡  
第95次調査  
D-37地点

第153図 第3トレンチ遺構略測図 (1/200)

属年代より16世紀末頃に比定されるものである。

横尾遺跡における16世紀代の遺構群については、台地上において方形館跡が確認されており、今回確認された遺構群との関連が注目される。

近世

当該期の遺構としては調査区北西部の第3トレンチにおいて、掘立柱建物跡、柵跡が確認されている。

柵列跡については91SA070が相当し、東西方向に展開する。唐津系陶器碗が出土しており、17世紀初頭～中頃に比定される。

また、掘立柱建物跡については91SB100が相当し、2間×1間の東西棟である。出土遺物は細片のため時期比定は困難であるものの、SA070と同じ主軸方向を呈すことから、同時期のものと考えられる。

この他にも時期不明ながら第3トレンチにおいて掘立柱建物跡（91SB080・105）が確認されている。

SB080は現状で3間×1間のコの字状を呈す柱穴列であるが、その大半が調査区外に展開している事が予測される。SB060およびSA070との位置関係から同時性は認められない。

SB105は2間×2間以上で、調査区外に展開し、建物跡になる可能性が想定される。主軸方向はSB060・065・075と同じであるものの、SB060との位置関係から同時性は認められない。

以上のことから当調査区における建物跡ならびに柵列跡については15世紀末～16世紀中頃にSB060・065・075が構築される段階から、17世紀初頭～中頃にSA070・SB100、それに前後するSB080・105が構築される段階の少なくとも三段階の遺構変遷が想定される。

#### まとめ

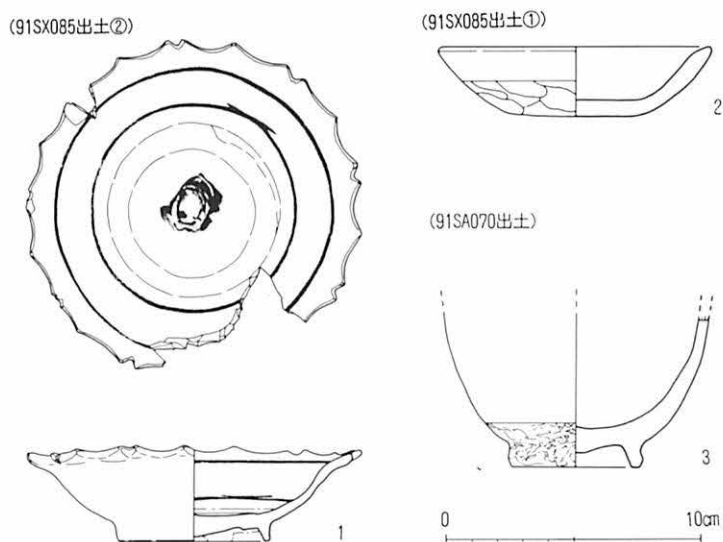
今回の調査では、すべてのトレンチにおいて遺構を確認することができた。その大半は15世紀末～17世紀中頃に比定される遺構群であるものの、当該地一帯に古代～近世にかけて遺構が形成された可能性を示唆する成果と判断されるものである。また、今回当該地に遺構が検出されたことを踏まえれば、古地形復原を行うに当たり、現況地形の検討が有効である蓋然性が高くなったと考えられる。

先述のとおり、当該地周辺は北側には乙津川へ向けて東側に開口する谷が存在し、この谷部に向けて北側へ開口し、連結する可能性が認められる小さな埋没谷の存在が想定されており、当調査地はこの埋没谷の西側丘陵部に位置することになる。当該地の現況は水田耕作により概ね平坦に造成されているものの、今回の調査成果より、当該地は乙津川に向けて開口する谷とそれに直行する形で確認された埋没谷に向かって北東方向へ延びる緩斜面地であった可能性が示唆される。埋没谷には縄文時代の遺構はもとより、縄文時代に比定される土器や石器を大量に内包する中世の大規模造成土の存在が明らかとなっており、遺物の出土状況から縄文時代の遺物が本来内包されていた遺構群、つまり縄文時代の遺構群についても至近の場所に形成された可能性が指摘されている。以上のことから、今回の調査

では縄文時代の顕著な遺構については検出されなかったものの、当該地一帯の緩斜面地については、依然として縄文時代後期前葉頃における居住空間として機能していた最有力候補地である蓋然性は高いと判断される。更なる調査の進展に期待したい。(衛藤・塩地)

#### 参考文献

狭川真一 1998「古代火葬墓の造営とその背景」『古文化談叢』第41集 九州古文化研究会



第154図 遺物実測図 1・3(1/4)・2(1/2)



第155図 第3トレンチ全景

## XXVI 若宮八幡宮遺跡第1次調査

調査面積 2,700m<sup>2</sup> 調査期間 2003.07.28～04.03.31

地 域 A 調査担当 後藤典幸・上野淳也・水町裕子・吉本明弘・秦さとみ

若宮八幡宮遺跡は、遺物が表面採集されることから遺跡として周知されていた。しかし、当調査に到るまで発掘調査がおこなわれることは無く、今回の調査が初の本格的発掘調査となった。

遺跡は、大分川によって形成された沖積地中、上野丘陵北側の微高地上に位置する。遺跡周辺は、試掘調査の結果等から、微高地の周囲は湿地帯であったと考えられる。微高地は、遺跡東南側へと連なるが、「津田ヶ島」という字名が残されており、かつては、湿地帯或いは水田に浮かぶ島のように見えたことを反映するものと思われる。

今回の調査成果により、遺跡が多数の竪穴建物跡・掘立柱建物跡によって形成される古墳時代を中心とする集落遺跡であることが判明した。

遺構としては、縄文・弥生・古墳時代、近世の遺構が確認されている。

縄文に帰属する遺構としては、後期の貯蔵穴跡と考えられる遺構が1基確認されたのみである。

弥生時代に帰属する遺構としては、中期の貯蔵穴跡（SK115）、後期の竪穴建物跡（SH360）とそれを囲む溝状遺構（SD380）、井戸跡（SE096）等が確認されている。溝状遺構（SD120）に関しては、縄文時代後期～晩期・弥生時代早期～中期までの遺物を多量に含んでおり、埋没過程における検討を要する。なお、この溝状遺構からは、管玉の未製品や、それら玉類製品の素材となると考えられる緑泥片岩・蛇紋岩等が出土しており、次の古墳時代における玉類製品製作関連遺構の出現を予感させる遺物が出土している。

この時代において、特に注目される遺構としては、周囲を楕円の溝（SD380）で囲まれた方形竪穴建物跡（SH360）が挙げられる。この建物跡は、約半分を古墳時代の建物跡（SH140）に削平されているが、多量の弥生後期の土器が廃棄された状況で検出した。

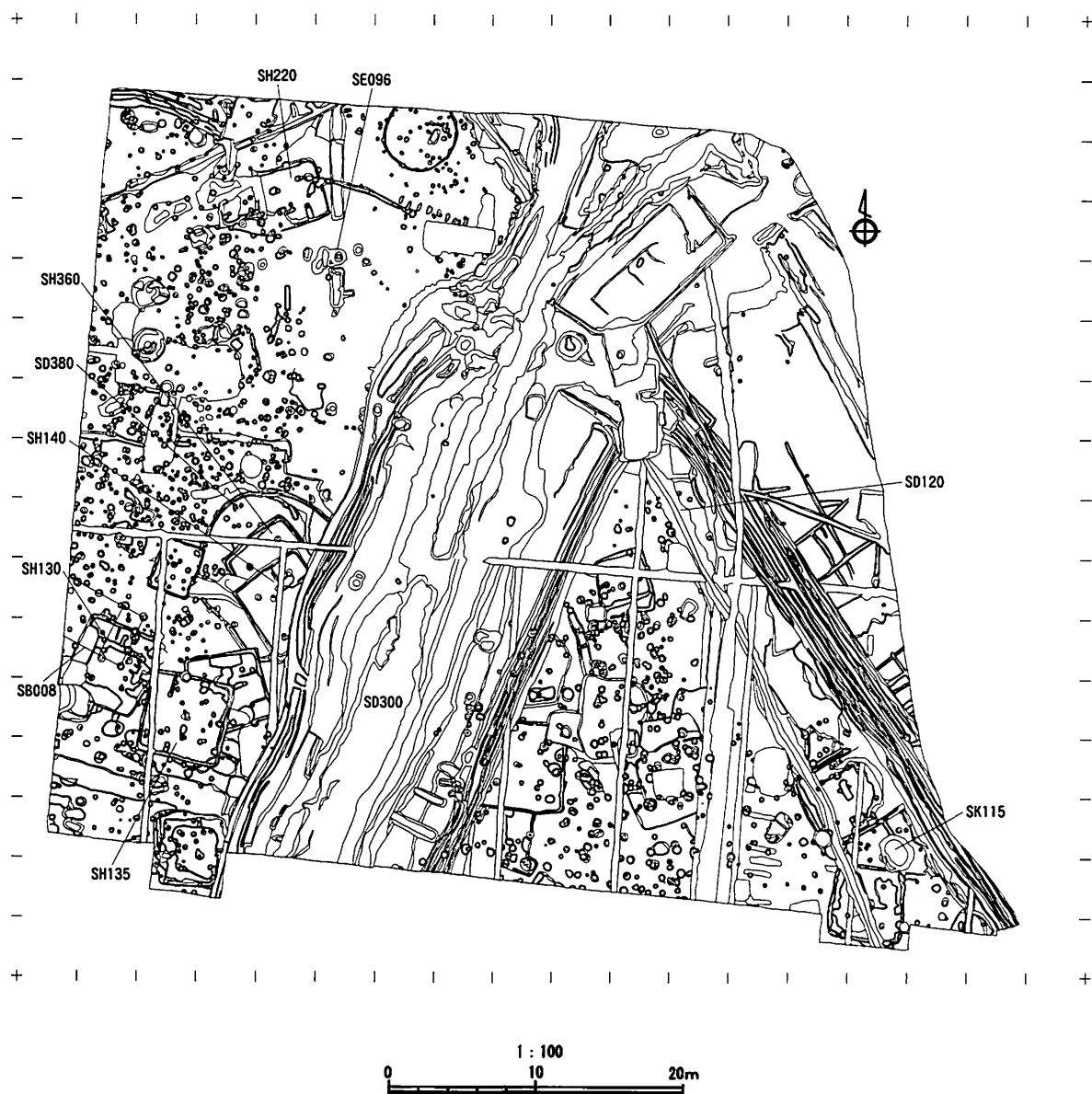
古墳時代に帰属する遺構群は、当調査における主要遺構群である。検出された遺構は、17軒の竪穴建物跡と16棟の掘立柱建物跡、溝状遺構等が挙げられる。出土遺物から、大半の竪穴建物跡及び掘立柱建物跡群が5世紀末～6世紀の中において形成され、そして廃絶したことがわかる。集落遺跡として積極的に評価できるのは、この時期の遺構群である。



第156図 調査地点位置図



第157図 調査区全景(南方向より))



第158図 遺構配置図(1/400)

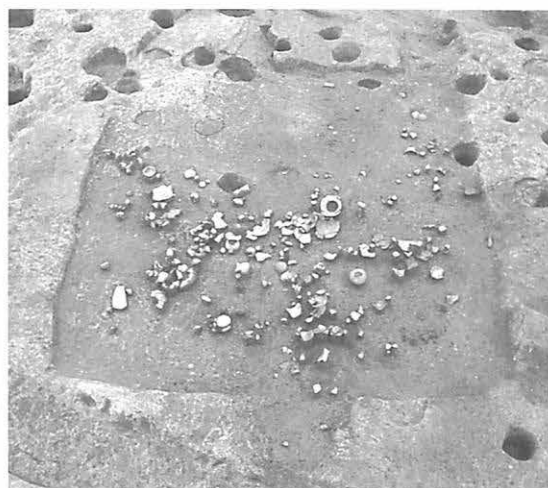
古墳時代の注目される遺構としては、玉類製品製作関連遺構が確認されている。SH130・SH135・SH220の3軒の竪穴建物跡からは、素材である蛇紋岩や緑泥片岩、穿孔の道具である石針、玉砥石、平砥石、台石、未製品などの玉類製品製作関連遺物が出土している。SH135からは、MT15・TK10並行、SH220からは、TK47併行の須恵器杯が出土している。特徴として、SH130・SH135に関しては、6世紀の竪穴建物跡にもかかわらず、カマドを持たずに中央に地床炉を設けている点が挙げられる。

SH130からは、蛇紋岩製の小玉と共に、穿孔の道具である石英製石針が一点確認されている。しかし、6世紀段階における玉類製品の加工に関しては、通常、鉄器を用いた加工が想定されている。ただし、当遺構は、遺構埋土中に弥生時代の遺物を若干含むため、この石針が古墳時代に帰属するものであるかどうかに関しては、留意が必要である。

SH135は、遺物が豊富で、土師器のミニチュア土器・碗・鉢が多数出土している。また、甕・壺・甔・製塩土器・土製鞠羽口なども出土している。須恵器としては、坏身・坏蓋・甕片が出土しており、5世紀末～6世紀前半の時期を示すが、2、3型式が混在している状況にある。玉類製品としては、蛇紋岩製の小玉や勾玉、ガラス玉が



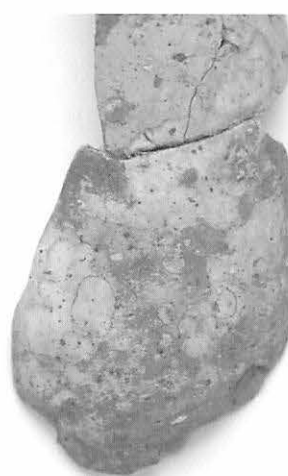
第159図 SH135遺物検出状況



第160図 SH220遺物検出状況



第161図 大阪湾岸産製塩土器



第162図 大阪湾岸産製塩土器  
器面二次焼成状況

出土している。また、注目すべき出土遺物として、大阪湾岸産の製塩土器が挙げられる。この製塩土器は、いわゆる「丸底Ⅰ式」と呼称されるタイプで、SH135・SH140の両堅穴建物跡からのみ出土が確認されている。大阪湾岸において、丸底Ⅰ式が盛行する時期は、5世紀末を中心とした前後の時期と考えられており、須恵器から導き出される当遺構の年代観としては下限において若干の齟齬が見られ、今後の検討が必要である。

SH220からは、須恵器坏身・坏蓋、土師器壺・甕・土製轆羽口・椀形滓・砥石などが出土している。注目される遺物としては、完形の滑石製紡錘車が周溝から出土している。また、製作工程において二つに割れたと考えられる滑石製紡錘車の未製品が、柱穴跡から出土している。他の玉類製品としては、小玉が出土している。未製品の鑿痕から、成形は、鉄製品でおこなわれていたことが推察される。当遺構からは、鍛冶関連遺物も出土しており、鉄製品の加工もおこなわれていた可能性が指摘される。共伴遺物である須恵器から、5世紀末の埋没時期を想定している。

掘立柱建物跡に関しては、16棟中、2×2の総柱建物跡が3棟確認できる。8号掘立柱建物跡（SB008）に関しては、6世紀後半代に比定される須恵器の坏身が出土しており、今後、掘立柱建物跡群と堅穴建物跡との併行関係の検討が課題である。

近世に帰属する遺構として、SD300が確認されている。SD300は、調査区を東西に分断する南北に走る巨大な溝状の遺構である。SD300は、その埋没過程から、当初、溝として機能していたものが水田に転用されたものと



考えられる。便宜上、溝として機能していた前者をSD300a、水田として機能していた後者をSD300bとする。SD300aに関しては、初期伊万里を最新として、縄文時代までの遺物が大量に含まれていた。水田層たるSD300 bに関しては、やはり縄文時代～近世全般にわたる陶磁器が出土している。

注目すべき事象として、SD300 bから出土した磁州窯壺と、六坊所在の中世府内町跡出土品との遺跡（遺構）間接合が確認されている。SD300 bには、中世遺物が多く見受けられ、近世期に中世府内町跡を掘削して得た造成土が、当調査区に客土としてもたらされたものと考えられる（通称・六坊客土）。問題は、掘削先である中世大友府内町跡における造成土の掘削地点がいずれの地点に所在するかという点である。この六坊客土には、漳州窯系染付大皿や龍泉窯系青磁酒海壺・番炉、中世寺院に使用されていたと考えられる鬼瓦等が含まれており、寺院が多く存在したと想定されている六坊エリアの様相を伝える遺物群であると考えられる。SD300 bは、龍泉窯系青磁碗や同安窯系青磁碗、緑釉陶器、古代瓦などの重要遺物を多量に含み、また、7世紀～16世紀までの遺物を多量に含む。

#### まとめ

『国造本紀』に見られる大分国造に関しては、少なくとも6世紀代には設置されていたと考えられている。一方、大分川下流域における古墳時代の集落が6世紀末前後に一斉に途絶えてしまうという現象が指摘されている。当調査においても、やはり、6世紀後半には途絶えてしまうという同様の調査結果を得ることとなったが、当調査によって検出された6世紀後半代に形成される庇付きのSB008号掘立柱建物跡や総柱建物跡群は、調査区西側に展開する状況が見受けられる。生産地として活用されたと考えられる湿地帯に接する微高地として、立地的にも好条件を備える当遺跡は、拠点的な集落或は、豪族居館跡である可能性も有し、今後の校舎建設に伴う西側の調査に期待が寄せられる。（上野）

#### 参考文献

広瀬和雄 1994「大阪府」『日本土器製塩研究』近藤義郎編

## XXVIII 米竹遺跡確認調査

調査面積 24(38.21)㎡

調査期間 2003.05.19～03.05.23

地域 A

調査担当 塔鼻光司・宮田剛・梅木信宏

今回の調査地は、大分市大字小池原字野地前1番2・3番3に所在し、鶴崎丘陵の北側、標高約41mの平坦面に位置し、周知遺跡の米竹遺跡の南端部分にあたる。周辺では数回調査が行われており、2003年3月にも大分市教育委員会により確認調査がなされており、弥生時代中期～後期の貯蔵穴及び竪穴建物などが検出されている。数度の調査により環濠集落の一部と考えられる。東側には、弥生時代中期～後期と古墳時代の集落跡や古代の大型掘立柱建物群が検出された地蔵原遺跡、南東には後期旧石器時代、弥生時代中期の集落や後期の環濠集落がある尾崎遺跡があり、遺跡が集中する箇所である。

共同住宅建設に伴う調査を平成15年5月19日～23日に、浄化槽などの掘削予定地部分に限り調査を実施した。調査の結果、中世の溝1条、時期不明の土坑2基、柱穴などを確認した。

調査区内にコンクリート壁などが残っていたために便宜的に調査区を東側のA区と西側のB区とに分けた。A区約6㎡、B区約18㎡である。主要遺構は、調査区の南側に沿って北から西に80°振れる、ほぼ東西方向の溝(SD01)が検出された。長さ8.3m以上、復元幅約2m、深さ0.7mで、断面幅広のU字形である。1回の掘り返しがある。遺物が少量のために時期が特定しづらいが、備前焼播鉢小片が埋土に含まれていたことから中世期に属し、流れ込んだ礫の中に凝灰岩製の五輪塔の空輪が含まれ、その形態から戦国期と考えられる。溝埋土に流水の痕跡は見られず、耕作に伴うものとは考えられない。周囲の地形は、鶴崎丘陵の北側先端平坦面が本調査地点で終わり、南側にはほぼ東西方向の浅い谷部が入る地点に当たっており、この溝(SD001)はこの地形にほぼ沿っている。

土坑は、平面楕円形で長さ1.10m以上、幅0.76m、深さ0.06mのもの(SK02)と長さ0.88m、幅0.46m、深さ0.09mのもの(SK03)があるが、遺物が出土していないため、中世期の溝に切られていることからそれ以前としか分らない。

そのほかには遺物が出土しないために時期不明のpitが溝SD01の北側に展開するが、建物などを構成するものではなく、性格などは不明である。

なお周辺遺跡では後期旧石器時代の遺物が出土しているために、調査区内に約2×1mのトレンチを設けてハードルームまで掘り下げたが遺物は出土しなかった。(宮田)



第163図 調査地点位置図



第164図 B区完掘(西から)



第165図 B区SD01  
(西から)

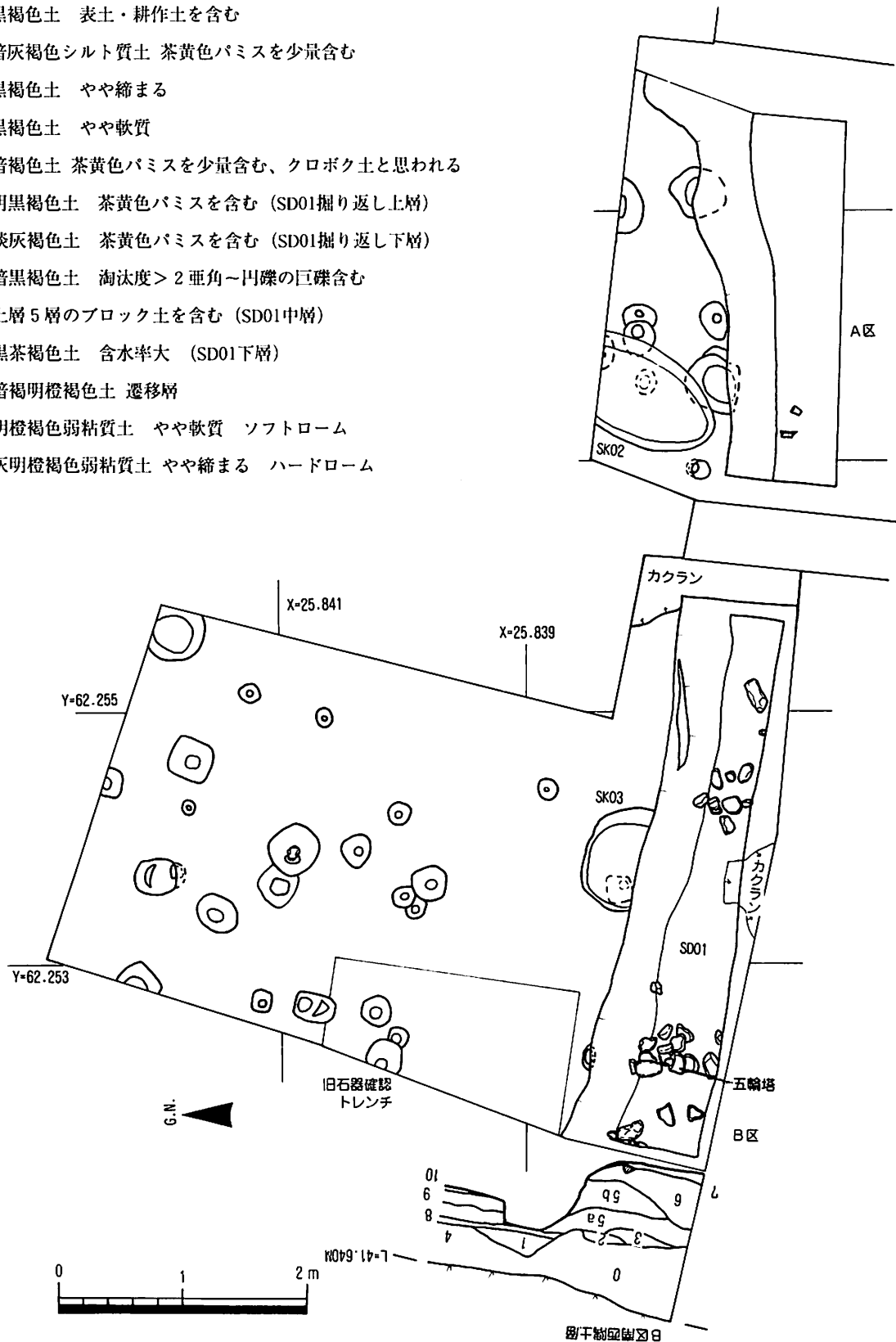
米竹遺跡  
確認調査

参考文献：塔鼻光司 1992 「米竹遺跡」『大分市埋蔵文化財年報vol.3』 大分市教育委員会

塔鼻光司・松竹智之・梅木信宏 2004 「米竹遺跡」『大分市埋蔵文化財年報vol.14』 大分市教育委員会

B区南西隅土層

- 0 黒褐色土 表土・耕作土を含む
- 1 暗灰褐色シルト質土 茶黄色パミスを少量含む
- 2 黒褐色土 やや締まる
- 3 黒褐色土 やや軟質
- 4 暗褐色土 茶黄色パミスを少量含む、クロボク土と思われる
- 5a 明黒褐色土 茶黄色パミスを含む (SD01掘り返し上層)
- 5b 淡灰褐色土 茶黄色パミスを含む (SD01掘り返し下層)
- 6 暗黒褐色土 淘汰度>2 亜角~円礫の巨礫含む  
上層5層のブロック土を含む (SD01中層)
- 7 黒茶褐色土 含水率大 (SD01下層)
- 8 暗褐明橙褐色土 遷移層
- 9 明橙褐色弱粘質土 やや軟質 ソフトローム
- 10 灰明橙褐色弱粘質土 やや締まる ハードローム



第166図 遺構平面図及びB区南西隅土層図 (S=1/50)

## XXIX 下郡遺跡群確認調査①

調査面積 11(1361)m<sup>2</sup> 調査期間 2003.05.09, 06.24～07.11

地域 E 調査担当 塔鼻光司・梅木信宏・宮田剛

調査地は下郡遺跡群の西側で、B区14g調査区の付近にある。事務所建設に伴う確認調査を平成15年5月9日に行い、遺跡が確認されたので申請者と協議し、遺跡の大部分は盛土保存が行われるが、浄化槽設置のため破壊される部分を6月24日～7月11日に確認調査を行った。

### S-06溝状遺構（第170図[上層]）

S-06は、調査区南側をほぼ東西方向に横切る浅い溝状遺構で、長さ8.9m以上、幅1.2m以上、深さ0.15mである。S-01に切られ、ほぼ並行するS-10溝状遺構を切っているが、S-10の掘り返しの可能性もある。板状鉄斧（第173図23）が落ち際から出土した（第170図左下）。

### S-06溝状遺構出土遺物（第173図1～3, 5～12, 22, 23）

1は、下城式壺の胴部片である。半載竹管を用いた二条単位沈線を4組施文する。器表面は沈線後にナデられ、一部沈線がナデ消されている。2は、壺口縁部片である。須玖式の影響を受けた鋤先状口縁を呈す。3は、東北部九州系甕口縁部片である。口縁端部を上方につまみ上げている。5は、下城式壺肩部片である。頸部に一条以上、胴部上半に半載竹管を用いた二条単位沈線を2組、胴部中位に2組施し、そこから2本組で垂下する。器表面は沈線施文後に、軽くナデられている。6・7・8・9は、下城式甕口縁部片である。口唇端部に刻目を持つもの（8・9）ともたないもの（6）、器面調整として外面にハケ目を持つもの（8）と持たないもの（6・7・9）がある。10は、杓形土製品である。手捏ね成形で、柄部は右側にやや屈曲する。杓部下部には黒斑が見られる。柄部が折損する他、杓部上縁のほとんどが失われているが、意図的な打ち欠きかどうかは分からない。杓部右側縁は他の部分より低く、注ぎ口部と考えられる。11は、甕口頸部片である。内面に一部赤彩がある。12は、甕底部片である。22は、粘板岩製の柳葉形磨製石鏃である。正面上部右側に器体成形時の剝離痕が残り、扁平な素材を側縁から器体中心に向かって薄い剝離をし成形を行っている。磨きによる仕上げ整形は、正面が丁寧で、裏面がやや粗い。磨りの切り合いから器軸方向の運動で全体を薄く平滑に整えた後、斜め方向に鏝の面を整え、最後に器軸に直角方向にエッジを付けている。左右刃部には1～2mm程の刃毀れ以外にも、微少な連続する剝離痕が見られ、使用痕であろう。但し左側縁上部の傷はガジリである。現存長41.8mm、最大幅16.3mm、最大厚2.9mm、重さ2.6g。23は、基部をわずかに欠損する板状鉄斧である。鉄質が良く、保存状態も良くメタルが残っている。刃部幅より基部幅が狭く、両側縁はほぼ直線的な縦長の梯形である。長さ11.25cm、幅3.95cm、厚さ8.0cm、重さ176g。

遺物から、主体は弥生時代中期中頃～後半であるが、11は後期中頃まで下



第167図 調査地点位置図



第168図 板状鉄斧出土状況(南から)

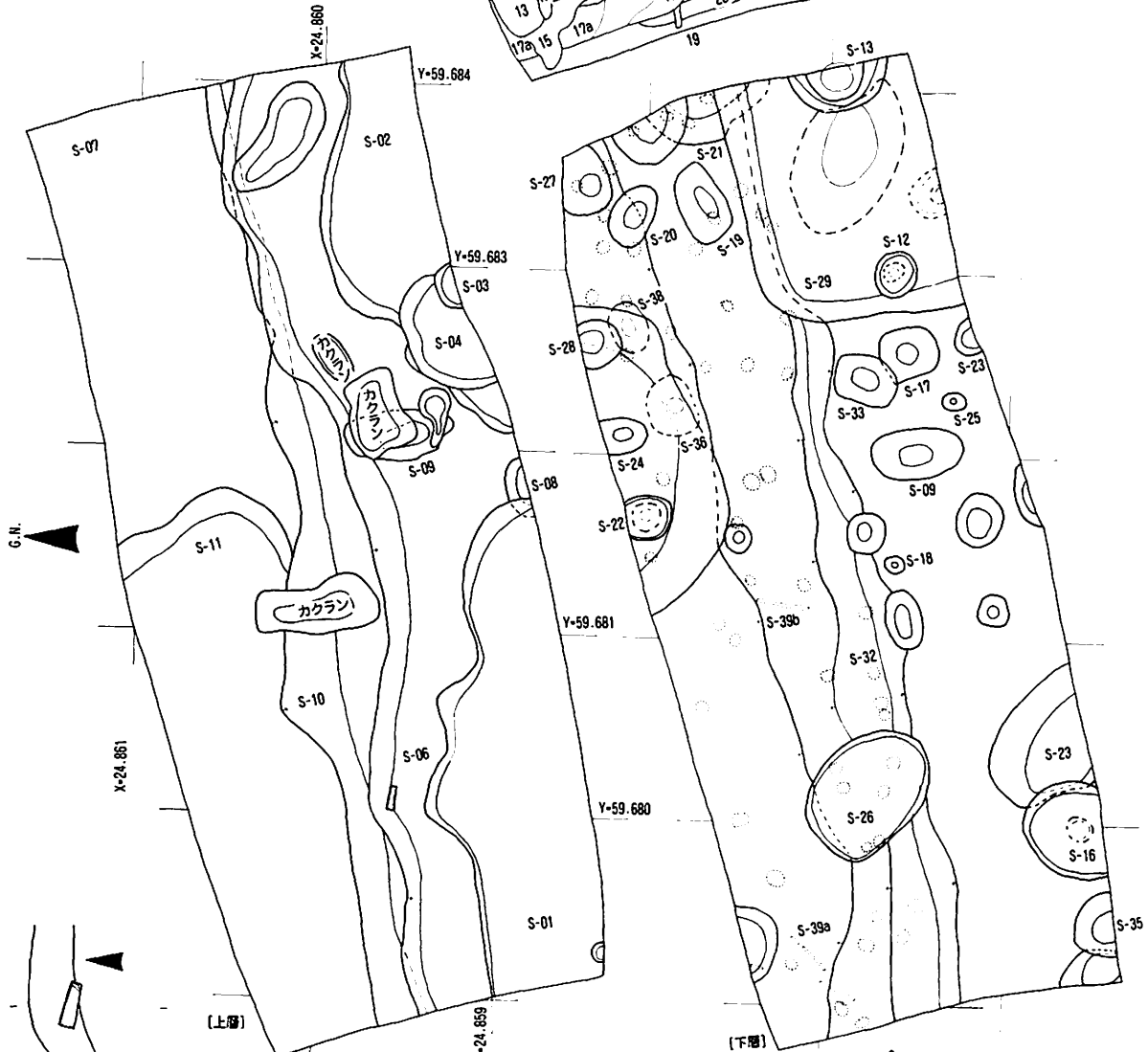
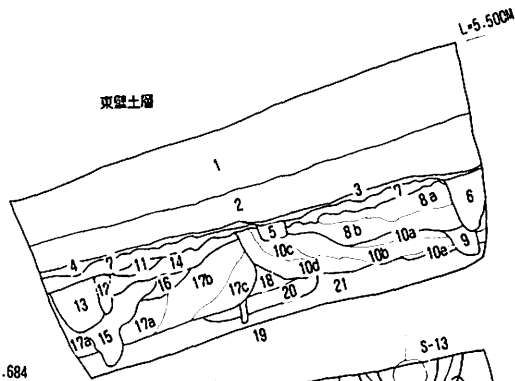


第169図 S-06完掘(東から)

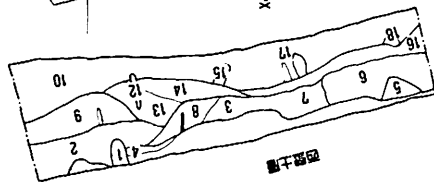
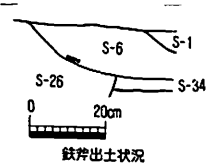
東壁土層

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 表土 1                | 11 灰褐色土                  |
| 2 表土 2                | 12 褐色土                   |
| 3 青灰色粘質土              | 13 淡茶褐色土                 |
| 4 茶褐色土(水田盤層)          | 14 灰褐色土                  |
| 5 茶青灰色粘土              | 15 茶灰茶色土                 |
| 6 暗茶色粘質土              | 16 黄灰茶色土                 |
| 7 灰茶色土(西壁3層)          | 17a 淡灰茶褐色土(西壁10層, S-32a) |
| 8 ab 茶褐色土(S-29上層)     | 17b 茶灰土(西壁12層, S-32b)    |
| 9 茶灰粘質土               | 17c 茶灰土(西壁14層, S-32c)    |
| 10a 灰茶黄色土(S-29下層)     | 17d 茶黄灰土                 |
| 10b 灰茶黄色シルト質土(S-29下層) | 18 茶黄灰色弱粘質土              |
| 10c 灰茶黄色土(S-29下層)     | 19 黒褐色土                  |
| 10d 灰茶黄色粘質土(S-29下層)   | 20 灰茶黄褐色粘質土              |
| 10e 黄灰粘質土(S-29下層)     | 21 淡茶黄灰粘質土               |

(西壁19層, S-37, 安定地盤上層)

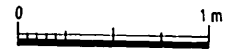


H=4.800m



西壁土層

- |                          |                                |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 黒灰色土                   | 11 灰褐色土                        |
| 2 黒灰茶色土                  | 12 黄灰土(東壁17b層, S-32b)          |
| 3 灰茶色土(東壁7層)             | 13 黒褐色土(S-37)                  |
| 4 暗灰色土                   | 14 茶黄灰土(東壁17c層, S-32c)         |
| 5 茶灰色土                   | 15 灰褐色砂質土                      |
| 6 淡茶褐色土(S-01)            | 16 灰褐色土(S-34)                  |
| 7 茶褐色土(S-06)             | 17 褐色土                         |
| 8 茶褐色粘質土(S-10)           | 18 淡茶褐色土                       |
| 9 淡黒褐色土(S-11)            | 19 淡灰茶褐色土                      |
| 10 淡灰茶褐色土(東壁17a層, S-32a) | 20 淡灰茶褐色土(東壁21層, S-37, 安定地盤上層) |



第170図 調査区平面図(S=1/40)・東西壁土層図(S=1/40)及び鉄斧出土状況図(S=1/20)

る可能性があり、中期後半～後期中頃の範囲で捉えておきたい。

#### S-29竪穴状遺構（第179図〔下層〕）

S-29は、調査区南東にある方形の竪穴状遺構である。埋土は周囲から流れ込んだ状況を示している。全体形が不明だが、竪穴建物または貯蔵穴の可能性はある。遺物未出土のため時期は不明である。

#### S-32溝状遺構、S-37杭跡及びS-39板状圧痕（第170図〔下層〕）

S-32は調査区北側を東西方向に横切る溝状遺構で、長さ4.9m以上、幅1.38m以上、深さ0.37mである。この溝状遺構の底面から、多数のS-37杭跡及び4個のS-39板状圧痕が検出された。S-39板状圧痕は、西側に3個、中央付近に1個検出され、S-32の主軸に斜交するように検出された。西側は、長さ23と27cm、幅は4～5cm、深さ12～20cmで、外側に傾斜している。S-37杭跡は、径8～10cmの杭跡で、深さは15～20cm程である。

#### その他遺構出土遺物

4は、下城式壺胴部片である。沈線を施した後、ナデられている（S-02）。15は、壺口縁端部片である。口縁端部に竹管による円孔文が刺突されている（S-9）。16は、東北部九州系甕口縁部片である。口縁端部を上方につまみ上げている（S10）。13は、壺口縁部片である。内外面ともに単位が明瞭ではない磨きを行っている。内面の一部に橙色の赤彩が施されている（S-11上層）。14は、下城式甕口縁部である（S-11上層）。19は、甕底部片である。（S-13）。18は、甕底部片である。底部に内面からと外面からの両方向からの焼成前回転穿孔を行っている（S-16）。21は、刀子状鉄器である。銹化が進行し、顕著な銹膨れと層状剝離を示し、割れ口での観察によれば刀子状の断面が見てとれる板状の製品であり、切先および茎が折れた中間の資料のように考えられる。ヤリガンナの可能性もある。層状剝離を起こしていることから鍛造品と思われる。長さ3.2cm、幅1.8cm、厚さ0.2cm（S-19）。20は、壺底部である。外面はタテ刷毛目調整後、粗い磨きがなされている（S-20）。17は、台付鉢脚部片である。外面はタテ方向磨きがなされ、裾部はタテ後ヨコ方向磨きがなされている。脚部は4単位で窓が開けられている。窓開けは土器を逆位に支持し刀子状工具により裾部から鉢部に向けて行われている（検出面）。

下郡遺跡群の東側では、さらに東側の鶴崎台地の斜面際に旧河道が走っていることが想定され、その間に島状にある微高地上に遺跡が展開しているものと思われる。縄文時代後期頃から活動がなされ始め、下郡桑苗遺跡や下郡遺跡群B区14g地点などでは弥生時代前期末から中期にかけて活発に集落が形成されている。本調査地点でも、流れ込みの状態で縄文時代晩期の深鉢小片が少量出土している。方形の竪穴状遺構が1基検出されているが、概して集落的性格は強くなく、溝状遺構が卓越する。上層の遺構検出面からは古墳時代の土師器や須恵器片が少量出土しているものの、遺構から出土する遺物の主体は弥生時代中期～後期前半の遺物群である。本調査地点は、下郡遺跡群B区14g地点のような集落の本体が近くに存在することが想定されるが、集落の中心部ではなく、島状微高地のはずれに近い部分であることが想定される。（宮田）

#### 主要参考文献：

大分市教育委員会 1990『下郡遺跡群 大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報1』

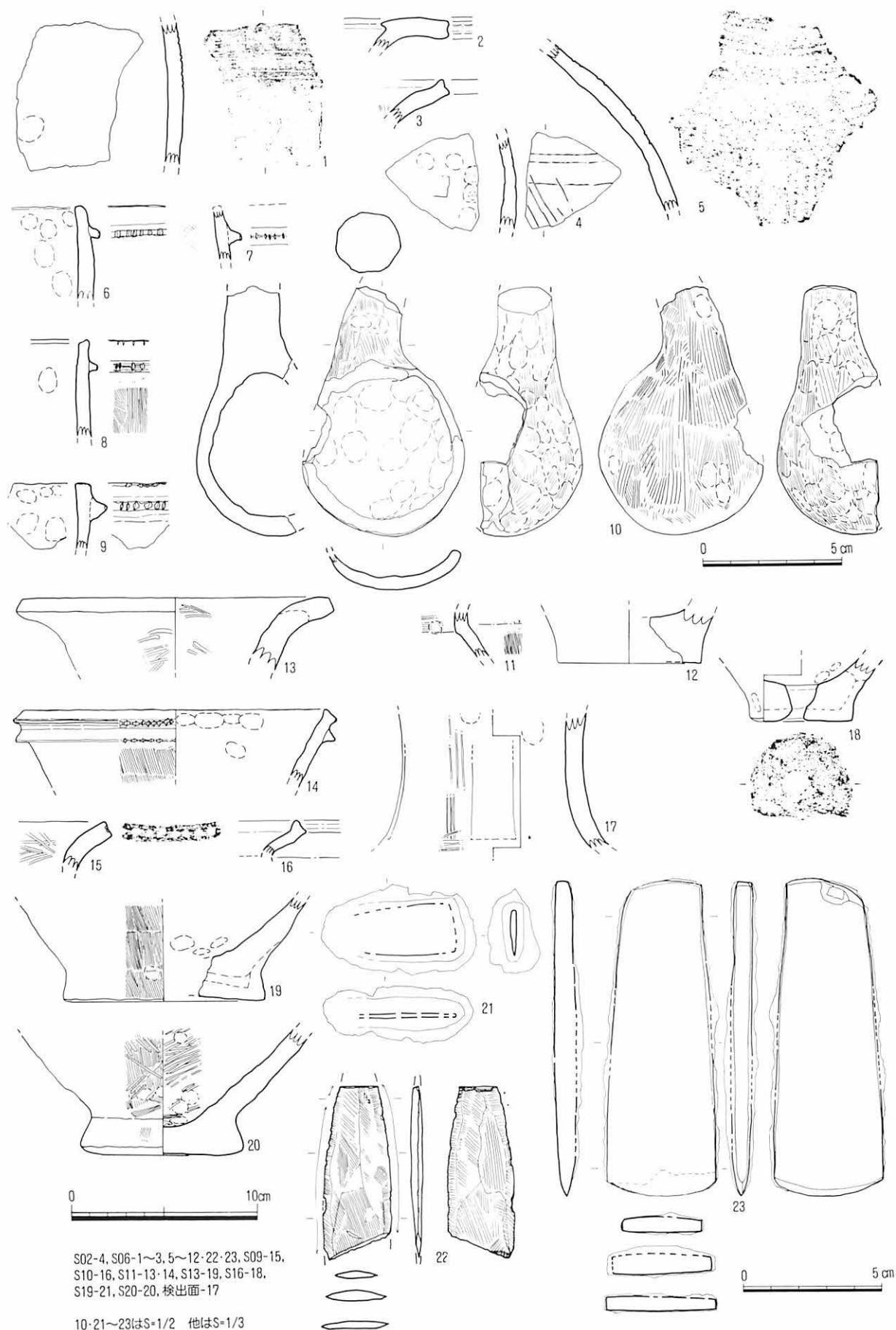


第171図 S-32下層・S-37杭跡・S-39板状圧痕（東南から）



第172図 S-39板状圧痕断面（南から）





第173図 出土遺物実測図

第9表 出土土器観察表

図	出土区	器種	胎 土					焼 成	色 調		文 様	器 面 調 整		法 量				残 存 率	時 期	備 考
			石 英	長 石	角閃石	雲 母	橙色粒子		内 面	外 面		内 面	外 面	口 径	器 高	最大径	底 径			
01	S-06	甕	LL△L△ M△	LL△L△ M△	SS△	M△S○ SS△	S△	良	10YR6/2~ 7/2	5YR6/4~ 2.5YR6/6 一部黒斑部 5YR3.5/1	二条単位並行 沈線	ナデ	沈線文→軽 いナデ消し	-	7.0+	-	-	胴部	弥生時代中期 中頃~後半	
02	S-06	壺	SS△	M△S△ SS△	M△S○ SS○	SS△	S△	やや良	7.5YR7/2	7.5YR7/2		ヘラ状工具 ナデ+ ヨコナデ	ヨコナデ	-	1.7+	-	-	口縁部のみ 口径等復元不可	弥生時代中期 中頃~後半	
03	S-06	甕	S△SS△	M△S△ SS△	SS△	SS△	S△	良	7.5YR8/1.5	7.5YR8/1		ハケ目→ ナデ	ヨコナデ	-	2.3+	-	-	口縁部のみ 口径等復元不可	弥生時代中期 中頃~後半	
04	S-02	壺	SS△	SS△	S△SS○	SS△	-	良	7.5YR8/1.5	5YR7/4 一部 赤 彩2.5YR6/6	二条単位沈線	指頭圧痕+ ヘラ状工具 痕	沈線文→ ナデ	-	4.9+	-	-	胴部最大径位置 付近のみ最大径 等復元不可	弥生時代中期 中頃~後半	
05	S-06	壺	LL○L○ MOS△	LL○L○ MOS△	S△SS△	S△SS○	S△SS△	やや良	5YR8/3	5YR7/3~ 2.5YR6/5	二条単位並行 沈線+垂下線	指頭圧痕+ ごく弱いナ デ	沈線文→ ナデ	-	9.1+	-	-	肩部片最大径等 復元不可	弥生時代中期 中頃~後半	下城式
06	S-06	甕	LL△L△ M△S△	L△M△S △SS△	SS△	SS△	S△	良、一部 黒斑有	7.5YR7/4	7.5YR6/4 黒 斑 7.5YR2.5/1	口縁部刻目 刻目突帯貼付	部分的指頭 圧痕→ナデ	タテハケ	-	5.2+	-	-	口縁部復元不可	弥生中期	下城式
07	S-06	甕	SS△	L△	L△MOS △	L△MOS △	-	やや良	7.5YR6/1.5 ~5/1	2.5YR6/5~7/3	刻目突帯貼付	指頭圧痕弱 いナデ	弱いナデ	-	5.0+	-	-	口縁部のみ 復元不可	弥生中期	下城式
08	S-06	甕	M△S△ SS○	S△SS△	SS△	SS△	S△	やや良	7.5YR7/2	5YR5/4	刻目突帯貼付	ハケ→ナデ	ヨコナデ	-	2.7+	-	-	口縁部のみ 口径等復元不可	弥生中期	下城式
09	S-06	甕	LL△L△ M△	LL△L△ M△	S△SS△	SS○	M△	良	5YR5/2	5YR3/1~3.5/1	口縁部刻目 刻目突帯貼付	指頭圧痕→ 丁字ナデ	ヨコナデ	-	3.5+	-	-	口縁部復元不可	弥生中期	下城式
10	S-06	杓形	S△SS△	S△SS△	SS△	SS○	SS△	やや良	10YR5/2~ 7/3	10YR5/1 黒斑部 2.5Y2/1		指頭圧痕+ 弱いナデ	ハケ					杓部		
11	S-06	甕	SS△	SS△	SS△	SS△	-	良	10YR7/2 一部 赤彩5YR5/4	10YR5.5/2		ナデ	タテハケ	-	2.3+	-	-	口頸部のみ 口径等復元不可	弥生時代中期後 半~後期中頃	
12	S-06	甕	LL△L△ MOS△	LL△L△ M△S△	L△M△ S△	S△SS△	S△	やや良	7.5YR6/2	5YR6/4		弱いナデ	ナデ	-	3.0+	-	(7.8)	底部約1/6	弥生中期	
13	S-11	壺	S△SS△	S△SS△	S△SS○	S△	SS△	やや良一 部弱い黒 斑有	10YR7/2 黒斑 部10YR5/1 赤彩5YR7/6	10YR6/2 黒斑部 2.5YR3.5/1 赤彩7.5YR7/6		ヘラミガキ 一部赤彩	丁寧なナデ。 ヘラミガキ。 一部赤彩	(17.2)	3.9+	-	-	口縁部約1/10	弥生時代中期 中頃~後半	
14	S-11	甕	LL△L△ M△S△	M△S△	S△SS△	SS△	S△	良	5YR6.5/4	7.5YR6/4	口縁部刻目 刻目突帯貼付	指頭圧痕+ ナデ	タテハケ	(17.3)	4.1+	(17.3)	-	口縁部約1/8	弥生時代前期末 ~中期前半	下城式
15	S-09	壺	S△	S△	L△M△ SOSS△	S△SS○	SS△	良	5YR4/4	5YR4/3	口縁部竹管 文による刺突 列点文	粗いミガキ	ヨコナデ	-	2.6+	-	-	口縁部のみ 口径等復元不可	弥生時代中期 中頃~後半	
16	S-10	甕	SS△	SS△	S△SS○	SS○	-	良	7.5YR2.5/1	7.5YR3/1		強いヨコナ デ	ヨコナデ	-	1.9+	-	-	口縁部のみ 口縁約1/10	弥生時代中期 中頃~後期中半	
17	検出面	台付鉢	LL△L△ M△	L△M△	M△S△ SS△	L△M△ S△SS△	L△M△ S△	良一部弱 い黒斑有	7.5YR6/3	5YR6/4 一部 弱 い黒斑部 7.5YR5/1 一 部 赤彩2.5YR5/6	(4単位) 方形 透かし	ヨコナデ	タテ方向ミ ガキ+ヨコ 方向ミガキ	-	7.1+	-	12.6+	脚部中央部片 約1/4	弥生時代中期 中頃	
18	S-16	甕	L△M△S △	MOS△	L△M△ S△SS△	SOSS○	-	やや良	10YR7/2~ 6/1	2.5YR6/6		指頭圧痕+ 弱いナデ	ナデ	-	5.4+	-	5.6	底部約2/3	弥生時代中期 中頃~後半	底部焼成前 穿孔有
19	S-13	甕	MOS△	L△MO S△SS△	S△SS△	SS△	-	良	10YR3/1	10YR6/4 一部二次被熱 7.5YR5/1		タテハケ	弱いナデ	-	5.4+	-	(10.8)	底部約1/4	弥生時代中期	
20	S-20	壺	LL△L△ M△S△	LL△L△ M△S△	L△M△ S△SS△	S△SS△	LL△L△ M△	良一部黒 斑有	7.5YR7/5	7.5YR7/5		弱いナデ+ 粗いミガキ	タテハケ→ 粗いミガキ	-	6.3+	-	8.9	底部約9/10	弥生時代中期 中頃~後半	

\* 観察表凡例は、下記の文献に従う

大分市教育委員会 2002『城南遺跡第3次調査 永興千人塚古墳発掘調査報告書』大分市埋蔵文化財発掘調査報告第34集

## XXX 下郡遺跡群確認調査②

調査面積 4.5m<sup>2</sup>

調査期間 2002.04.09～02.04.10

地 域 E

調査担当 塔鼻光司・梅木信宏・松竹智之

下郡遺跡群は大分市下郡に所在する。下郡遺跡群の所在する大分平野の西部には大分川が貫流し、河口に近い大分川流域には南北に延びる自然堤防を発達させている。下郡遺跡群は大分川河口付近の右岸にあたる約1km四方の自然堤防上に立地しており、標高4m～7mの地点に遺跡が展開する。

今回の調査は個人住宅建設の浄化槽設置に伴い平成15年4月9日～10日に埋蔵文化財確認調査を実施した。

表土から約80cm下、標高5.5m付近の淡黄茶褐色土から土坑・柱穴十数基を確認した。

遺構に帰属する遺物は土器片が数点確認されているが、遺構の年代を決定できる遺物は見られなかった。

周辺の調査区の見所から遺構密度が高く、弥生時代から近世に及ぶ遺構が確認されており、今回の調査区において確認された遺構も同一年代に位置付けられると思われる。

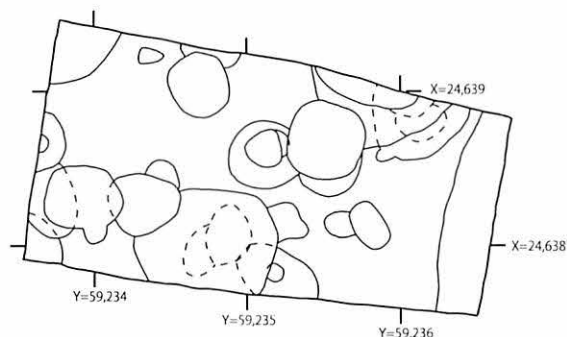
今後の調査の進展が期待される。



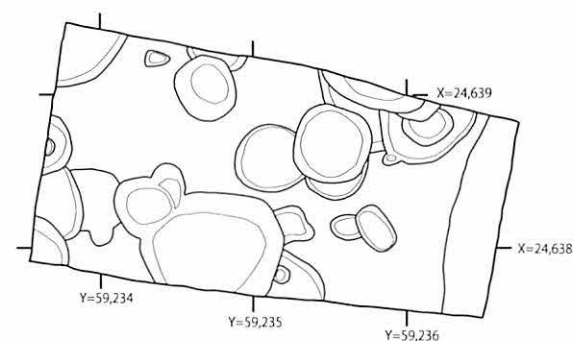
第174図 調査地点位置図



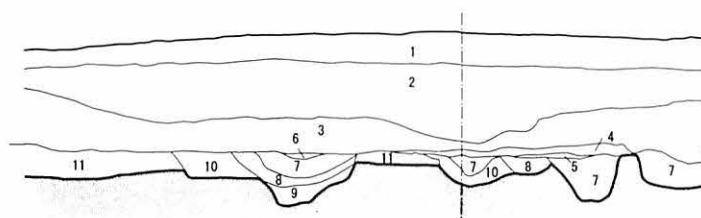
第175図 調査区全景



第176図 遺構配置図(1/50)



第177図 完掘図(1/50)



第178図 南壁・西壁土層図(1/50)

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| 1. 黄白色土    | 7. 昭茶黄褐色土 (黄白色粒子含む) |
| 2. 黄褐色土    | 8. 昭茶黄褐色土           |
| 3. 茶灰色粘質土  | 9. 黄昭茶褐色粘質土         |
| 4. 赤茶色土    | 10. 昭灰茶褐色土          |
| 5. 茶灰褐色土   | 11. 淡黄茶褐色土          |
| 6. 昭茶褐色砂質土 |                     |

# XXXI 沖浜遺跡確認調査

調査面積 32.5㎡

調査期間 2003. 12. 04～2004. 01. 14～21

地 域 A

調査担当 塔鼻光司・梅本信宏・奏さとみ

大友氏が拠点とした豊後「府内」は、大分川左岸の微高地上に立地し、現在の大分市南東部に相当する南北約2.2km、東西約0.7kmの範囲に営まれていた。府内は16世紀後半から末の大友氏21代義鎮（宗麟）、22代義統の段階に最盛期を迎え、明船やポルトガル船が寄港する国際貿易都市として繁栄したといわれる。

戦国時代の府内の状況を描いたとされる「府内古図」はいずれも近世以降に作成されたもので、絵図のほぼ中央に「大友館」が存在し、それを中心に4本の南北道路、5本以上の東西道路で碁盤目状に区画された40以上の町が存在したことが描かれている。また、大友館の南側には段米や宝物などの管理・運営に関わる施設と推定される「御蔵場」、南東側には大友家の菩提寺である「万寿寺」、西側にはキリスト教会である「ダイウス堂」、さらに北西には府内の外港であった「沖の浜」も描かれており、戦国期の府内およびその周辺に存在した様々な施設の情報が盛り込まれている。本調査地はこの沖の浜付近と推定される、沖浜遺跡にあたる。

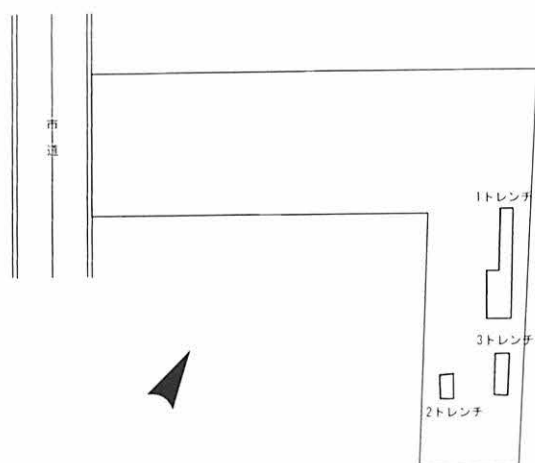
トレンチを3本設定し掘り下げた結果、第1トレンチでは、柱穴と思われる遺構十数基、井戸1基、土抗3基が確認された。第2トレンチからは、20cm四方の方形遺構1基が確認された。第3トレンチは、攪乱層である。



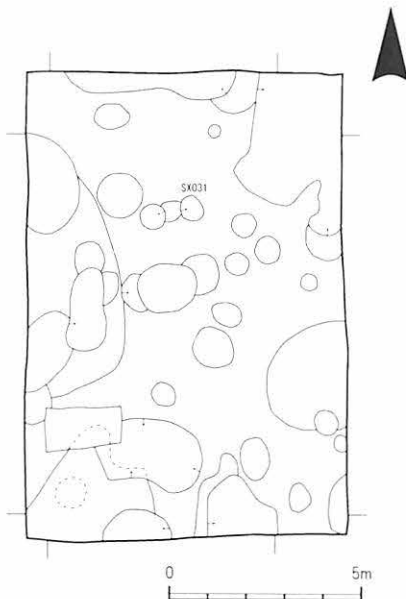
第179図 調査地点位置図



第180図 調査区全景



第181図 トレンチ配置図



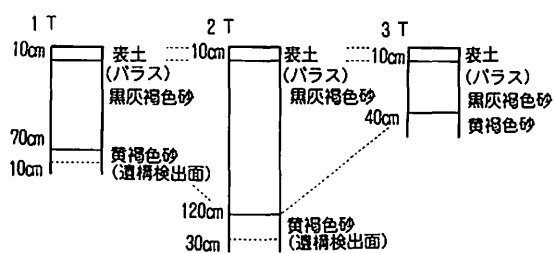
第182図 第1トレンチ遺構配置図(1/100)

沖浜遺跡  
確認調査

## 第1トレンチ

調査区の中央に位置するSX-31からは、瓦質土器（13c後半～14c後半）が出土している。これは、第3層（黄褐色砂）にあたり、文化面と考えられる。

また、第2層（黒灰褐色砂）からは、京都系土師器の灯明皿（17c初頭）が出土している。



第183図 土層模式図

## 第2トレンチ

第2層より、中世の土師質土器片数点が出土しているが、近代の遺物が入ることから、第3トレンチの第2層と同様、攪乱層である。申請地中央付近は、攪乱によって遺構の残りは良くない。

申請地の南北では、遺構は壊されており、一部深い遺構のみ残っている。また、第1トレンチと第2トレンチの遺構面に高低差があり、第2トレンチの遺構面での土層粒度が異なるため、同一文化面ではないと思われる。沖浜遺跡の時期の遺物は出土していないが、和泉型と思われる瓦器が出土していることから周辺には沖浜遺跡に関する遺跡が一部残っていると思われ、今後の調査が期待される。



第184図 出土遺物実測図(2/3)

## XXXII 中世大友府内町跡(試掘調査)

調査面積 31m<sup>2</sup>

調査期間 2003.06.03～03.06.06

地 域 A

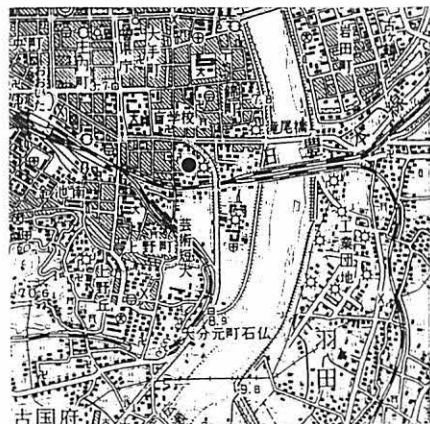
調査担当 佐藤道文

調査地は、大分川下流左岸の標高約5mの沖積低地に位置し、現段階での大友氏館跡の西側町屋部分、推定御北町に比定される。そのため、今回専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の確認調査(試掘)を平成15年6月3～6日かけて行った。試掘調査は、将来的に大型建築物が計画されている地点についてのみ行った。トレンチは建物予定地内に2本設置した。1Tは、比較的大型の遺構が展開している状況であった。建物基礎部分と思われる石組み遺構(焼土粒・炭化物を含み礫も被熱を受けた状態)、長径約1.5m、短径約1mの平面楕円形を呈する土坑、東西方向に延びる溝状遺構?などが確認された。

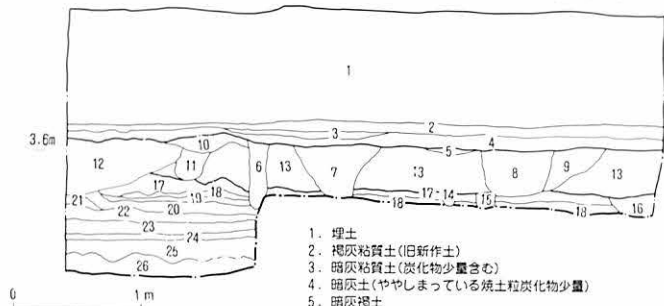
石組み遺構より新しいと考えられる大型土坑(S-1)からは京都系土師器皿の破片が出土している。2Tからは、東西方向に延びる溝状遺構、杭列と思われる小穴、時期不明の耕作土層などが確認された。また、2T拡張区(南北方向)からは暗茶土を安定面とし、性格不明の大型遺構が検出された。この暗茶土は、1Tでの遺構検出面に該当するものと考えられる。2Tで見つかっている杭列痕は、溝上面に穿つように構築され、深さ約50cm～60cmを測る。土層観察を行ったところ焼土塊、炭化物が多量に含まれていた。小穴径と比較して、深く打ち込まれていることから堅固な構築物が想定され、土塀や板塀が存在していたのではないかと考えられる。第186図の17層～24層は、全体的に硬く締まっており、薄く水平に堆積している。17層を掘り込む遺構が検出されていることから、整地層の可能性が高い。25層は、地山ブロック土を含み、波状に堆積していることから耕作土層と考えられる。

出土遺物には、京都系土師器、土師器坏、青磁碗・皿(盤?)、染付皿(小野分類E群)、染付端反り碗、染付輪花皿(外面に放射状に細かい線描きが施され、漳州窯系の影響を受けたと考えられる)、白磁小坏、華南三彩破片、備前焼甕破片、土師質鍋破片などが見られる。土師器坏についてはやや古い様相を呈すが、京都系土師器、染付皿などから16世紀後半を主体とするものと考えられる。

今回の調査では、最低3面の遺構面が検出され、第1面の遺構は水田層直下から掘り込まれている。また、板塀もしくは土塀と考えられる遺構や、北側に向かったの落ち込みがあることが確認された。16世紀後半の段階に館が拡張された可能性が指摘されていることから、館周辺地の開発については慎重を期すべきと思われる。



第185図 調査地点位置図

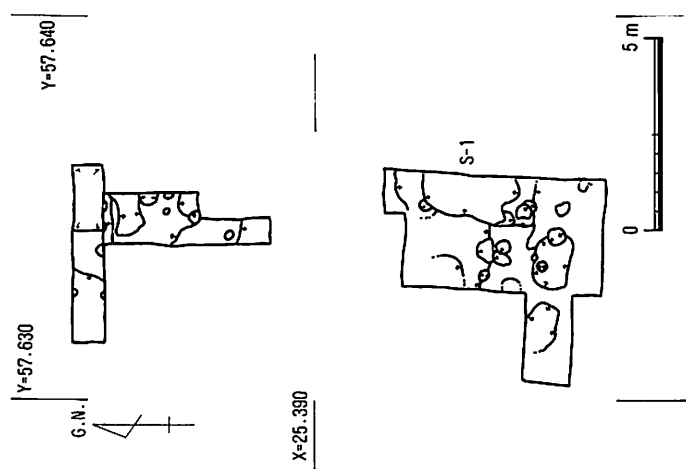


1. 埋土
2. 焼灰粘質土(旧新作土)
3. 暗灰粘質土(炭化物少量含む)
4. 暗灰土(ややしまっている焼土粒炭化物少量)
5. 暗灰礫土
6. 暗灰土(ボロボロしており軟弱)
7. 灰茶土(焼土塊、炭化物含む)
8. 淡茶土(粘性あり)
9. 暗灰茶土(硬くしまり、混入物少ない)
10. 灰茶土
11. 暗灰土(6層と同様にボロボロして崩れやすい)
12. 暗灰茶土(焼土塊・粘・炭化物少量含む硬くしまっている)
13. 暗茶灰土(炭化物・焼土粒・黄色ブロック粒と全体に中量含む)

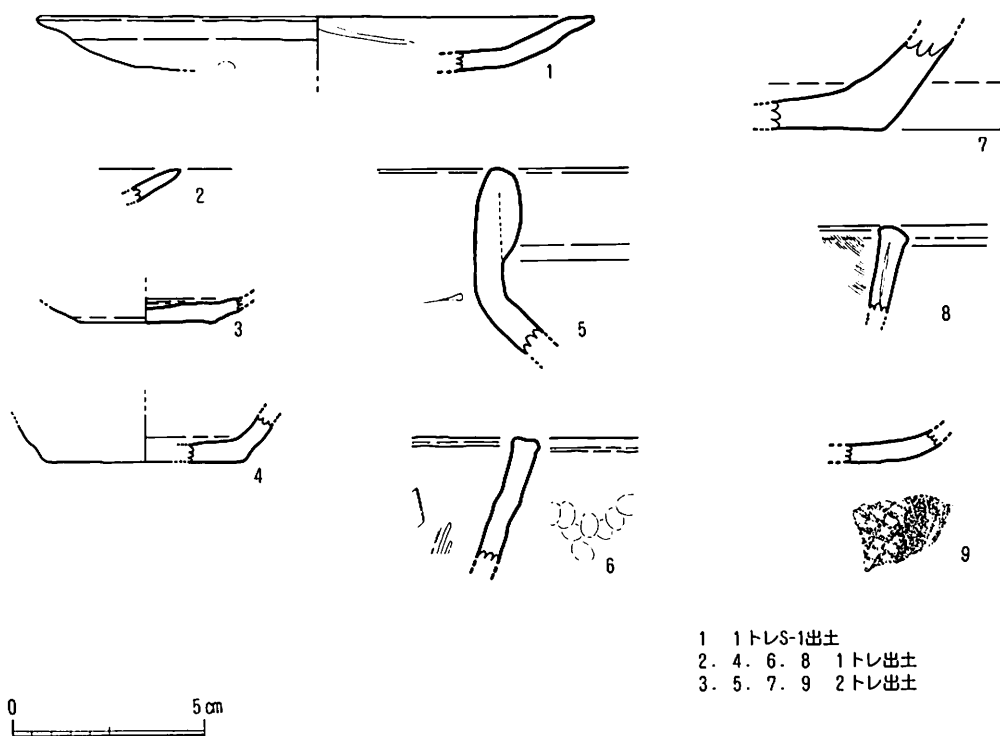
14. 淡茶土
15. 暗灰茶土(茶色ブロック・炭含む)
16. 灰礫土
17. 灰茶土(粘性含む・炭微量)
18. 明灰茶土(粘性あり)
19. 明灰茶シルト質土(やや砂染っぽくサラサラとしている)
20. 明灰茶白シルト質土(19層と類似するがやや硬質)
21. 暗灰茶土
22. 淡灰茶土(硬くしまる、還元しているため青白っぽい、サラサラしており、触感は19に似る)
23. 淡灰茶土(黄色のブロック粘を多く含む、粘性あり、上層より土っぽい)
24. 暗灰茶礫土(粘性あり)
25. 暗灰礫ブロック土(水田層の可能性あり)
26. 青灰礫土(硬くしまる、還元層)

第186図 2トレ南壁土層図(S=1/60)





第187図 遺構略測図 (S=1/200)



第188図 出土遺物実測図 (S=1/2)



第189図 1 T 全景写真



第190図 2 T 拡張区全景写真



第191図 1 T・S-1 全景写真



第192図 2 T 焼土ピット土層観察時(南より)



第193図 2 T 土層観察時(南より)

## Ⅳ章 受贈図書目録

### 1. 調査報告書

北海道	財団法人 北海道埋蔵文化財センター	
	調査年報15 平成14年度	2003
山形県	特殊法人 日本勤労者住宅協会・山形県労働者住宅生活協同組合・山形市教育委員会	
	中野目Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第9集	2001
	株式会社 カワチ薬品・山形市教育委員会	
	吉原Ⅰ遺跡 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第10集	2001
	株式会社 東北ケーブデンキ・山形市教育委員会	
	吉原Ⅱ遺跡 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第11集	2001
	東北ミサワホーム株式会社・松田建設株式会社・山形市教育委員会	
	吉原Ⅶ遺跡 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第13集	2002
	山形市教育委員会・山武考古学研究所	
	一ノ坪遺跡 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第12集	2001
	東北電力株式会社・東北用地株式会社・山形市教育委員会	
	石田遺跡・上谷柏遺跡発掘調査報告書 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第14集	2002
	山形市教育委員会	
	山形城三の丸跡発掘調査報告書 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第15集	2003
	山形市埋蔵文化財調査年報 一平成5～11年度一	2001
	山形市埋蔵文化財調査年報 一平成12年度一	2002
	山形市埋蔵文化財調査年報 一平成13年度一	2003
福島県	いわき市教育委員会・財団法人 いわき市教育文化事業団	
	折返B遺跡 いわき市埋蔵文化財調査報告 第103冊	2004
	薄磯貝塚（三反田B遺跡） いわき市埋蔵文化財調査報告 第100冊	2004
	荒田目条里制遺構 いわき市埋蔵文化財調査報告 第102冊	2004
	牛転古墳群・小茶円遺跡・砂畑遺跡・内宿遺跡 いわき市埋蔵文化財調査報告 第104冊	2004
	国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所・いわき市教育委員会・財団法人 いわき市教育文化事業団	
	中山B遺跡 いわき市埋蔵文化財調査報告 第101冊	2004
福島県郡山市教育委員会		
	清水台遺跡 咲田遺跡	2003
	八丁目館跡 県営ほ場整備事業日和田八丁目地区関連	2003
	柳橋遺跡 市道柳橋・黒木線改良工事関連	2003
	大安場古墳群 第4次発掘調査報告	2003
	荒井猫田遺跡 郡山南拠点土地区画整理事業関連	2003
	石畑遺跡 馬場中路遺跡 馬場小路遺跡	2003
	郡山市埋蔵文化財分布調査報告10	2003
いわき市教育委員会		
	夏井庵寺 平成14年度範囲確認調査概報	2003
	網取貝塚 いわき市埋蔵文化財調査報告 第93冊	2003
	入藪B遺跡 いわき市埋蔵文化財調査報告 第96冊	2003
	泉・渡辺町条里制跡 いわき市埋蔵文化財調査報告 第92冊	2002
	稲荷原遺跡 いわき市埋蔵文化財調査報告 第80冊	2002
	梅ノ作瓦窯跡群 いわき市埋蔵文化財調査報告 第98冊	2003
	湯長谷館跡 磐崎中学校遺跡 一縄文時代集落・近世域館跡一	2003

小茶田遺跡（第1章・第2章）	いわき市埋蔵文化財調査報告 第76冊	2003
荒田日条里制遺構・砂畑遺跡	—古代陸奥国磐城郡官衙関連遺跡の調査—	2002
植田郷B遺跡	いわき市埋蔵文化財調査報告 第85冊	2002
折返A遺跡 菅俣B遺跡	いわき市埋蔵文化財調査報告 第95冊	2003
<hr/>		
栃木県	鹿沼市教育委員会	
明神前遺跡	鹿沼市埋蔵文化財報告書 第14冊	2002
<hr/>		
群馬県	高崎市教育委員会	
高崎情報団地Ⅱ遺跡	高崎市文化財調査報告書 第177集	2002
高崎市内遺跡埋蔵文化財	高崎市文化財調査報告書 第178集	2002
剣崎長瀬西遺跡Ⅰ	高崎市文化財調査報告書 第179集	2001
真町Ⅲ・旭町Ⅳ・3町Ⅰ遺跡	高崎市文化財調査報告書 第180集	2002
下之城村前Ⅳ遺跡	高崎市文化財調査報告書 第181集	2002
萩原八幡西・上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡	高崎市文化財調査報告書 第182集	2003
下中居条里遺跡Ⅲ	高崎市文化財調査報告書 第183集	2003
下之城村前Ⅴ遺跡	高崎市文化財調査報告書 第184集	2003
高崎市内遺跡埋蔵文化財	高崎市文化財調査報告書 第185集	2003
剣崎六万坊遺跡	高崎市遺跡調査会文化財調査報告書 第82集	2001
並榎町Ⅰ遺跡	高崎市遺跡調査会文化財調査報告書 第83集	2002
浜尻旭貝戸遺跡	高崎市遺跡調査会文化財調査報告書 第84集	2002
上豊岡引間Ⅳ遺跡	高崎市遺跡調査会報告書 第61集	1997
<hr/>		
埼玉県	岡部町教育委員会	
古代の役所 武蔵国榛沢郡家の発掘調査から		2002
町内遺跡Ⅲ	岡部町埋蔵文化財調査報告書 第7集	2002
町内遺跡Ⅳ	岡部町埋蔵文化財調査報告書 第8集	2003
<hr/>		
千葉県	国立歴史民俗博物館	
国立歴史民俗博物館研究報告	国立歴史民俗博物館研究報告 第98集	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	国立歴史民俗博物館研究報告 第105集	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	国立歴史民俗博物館研究報告 第100集	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	第104集 室町期荘園制の研究	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	第101集	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	第103集	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	第107集	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	第99集	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	第106集	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	第102集 慰霊と墓	2003
国立歴史民俗博物館研究報告	第108集	2003
国立歴史民俗博物館研究年報	11	2003
歴博 No.122		2004
国立歴史民俗博物館研究報告	第116集	2004
国立歴史民俗博物館研究報告	第113集	2004
<hr/>		
株式会社ゴールドバレーカントリークラブ・財団法人	山武都市文化財センター	
上引切遺跡	—金谷郷遺跡群Ⅴ—	2001
<hr/>		
千葉県芝山町・財団法人	山武都市文化財センター	
三田古墳群（531-1地点）	財団法人 山武都市文化財センター発掘調査報告書 第77集	2002
<hr/>		
千葉県横芝町・財団法人	山武都市文化財センター	
中台遺跡1349-3地点	財団法人 山武都市文化財センター発掘調査報告書 第81集	2003
<hr/>		
千葉県道路公社・財団法人	山武都市文化財センター	
遠山瓜ヶ作谷遺跡・遠山瓜ヶ作台遺跡	財団法人 山武都市文化財センター発掘調査報告書 第82集	2003

東京都	森トラスト株式会社 千代田区東京駅八重洲北口遺跡調査会	
	東京駅八重洲北口遺跡 第1.2分冊	2003
三鷹市教育委員会		
	島屋敷遺跡Ⅱ 三鷹市埋蔵文化財調査報告 第25集	2003
府中市教育委員会		
	武蔵国府関連遺跡調査報告 30 府中市埋蔵文化財調査報告 第32集	2004
	武蔵国府関連遺跡調査報告 29 国府地域の調査 21	2003
	武蔵国府の調査 24 昭和61年度府中市内発掘調査概報	2003
	武蔵国府関連遺跡 東京競馬場発掘調査概報 1	2002
日本中央競馬会東京競馬場・府中市教育委員会		
	東京競馬場発掘調査概報 2	2003
国分寺市遺跡調査会		
	武蔵国分寺跡発掘調査概報 28	2003
	恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ 一都営本町四丁目団地建替工事に伴う調査一	2003
	武蔵国分寺跡発掘調査概報29 遺構編	2003
	武蔵国分寺跡発掘調査概報 29 本文編	2003
	武蔵国分寺跡発掘調査概報 29 遺物編	2003
東京都埋蔵文化財センター		
	多摩ニュータウン遺跡 一No.20・480遺跡一	2003
	多摩ニュータウン遺跡 東京都埋蔵文化財センター調査報告書 第121集	2003
	多摩ニュータウン遺跡 一No.313遺跡一	2003
	多摩ニュータウン遺跡 東京都埋蔵文化財センター調査報告 第128集(1)(2)	2003
	湯留遺跡・第1分冊～第7分冊 一旧枯留貨物駅跡地内の調査一	2003
	多摩ニュータウン遺跡 東京都埋蔵文化財センター調査報告 第132集	2003
	多摩ニュータウン遺跡 東京都埋蔵文化財センター調査報告 第50集	2004
新潟県	豊浦町教育委員会	
	川棚糸里跡3 豊浦町の文化財 第20集	2002
	中条町教育委員会	
	中倉遺跡6次・8次築地原遺跡2次 中条町埋蔵文化財調査報告 第26集	2003
富山県	財団法人 富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	
	中名Ⅰ・Ⅴ遺跡発掘調査報告 一公害防除特別土地改良事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ一	2003
	江尻遺跡・養島遺跡発掘調査報告 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 第17集	2003
	埋蔵文化財調査概要 平成14年度	2003
山梨県	甲府市教育委員会	
	史跡 武田氏館跡X 甲府市文化財調査報告 21	2003
	ザクヤ遺跡 甲府市文化財調査報告22	2003
	史跡 武田氏館跡XⅠ 甲府市文化財調査報告23	2003
愛知県	名古屋市教育委員会	
	埋蔵文化財調査報告書44 名古屋市文化財調査報告58	2003
	埋蔵文化財調査報告書45 名古屋市文化財調査報告59	2003
	埋蔵文化財調査報告書46 名古屋市文化財調査報告60	2003
	埋蔵文化財調査報告書47 名古屋市文化財調査報告61	2003
	埋蔵文化財調査報告書48 名古屋市文化財調査報告62	2003
	天白元屋敷遺跡 第4・5次発掘調査報告書 第4・5次発掘調査報告書	2003
	朝日遺跡第11次発掘調査報告書 ～平田公営住宅新築工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書1～	2002
	朝日遺跡第12次発掘調査報告書 ～平田公営住宅新築工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書2～	2002
	古沢町遺跡 第3次発掘調査概要報告書	2003
	東邦ガス株式会社	

	名古屋城三の丸遺跡 ―ガス管理設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2002
<b>名古屋市上下水道局下水道本部</b>		
	第2次中川区戸田二丁目付近下水道工事に伴う 戸田B遺跡発掘調査報告書	2002
<b>財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター</b>		
	市内遺跡調査報告Ⅳ 五葉窯跡 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告 第28集	2003
	平成14年度財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター年報	2003
	財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第11輯	2003
<b>豊田市教育委員会</b>		
	梅坪遺跡Ⅶ 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集	2003
	勘八2号墳・滝1号墳 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集	2003
	古城遺跡 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集	2004
<b>吉良町教育委員会</b>		
	史跡 正法寺古墳 2次調査概要	2003
<b>三重県 津市埋蔵文化財センター</b>		
	向山遺跡発掘調査報告 津市埋蔵文化財調査報告 36	2003
	津市埋蔵文化財センター年報8 平成14年度	2003
<b>四日市市教育委員会</b>		
	埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ 一般国道1号北勢バイパス	2003
	四日市市文化財保護年報14 平成14年度	2003
	山奥遺跡1 四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書 31	2003
<b>四日市市遺跡調査会</b>		
	西野遺跡・西野古墳群 四日市市遺跡調査会文化財調査報告書XⅨ	2003
<b>鈴鹿市教育委員会</b>		
	伊勢国分寺跡3	2003
	伊勢国府跡5	2003
<b>鈴鹿市考古博物館</b>		
	鈴鹿市考古博物館年報 第4号	2003
<b>滋賀県 大津市教育委員会</b>		
	大津市埋蔵文化財調査年報 平成13年度	2002
<b>滋賀県教育委員会</b>		
	特別史跡安土城跡発掘調査報告13 安土山南面山裾部の調査（百々橋口～大手口）	2003
	安土城跡環境整備事業概要報告書X 大手口周辺西側中央部	2003
	活津彦根神社文書目録 新宮神社文書目録 石部神社文書目録 安土城・織田信長関連文書調査報告 13	2003
<b>滋賀県安土城郭調査研究所</b>		
	滋賀県安土城郭調査研究所年報2002年度	2003
<b>京都府 京都市考古資料館</b>		
	京都市考古資料館年報 平成13・14年度	2004
<b>京都市歴史史料館</b>		
	京都市歴史史料館年報 平成15年度事業計画・平成14年度事業報告	2003
<b>京都府城陽市教育委員会</b>		
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第42集	2002
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第43集	2003
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第44集	2003
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第45集	2003
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第46集	2003
<b>財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター</b>		
	京都府埋蔵文化財情報 第87号	2003
	京都府埋蔵文化財情報 第88号	2003



	京都府埋蔵文化財情報 第89号	2003
	京都府埋蔵文化財情報 第90号	2003
<b>財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター</b>		
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第29集	2003
	長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成13年度 平成13年度	2003
	長岡京跡右京第748次発掘調査報告 長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第31集	2003
	長岡京跡右京第766次発掘調査報告 長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第33集	2003
	長岡京跡左京第479次発掘調査報告 長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第32集	2003
	長岡京跡右京第776次発掘調査報告 長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第36集	2003
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第35集	2004
<b>大阪府 大阪大学埋蔵文化財調査委員会</b>		
	久留米藩蔵屋敷跡 ー大阪大学中之島センター建設に伴う調査報告ー	2003
<b>高槻市教育委員会</b>		
	嶋上遺跡群27 高槻市文化財調査概要 X X X	2003
	高槻市文化財年報 平成13・14年度	2003
<b>貝塚市教育委員会</b>		
	貝塚市遺跡群発掘調査概要20 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第46集	1998
	三ヶ山西遺跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵分科座調査報告 第45集	1999
	脇浜川端遺跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第48集	1999
	貝塚市遺跡群発掘調査概要21 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第49集	1999
	貝塚市遺跡群発掘調査概要 25 貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告 第64集	2003
	沢城跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第63集	2002
<b>八尾市教育委員会</b>		
	八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告48 平成14年度国庫補助事業	2003
	八尾市立埋蔵文化財調査センター報告4 平成14年度	2003
<b>熊取町教育委員会</b>		
	熊取町遺跡群刃沓調査概要報告書 X VII 熊取町埋蔵文化財調査報告 第40集	2003
	中家住宅周辺遺跡発掘調査概要報告書 I 熊取町埋蔵文化財調査報告 第41集	2003
	東門寺跡発掘調査概要報告書 X I 熊取町埋蔵文化財調査報告 第42集	2003
	大久保F遺跡発掘調査概要報告書 I 熊取町埋蔵文化財調査報告 第43集	2003
<b>兵庫県 姫路市教育委員会</b>		
	姫路市埋蔵文化財調査略報 平成13年度 (2001)	2003
<b>尼崎市教育委員会</b>		
	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成7年度(4) 人物遺跡第1次調査概要 その3	2003
	尼崎市内遺跡 復旧・復興事業に伴う発掘調査 尼崎市文化財調査報告 第32集	2003
<b>加東郡教育委員会</b>		
	埋蔵文化財調査年報 ～2001年度～ 加東郡埋蔵文化財報告30	2003
	黒谷・岡ノ上遺跡 加東郡埋蔵文化財報告29	2003
<b>奈良県 奈良市教育委員会</b>		
	奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成12年度	2002
	奈良市埋蔵文化財調査センター紀要	2002
	西隆寺跡発掘調査報告書	2001
<b>奈良文化財研究所</b>		
	古代の官衛遺跡 I 遺構編	2003
<b>奈良県立橿原考古学研究所</b>		
	橿原考古学研究所年報 28 平成13年度 (2001)	2002
	大和高田市 西坊城遺跡Ⅱ 奈良県文化財調査報告書 第90集	2003
	桐山和田遺跡 ー大和高原における縄文時代草創期と早期の遺跡発掘調査報告書ー	2002

山辺郡都祁村	白石遺跡	奈良県文化財調査報告書	第93集	2003
中山大塚古墳	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	第82冊		2003
伴堂東遺跡	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	第80冊		2003
三ツ塚古墳	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	第81冊		2003
中町西遺跡	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	第85冊		2003
能峠遺跡群Ⅲ	奈良県史跡名勝天然記念物調査報告	第60冊		2003
後出古墳群	奈良県史跡名勝天然記念物調査報告	第61冊		2003
上5号墳－細川谷古墳群－	奈良県文化財調査報告	第92集		2003
北野ウチカタビロ遺跡	奈良県文化財調査報告書	第95集		2003
久米石橋遺跡	奈良県文化財調査報告書	第96集		2003
保津・宮古遺跡	奈良県文化財調査報告書	第100集		2003
貝塚庵寺・首子遺跡	奈良県史跡名勝天然記念物調査報告	第57冊		2003
本郷大田下遺跡	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	第83冊		2003
宮の平遺跡Ⅰ	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	第84冊		2003
新在家遺跡	奈良県文化財調査報告書	第54集		2003
三井岡原遺跡	奈良県文化財調査報告書	第94集		2003
三吉2号墳・タダオシ古墳	奈良県文化財調査報告書	第97集		2003
粟原カタソバ遺跡群	奈良県史跡名勝天然記念物調査報告	第65冊		2003
南郷遺跡群Ⅲ	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	第74冊		2003
宮の平遺跡Ⅱ	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	第86冊		2003
興福寺旧境内	奈良県文化財調査報告書	第78集		2003
棚機神社東古墳	奈良県文化財調査報告書	第98集		2002
岩清水スゲ谷古墳	奈良県文化財調査報告書	第99集		2003
大谷今池1号墳・2号墳	奈良県文化財調査報告書	第101集		2003
ハミ塚古墳	奈良県文化財調査報告書	第102集		2003
下永東城遺跡	奈良県文化財調査報告書	第103集		2003
上津大片刈遺跡	奈良県文化財調査報告書	第104集		2003
箸尾古屋鋪遺跡1・2・3次調査	奈良県文化財調査報告書	第106集		1997
奈良県遺跡調査概報2001年度（第1分冊）				2002
奈良県遺跡調査概報2001年度（第2分冊）				2002
奈良県遺跡調査概報2001年度（第3分冊）				2002
奈良県遺跡調査概報2002年度（第1分冊）				2003
奈良県遺跡調査概報2002年度（第2分冊）				2003
橿原考古学研究所年報	29			2003
<b>越前市文化財協会</b>				
2001年度	発掘調査報告書Ⅰ			2002
磐余遺跡群発掘調査概報Ⅱ	桜井市内埋蔵文化財	2001年度発掘調査報告書5		2002
2002年度	発掘調査報告書Ⅰ			2003
<b>斑鳩町教育委員会</b>				
斑鳩町内遺跡発掘調査概報	平成11年度（1999）			2002
<b>和歌山県</b>				
<b>和歌山市教育委員会</b>				
和歌山市内遺跡発掘調査概要報告書	－平成13年度－			2003
<b>財団法人 和歌山市文化体育振興事業団</b>				
太田・黒田遺跡	第45次発掘調査概報	和歌山市文化体育振興事業団調査報告書	第27集	2001
太田・黒田遺跡	第48次発掘調査概報	和歌山市文化体育振興事業団調査報告書	第30集	2002
太田・黒田遺跡	第52次発掘調査概報	和歌山市文化体育振興事業団調査報告書	第33集	2002
史跡和歌山城	第25・26次発掘調査概報	和歌山市文化体育振興事業団調査報告書	第35集	2002
和歌山城跡	第9次発掘調査概報	和歌山市文化体育振興事業団調査報告書	第36集	2003

	打田町教育委員会	
	史跡紀伊国分寺跡保存修理事業報告書	2003
	財団法人 由良大和古代文化研究協会	
	大峰山岳信仰遺跡の調査研究	2003
鳥取県	鳥取県教育委員会	
	史跡妻木晩田遺跡 第4次発掘調査報告書 史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書 第1集	2003
	妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2002	2003
島根県	松江市教育委員会	
	山津窯跡発掘調査報告書 ― 2・3号窯跡―	2003
	島根県教育委員会	
	尾白Ⅰ遺跡 尾白Ⅱ遺跡 家ノ脇Ⅱ遺跡3区 川平Ⅰ遺跡 尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ	2003
	家の後Ⅰ遺跡 垣ノ内遺跡 尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ	2003
	権現山城跡 権現山石切場跡 白石谷遺跡 三田谷Ⅰ遺跡 斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書ⅩⅤ	2003
	古志本郷遺跡Ⅴ 斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書ⅩⅥ	2003
	古志本郷遺跡Ⅵ 第1分冊 第2分冊 斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書ⅩⅦ	2003
	長廻遺跡Vol.2・権現山古墳 斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書ⅩⅧ	2003
	島根県教育庁 埋蔵文化財調査センター年報11	2003
	史跡出雲国府跡 風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書14	2003
	西Ⅰ遺跡・祇園原Ⅰ遺跡 石橋Ⅰ遺跡・高瀬城北遺跡	
	山陰自動車道鳥取益田線（六道～出雲間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ	2003
	西川津遺跡Ⅸ 朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第14冊	2003
	殿淵山遺跡・獅子谷遺跡② 志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書17	2003
	神原Ⅱ遺跡③ 志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書18	2003
	戸井谷遺跡 志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書19	2003
	板屋Ⅲ遺跡② 志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書20	2003
	貝谷遺跡②丸山金屋子遺跡 志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書21	2003
	島根県埋蔵文化財調査センター	
	弥生時代の磨製石器 島根県古代文化センター調査研究報告書13	2003
	島根県大田市教育委員会	
	町並みと銀山 遺構確認調査概報Ⅰ 大田市埋蔵文化財調査報告 第28集	2003
	島根県教育委員会・大田市教育委員会	
	石見銀山 石見銀山遺跡発掘調査概要13	2003
	石見銀山 石見銀山遺跡石造物調査報告書Ⅲ	2003
岡山県	岡山県教育委員会	
	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 170 苫田ダム建設に伴う発掘調査	2003
	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 171 ふるさと農道緊急整備事業に伴う発掘調査	2003
	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 172 一般農道整備事業（是里2期地区）に伴う発掘調査	2003
	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 173 津島遺跡Ⅳ（第1分冊）（第2分冊）	2003
	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 174 主要地方道佐伯長船線（美作岡山道路）道路改築に伴う発掘調査Ⅰ	2003
	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 175 県立図書館建設に伴う発掘調査	2003
	岡山県古代吉備文化財センター	
	所報 吉備 第34号 国司尾遺跡・天神遺跡出土遺物	2003
	加計学園埋蔵文化財調査室	
	津島東3丁目遺跡第1地点 清水谷遺跡 加計学園埋蔵文化財調査室発掘調査報告書Ⅰ	1995
	岡山市教育委員会	
	中尾平山遺跡 中尾住宅団地（アビオ中尾台）造成に伴う発掘調査	2003
	岡山市埋蔵文化財センター年報Ⅱ	2003
	妹尾住田遺跡 古代の公的港湾施設関連遺跡の発掘調査報告	2003

<b>倉敷埋蔵文化財センター</b>		
寒田窯跡群 4 号 倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告 第10集		2003
<b>総社市教育委員会</b>		
総社市埋蔵文化財調査年報 12		2003
総社市埋蔵文化財発掘調査報告 16 三須地区県営農業基盤整備事業に伴う発掘調査		2003
<b>広島県 広島大学大学院文学研究科帝釈峡遺跡群発掘調査室</b>		
帝釈峡遺跡群発掘調査室年報 XⅦ		2003
<b>福山市教育委員会</b>		
大谷古墳 住宅団地造成に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書		2001
<b>財団法人 東広島市教育文化振興事業団</b>		
西本 6 号遺跡発掘調査報告書 2 文化財センター調査報告書 第11冊		1997
鴻巣東 1 号遺跡発掘調査報告書 文化財センター調査報告書 第17冊		1998
市内遺跡緊急調査報告書 文化財センター調査報告書 第28冊		2000
青谷 1 号遺跡発掘調査報告書 文化財センター調査報告書 第34冊		2002
原の谷古墳・原の谷遺跡発掘調査報告書 文化財センター調査報告書 第37冊		2003
志和町志和東 時宗遺跡発掘調査報告書 文化財センター調査報告書 第38冊		2003
福成寺旧境内遺跡発掘調査報告書 文化財センター調査報告書 第22冊		1999
鴻巣東 1・2 号遺跡発掘調査報告書 文化財センター調査報告書 第27冊		1999
吉光谷遺跡発掘調査報告書Ⅰ 文化財センター調査報告書 第32冊		2001
吉光谷遺跡発掘調査報告書Ⅱ 文化財センター調査報告書 第33冊		2001
<b>山口県 下関市立考古博物館</b>		
下関市立考古博物館年報 8 平成14年度		2003
<b>下関市教育委員会</b>		
宮の原遺跡 下関市埋蔵文化財調査報告書 49		2003
永福遺跡 下関市埋蔵文化財調査報告書 55		2003
長門国府跡 下関市埋蔵文化財調査報告書 62		2003
長門鑄銭所跡 下関市埋蔵文化財調査報告書 75		2003
塚の原遺跡 下関市埋蔵文化財調査報告書 76		2003
矢風呂遺跡 下関市埋蔵文化財調査報告書 77		2003
長門国府跡 下関市埋蔵文化財調査報告書 78		2003
<b>山口県埋蔵文化財センター</b>		
東禅寺・黒山遺跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第34集		2003
矢田遺跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第35集		2003
竜王南遺跡Ⅱ 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第37集		2003
山口県埋蔵文化財センター年報 ー平成14年度ー 陶損 第16号		2003
<b>山口市教育委員会</b>		
山口市内遺跡詳細分布調査 山口市埋蔵文化財調査報告第84集		2003
山口市埋蔵文化財年報 2 平成13年度		2003
中込田遺跡 山口市埋蔵文化財調査報告 第79集		2002
赤妻遺跡 山口市埋蔵文化財調査報告 第81集		2003
乗福寺跡Ⅱ 山口市埋蔵文化財調査報告 第82集		2003
上東遺跡Ⅱ 山口市埋蔵文化財調査報告 第83集		2003
大内氏関連町並遺跡Ⅲ 山口市埋蔵文化財調査報告 第84集		2003
史跡高嶺城跡周辺測量調査報告書 山口市埋蔵文化財調査報告 第86集		2003
<b>防府市教育委員会</b>		
平成12年度 防府市内遺跡発掘調査概要 防府市埋蔵文化財調査概要 0201		2002
佐野焼17号窯（宮窯）発掘調査報告Ⅰ 防府市埋蔵文化財調査報告 0201		2002
下右田遺跡 第20次発掘調査報告 防府市埋蔵文化財調査報告 0212		2002

平成13年度防府市内遺跡発掘調査概要	2003
向山・紫山古墳群発掘調査報告	2003
<b>徳島県 徳島県教育委員会</b>	
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第37集 大柿遺跡 第1分冊～第4分冊 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告18	2001
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第33集 矢野遺跡(Ⅰ)第1分冊～第3分冊 徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2001
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第44集 矢野遺跡(Ⅱ)紀文・弥生編 第1分冊～2分冊 徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第45集 丸山遺跡 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書23	2003
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第47集 徳島城下町遺跡 徳島公共職業安定所及び徳島障害者センター庁舎新営地における埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.13	2001
<b>香川県 高松市教育委員会</b>	
史跡天然記念物屋島 高松市埋蔵文化財調査報告 第62集	2003
史跡高松城跡地久櫓台発掘調査概報 高松市埋蔵文化財調査報告 第63集	2003
高松市内遺跡発掘調査概報 高松市埋蔵文化財調査報告 第64集	2003
天満・宮西遺跡 高松市埋蔵文化財調査報告 第60集	2002
高松城跡 鯉津市埋蔵文化財調査報告 第61集	2002
紺屋町遺跡 高松市埋蔵文化財調査報告 第65集	2003
日暮・松竹遺跡(済生会) 香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
<b>丸亀市教育委員会</b>	
平成13年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書	2002
平成14年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書	2003
<b>香川県丸亀市教育委員会</b>	
中の池遺跡 第8次調査	2003
<b>丸亀市松本考古学研究所</b>	
中の池遺跡 丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2000
<b>愛媛県 愛媛県埋蔵文化財調査センター</b>	
常定寺遺跡 音地遺跡 伊崎越遺跡 一四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ一	2003
永地遺跡 一一般国道317号大島道路埋蔵文化財調査報告書一	2003
道後今市遺跡13次 一四国財務局樋又住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書一	2003
中尾山遺跡1次・2次 一一般県道粟井浅海線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書一	2003
久米窪田Ⅳ遺跡2次 一主要地方道松山東部環状線交通安全施設等整備工事に伴う埋蔵文化財調査報告書一	2003
山越遺跡4次 一四国財務局山越住宅2号棟建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書一	2003
<b>松山市教育委員会 埋蔵文化財センター</b>	
久米高畑遺跡 松山市文化財調査報告書 93	2003
樽味四反地遺跡 松山市文化財調査報告書 94	2003
葉佐池古墳 松山市文化財調査報告書92	2003
松山市埋蔵文化財調査年報 14 平成13年度	2003
船ヶ谷遺跡 松山市文化財調査報告書 88	2002
道後城北遺跡群Ⅱ 松山市埋蔵文化財調査報告書 37	1994
大峰ヶ谷遺跡 松山市文化財調査報告書 48	1995
桑原地区の遺跡Ⅲ 松山市文化財調査報告書 58	1997
福音小学校構内遺跡Ⅱ 松山市文化財調査報告書 91	2003
船ヶ谷遺跡4次調査Ⅱ・福音小学校構内遺跡Ⅲ 松山市文化財調査報告書 95	2003
<b>愛媛大学埋蔵文化財調査室</b>	
樽味遺跡Ⅳ 愛媛大学埋蔵文化財調査報告書Ⅸ	2003

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 ―1999・2000年度― 愛媛大学埋蔵文化財調査報告書X			2003
<b>今治市教育委員会</b>			
市内遺跡試掘確認調査報告書X V	今治市埋蔵文化財調査報告書 第68集		2003
市内遺跡試掘確認調査報告書X VI	今治市埋蔵文化財調査報告書 第69集		2003
高橋岡ノ端遺跡	今治市埋蔵文化財調査報告書 第70集		2003
<b>愛媛県広見町教育委員会</b>			
旧等妙寺跡（第1次調査）	―平成6年度～9年度学術調査に伴う埋蔵文化財調査報告書 第1集―		1999
旧等妙寺跡（第2次調査）	―平成11年度学術調査に伴う埋蔵文化財調査概要報告書―		2000
旧等妙寺跡（第3次調査）	―平成12年度学術調査に伴う埋蔵文化財調査概要報告書―		2001
旧等妙寺跡（第4次調査）	―平成13年度学術調査に伴う埋蔵文化財調査概要報告書―		2002
旧等妙寺跡（第5次調査）	―平成14年度学術調査に伴う埋蔵文化財調査概要報告書―		2003
<b>愛媛県松野町教育委員会</b>			
河後森城跡環境整備事業概要報告書II	松野町文化財調査報告 第11集		2003
<b>福岡県 埋蔵文化財調査室</b>			
上門(C)遺跡 5	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第287集		2002
長野尾登遺跡第3地点 2	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第288集		2003
横代堂ノ前遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第289集		2003
上清水遺跡VI区	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第290集		2003
片野遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第291集		2003
金丸遺跡 4	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第292集		2003
小倉城代米御蔵跡III	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第293集		2003
志井雀木遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第294集		2003
横代峠遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第295集		2003
朽網南塚遺跡 1	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第296集		2003
加治屋敷遺跡 1・朽網南塚遺跡 2	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第297集		2003
堅町遺跡第2地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第298集		2003
洗子窯跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第299集		2003
重留遺跡第7地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第300集		2003
長野フンデ遺跡 3	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第301集		2003
横代堂ノ前遺跡 1区	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第302集		2003
重留遺跡第4地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第303集		2003
三郎九遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第304集		2003
寺町遺跡 2	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第305集		2003
埋蔵文化財調査室年報 19			2003
<b>北九州市教育委員会</b>			
木屋瀬宿東構口跡	北九州市文化財調査報告書 第97集		2003
大門遺跡	北九州市文化財調査報告書 第98集		2003
室町遺跡 第4地点	北九州市文化財調査報告書 第99集		2003
上葛原遺跡第1地点	上葛原第二土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査		2003
上葛原遺跡第2地点	上葛原第二土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査		2003
<b>福岡市教育委員会</b>			
青木 3	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第734集		2003
有田・小田部38	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第735集		2003
市道御供所井尻線建設に伴う発掘調査報告 1	―井尻B遺跡11― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第736集		2003
今宿五郎江遺跡IV	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第737集		2003
今宿遺跡 2	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第738集		2003
外環状道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書16	―梅林遺跡 4― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第739集		2003
大橋E遺跡 5	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第740集		2003

大原D遺跡群4 〈縄文時代編〉 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第741集	2003
上月隈B遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第742集	2003
九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報2 一元岡・桑原遺跡群発掘調査― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第743集	2003
一元岡・桑原遺跡群2― 九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第744集	2003
鴻臚館跡13 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第745集	2003
雀居7 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第746集	2003
雀居8 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第747集	2003
雀居9、別冊 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第748集	2003
重留村下遺跡2 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第749集	2003
下月隈C遺跡Ⅲ 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第750集	2003
福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告17 一日佐遺跡群第3次調査― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第751集	2003
外環状道路関係文化財発掘調査報告書18 一笠拔遺跡― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第752集	2003
外環状道路関係文化財発掘調査報告書19 一寺島遺跡― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第753集	2003
外環状道路関係文化財発掘調査報告書20 一野多目A遺跡― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第754集	2003
下月隈鳥越遺跡・水町古墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第755集	2003
那珂33 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第756集	2003
博多86 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第757集	2003
博多88 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第759集	2003
博多89 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第760集	2003
博多90 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第761集	2003
博多91 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第762集	2003
博多92 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第763集	2003
博多93 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第764集	2003
博多94 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第765集	2003
博多95 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第766集	2003
宮崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅰ 一箱崎14― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第767集	2003
箱崎15 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第768集	2003
羽根戸古墳群5 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第769集	2003
比恵31 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第770集	2003
比恵32 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第771集	2003
福岡城跡大手門 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第772集	2003
三苫4 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第773集	2003
麦野A遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第774集	2003
飯盛・吉武開場整備事業関係調査報告書9 一吉武遺跡群XⅤ― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第775集	2003
諸岡B遺跡20次 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第776集	2003
空港線関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 一席田青木遺跡5― 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第777集	2003
吉塚8 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第778集	2003
立花寺5 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第779集	2003
飯氏二塚古墳2 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第780集	2003
年報Vol.16 平成13(2001)年度	2003
<hr/>	
九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室	
佐賀県大友遺跡Ⅱ 一弥生墓地の発掘調査―	2003
<hr/>	
福岡県教育委員会	
大の遺跡Ⅰ・日詰遺跡Ⅰ 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第19集	2003
菩提遺跡Ⅰ 仲哀改良工事関係埋蔵文化財調査報告Ⅰ	2003
西新町遺跡Ⅴ 県立修猷館高校改築事業関係埋蔵文化財調査報告Ⅳ	2003
忠隈宮坂遺跡・鶴三緒七浦遺跡 飯塚庄内田川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第2集	2003
内ヶ磯窯跡3 福岡県文化財調査報告書 第181集	2003



長崎街道 福岡県文化財調査報告書 第184集	2003
埋蔵文化財発掘調査年報	2003
<b>福岡大学人文学部考古学研究室</b>	
佐賀県・東十郎古墳群の研究 対馬・サイノヤマ古墳の調査 福岡大学考古学研究室研究調査報告 第2冊	2003
<b>久留米市教育委員会</b>	
久留米城下町遺跡 久留米市文化財調査報告書 第185集	2003
京隈持屋敷遺跡 久留米市文化財調査報告書 第186集	2003
久留米城外郭遺跡 久留米市文化財調査報告書 第187集	2003
正福寺遺跡 久留米市文化財調査報告書 第188集	2003
久留米市埋蔵文化財調査集報・久留米市文化財調査報告書 第189集	2003
碓遺跡 久留米市文化財調査報告書 第190集	2003
金丸遺跡Ⅲ 久留米市文化財調査報告書 第191集	2003
筑後国三潁郡衙跡 久留米市文化財調査報告書 第192集	2003
筑後国府跡 久留米市文化財調査報告書 第193集	2003
久留米市内遺跡群 久留米市文化財調査報告書 第194集	2003
<b>直方市教育委員会</b>	
植木平遺跡 直方市文化財調査報告書 第25集	2003
津田町遺跡 直方市文化財調査報告書 第26集	2003
雲心寺・随専寺墓地遺跡 直方市文化財調査報告書 第27集	2003
<b>筑後市教育委員会</b>	
西牟田上京手遺跡 筑後市文化財調査報告書 第46集	2003
羽犬塚中道遺跡 筑後市文化財調査報告書 第47集	2003
羽犬塚山ノ前遺跡 筑後市文化財調査報告書 第48集	2003
羽犬塚源ヶ野遺跡 筑後市文化財調査報告書 第49集	2003
筑後西部第2地区遺跡群Ⅵ 筑後市文化財調査報告書 第50集	2003
筑後西部第2地区遺跡群Ⅶ 筑後市文化財調査報告書 第51集	2003
筑後市内遺跡群Ⅴ 筑後市文化財調査報告書 第52集	2003
水田天満宮本殿保存修理工事報告書 筑後市文化財調査報告書 第53集	2003
<b>行橋市教育委員会</b>	
徳永泉古墳・徳永法師ヶ坪遺跡 行橋市文化財調査報告書 第30集	2002
今井祇園祭 行橋市文化財調査報告書 第31集	2002
<b>豊前市教育委員会</b>	
河原田善丸遺跡 豊前市文化財報告書 第16集	2003
吉木穴井遺跡 豊前市文化財報告書 第17集	2003
四郎丸米ヶ谷遺跡 豊前市文化財報告書 第18集	2003
<b>小郡市教育委員会</b>	
畑又地区遺跡群Ⅴ 小郡市文化財調査報告書 第106集	1996
福童山の上遺跡5 小郡市文化財調査報告書 第171集	2003
横隈上内畑遺跡5 小郡市埋蔵文化財調査報告書 第172集	2003
三沢ハサコの宮遺跡Ⅳ 小郡市文化財調査報告書 第173集	2003
力武内畑遺跡5・6 小郡市文化財調査報告書 第174集	2003
西島遺跡6・7 小郡市文化財調査報告書 第177集	2003
三沢宮ノ前遺跡2 小郡市文化財調査報告書 第178集	2003
三沢北中尾遺跡3地点 小郡市文化財調査報告書 第179集	2003
大保龍頭遺跡3・4・5 小郡市文化財調査報告書 第183集	2003
三沢宮ノ原遺跡 小郡市文化財調査報告書 第185集	2003
畑又地区遺跡群Ⅲ 小郡市文化財調査報告書 第104集	1996
大崎遺跡1 小郡市文化財調査報告書 第175集	2003

大板井遺跡XⅧ 小郡市文化財調査報告書 第176集	2003
大板井遺跡19 小郡市文化財調査報告書 第179集	2003
<b>小郡市史編集委員会</b>	
小郡市史 第1巻 通史編（地理・原始・古代）	1996
小郡市史 第2巻 通史編（中世・近世・近代）	2003
小郡市史 第3巻 通史編（現代・民俗・地名）	1998
小郡市史 第4巻 資料編（原始・古代）	2001
小郡市史 第5巻 資料編（中世・近世・近代）	1999
小郡市史 第6巻 資料編（現代・民俗・地名）	2002
小郡市史 第7巻 資料編（年表・総索引）	2003
<b>筑紫野市教育委員会</b>	
大宰府条坊跡 筑紫野市文化財調査報告書 第75集	2003
大牟田西遺跡 筑紫野市文化財調査報告書 第76集	2003
原田第1・2・40・41号墓地 上巻 筑紫野市文化財調査報告書 第77集	2003
<b>春日市教育委員会</b>	
伯玄社遺跡 春日市文化財調査報告書 第35集	2003
春日市埋蔵文化財年報 10	2003
<b>大宰府市教育委員会 玉川文化財研究所</b>	
大宰府・佐野地区遺跡群15 太宰府市の文化財 第65集	2002
<b>太宰府市教育委員会</b>	
太宰府・佐野地区遺跡群16 太宰府市の文化財 第66集	2003
水城跡2 太宰府市の文化財 第67集	2003
連歌屋遺跡1 太宰府市の文化財 第68集	2003
<b>九州歴史資料館</b>	
九州歴史資料館年報 平成14年度	2003
<b>前原市教育委員会</b>	
多久川流域の遺跡群 前原市文化財調査報告書 第79集	2002
釜塚古墳 前原市文化財調査報告書 第81集	2003
三雲・井原遺跡Ⅲ 前原市文化財調査報告書 第82集	2003
井原1号墳 前原市文化財調査報告書 第83集	2003
前原西町遺跡Ⅱ 前原市文化財調査報告書 第84集	2003
高祖城 前原市文化財調査報告書 第85集	2003
<b>古賀市教育委員会</b>	
主要地方道筑紫野古賀線改良工事関係埋蔵文化財調査報告書 第1集 古賀市文化財調査報告書 第23集	2000
主要地方道筑紫野古賀線改良工事関係埋蔵文化財調査報告書 第2集 古賀市文化財調査報告書 第24集	2000
六ノ坪・百田遺跡1 古賀市文化財調査報告書 第26集	2000
川原西地区遺跡群第1地点Ⅱ 古賀市文化財調査報告書 第25集	2000
極田・杉ノ木遺跡 ーサンコスモ古墳建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告 その1ー	2001
川原西地区遺跡群Ⅲ 県道筑紫野古賀線工事に伴う埋蔵文化財調査報告 第3集	2002
極田・杉ノ木遺跡 ーサンコスモ古墳建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告 その2ー	2003
鹿部田測遺跡 古賀市文化財調査報告書 第33集	2003
馬渡・束ヶ浦遺跡 ー古賀グリーンパーク造成工事に伴う埋蔵文化財調査概要報告ー	2003
<b>那珂川町教育委員会</b>	
大牟田遺跡群 那珂川町文化財報告書 第60集	2002
片縄山古墳群 那珂川町文化財報告書 第61集	2003
丸ノ口古墳群保存整備事業報告書	2003
<b>粕屋町教育委員会</b>	
戸原五寸田遺跡 粕屋町文化財調査報告書 第20集	2002

<b>遠賀町教育委員会</b>		
花園遺跡 遠賀町文化財調査報告書 第15集		2003
先ノ野遺跡 遠賀町文化財調査報告書 第16集		2003
<b>若宮町教育委員会</b>		
原田遺跡群Ⅰ 若宮町文化財調査報告書 第17集		2003
中遺跡群Ⅴ 若宮町文化財調査報告書 第18集		2003
小原古墳群Ⅱ 若宮町文化財調査報告書 第19集		2003
<b>稲築町教育委員会</b>		
沖出古墳公園整備事業報告書		2003
<b>北野町教育委員会</b>		
大城小学校校庭遺跡 福岡県三井郡北野町大字大城所在遺跡の調査		2003
<b>大刀洗町教育委員会</b>		
高橋城跡1 大刀洗町文化財調査報告書 第24集		2003
高橋城跡2 大刀洗町文化財調査報告書 第25集		2003
山隈中西又原遺跡 大刀洗町文化財調査報告書 第26集		2003
<b>高田町教育委員会</b>		
竹海校東遺跡 高田町文化財調査報告書 第7集		2003
<b>豊津町教育委員会</b>		
徳永川ノ上遺跡G地区 豊津町文化財調査報告書 第28集		2003
小笠原藩市井方役所跡 豊津町文化財調査報告書 第29集		2003
<b>新吉富村教育委員会</b>		
宇野地区遺跡群Ⅴ 新吉富村文化財調査報告書 第16集		2003
<b>佐賀県 佐賀県教育委員会</b>		
吉野ヶ里遺跡 平成2年度～7年度の発掘調査の概要		1997
吉野ヶ里遺跡 日本最大の環濠集落跡		2003
杉籠遺跡 一岡宮吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書1ー		2001
佐賀県内遺跡確認調査報告書20 佐賀県文化財調査報告書 第151集		2002
佐賀県内遺跡確認調査報告書21 佐賀県文化財調査報告書 第157集		2003
佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 15 佐賀県文化財調査報告書 第133集		1997
牟田口遺跡 佐賀市文化財調査報告書 第140集		2003
石土井遺跡 上九郎遺跡 薬師丸五本柳遺跡 園田遺跡 佐賀市文化財調査報告書 第141集		2003
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書ー2000年度ー 佐賀市文化財調査報告書 第142集		2003
梅白遺跡 佐賀県文化財調査報告書 第154集		2003
吉野ヶ里銅鐸 佐賀県文化財調査報告書 第152集		2002
中原遺跡		2002
吉野ヶ里遺跡 佐賀県文化財調査報告書 第156集		2003
<b>唐津市教育委員会</b>		
唐津市内遺跡確認調査09 唐津市文化財調査報告書 第107集		2003
鶏ノ尾遺跡(1) 唐津市文化財調査報告書 第108集		2003
鶏ノ尾遺跡(2) 唐津市文化財調査報告書 第109集		2003
徳蔵谷遺跡(4) 唐津市文化財調査報告書 第110集		2003
半田引地遺跡 唐津市文化財調査報告書 第111集		2003
<b>鳥栖市教育委員会</b>		
鳥栖の中世Ⅳ ー鳥栖の町づくりと歴史・文化講座ー		2003
勝尾城下町遺跡 保存整備基本計画書		2003
本行遺跡 鳥栖市文化財調査報告書 第51集		1997
養父遺跡・四の坪遺跡 本村遺跡・原古賀遺跡 鳥栖市文化財調査報告書 第52集		1997
蔵上遺跡Ⅰ 鳥栖市文化財調査報告書 第58集		2000

内精遺跡 鳥栖市文化財調査報告書 第59集	2000
蔵上遺跡Ⅱ 鳥栖市文化財調査報告書 第60集	2000
蔵上遺跡Ⅲ 鳥栖市文化財調査報告書 第61集	2000
藤木遺跡 今泉遺跡 鳥栖市文化財調査報告書 第68集	2002
所熊山古墳群 鳥栖市文化財調査報告書 第69集	2003
フケ遺跡 神山遺跡 内畑遺跡 鳥栖市文化財調査報告書 第70集	2003
江戸時代の鳥栖 鳥栖の町づくりと歴史・文化講座	1994
江戸時代の鳥栖Ⅱ 鳥栖の町づくりと歴史・文化講座	1995
鳥栖の中世 鳥栖の町づくりと歴史・文化講座	1992
鳥栖の中世Ⅱ 鳥栖の町づくりと歴史・文化講座	2001
鳥栖の中世Ⅲ 鳥栖の町づくりと歴史・文化講座	2002
鳥栖の中世Ⅳ 鳥栖の町づくりと歴史・文化講座	2003
<b>東北芸術工科大学考古学研究室</b>	
高安窯跡群 東北芸術工科大学考古学研究報告 第2冊	2003
置賜地域の終末期古墳Ⅰ 東北芸術工科大学考古学研究報告 第1冊	2002
<b>佐賀県伊万里市教育委員会</b>	
加志田遺跡 円造寺遺跡 伊万里市文化財調査報告書 第38集	1992
牛辰遺跡 伊万里市文化財調査報告書 第47集	2000
宮ノ前北遺跡 伊万里市文化財調査報告書 第43集	1996
<b>佐賀県佐賀郡富士町教育委員会</b>	
富士町内遺跡発掘調査報告書 平成7年度～13年度	2003
中原遺跡Ⅰ区 町営住宅中原用地建替事業関係埋蔵文化財調査報告書	2003
<b>神埼町教育委員会</b>	
西田遺跡 神埼町文化財調査報告書 第66集	2000
船塚遺跡 神埼町文化財調査報告書 第67集	2000
荒堅日遺跡Ⅱ区 神埼町文化財調査報告書 第68集	2000
唐小原遺跡Ⅱ区 神埼町文化財調査報告書 第69集	2001
馬郡遺跡Ⅲ区 神埼町文化財調査報告書 第70集	2001
利田柳遺跡 神埼町文化財調査報告書 第71集	2001
城原一本松遺跡Ⅱ区 神埼町文化財調査報告書 第72集	2001
馬郡遺跡 神埼町文化財調査報告書 第73集	2002
猿嶽古墳群 神埼町文化財調査報告書 第74集	2002
花浦古墳群 神埼町文化財調査報告書 第75集	2002
八子三本黒木遺跡Ⅱ区 神埼町文化財調査報告書 第76集	2002
八子三本黒木遺跡Ⅰ区 神埼町文化財調査報告書 第77集	2003
尾崎土生遺跡Ⅰ6区 神埼町文化財調査報告書 第78集	2003
尾崎土生遺跡 神埼町文化財調査報告書 第79集	2003
唐香原遺跡Ⅲ区 神埼町文化財調査報告書 第80集	2003
小淵遺跡Ⅰ3区 神埼町文化財調査報告書 第81集	2003
<b>佐賀県 三田川町教育委員会</b>	
下中杖遺跡 三田川町文化財調査報告書 第4集	1998
吉野ヶ里遺跡 三田川町文化財調査報告書 第5集	2003
<b>巖木町教育委員会</b>	
獅子城跡Ⅰ 一獅子城跡本丸発掘調査概報	2002
<b>鎮西町教育委員会</b>	
平野町遺跡(第Ⅱ区) 鎮西町文化財調査報告書 第21集	2003
<b>長崎県 長崎県松浦市教育委員会</b>	
田川遺跡 松浦市文化財調査報告書 第12集	1997

松浦市内遺跡確認調査(2) 松浦市文化財調査報告書 第13集	1998
松浦・今福遺跡 松浦市文化財調査報告書 第14集	1998
小船遺跡 松浦市文化財調査報告書 第15集	2000
松浦市内遺跡確認調査(3) 松浦市文化財調査報告書 第16集	2001
田口高野遺跡 松浦市文化財調査報告書 第17集	2001
下谷遺跡 松浦市文化財調査報告書 第18集	2002
松浦市内遺跡確認調査(4) 松浦市文化財調査報告書 第19集	2003
<b>長崎県南高来郡南串山町教育委員会</b>	
妙見床 南串山町文化財調査報告書 第5集	2003
<b>長崎県鷹島町教育委員会</b>	
鷹島海底遺跡Ⅳ 鷹島町文化財調査報告書 第7集	2003
鷹島海底遺跡Ⅸ 鷹島町文化財調査報告書 第8集	2003
<b>巖原町教育委員会</b>	
国史跡 矢立山古墳群 ―保存修理事業に伴う発掘調査―	2002
<b>熊本大学文学部考古学研究室</b>	
考古学研究室報告 第38集	2003
<b>熊本市教育委員会</b>	
池辺寺跡Ⅴ	2003
陳山廃寺	1996
島崎遺跡	2003
熊本市埋蔵文化財調査年報 第5号	2003
神水遺跡Ⅴ	2003
熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集	2003
<b>八代市立博物館未来の森ミュージアム</b>	
松井文庫所蔵古文書調査報告書 七	2003
<b>菊池市教育委員会</b>	
木柑子遺跡群 菊池市文化財調査報告	2002
<b>熊本県宇土市教育委員会</b>	
宇土城跡(西岡台)Ⅴ ―発掘調査・保存整備事業概報―	2002
境目遺跡 ―第7次調査―	2001
宇土城跡(西岡台)Ⅵ 宇土市埋蔵文化財調査報告書 第24集	2003
宇土市史研究 第23号	2002
<b>歴史公園鞠智城・温故創生館</b>	
鞠智城跡 第23次調査報告	2003
<b>旭志村教育委員会</b>	
前畑遺跡 旭志村文化財調査報告 第5集	2003
伊坂東原遺跡 旭志村文化財調査報告 第6集	2003
古閑下遺跡 旭志村文化財調査報告 第4集	1998
栄ノ平遺跡 旭志村文化財調査報告 第7集	2004
伊坂上ノ原遺跡 旭志村文化財調査報告 第8集	2004
<b>熊本県益城町教育委員会</b>	
杉の久保遺跡 益城町文化財調査報告 第19集	2004
<b>熊本県球磨郡相良村教育委員会</b>	
西原遺跡 相良村文化財調査報告 第3集	2003
野原遺跡Ⅰ 相良村文化財調査報告 第4集	2003
<b>大分県 大分県教育委員会</b>	
葛木遺跡 大分県文化財調査報告書 第149輯	2003
八坂の遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 大分県文化財調査報告書 第150輯	2003

和泉第1遺跡 和泉第2遺跡 東カヤノ原遺跡 大分県文化財調査報告書 第151輯	2003
上松岡遺跡 大分県文化財調査報告書 第152輯	2003
槇遺跡 大分県文化財調査報告書 第153輯	2003
照湯遺跡 大分県文化財調査報告書 第154輯	2003
又江遺跡 大分県文化財調査報告書 第155輯	2003
野村台遺跡 大分県文化財調査報告書 第156輯	2003
古田遺跡 大分県文化財調査報告書 第157輯	2003
坂手前遺跡 大分県文化財調査報告書 第158輯	2003
寺畑遺跡 大分県文化財調査報告書 第159輯	2003
大分の中世城館 第二集 大分県文化財調査報告書 第160輯	2003
大分の中世城館 第三集 大分県文化財調査報告書 第161輯	2003
大分県文化財年報 11	2003
<b>中津市教育委員会</b>	
沖代地区条里跡 福成・龍田地区 中津城下町遺跡	
殿町奥平孫次郎屋敷跡 中津城本丸南西石垣Ⅱ 中津市文化財調査報告 第30集	2003
ガラスノ遺跡 中津市文化財調査報告 第3集	1984
幣旗邸古墳 中津市文化財調査報告書 第4集	1984
石堂池遺跡 中津市文化財調査報告書 第28集	2003
停車場遺跡 中津市文化財調査報告書 第29集	2003
<b>日田市教育委員会</b>	
日田条里飛矢地区 日田市埋蔵文化財調査報告書 第40集	2003
穴観音古墳 日田地区遺跡群発掘調査報告2 日田市埋蔵文化財調査報告書 第41集	2003
吹上Ⅰ 日田地区遺跡群発掘調査報告3 日田市埋蔵文化財調査報告書 第42集	2003
穴原遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第43集	2003
大肥中村遺跡 発掘調査概報	2003
日田市埋蔵文化財年報	2002
求来里平島遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第38集	2002
葛原遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第39集	2002
<b>佐伯市教育委員会</b>	
佐伯城下町遺跡 山中家屋敷跡・竹中家屋敷跡	2003
<b>臼杵市教育委員会</b>	
特別史跡 臼杵磨崖仏（大日石仏）保存整備工事報告書	2003
<b>豊後高田市教育委員会</b>	
私田鬼塚2号墳 豊後高田市文化財調査報告書 第8集	2001
荒尾・私田条里遺跡 豊後高田市文化財調査報告書 第9集	2002
佐野地区遺跡発掘調査報告書 豊後高田市文化財調査報告書 第10集	2002
天念寺遺跡門重坊地区1次地点 豊後高田市文化財調査報告書 第12集	2003
嶺崎地区遺跡発掘調査報告書 豊後高田市文化財調査報告書 第11集	2002
<b>大分県立歴史博物館</b>	
豊後國安岐郷の調査 資料編	2003
<b>宇佐市教育委員会</b>	
別府・樋田前遺跡 公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
宇佐地区遺跡群発掘調査概報ⅩⅣ 今年度調査の概要 高森城跡5次調査 法鏡寺廃寺跡5次調査	2002
山ノ下横穴墓 中原遺跡 上居屋敷遺跡 神田遺跡 別府遺跡	
一般国道387号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2002
<b>大分県日出町教育委員会</b>	
日出城（陽谷城）本丸跡 日出町文化財報告書 第4集	2003
<b>野津原町教育委員会</b>	

下原遺跡 県営圃場整備事業津原西部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
<b>三重町教育委員会</b>	
三重地区遺跡跡群発掘調査概報Ⅷ 内田古墳群 垣内遺跡	2003
<b>大分県緒方町教育委員会</b>	
井上糸里遺跡 平成14年度県営担い手育成基盤整備事業井上地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
<b>九重町教育委員会</b>	
時代の旅人 九重町文化財調査報告 第24集	2002
失われた風景 九重町文化財調査報告 第25集	2003
九重町歴史資料館年報	2003
<b>末廣神社栖鳳保存修理委員会</b>	
大分県指定有形文化財 末廣神社栖鳳保存修理工事報告書	2003
<b>大分県日田郡天瀬町教育委員会</b>	
高瀬Ⅲ遺跡 亀石山遺跡	2003
<b>大分県三光村教育委員会</b>	
三光村の遺跡 三光村文化財調査報告書 (第4集)	2003
<b>宮崎県 宮崎市教育委員会</b>	
史跡 生目古墳群 宮崎市文化財調査報告書 第54集	2003
宮脇第2遺跡 宮崎市文化財調査報告書 第55集	2003
北中遺跡Ⅲ 宮崎市文化財調査報告書 第56集	2003
<b>宮崎県教育委員会</b>	
平成14年度 農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書	2003
西都原171号墳 特別史跡 西都原古墳群発掘調査報告書 第4集	2003
西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書(Ⅶ)	2003
<b>宮崎県日南市教育委員会</b>	
飫肥城跡 日南市埋蔵文化財調査報告書 第3集	1994
<b>宮崎県小林市教育委員会</b>	
栗巣野遺跡 小林市埋蔵文化財調査報告書 第15集	2003
広庭遺跡 小林市埋蔵文化財調査報告書 第16集	2003
<b>宮崎県えびの市教育委員会</b>	
草刈田遺跡 えびの市埋蔵文化財調査報告書 第39集	2004
東川北地区遺跡群 えびの市埋蔵文化財調査報告書 第40集	2004
<b>清武町教育委員会</b>	
坂元遺跡 清武町埋蔵文化財調査報告書 第9集	2001
上猪ノ原遺跡ー1ー 清武町埋蔵文化財調査報告書 第10集	2002
上猪ノ原遺跡ー2ー 清武町埋蔵文化財調査報告書 第11集	2003
角上原遺跡群Ⅱ 清武町埋蔵文化財調査報告書 第4集	1993
<b>宮崎県宮崎郡田野町教育委員会</b>	
高野原遺跡B・C区(2) 田野町文化財調査報告書 第45集	2003
高野原遺跡B・C区(3) 田野町文化財調査報告書 第46集	2003
鹿村野地区遺跡 田野町文化財調査報告書 第47集	2003
<b>宮崎県埋蔵文化財センター</b>	
埴尾遺跡 坂ノ下遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第65集	2002
石葛ヶ迫遺跡(第2次調査) 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第66集	2002
教塚遺跡 枳屋遺跡 大郎遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第67集	2003
上日置城空堀跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第68集	2003
桑ノ木遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第69集	2003
阿蘇原上遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第71集	2003
瀬戸前1号横穴墓 瓜生野村古墳30号(横穴墓) 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第72集	2003



祇園原遺跡 春日地区遺跡第2地点 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第73集	2003
布平遺跡 古城遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第74集	2003
五ヶ村遺跡 大野原遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第75集	2003
東九州自動車道（都農～西都間）関連 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第76集	2003
八幡遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第70集	2003
大岩田上村遺跡 農用地総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
柊野第1遺跡 県営広域営農団地農道整備事業霧島北部2期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
山崎上ノ原第2遺跡 山崎下ノ原第1遺跡 主要地方道宮崎島之内線ふるさと県道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ	2003
音明寺第2遺跡 東九州自動車道建設（都農～西都間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ	2003
<b>宮崎県三股町教育委員会</b>	
三股町内遺跡Ⅲ 三股町文化財報告書 第5集	2003
<b>高城町教育委員会</b>	
町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ 高城町文化財調査報告書 第11集	2002
町内遺跡発掘調査報告書Ⅲ 高城町文化財調査報告書 第13集	2003
様々野遺跡 高城町文化財調査報告書 第12集	2002
<b>宮崎県西諸県郡高原町教育委員会</b>	
櫛粉山遺跡ー古代遺構・遺物編ー 高原町文化財調査報告書 第10集	2003
町内遺跡Ⅲ 高原町文化財調査報告書 第11集	2003
<b>宮崎県高岡町教育委員会</b>	
永迫第2遺跡 高岡町埋蔵文化財調査報告書 第25集	2003
押田遺跡 高岡町埋蔵文化財調査報告書 第26集	2003
梅木田遺跡 高岡町埋蔵文化財調査報告書 第27集	2003
高岡町内遺跡Ⅳ 高岡町埋蔵文化財調査報告書 第28集	2003
小田元第2遺跡 高岡町埋蔵文化財調査報告書 第29集	2003
<b>宮崎県東臼杵郡東郷町教育委員会</b>	
ハツ山遺跡 東郷町文化財調査報告書 第7集	2003
上野原遺跡 東郷町文化財調査報告書 第6集	2003
広瀬田遺跡 東郷町文化財調査報告書 第3集	2003
<b>鹿児島県 鹿児島市教育委員会</b>	
鹿児島市埋蔵文化財確認発掘調査報告書 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書39	2003
<b>出水市教育委員会</b>	
六反ヶ丸遺跡 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書33	2003
<b>鹿児島県立埋蔵文化財センター</b>	
三角山Ⅰ遺跡（P地点） 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書46	2002
鳴野原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書47	2002
垂水・宮之城島津家屋敷跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書48	2003
市ノ原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書49	2003
犬ヶ原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書50	2003
鍋尾遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書51	2003
上野原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書52	2003
雪山遺跡・狼引遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書53	2003
中原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書54	2003
森遺跡・白金原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書55	2003
前畑遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書56	2003
楠元・城下遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書57	2003
山ノ脇遺跡・石坂遺跡・西原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書58	2003
武A・B・C遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書59	2003

城ヶ尾遺跡Ⅰ 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書60	2003
上ノ原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書62	2003
高篠坂遺跡・永磯遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書61	2003
<b>鹿児島県垂水市教育委員会</b>	
宮ノ前遺跡 重田遺跡 垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書 6	2002
横道遺跡 垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書 2	1997
<b>松元町教育委員会</b>	
松山原遺跡 松元町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	2003
<b>鹿児島県郡山町教育委員会</b>	
湯屋原遺跡 郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)	2003
常盤原遺跡 郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)	2003
<b>日置郡日吉町教育委員会</b>	
棧敷ヶ原遺跡 農地環境整備事業（扇尾地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2002
原口遺跡 半島基幹農道整備事業（吉利地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
<b>加治木町教育委員会</b>	
御里窓跡 加治木町埋蔵文化財発掘調査報告書 4	2003
<b>鹿児島県曾於郡大隈町教育委員会</b>	
船窪遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書(9)	1997
炭床Ⅰ遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書00	1997
西原段Ⅱ遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書02	1997
宮田遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書03	1997
宮岡遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書04	1997
陣之元遺跡・笠木遺跡・前田外戸堀遺跡・津風呂ガ山遺跡・船久保遺跡・田中遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書05	1997
東馬場遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書07	1998
向井ヶ追遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書08	1999
迫田遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書09	1999
日輪城（恒吉城）跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書20	2000
尾ノ迫遺跡・吹切段遺跡・松ヶ迫田遺跡・長迫遺跡・菅牟田遺跡・井手山遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書21	2000
久保崎Ⅳ遺跡 その1 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書22	2001
正戸山遺跡・大久保段遺跡・屋敷段遺跡・今塚段遺跡・貝ヶ塚遺跡・早馬段遺跡・桑木畑遺跡・火ノ迫遺跡・ 石牟礼段遺跡・堂ノ迫遺跡・土穴遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書23	2001
日輪城跡Ⅱ 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書24	2002
久保崎Ⅳ遺跡 その2 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書25	2002
萩原遺跡・出ヶ久保遺跡 その1 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書26	2002
正戸山遺跡・大久保段遺跡・屋敷段遺跡・今塚段遺跡・貝ヶ塚遺跡・早馬段遺跡・桑木畑遺跡・火ノ迫遺跡・ 石牟礼段遺跡・堂ノ迫遺跡・土穴遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書27	2002
正戸山遺跡・大久保段遺跡・屋敷段遺跡・今塚段遺跡・貝ヶ塚遺跡・早馬段遺跡・桑木畑遺跡・火ノ迫遺跡・ 石牟礼段遺跡・堂ノ迫遺跡・土穴遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)	2000
日輪城跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書28	2003
西之園遺跡Ⅰ 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書29	2003
正戸山遺跡・大久保段遺跡・屋敷段遺跡・今塚段遺跡・貝ヶ塚遺跡・早馬段遺跡・桑木畑遺跡・火ノ迫遺跡・ 石牟礼段遺跡・堂ノ迫遺跡・土穴遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書30	2003
萩原遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書31	2003
久保崎Ⅳ遺跡 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書32	2003
広津田城跡Ⅰ 大隈町埋蔵文化財発掘調査報告書34	2004

## 2. 定期刊行物・図録等

福島県	福島県郡山市教育委員会	
	企画展 郡山を掘る 財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団設立20周年記念	2003
	財団法人いわき市教育文化事業団	
	いわき市教育文化事業団研究紀要 第12号	2003
茨城県	筑波大学歴史・人類学系	
	筑波大学 先史学・考古学研究 第14号	2003
千葉県	財団法人 山武郡市文化財センター	
	文化財かわら版 第14号	
東京都	文化庁 株式会社ぎょうせい	
	文化庁月報 4月号 特集：平成15年度の文化行政の重点的な取組	2003
	文化庁月報 5月号 特集：日本映画再生を目指して	2003
	文化庁月報 6月号 特集：文化ボランティアをしてみませんか	2003
	文化庁月報 7月号 特集：文化と科学技術の融合～文化創造最前線～	2003
	文化庁月報 8月号 特集：文化芸術教育の推進	2003
	文化庁月報 9月号 特集：地域の文化拠点	2003
	文化庁月報10月号 特集：関西からの文化発信	2003
	文化庁月報11月号 特集：文化的景観の保護	2003
	文化庁月報12月号 特集：日本文化の国際発信	2003
	文化庁月報 1月号	2004
	文化庁月報 2月号	2004
	文化庁月報 3月号 特集：国語力の向上について	2004
	文化庁 第一法規出版株式会社	
	月刊文化財 4	2003
	月刊文化財 5	2003
	月刊文化財 6	2003
	月刊文化財 7	2003
	月刊文化財 8	2003
	月刊文化財 9	2003
	月刊文化財 10	2003
	月刊文化財 11	2003
	月刊文化財 12	2003
	月刊文化財 1	2004
	月刊文化財 2	2004
	月刊文化財 3	2004
	(株)ジャパン通信情報センター	
	文化財発掘出土情報 4 【巻頭グラビア】山梨県 鯉町 鯉沢河岸跡	2003
	文化財発掘出土情報 5 【巻頭グラビア】広島県 三次市 野稲南古墳	2003
	文化財発掘出土情報 6 【巻頭グラビア】愛媛県 今治市 別名端谷1遺跡	2003
	文化財発掘出土情報 7 【巻頭グラビア】群馬県 子持村 宇津野・有瀬遺跡	2003
	文化財発掘出土情報 8 【巻頭グラビア】長崎県 佐世保市 門前遺跡	2003
	文化財発掘出土情報 9 【巻頭グラビア】滋賀県 大津市 山ノ神遺跡	2003
	文化財発掘出土情報 10 【巻頭グラビア】長野県 佐久市 後家山遺跡	2003
	文化財発掘出土情報 11 【巻頭グラビア】奈良県 高取町 与楽乾城古墳	2003
	文化財発掘出土情報 12 【巻頭グラビア】佐賀県 唐津市 中原遺跡	2003
	文化財発掘出土情報 1 【巻頭グラビア】山形県 霞城町 山形城跡	2004
	文化財発掘出土情報 2 【巻頭グラビア】山梨県 明野村 諏訪原遺跡	2004
	文化財発掘出土情報 3 【巻頭グラビア】富山県 氷見市 阿尾島田A1号墳	2004



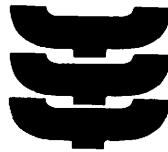
	全国の船形埴輪 松坂市制施行70周年記念特別展	2003
	関東の埴輪と宝塚古墳 まつりの移り変わり	2003
<b>鈴鹿市考古博物館</b>		
	発掘された国府	2002
	近畿・東海の国府	2002
	弥生時代の石器	2003
	発掘された鈴鹿2002	2003
	縄文と弥生の間	2003
	磯山銅鐸の時代	2003
	文字瓦を考える	2004
<b>滋賀県 滋賀県教育委員会</b>		
	安土城資料集Ⅰ 滋賀県中近世城郭関係資料集Ⅰ	2003
<b>滋賀県安土城郭調査研究所</b>		
	研究紀要 第9号	2003
<b>京都府 文化庁文化財部</b>		
	文化財関係担当者都道府県等連絡先一覧	2003
<b>京都市考古資料館</b>		
	リーフレット京都	
<b>京都市歴史資料館</b>		
	京都市歴史資料館紀要 第19号	2003
<b>角南聡一郎</b>		
	大陸系青銅器模倣土製把手 立命館大学考古学論集Ⅲ	2003
<b>同志社大学歴史資料館</b>		
	同志社大学歴史資料館 館報 第6号(2002年度)	2003
	考古学に歴史を読む 時代がかわる時・遺跡を読み解く・旧石器時代から中世まで	2003
<b>大阪府 高槻市立しろあと歴史館</b>		
	発掘された埴輪群と今城塚古墳	2004
<b>尼崎市教育委員会</b>		
	遺跡分布地図及び手引き	2003
<b>大手前大学史学研究所</b>		
	大手前大学史学研究所紀要 第1号	2002
<b>大手前大学</b>		
	海峡をこえる技術の交流 第2回大手前大学・蔚山科学大学提携学術シンポジウム	2003
<b>奈良県 奈良市教育委員会</b>		
	平城京跡出土墨書土器資料Ⅰ(第一分冊) 奈良市埋蔵文化財調査センター資料No.3	2002
	平城京跡出土墨書土器資料Ⅰ(第二分冊) 奈良市埋蔵文化財調査センター資料No.4	2002
	全国古代文字資料文献調査結果一覧	2002
<b>跡元興寺文化財研究所</b>		
	元興寺発掘	2002
	元興寺文化財研究	2002
<b>奈良国立博物館</b>		
	正倉院展	1993
	正倉院展	1992
	正倉院展	1988
<b>奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター</b>		
	埋蔵文化財ニュース111 官衛遺跡整備状況	2003
	埋蔵文化財ニュース112 2001年度 埋蔵文化財関係統計資料	2003
	埋蔵文化財ニュース113 環境考古学3 大型ほ乳類骨格図譜	2003

全国史跡整備市町村協議会事務局		
2003	全史協会報 平成14年度 全国史跡整備市町村協議会	2003
財団法人 元興寺文化財研究所		
	元興寺文化財研究	2003
	春日大社の版本	2003
勲元興寺文化財研究所 元興寺文化財研究所民俗文化財保存会		
	元興寺文化財研究所 研究報告2002	2003
帝塚山大学考古学研究所		
	帝塚山大学考古学研究所研究報告V	2003
奈良大学文学部文化財学科		
	文化財学報 第二十一集	2003
奈良県立橿原考古学研究所		
	テーマ「日中の考古学」－5・6世紀の国際交流－	2003
	考古学論攷 橿原考古学研究所紀要	2003
	考古学論攷 第26冊 橿原考古学研究所紀要	2003
	青陵 第110号	2003
	青陵 第111号	2004
	飛鳥資料館 古年輪	2003
和歌山県 財団法人 和歌山市文化体育振興事業団		
	発掘物語2003（速報展リーフレット）	2003
島根県 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター		
	発掘物語 総集編	2003
島根県教育委員会		
	増補改訂 島根県遺跡地図1	2003
岡山県 岡山理科大学「岡山学」研究会		
	備前焼を科学する ～窯はなぜ移動したか～	2001
	備前焼を科学する ～窯変・形態・流通～	2001
	吉井川 ～流域を科学する～	2002
岡山県 藤沢一夫先生卒寿記念論文集刊行会		
	豊前の「百済系卑弁軒瓦」小考 ―相原庵寺と垂水庵寺の瓦―	2002
亀田修一		
	渡来人の考古学	2003
岡山理科大学「岡山学」研究会		
	備前焼を科学する	2002
吉備古建築修復資材調査検討委員会		
	吉備地域における檜皮の調査	2001
広島県 財団法人 東広島市教育文化振興事業団		
	文化財論究 第2集	2002
山口県 下関市立考古博物館		
	研究紀要 第7号	2003
愛媛県 愛媛県埋蔵文化財調査センター		
	紀要愛媛 第3号 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター研究紀要	2003
愛媛県歴史文化博物館		
	えひめ発掘物語 ～発見の歴史と近年の調査成果～	2002
	西四国縄文文化	2001
福岡県 埋蔵文化財調査室		
	研究紀要	2003
北九州市教育委員会		

	北九州市埋蔵文化財分布地図（八幡西區）	2001
七隈史学会		
	七隈史学 第五号	2004
九州大学大学院人間環境学研究院 都市・建築学部門 出口研究室		
	遺跡情報と都市情報の解説から活用へ シンポジウム論文集	2003
福岡県 九州・沖縄水中考古学協会		
	NEWS LETTER Vol. 5	2003
	わたつみのタイムカプセル 九州・沖縄水中考古学協会 第2回学術シンポジウム	
	NEWS LETTER 九州・沖縄水中考古学協会会報 通巻18号	2004
久留米市埋蔵文化財センター		
	まいぶん久留米 久留米市埋蔵文化財センター通信	2003
筑紫野市歴史博物館		
	筑紫野の指定文化財	2003
太宰府市文化ふれあい館		
	太宰府市文化ふれあい館年報 第6号	2001
九州歴史資料館		
	研究論集28	2003
	文明のクロスロード もう一つの韓国文化・済州島	2003
佐賀県 鳥栖市教育委員会		
	鳥栖の歴史と石造文化 鳥栖の町づくりと歴史・文化講座	1996
天理大学考古学研究室 奈良		
	古事 天理大学考古学研究室紀要 第7冊	2003
天理大学文学部考古学・民俗学研究室		
	考古学と民俗学とのふれあい 天理大学考古学・民俗学専攻の紹介	2003
熊本県 株式会社 思文閣		
	雪月花	2003
熊本県 熊本大学文学部		
	朝鮮半島系渡来文化の伝播・普及と首長系譜変動の比較研究	2003
熊本県 熊本市立熊本博物館		
	熊本博物館館報 No.15 熊本博物館50周年記念	2003
熊本県 新熊本市史編纂委員会		
	市史研究 くまもと 最終号・新熊本市史編纂事業完了記念特集 第14号	2003
	新熊本市史 別編 第三巻 年表・索引	2003
	新熊本市史 通史編 第四巻 近世Ⅱ	2003
	新熊本市史 通史編 第七巻 近代Ⅲ	2003
大分県 大分県立先哲史料館		
	史料館研究紀要	2003
坂ノ市地区郷土史愛好会		
	白水郎 創刊20周年記念特集号	2003
大分県立先哲史料館		
	大友水軍～海からみた中世豊後～	
大分市大在地区文化財同好会		
	平成15年度大佐井 第21号	2004
別府市		
	別府市誌 第1巻	2003
	別府市誌 第2巻	2003
	別府市誌 第3巻	2003
大分県立歴史博物館		



	研究紀要 4	2003
	二千年の鼓動 弥生土器の世界	2003
	三浦梅園資料館	
	玄語 日本における知識工学の先駆的業績（上）（下）	2002
宮崎県	宮崎県日南市教育委員会	
	飫肥の町並み保存	1998
鹿児島県	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	縄文の森から	2003



## 文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって。日本建築の重要な要素である斗拱（ますぐみ）のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

（昭和41年 5 月26日決定）

---

大分市埋蔵文化財調査年報 15

2 0 0 4

発 行 日

平成16年12月28日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市荷揚町 2 番 31 号

〒870-0025 (097) 534-6111

印 刷

大 分 市 北 下 郡

いづみ印刷株式会社

---